



京都大学
自己点検・評価報告書Ⅳ

学生支援・学生サービス

2002

目次

学 生 支 援

第Ⅰ章 緒論..... 1

第Ⅱ章 学習支援・学習サービス

1. はじめに.....	5
2. 学習支援・学習サービスの範囲と点検・評価の視点.....	6
1) 点検・評価事項(図表2-2)について.....	6
2) 用語の問題点と点検・評価の視点.....	7
3) 大学本来の業務か否か～教職員と学生の意識差.....	9
3. 事務的事項.....	10
1) 情報伝達.....	10
2) 窓口事務・教務関連事務.....	15
4. 学習及び学習キャリア形成の支援.....	18
1) 履修案内・シラバス.....	18
2) オリエンテーション・ガイダンス.....	19
3) 履修登録及び分属決定.....	21
4) アドバイザー制度、オフィスアワー、ポートフォリオなど.....	22
5. 施設・器材の利用.....	25
1) 学習に直接かかわる施設・器材等の利用.....	25
2) 図書館の利用.....	26
3) 情報端末の利用.....	27
6. 学外学習.....	27

第Ⅲ章 経済支援

1. はじめに.....	29
2. 本学の行う「経済支援」の現状.....	29
1) アルバイト・下宿紹介.....	29
2) 学生健康保険組合・学生教育研究災害傷害保険.....	30
3) 入学料・授業料免除等.....	30
4) 奨学金.....	31
3. 「意識調査」回答結果からみた「経済支援」.....	32
1) 経済支援の必要性の認識と経験.....	32
2) 本学の経済支援活動の全般的評価.....	33
3) 経済支援の「今後の対応」に関する学生の意見・要望.....	34
4) 経済支援の「今後の対応」に関する教職員の意見・要望.....	38
4. 経済支援の今後の改善に向けて.....	42
資料.....	46

第IV章 課外活動支援

1. はじめに	55
2. クラブ・サークル活動	55
3. 11月祭	58
4. ボランティア支援	59
5. 課外活動の施設	59
1) サークルボックスと活動の場	59
2) 体育施設	60
3) 西部講堂	64
4) 遠隔地の施設	64
6. 課外教養行事（内容、参加者数、著名人の講演会の要望）	65

第V章 進路支援

1. はじめに	69
2. 全学の就職支援の概要	69
1) これまでの支援	69
2) キャリアサポートセンター	69
3) 就職ガイダンス	70
4) IT環境	70
3. 就職支援の評価	71
4. 「意識調査」回答結果	72
5. 学部での支援制度の特徴と評価	77
1) 「聞き取り調査」のまとめ	77
2) 「聞き取り調査」結果からの評価	78
6. マイノリティ学生支援	80
1) 女子学生支援	80
2) 身障者支援	80
3) 留学生支援	80
4) 帰国子女支援	81
7. キャリア設計支援	81
8. 結論・評価	83
資料	84

第VI章 生活支援及びキャンパス整備

1. 序—自己評価の視点	87
2. 学生のための生活支援とは何か	87
3. 健康管理、カウンセリング、宿舎紹介、学生寮などの生活支援	90
1) マイナス評価の考察	91
2) 自由回答「今後の対応」の分析	92
4. 駐車・駐輪場、学生会館などのキャンパス整備	92

1) マイナス評価の考察	92
2) 自由回答「今後の対応」の分析	93
3) 桂キャンパス	94
5. マイノリティ・グループから見た生活支援評価	95
1) 障害者（身体に障害のある学生）	96
2) 障害者（聴覚に障害のある学生）	96
3) 帰国子女	96
4) 留学生（工学系）	97
6. 総括評価	97
7. 結び	99

第七章 危機管理

1. はじめに	101
2. 教育・研究現場での安全	101
3. 差別問題	104
4. セクシュアル・ハラスメント	105
5. アカデミック・ハラスメント	107
6. キャンパス・セキュリティ	108
資料	111

『学習支援』に関する意識調査	113
----------------	-----

資料	195
----	-----

編集後記	199
------	-----

学生生活の充実に向けての努力

1. 自己点検・評価のこれまで

本学は、10 学部、15 研究科、12 附置研究所及び 20 以上のセンターや施設等を持ち、21,000 名の学生と教官 3,000 名、その他の職員 2,500 名を有する大規模な組織であり、実に様々な活動を行っています。これらの活動は、ほとんど国からの予算によって支えられており、一般企業のように経営努力や顧客重視の姿勢などが求められることはありませんでした。しかし、今後、



国立大学が法人化されると教育・研究の両面において実績を挙げ、魅力のある大学としていくことが求められるようになり、本学の現状を点検・評価し、実態を認識して、より一層改善への努力を払わなければなりません。

本学では、限られた予算を有効に使い大学の使命に即してよりよい活動を行うという認識の下に、これまで次に示します自己点検・評価を実施してきました。

- 平成 6 (1994) 年度：京都大学自己点検・評価報告書－自由の学風を検証する－多岐にわたる課題を検証
- 平成 12 (2000) 年度：京都大学自己点検・評価報告書Ⅱ
「組織と運営」、「情報の発信」、「学生の受入れと学生生活」、
「全学共通教育の在り方」、「学部教育・大学院教育の在り方」、「教育改善の努力」
- 平成 13 (2001) 年度：京都大学自己点検・評価報告書Ⅲ
「教育・研究と社会」、「国際交流」

この延長線上で、今回（平成 14 (2002) 年度）は、「学生支援」というテーマで自己点検・評価を実施することにいたしました。このテーマは教育・研究そのものとは違うことから、どちらかという軽視されがちでありました。しかし、優れた学生を国内のみならず世界各国から集め、将来の国際社会で活躍する人材を養成するためには、学生支援・学生サービスが大学にとって非常に重要なテーマとなります。こうしたことから、学生・教職員へのアンケートを含めてほぼ 1 年間をかけて種々の課題について点検・評価を行いました。その結果は、非常に多くの示唆を与えるものとなりました。

1. 2. 学生生活の充実に向けて

大学は教育と研究の場であることはいまでもありませんが、本学は特に研究センターの大学として国際的に高く評価されております。この地位を維持、向上させていくためには、教育面において、第一線で活躍できる研究者のみならず、社会の諸活動を支えこれをリードしていくことのできる人材を養成しなければなりません。

本学は、建学以来、学生を一個人として尊重するという考え方を持ってきました。これは学生の自主性や自学自習を尊重し、教官の考え方を一方的に押し付けることなく議論を通じて共通理解すること、真理の探究においては教官も学生もお互いに切磋琢磨すること、といったことであります。一方、こうした考え方は、学生を自由放任し勉学に対する熱意を喪失させてしまう危険性を持ち合わせており、実際には、そうした状況も存在すると言わざるを得ません。

特に、近年の学生は自己確立が十分でなく、人間関係において問題があることが指摘されています。このような状況にあつて、大学は種々のきめの細かい対応をしなければならないようになってきています。

長い歴史を持つ欧米の大学には全寮制のところがあり、また大学町が形成されていることもあります。そこには、大学は勉強するところであるとともに、学生が何年かを生活する場・社会であるという考え方が強く存在します。学生の生活のための各種の施設が整備され、また目に見えない諸々の制度・システムによって学生が安心して勉強し、スポーツや文化活動を通して豊かな学生生活を送り、精神的・肉体的に成長し、しっかりした人格の形成が行われるような配慮がなされています。

ところが日本においては、そういった学生生活の場としての大学という観点はほとんど等閑にされてきました。今日の若人を学生として迎えれば、種々の配慮を本格的に行わねばならないということ、すなわち学生支援・学生サービスは、大学が学生のために当然なすべき義務の1つであると認識する必要があります。

本学では、近年厳しい予算状況のなかにもありながら、学生のためのキャンパスアメニティを少しでも高めるための努力をしてきましたが、学生のための学習指導・進路相談、悩み事相談、経済的支援、課外活動のための施設や学生宿舎等の整備、身障者その他のハンディキャップを持つ人達のための各種の支援などについては、不十分であると言わざるを得ないのが現状です。

3. 我々のなすべきこと

今回の自己点検・評価報告書は、大学活動のなかのこういった学生支援・学生サービスの面にメスを入れ、その実態を明らかにするとともに、我々が今後なすべきことが数多く指摘されています。その多くは大学当局の努力によって解決すべき問題ではありますが、大学構成員の十分な理解がなければよい結果が得られないことも事実です。教職員の皆様におかれては、是非この報告書をよくお読みいただき、改善に対する具体的行動へのご協力をお願いいたしたく存じます。

約1年間にわたってこの点検調査・評価作業に携わり、詳しい報告書を作成して下さった自己点検・評価等専門委員会、特に「学生支援」作業部会主査の丸山正樹教授と部会の先生方に心よりお礼を申し上げます。

平成15年3月

京都大学総長

長尾 真

第 I 章

緒 論

第I章 緒論

大学の学生支援・学生サービスとは何であろうか。本報告書の第II章第2節第2項においてこの言葉の本来の意味についての検討がなされている。

日本語の「支援」には「困っている状態にある”人を助ける」という意味が、日本語化した「サービス」には「“当然行うべきレベルを越えて”利益・便宜を与える」という意味が付随するが、これらの原語である support と service は“ ”で囲んだ部分を意味として含まない。むしろ、student support と student service は「大学が当然行うべき本来の業務で学生に関連するもの」である。

このような基本的なことについて、今回の自己点検・評価等専門委員会「学生支援」作業部会が明確に認識したのは、後述の『学生支援』に関する意識調査の回答にみられる「支援・サービス」についての戸惑い、指摘によるものであった。大学の主たる任務は教育と研究であるが、学生支援・学生サービスは単に付随的な業務であるという理解が一般的であり、本作業部会の委員の意識も作業の初期にはこれと大差はなかった。この自己点検・評価の結論として最初に挙げるべきは、上記のように「学生支援・学生サービスは大学が当然行うべき本来の業務である」ということであろう。

本学がこれまで実施した学生支援・サービスにかかわる調査は学生部委員会が隔年に実施している「学生生活実態調査」のみである。また、これに関する各種データは学内の関係組織、委員会等がまとめたものが多くあるが、「学生生活実態調査」も含めてほとんどすべてが数値的データであり、本学構成員が現状をどうとらえ、あるべき姿をどう考えているかといった、数値データから何を読みとり、どのように理解すべきかについての基礎となるものがない。この実態を踏まえて、本作業部会は、学生、教職員それぞれについて『学生支援』に関する意識調査（以下、「意識調査」という）を実施した。学生支援・学生サービスに関係すると思われる事項をリストアップして、受けたことのある支援・サービス、支援・サービスと思わないもの、現在の支援・サービスで必要のないもの、今後力を入れるべき支援・サービスを選択してもらうこととし、さらに、次の事項について現状の5段階評価と今後の対応、改善について意見を聞いた：

- ① オリエンテーション、ガイダンス（履修案内）などの学習支援
- ② 健康管理、カウンセリング、宿舎紹介、学生寮などの生活支援
- ③ 各種奨学金、授業料・入学金免除などの経済支援
- ④ 進路相談、就職相談などの進路支援
- ⑤ 課外活動、体育施設、課外教養行事などの課外活動支援
- ⑥ 駐車・駐輪場整備、学生会館などのキャンパス整備
- ⑦ セクハラ対策や構内警備などのセキュリティ対策

最後に5段階評価と自由記述によって学生支援・学生サービスについての総合的な評価を求めた。

この調査は、平成14年(2002)10月に学生1,097名、教職員928名に送付した。学生についての対象者は学部・研究科、入学年ごとに比例配分して無作為抽出をした。教職員については、副学長、総長補佐、評議員は管理職としての意見を聴取するため全員を対象とし、それ以外は階層ごとに比例配分して無作為抽出をした。回収率は、学生が28.6% (314

名)、教職員が44.4% (412名)で、この種の調査としては比較的高いものであった。なお、「意識調査」回答の締切には少し余裕をみておいたが、集計作業の関係で、締切後に到着した若干の回答を集計結果に含められなかったことをここでお詫びしたい。

この「意識調査」における総合的にみた5段階評価での平均点は、学生で3.17、教職員で3.07であり、双方とも「普通」という評価といえよう。個々の事項についての「意識調査」結果の分析は次章以降で詳述するが、総合評価の自由記述において、多くの学生が相談、窓口業務における教職員の対応の問題点を指摘している。非常によいと評価する意見もないわけではなく、個人的な経験を一方的に述べている場合も多いので一般化は困難だが、後述のような改善は必要であろう。学生と教職員が共通に挙げているのは、情報の開示と広報活動の弱さである。支援・サービスについて、どのようなものがあるか、どこへ行ったら受けられるかを知らない本学構成員が多くいることは、今回の「意識調査」で明らかになった重要な点である。また、桂キャンパスの現状、将来についての情報が行き渡っていない、工学部・工学研究科の学生の不安と不満が大きいことは、現時点での固有の問題とはいえ、本学の情報開示・伝達機能の弱さの典型であろう。この問題に早急に対処することから始めてはいかがであろうか。教職員からは施設、組織の不十分さを指摘する意見が多かった。一方で、上記の「大学が当然行うべき本来の業務」以上の支援・サービスは学生の自主性を損なうという意見もあり、何があるべき支援であるかは、大学の経営戦略という視点も含めて検討が望まれる。

「意識調査」に加えて、女性、障害者、帰国子女、留学生などのマイノリティ・グループへの面接による「聞き取り調査」、各学部・研究科における窓口業務や就職支援体制など統計データなどには表れない実態を調査した。これらの調査結果と学生部等から提供された各種の数値データを併せて分析し、自己点検・評価した結果を

- 第II章 学習支援・学習サービス
- 第III章 経済支援
- 第IV章 課外活動支援
- 第V章 進路支援
- 第VI章 生活支援及びキャンパス整備
- 第VII章 危機管理

としてまとめたのが本報告書である。

今回、自己点検・評価で明らかになった問題点と改善点の主なものを挙げれば、

- 1) 情報開示・伝達が不十分である。本学のホームページの充実を図るとともに内容の更新を随時に行う。(例えば、本学のアカデミックカレンダーがホームページから容易にたどり着けない、など。)(第II章関連)
- 2) 教務掛など学生の日常に密接にかかわる窓口を昼休みに開けるようにし、勤務時間のシフトを考える。(第II章関連)
- 3) 個々の学生に対応した学習支援として、オフィスアワーとアドバイザー制度を全学的に整備するとともに、教務電算化システムの業務範囲に学生毎のポートフォリオ作成を含める。(第II章関連)

- 4) 奨学金は現状の貸与から給与に改めるべきであり、それが国の施策として容易でない現状では、本学独自の奨学金制度を導入する必要がある。米国のように在学全期間の授業料免除を入学時に約束することも考えられる。(第III章関連)
- 5) 課外活動のための施設、例えばサークルボックス、演劇・音楽用の練習場と公演ホール、体育系サークルの練習場などの充実を図る。(第IV章関連)
- 6) 進学・就職の支援について、全学体制、全学と学部・研究科の連携を強化する。就職の前段階でのキャリア設計についての支援策が皆無に近く、人材育成機関としての大学が戦略として制度設計を考える必要がある。(第V章関連)
- 7) どのような支援・サービスがあり、どこでどのようにすればそれを享受できるか、全学的な、あるいはそれぞれの組織が積極的な広報・PR活動を行う。(第II章、第III章、第IV章、第V章、第VI章、第VII章関連)
- 8) 一般学生、留学生双方に量的、質的に十分な住居を提供し、教育的施設としても機能する学生寮を用意しなければならない。本学積年の「負の遺産」である学寮問題を解決すべく、大学当局と学生の双方が適切な対応と決断をなすときである。(第VI章関連)
- 9) すぐにできることで大幅な環境改善になること、例えば駐輪用スペースの確保を優先的、積極的に進める。(第VI章関連)
- 10) 教育・研究現場の安全確保は至上命題である。キャンパス・セキュリティを高めるため警備員の増員、照明設備の充実、建物ごとの管理方法の工夫が求められる。(第VII章関連)
- 11) 差別、セクシュアル・ハラスメントなどの人権問題に「対策」として対応するのではなく、問題を解決するのに本来あるべき姿は何であるかということを考えるべきである。(第VII章関連)

となるであろう。

本学はその基本理念において「創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ」と謳っている。本書の第VI章の最後では「しかし、今の本学の「自由」は、「放縦」に変質してきているのではなからうか」として、「結局この二者を区別するものは、これを裏付けする規律があるかないかによることは明らかである」とする池田潔『自由と規律』(岩波新書 1949年 pp.156~157)の一文を引用している。別の視点として、本学における自治意識の低下、退廃が問題の根底にあるとはいえないだろうか。大学の自治、学内における自治は権利として与えられるものでもなく、組織の一部の者が権利として主張するものでもない。自治は、組織が丸となって勝ち取るものでなくなったとき、その組織の自治機能は荒廃する。大学の自治の在り方と大学の自治・自律能力が改めて問われている今日、権利としての自治の主張のみが叫ばれ、勝ち取る自治についての主張がほとんどみられない。本学において、大学の自治が声高にいわれることがあっても、その下支えになるべき学内の自治組織の衰退ぶりは目に余りある状態にある。例えば、学寮問題を「一部の者が権利として主張する自治」としてではなく、学生が「勝ち取る自治」の問題としてとらえるべきではなからうか。

大学の活動と運営を、その主要な任務である教育と研究という面からみたとき、ボトムアップ的な手法がその基本にあるが、それはすべての決定を先延ばしにしてよいというも

のではない。社会から期待される機能を果たすためには、強いリーダーシップのある大学運営が求められ、第VII章で指摘した安全管理のように教育・研究上でも素速い対応が求められる問題も少なくない。緊急を要する問題解決のため、大学執行部と直接連携を取りながら、具体的対策の検討からその実施までを短期間に決定できる「危機管理センター」の設置は急務である。

「意識調査」の結果は本報告書の最後に収録した。寄せられた意見は原則として原文どおりとしたが、特定の固有名詞が同定できるような記述については必要と思われる編集をした。本文中で「意識調査」回答の意見を引用する場合、必ずしも全文を引いてはいない。また、回答者の所属、入学年、階層などは、必要がなければ引用文中では省いた。なお、この調査については本文中で「意識調査」と略称している。

使った資料、統計データ等で本文中に組み込めなかったものは、各章末にまとめて収録した。これらのデータは平成14年(2002)9月1日時点で最も新しいものを用いている。

最後に、「意識調査」、面接調査、学部・研究科の「聞き取り調査」、数値データの提供などに協力いただいた方々に心から感謝し、これらの協力で作業部会が認識を新たにしたことも多く、京都大学をよくしようという熱い情熱を持った学生及び教職員が多数いることを再確認できたことを申し添えたい。

第Ⅱ章

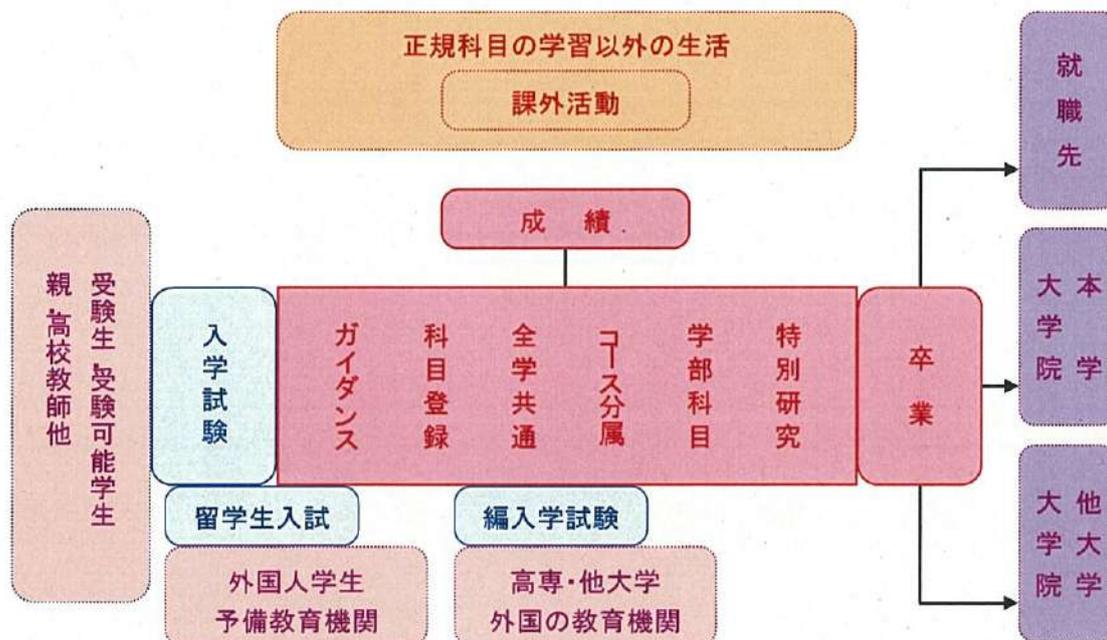
学習支援・学習サービス

第II章 学習支援・学習サービス

1. はじめに

学生の大学生活を単純化すれば、図表2-1のようになろう。もちろん、これは学部のみを図式化したもので、大学院についても同様の大学院生活がある。また、図中の語句はその部分のイメージを示すためのもので、すべてを尽くしているわけではない。学習支援として点検・評価すべきは、基本的には、図表2-1の中央の濃いピンクの部分と考えられる。ただし、学生の学習における「つまずき」の原因の1つが、入学前に持っていた学習の概念と入学後に要求される現実との落差であるという事実は重要である。この点を考慮すると、大学として行うべき学習支援の範囲を、図表2-1のうすいピンク部分にまで拡大して考えるべきかもしれないが、ここではその点を指摘するにとどめる。

そこで、本章では、図表2-2に示した範囲の事項を学習支援としての点検・評価対象とする。点検・評価に当たっては、まず、学内で得られる諸情報を基に現状を分析する。学内で得られる情報としては、『学生便覧』などの書類、日常の知見のほか、15 学部・研究科及び5 学科・専攻（以下、部局等と略称）の事務室に対して行った「学習支援・学習サービスに関する自己点検・評価の調査」（以下、「聞き取り調査」と略称）の結果を用いる。さらに、項目によっては、平成14年(2002)10月に実施した『『学生支援』に関する意識調査』の結果を援用する。その後、一般的知見も総合して評価を試みるとともに、今後のあるべき姿を探る。第2節では、点検・評価事項として示した図表2-2について少し説明を追加するとともに、評価の視点を明確にする。続いて第3節～第6節で、分類ごとに現状を分析・考察する。



図表2-1 学生の大学生活

「聞き取り調査」の結果は各項目別に引用するが、事務部による学習支援事項の一部については図表2-6としてまとめている。「意識調査」の質問、対象、及び回答の全体については、付録にまとめられているが、本章での分析・考察に利用するために、その内容を図表2-3, 4, 5, 7として整理し直している。図表2-3は「受益した支援・サービス項目」を序列化したもの、図表2-4は「支援・サービスと思わない」項目のリスト(5%未満棄却)、図表2-5は「必要がない支援・サービス」項目のリスト(2%未満棄却)、図表2-7は「今後、必要な支援・サービス」のリスト(5%未満棄却)である。

図表2-2 学習支援・学習サービスの範囲

A. 事務的事項
(A1) 情報伝達(掲示板①、掲示時期、郵便による連絡、インターネットを使った連絡、教職員の名簿・写真・専門分野の公開等、など)
(A2) 窓口事務(学生証の手渡し、履修案内等の書類配付、履修登録、履修相談、レポート等の受け渡し、事務的器材の提供、成績の通知・手渡し、各種証明書発行⑤、窓口時間6-⑩、学生の呼び出しとその応対、忘れ物の取り扱い、卒業証書の手渡し、など)
B. 学習及び学習キャリア形成の支援
(B1) 履修案内、シラバス、など。
(B2) ガイダンス②、オリエンテーション、など。
(B3) 履修登録及び分属決定。
(B4) アドバイザー制度、オフィスアワー6-①、ポートフォリオ、など。
C. 施設・設備の利用
(C1) 学習に直接かかわる施設・資材の提供(学生実験、通常の学習、報告書作成、発表準備・練習、研究、などのため)
(C2) 図書館の利用(蔵書、閲覧、貸出し、複写、開館時間、配置場所、利用ガイド、など)
(C3) 情報設備の利用(端末台数、利用時間、配置場所、利用ガイド、パソコン貸出、パソコン講習、など)
D. 学外学習
(D1) 見学、インターンシップ(機会の確保、情報提供、ガイダンス、手続補助、など)
(D2) 留学(交換協定、情報提供、留学相談④、書類作成、手続補助、など)

(注) 事項の後の丸囲み番号は、「意識調査」での質問における番号である

2. 学習支援・学習サービスの範囲と点検・評価の視点

本節では、まず図表2-2について説明を追加する。次に、支援・サービスという用語の問題点から出発して、点検・評価の視点について述べる。

1) 点検・評価事項(図表2-2)について

本章での考察範囲についての基本的考え方は第1節で述べたとおりであるが、細部について注釈を加えておく。

学生の学習に最も大きな影響を持つのは、もちろん「カリキュラムと授業(内容、方法、試験などを含む)」である。しかし、これは大学の中心課題の1つであり、独立の点検・評価対象として扱われるべきものであると考え、本章の考察範囲からは除いた。建物・施設・設備も、学習に大きな影響を与えるが、これも、別に「キャンパス問題」として総合的に論じられるべきと考えた。ただし、その利用については本章の考察範囲とした。留学生については、一般学生と違った支援・サービスが必要となるが、これは別途、「国際交流」の

なかで点検・評価されるべきである。以上の3分野を除いて、学生が学習を進める上で重要と考えられる事項を分類して示したものが図表2-2である。ただし、ここでは学生が入学から卒業に至るまでに必要とする大学側の業務で、本点検・評価の他の分類に入らない事項も広く拾い上げた。そのため、必ずしも“学習”支援という呼称に馴染まないものも多少含む結果になっている。

図表2-2で丸囲み番号を付記したものは、「意識調査」で質問した事項である。すなわち、①、②、…は「意識調査」の設問3、4、5（教職員では設問2、3）の質問項目①、②、…を示す（この3つの設問では、同一の18項目について、違った角度から質問をしている）。また、6-①、6-②、…は、設問6の①、設問6の②、…（教職員では設問4の①、設問4の②、…）に対応する（この設問では、将来の必要性を問うており、そのなかの項目は他の設問とは異なっている）。なお、図表2-2に掲げていない事項で、「意識調査」の設問として扱われた広義の学習支援と考えられる項目がある。これについては、評価の視点の議論とも関連するので、本節第3項で改めて述べる。一方、丸囲み番号を付していないものは、「意識調査」の設問としなかったが、一般的に重要と考えられる事項である。

2) 用語の問題点と点検・評価の視点

ここで、支援・サービスという表現についての問題点を指摘しつつ、点検・評価の視点を明らかにしておきたい。「意識調査」のなかに次の自由記述がみられた。

- ・ここに掲上の大半が支援・サービスというより、大学本来の業務と考えます。（事務（技術）職員）
- ・支援・サービスという観点だとやる気が起こらない教官は多いだろう。人材育成のためのボランティアということが、院生ならお金をもらって一種の教育 tutor として働くならということで、学生に親身に接していくような態度を確立することが大切。支援やサービスということなら、もっとやってあげなくてはならない人々が世にはたくさんいる。「人材育成」に的を焦る。的を変えていかななくてはならない。（評議員）
- ・質問の意味が不明。「学生支援・学生サービス」の定義がよく分からないから。（農H11学部入学）

このような意見は、「支援」、「サービス」という日本語訳のまずさによるものと考えられる。すなわち、日本語の文脈で「支援」といえば「“困っている状態にある”人を助ける」という意味が、また「サービス」といえば、「“当然行うべきレベルを越えて”利益・便宜を与える」という意味が付随する。しかし、これらの原語である support 及び service には、必ずしも“ ”で囲んだ意味が含まれない。建築物の柱は上階を support している。また、公共のバスが決められた時間通り運行するのは service である。すなわち、student support や student service は、大学本来の業務を指すものであり、翻ってここで行う点検・評価の主目的は「大学が当然行うべき本来の業務を、実際適切に行っているか否か」を明らかにし、不適切であれば改善策を提示するという点にある。この意味で、「意識調査」の指摘は正しいと同時に、また誤解をも含んでいる。

用語の不適切さによる上記の現象は「意識調査」設問「支援・サービスと思わない」の回答にも現れている。すなわち、図表2-4にまとめたように、

- ① 学内掲示板
- ② ガイダンス（履修案内）
- ⑤ 各種証明書発行
- ⑫ 健康診断・健康相談
- ⑮ 宇治キャンパス連絡バス

の5項目が、学生及び教職員（こちらは⑫を除く）によって「支援・サービスではない」とみなされている。これはまさに支援・サービスという日本語の含意によるものであろう。このような誤解が、場合によっては1/4～1/5程度の学生・教職員の間が生じていることは、正しい「意識調査」結果を得、また本報告書の内容を正しく読みとっていただく上で問題を含んでいるといえる。

学生支援・学生サービスに代わる用語としては「学生関連業務」、「学習支援」については「学習補助」の方がまだ誤解が少ないのではなかろうか。いずれにしろ、ここで行う点検・評価は、「大学として当然行うべき本来の業務が、あるべき姿で行われているか」を調査するという視点に立つものであることを明らかにしておきたい。

図表2-3 「意識調査」設問「支援・サービスを受けたことがある」の順位

[学生]		
1位	⑫健康診断・健康相談	91.4%
2位	①学内掲示板	87.3
3位	⑤各種証明書発行	85.4
4位	②ガイダンス(履修案内)	82.2
5位	⑧奨学金の案内・手続	51.0
6位	⑯学生健康保険・災害保険	37.9
7位	⑭体育施設の利用	35.4
8位	⑩アルバイト紹介	19.4
9位	⑨入学料・授業料免除	15.0
10位	⑦就職説明会	14.3
11位	⑮宇治キャンパス連絡バス	13.7
12位	⑰課外教養行事	10.2
13位	⑬課外活動支援	8.9
14位	⑪宿舎・下宿紹介	5.4
15位	③カウンセリング	5.1
16位	⑥進路・就職相談	4.5
17位	④留学相談	1.6
18位	⑱その他	0.6

図表2-4 「意識調査」設問「支援・サービスと思わない」で5%以上の項目

[学生]		[教職員]	
1位	①学内掲示板	1位	⑰課外教養行事
2位	②ガイダンス(履修案内)	2位	⑤各種証明書発行
3位	⑤各種証明書発行	3位	⑮宇治キャンパス連絡バス
4位	⑰課外教養行事	4位	⑩アルバイト紹介
5位	⑮宇治キャンパス連絡バス	5位	①学内掲示板
6位	⑫健康診断・健康相談		⑪宿舎・下宿紹介
		7位	②ガイダンス(履修案内)

図表2-5 「意識調査」設問「必要がないと思う支援・サービス」で2%以上の項目

[学生]		[教職員]	
1位	⑰課外教養行事	1位	⑰課外教養行事
2位	⑪宿舎・下宿紹介	2位	⑩アルバイト紹介
3位	⑬課外活動支援	3位	⑪宿舎・下宿紹介
4位	⑩アルバイト紹介	4位	⑬課外活動支援
		5位	⑦就職説明会

3) 大学本来の業務か否か～教職員と学生の意識差

前述の視点で点検・評価を行うとすれば、大学本来の業務の「範囲」が重要な論点となる。本点検・評価では、学習支援について、この範囲を図表2-2のように設定した。各項目別にも「どの程度まで」の支援が本来の業務であるかが問題となるが、それについては以下の各節で項目ごとに考察する。ここでは、現在実施されており、「意識調査」の設問項目としても扱われているにもかかわらず、図表2-2から除外した学習支援関連の事項について触れるとともに、上の論点についての学生・教職員間の意識差を概観する。この意識差の全般的傾向についての認識を持っておくことは、点検・評価を進める上で重要である。

「支援・サービスと思わない」ものとして、図表2-4の上位にある前掲の5項目のなかで、①、②、⑤、⑫は「受益した支援・サービス」図表2-3の1位から4位（80%以上）を占めている。一方、これらを「必要のない支援・サービス」とするものは2%以下にすぎない（図表2-5）。このことから、前述のように、支援・サービスという表現の解釈の違いで図表2-4に現れたことは明らかである。残りの“⑬宇治キャンパス連絡バス”については、受益者が13.7%（図表2-3の第11位）と比較的低率であるが、これはそのサービスの特殊性によるもので、「必要のない支援・サービス」とするものはやはり2%以下である（図表2-5）。

このように、図表2-4に現れた前掲5項目については、本点検・評価の対象とすべきもの、すなわち「大学本来の業務である」ことに疑問の余地はなく、学生・教職員間の意識差もみられない。しかし、上記5項目以外に

⑰ 課外教養行事（学生12.4%、教職員18.7%）

⑩ アルバイト紹介（学生3.2%、教職員8.0%）

⑪ 宿舍・下宿紹介（学生1.9%、教職員6.6%）

が図表2-4に現れている。

このなかの“⑰課外教養行事”については、学生、教職員ともに「必要のない支援・サービス」（図表2-5）の第1位を占めており、その割合もかなり高い（学生15.3%、教職員20.4%）。これは注目に値する結果であるが、詳しくは第Ⅳ章で扱う。

⑩アルバイト紹介及び⑪宿舍・下宿紹介については、教職員のみが、（棄却率5%で）「支援・サービスと思わない」（図表2-4）と主張しており、また「必要のない支援・サービス」とした者の割合も、教職員が学生の2~3倍に上っている（図表2-5）。一方、「必要のない支援・サービス」（図表2-5）に現れた残りの項目として

⑬ 課外活動支援

があるが、これについては、学生の方がやや多い割合で不必要としている。

以上の学生と教職員の意識の比較は、割合の絶対値自身が小さいデータによるものであるから、これのみから何らかの結論を導き出せるものでは必ずしもない。しかし、一般的知見を総合すれば、次のように推測することは可能と考えられる。

生活に密着した事項については、学生が比較的強く大学からの支援・サービスを期待しているにもかかわらず、一部の教職員はその必要性を十分には認識していない。

学生が自主的に行うべき事項については、大学の支援・サービスを「うっとうしく」思う学生が一定数存在する。

3. 事務的事項

1) 情報伝達

学内掲示板、連絡時期、郵便による連絡、インターネットを使った連絡、教職員の名簿・顔写真・専門担当分野の公開などの、大学から学生への情報伝達システムについて考察する。

① 学内掲示板

大学から学生への連絡は、伝統的に掲示によって行われてきた。現在でも『学生便覧(2002年版)』の一般的留意事項として、

学生への連絡・通知は、原則として所定の掲示板での掲示により行われ、一度掲示した事項は周知されたものとして取り扱います。登下校の際には必ず掲示板を見る習慣をつけてください。掲示を見落としたために生じる不都合・不利益は本人の責任となります。

という記載があり、掲示が学生への原則的な情報連絡手段であるという位置付けがなされている。この学内掲示板については、

- b 現在、情報伝達機能を適切に果たしているか否か。
- b 将来、情報伝達手段として学内掲示板をどう位置付けるか。

の2点を点検・評価する必要がある。ただし、後者は、インターネットを用いた情報伝達との関連で評価されるべきものであるから、本節では現状の点検・評価のみ行う。

学内掲示板について、ハードコピーを貼りつける形式のものと、据置型電子掲示板(インターネットからの参照ができなくて、ディスプレイによる表示のみを行うものを、この用語で指すことにする)とがあるが、『学生便覧』には、

＃ その区別及び所在位置が明示されていない

また、「どの掲示板にどのような情報が掲示されていなければならないか」を知ることは難しい。そのため、掲示板を系統的に点検してその現状を客観的に評価することができない状況である。ただし、一部の掲示板を見たところでは、

＃ 掲示板のメンテナンスが十分とは言い難い面がある。

一方、学生の「意識調査」結果には次のような記述が多数見受けられる。(主要なものだけを抜粋している。)

- ・4月は履修の手引きを読むに必死でした。掲示板を見るのも一苦勞でした。履修手引きのややこしいのはしょうがないにしろ、掲示板の新旧ごちゃごちゃなのを改善してくれば新生も少しは楽なのでは・・・？(薬H14学部入学)
- ・見やすい掲示板の工夫。ごちゃごちゃしているので、期限が過ぎたチラシの除去など。(医H14修士入学)
- ・電子掲示板のトラブル多すぎです。窓口閉まりすぎです。(薬H14学部入学)
- ・掲示板の調子がよくないことがある。北部生協前の電子掲示板はずっと前から止まっています。(農H13学部入学)

- ・まずうまく全員に伝達できていない。それこそメール等を用いて二重三重の連絡がほしい。放っておけば終わりという姿勢が評価できない。また内容も分かりにくく、職員も極めて不親切。プロ意識が欠如している。(農 H12 学部入学)
- ・告知が不足しているように感じる。HP などに載せるなどして学外からももっと自由に web 閲覧できるようにしてほしい。セキュリティー面については、IP で引くのではなく、ID とパスワードで制限してはどうだろうか。(農 H12 学部入学)
- ・大学側はすべて何かが起こってからへの対応であり、その対応も極めて表面的で中身が伴っていないと思う。小さなことだが重要な例をひとつ。学生に対する通知はすべて掲示によって行うといわれているが、その掲示板にはカバーがない。もし誰かが掲示を持ち去ったり、あるいは風で飛んでいったりしても学生側には分からない。そのようなことで連絡が来ていなくても学生が掲示をチェックしていないからという理由で片付けるのは大学側。他大学では当たり前のようにカバーがかけられている。小さな例だと書いたが、これがすべて物語っていないだろうか。要点はひとつ。学生の側に立ったサービスを。ご自分が学生になったつもりで考えていただきたい。このような調査を行った上で「何も」変わらない、というようなことがないよう切に願っている。早急な対応に期待する。(文 H12 学部入学)

掲示板の「聞き取り調査」の結果、並びに上述のような意見が多数みられるという事実から、少なくとも一部の部局において、

＃ 掲示の方法が不適切である。

＃ 掲示板のメンテナンスが不適切である。

という問題点があるといえる。「聞き取り調査」の対象部局等のすべてがハードコピー貼り付け形の教務用掲示板を使っているが、そのなかの2ヶ所が「屋外設置であるにもかかわらずカバーなし」の状態であると推定される。この2ヶ所については、速やかにカバー付の掲示板に置き換えるべきであろう。また、屋内設置のものについても、重要事項に関してはカバー付掲示板を使用すべきである。「聞き取り調査」によれば、掲示板の整理は十分な頻度で行われている。今後は、古い掲示事項と新しい掲示事項を整理しておく、などより分かりやすい掲示を目指しての日常的な努力が重要と考えられる。

情報伝達が不適切であったことによって、学生が実際に不利益を被ったか否かについては、調査結果がないので結論できないが、「意識調査」結果や日常的な知見を総合して次のように推測することは可能であろう。

＃ 「留年」といった明確な形での不利益を直接引き起こしたことはなさそうである。

＃ しかし、時間の無駄、学習機会の逸失といった細かな日常的な不便さが生じる場合があり、それが積み重なって「学習意欲の減退」の一因となっている可能性は排除できない。

② 通知時期

現在、全学的には、例えば

○期日の5週間前の午前9時までに掲示によって周知するべし

といった規則もしくはガイドラインがない。すなわち、連絡時期は担当者の裁量に任されている部局が多いということである。担当者によるが、次節の学生の声から推し量ると、

部局によってはかなり危険な状態といえる。少なくとも、何らかのガイドラインを設けるべきである。

入学式や授業開始日程は評議会において定められているが、開講通知を出すという習慣が残っており、日程どおりに開始される授業についても不要な連絡を行っている。学園祭や入学試験による授業休止については、前年度から予告することが可能であるにもかかわらず、その直近にならないと評議会決定がなされない。ほとんどすべての部局でオリエンテーションやガイダンスが年度当初又はセメスター開始時期に行われている。しかし、その連絡は、学期始めにならないと行わないという部局も多い(18/20:「聞き取り調査」で20部局等のうち、18部局等が該当することを示す。以下、同様。)。以上の状況は、

■ 大学が当然行うべき本来の情報伝達業務を「適切」には行っていない

ことを意味する。これに関連する学生の声を「意識調査」の自由記述から抜粋しておく。

- ・そもそも、年の頭のオリエンテーションがいつ行われるかが分かるのは、その何日か前になってはじめて分かるという状況が理解できない。4月に入るまで前期の授業が何日から始まるか分からないという状況です。そんなものは、もっと早くから決まっているはず。学生にそんな情報も回せないのですか？学生にメールを送るなり、掲示板に載せるなり、もっと早く新年度の予定を発表してほしいです。それと、学校からの情報が掲示板でしか見られないというのもおかしいです。せっかく大学のホームページがあるなら、そこに載せるとか、メールを回すとか、ほかにも情報を知る手段を得たいと思っている学生はたくさんいるはず。どうもお役所仕事のやり方に思えてなりません。独立行政法人だか知りませんが、そういうところから変えて下さい。(工)
- ・一年間の大まかなカリキュラムを知らせていただきたい。現在は春、秋、冬学期単位なので。(医H12学部入学)
- ・ガイダンスの日時の発表が遅いと思う。4月上旬にガイダンスを行うのであれば、3月中旬くらいには掲示がほしい。後期が始まる前にもガイダンスがあった方がよい。(工H12学部入学)

「聞き取り調査」を行ったうち2部局等では、実際に「新年度の教務日程を2月第1週に」伝達している。他の部局等もこのような例にならい、学生の必要に十分対応すべきである。

③ 郵便による連絡

現在、合格通知や授業料請求以外、郵便を用いることが少なく(「聞き取り調査」では、これ以外に呼び出しに使っている部局等が4部局等あった)、学生・教職員側ともにその重要性の認識が低いと考えられる。実際、この種の事項に関する不満・意見等は「意識調査」にみられない。しかし、郵送は、法的手続の1つとして重要な意味を持つもので、学生の現住所の確認とともにその重要性を認識しておく必要がある。この点は、先に引用した『学生便覧』の留意事項の記述、

一度掲示した事項は周知されたものとして取り扱います。

に関連する。休講、授業時間割、試験日程など多数の学生を対象とする場合には、掲示板

(次項のインターネットを使った電子的掲示システムを含む)の利用が適当であり、しかるべき掲示時期が守られるという保証の下に上述の留意事項は妥当性を持つといえる。しかし、学生の呼び出しの場合、特に学生の進級・身分などに関連する場合、この注意事項にあるような処理で済ますわけにはいかない。実際、例えば長期授業料滞納学生などについては、各部局等で連絡のため個別に多大な努力を払っているのが実状である。しかし、長期間の空白ののち、最終局面に近づいてから多大な努力を払わざるを得なくなるという現状は、制度的な確実性に乏しく、望ましいものではない。もちろん、現在も住所変更などの届出は義務付けられているが、それを怠った場合についての対応がない。定期的な現住所の確認を義務付け、確認を怠った学生については、その都度各部局事務から確認作業を行うのに加えて、本人が不利益を被ってもやむを得ないという自覚を促すところまで踏み込むべきであろう。

④ インターネットを使った連絡

現在、インターネットを日常的に利用する学生の割合は非常に高い率に上っている。彼らにとっては、インターネットを通して掲示事項を見ることができれば、掲示板の位置・掲示板へのアプローチ可能時間などに制約されることがなくなり、その利便性は格段に向上する。また、良質のメンテナンスを条件とはするが、ハードコピーによる掲示板よりもはるかに大量の情報を整理した形で提示することが可能となる。一部の部局等では、このような電子的掲示システムが導入されている(13/20)が、研究室配属学生のみを対象としている場合(5/20)や開講・休講通知のみの場合(5/20)が多く、一般的な情報伝達手段としては、まだ十分には利用されていない。学生からは、「意識調査」の設問項目に含まれていないにもかかわらず、この件について多数の要望が寄せられている。その一部を引用しておく。

- ・ホームページ上での情報提供や、インターネットを使用しての履修届提出などもあれば便利だと思います。(教H14 修士入学)
- ・春休み後のオリエンテーションの日などを地元が遠くの人のためにメール等で知らせてもらえればよいと思います。(工H11 学部入学)

一方、教職員の意見として直接的な形で現れたものは、「学生支援・学生サービス」のうち今後力を入れるべきもの「⑩その他」の、

- ・インターネットによる掲示
- ・各種届け出の電子化

の2件、及び「その他の意見」のなかの、

- ・学内掲示の電子掲示板化。(事務(技術)職員)

の1件、合計3件のみであった。

以上からも、

教職員は学生の日常的な必要事項を必ずしも正しく認識していないということがうかがえる。もちろん、

インターネットを使った情報伝達システムの全学的レベルでの整備は必須課題である。

インターネット利用の進め方については本項第6目で考察する。

⑤ 教職員の名簿・写真・専門分野の公開

特に外国の大学においては、学科・専攻所属の教職員の名簿をその写真と専門・担当分野とともに公開しているところも多い。旧来は、入口附近のパネルに掲示するという方法であったが、最近ではホームページで公開している。教員については、学生が学習上の指導を受けたり将来の専門分野を決めたりする上で重要な情報である。また、職員については、学生側が窓口等での相談相手を知るという目的のみならず、職員自身の職務に対する専門性と責任感を確認するという意味があろう。本学では、教官の名簿が履修要覧などに付されている。また、ホームページに教官についての詳細が掲載されていることもある(6/20)が、その記載は研究に重点が置かれている。教育を目的とした体系的な担当者情報の公開は、プライバシーと職務上の公的立場とのバランスの上で、今後、検討されるべき課題である。

⑥ 全般的評価と情報伝達手段の将来

情報伝達について、いくつかの改善課題はあるが、必要最低限の機能は果たしているとみなせよう。

現在の社会情勢を考えれば、情報伝達手段として

インターネットから広くアプローチできる掲示システムの整備

が、大学として早急に行うべき必要業務と考えられる。この場合、セキュリティの確保が重要であるが、書き込み・登録等を許さない情報掲示だけのシステムであれば、その解決は比較的容易である。

上記のような電子的掲示システムは、すべての学生がインターネット接続端末を所持している、もしくは使用可能であるという前提があってはじめて完全に機能する。現在、多数の学生が携帯電話を利用している。開講・休講通知等に限定するならば携帯電話の利用で十分だが、後述のシラバスの閲覧・ダウンロードなどまで枠を広げるとすれば、現在のパソコンなみの能力を持つ情報処理機器が必要となる。一部の私学では、入学時にパソコンの購入を義務付けているが、本学もそれにならうか否かは議論を要する課題である。

以上のような、情報伝達の電子化については、届出手段の電子化の問題とトータルで考える必要がある。また、社会の情報化のスピードにも留意して、システムが利用可能となる時点での状況を予測しつつ開発を進めることも重要である。現実の社会の状況を直視すれば、

単なる授業時間割の情報掲示だけでなく、後述のシラバスや届出手段の電子化を含めたシステムを考える。

学生側にはパソコン(正確には、現在のパソコン程度の能力を持つ情報処理機器)の購入を「勧める」ところまでは踏み込む。どうしても購入できない学生には、少なくとも、授業時間外の十分な時間帯で使用可能な端末を開放する。

というあたりを目指すべきと考える。

上のようなシステムを目標とするとき、その開発とメンテナンスの問題がある。これについては、完全外注、教職員と大学院生(アルバイト)のチームによるメンテナンスの併用など色々な選択肢がある。前者はコスト面及び個別部局等に対する細かい配慮で問題があろう。後者はロードの配分及び継続性などにおいて問題が生じよう。いずれにしろ、WG

を立ち上げて全体像（集中型か分散型かの選択、作成・メンテナンスの方法など）から細部（掲示、書類配付の置き換え、届出などについて、どの程度までの機能を目指すか）に至る検討を技術的問題に立ち入って積極的に進めるべきである。

以上のような、電子的掲示システムが、学生側の端末の問題を含めて整備された時点で、ハードコピーによる掲示板は廃止される運命にあると位置付けられる。ただし、それに至るまでは、前掲のような諸点についての改善が必要である。

2) 窓口事務・教務関連事務

証明書発行、窓口事務の時間と窓口での対応態度、その他、について考察し、最後に全般についてまとめる。なお、履修登録も教務関連事務として最も重要な事項の1つであるが、これは学習キャリア形成に深くかかわる事項であるため、次節で扱うものとする。

① 証明書発行

証明書発行が電子化されており、日常の知見及び「意識調査」結果のいずれでも、その機能を適切に果たしていると考えられる。ただし、学生の要望としては、

- ・証明書発行が機械でできるようになったのは便利でよいと思います。土曜の利用はできないでしょうか？
- ・各種証明書発行の時間延長（24Hにしてほしいです）。

という利用時間に関するものが見受けられる。24時間利用までは必要なだろうが、

＃ 授業時間外の十分な時間帯での利用を可能

としておくべきである。一方、教職員からは、

- ・宇治地区（遠隔地）の学生に対する書類発行を宇治の窓口で行えるようにする（助教授）

ことが、「学生支援・学生サービスのうち今後力を入れるべきもの、“⑩その他”」としてあげられている。宇治地区には、現在、証明書発行機が1台設置されており、上述の意見は更なる利便性の向上を求めるもので、一考の余地がある。

② 窓口事務の時間

学生関連の窓口は、授業時間外の十分な時間帯に開設されるべきものである。しかし、「聞き取り調査」では、ほとんどの部局等で9:00（又は8:30）～12:00、13:00～17:00開設となっており（1部局等のみ12:00～12:30開設）、上の要求を満足していない。これは特に「真面目に授業に出席する学生」にとって極めて不都合な状態である。「意識調査」では、「今後、必要なサービス」を問う設問6の⑩として窓口時間について問うているが、学生側回答で第3位（35.0%）という高位を占めている。自由記述のなかでも、「窓口時間の延長」というより「昼休み時間の利用」の要望が非常に大きな割合を占めている（個々の意見は、次目の窓口対応のところで引用）。直ちに改善すべきである。

③ 窓口での対応態度

窓口での対応態度については、当初、本点検・評価の項目として考えていなかった。し

たがって、「意識調査」の設問では一切問わなかった。にもかかわらず、極めて多数の自由記述があった。そのなかには、

- ・細かい点で改善点はあるものの、全体的に質の高い学生支援が提供されていると思います。教育学部は少人数なので、学生と事務の方のコミュニケーションも取りやすいようです。(教H14 修士入学)

といった好意的な意見が、特に小規模なグループで運営している部局等(部局等が小さい、もしくは専攻単位で運営)の学生から述べられている。しかし、それとは逆に、窓口対応を厳しく批判する声があり、数の上では圧倒的多数を占めている。一部分のみ引用しておく。

- ・事務員の態度改善(無愛想にも程がある)。(法H13 学部入学)
- ・昼休みをなくすべき。それが一番不満である。学生が最も利用したい時間帯に利用できないのは、本当に腹が立つ。昼ご飯を交代制で取るという考えが浮かばないのが不思議で仕方ない。仕事というのはお金をもらう以上、プロであり、サービスする側へ常に配慮すべきだが、根本からなっていないと言わざるを得ない。その点をまず、そして必ず改善しない限り、評価は上がらない。また、役所のごとく、カバーしていない仕事にはまったく知識がなく不親切。サービス精神ゼロだ!正直、あなた方のやる気のなさにはがっかりしている。もちろん、素晴らしい人もいるが、やはりひどい人が目立つ。民間化に移行していくなら、公務員の腐った意識を捨て、プライドとプロ精神を持って仕事をしていただきたい。(農H12 学部入学)
- ・各学部教務掛の人達、コワ過ぎます。何もしていないのに怒らないでほしいです。学校の職員の人達にもA大くらい、とまでは言いませんが、学生に手を貸してあげようという気持ちをちょっと持ってほしいです。もちろん協力的な方もたくさんいらっしゃいますが。(総人H13 学部入学)
- ・根本的に職員が学生を見下していて、学生と見ると極めて横柄な態度で接してくるあたりの意識改革がちゃんとなされなければ、色々の支援・サービスをいくら拡充したところで無意味に思われる。(理H13 修士入学)
- ・教務掛や厚生課の窓口の対応等について、昼休みに閉まっているというのは非常に不便で困ります。総人や教育学部の窓口で不快な思いを何度もしましたし、周りの人にもそういう思いをしたことがあるという人もいます。よく分からないから聞いているのに、つっけんどんに言われたり、始めから学生の方に非があると決めてかかった対応をされたり、本当に気分が悪いです。学部や掛の人毎にそれぞれ差があると思いますが、改善を是非してほしいのです。(文H11 学部入学)
- ・ほとんどのサービスは昼休みに利用できないが、それなりの工夫ができるはずだ。生協の「ひとことポスト」みたいな苦情や要望を受け付ける手段があればいいと思う(大半は茶化しの投書になるかもしれないが)。(理H13 修士入学)

この事項を調査項目に入れなかったことを含め、以上の結果は「学生の日常で生じている不都合を、教職員が必ずしも正しく認識していない」ことを意味しており、深く反省すべきである。「意識調査」結果を、謙虚に受け止めて、しかるべく対応しなければならない。

さらに、この種の問題については、教職員だけで問題点を発見することが難しく、学生の声を聞いてはじめて把握できるという事例が極めて多い。したがって、今回のような「意

識調査」を（設問を工夫しつつ）定期的にも実施することも重要と考えられる。このような点を指摘した教職員の声を引用しておく。

- ・学生への態度が極めて悪いので、有名な事務職員もいるようだ（ごく一部だと思うが）。多分、私立大学ではこのような職員は窓口業務から外されると思うが、京大ではそのようなことはないようだ。教員の講義に対する、学生による授業評価はよいことだと思うが、同時に事務職員の対応に対する、学生による評価・アンケート調査を行うべきである。少なくとも学生が苦情を言える制度を作るべき。（教授）

④ 窓口業務の範囲等

事務に関連する学習支援業務としては、まず履修案内等の配付、履修登録等の受付、履修についての簡単な相談がある。これらの事項については各部局等で当然のこととして対応している。これ以外にレポート課題配付、レポート受取り、教官との面談の設定、成績の通知、進学の相談、卒業証書の手渡し、教室の管理、忘れ物の取り扱いなども学習環境の整備という意味で重要である。これらの項目についての実施状況は、**図表2-6**のとおりである。この「聞き取り調査」結果、及び「意識調査」結果に特に目立った意見がないという事実からみれば、これらの事項はおおむね適切に実施されていると考えられる。なお、「聞き取り調査」から、教室の管理については外部委託（外注）が増加傾向にあることもうかがえる。また、「聞き取り調査」では明示的に現れなかったが、レポート等の受け渡しについては、現在でも、教官（もしくは教官の補佐員）が直接行っていることも多いと推測される。平成15年度(2003)からは、全学共通科目が高等教育研究開発推進機構の管理下に置かれ、工学研究科・情報学研究科が桂に移転を開始するという状況の変化がある。また一方では「学生の自主的学び」への誘導として、授業期間中のレポートの役割が重要性を増している。これらを考えれば、レポートや教材の受け渡し方法のシステム化を検討すべき時期であろう。

上記以外に、「意識調査」の自由記述で事務的器材の提供について、

- ・〇〇〇掛でのレポート提出の際、糊やホッチキスを貸さないのには、何か理由があるのでしょうか？細かい事ですが、貸してもらえれば助かります。（総人H13 学部入学）
- という記述がみられる。学生のマナーを前提とするが、共通で利用すれば済むような事務器材は、必要なスペースとともに提供しておくべきである。

図表2-6 事務部による学習支援事項の取り扱い状況

	事務で取り扱い		教官・外注 など	
	対応	未対応		
レポート課題配付	13	7		
レポート受け取り	17	3		
教官との面談設定	15	5		
成績の手渡し	19	1		
進学の相談	2	8	12	事務・教官重複2
卒業証書の手渡し	19	1		
教室の管理	15	5	9	事務・外注重複4
忘れ物	19	1		

4. 学習及び学習キャリア形成の支援

一般に、学生は入学後、科目を履修し特別（卒業）研究を行い、一定の教養と専門性を身に付けて卒業することが期待される。入学から卒業に至るこの過程で、履修科目の選択、学科・コース分属、特別（卒業）研究の指導教官選択といったいくつかの分岐点に立つ。各時点で、学生はそれぞれの希望・将来設計と実績等とのバランスの上で選択をしなければならない。大学教育は、以上のような学生のアクティビティを中心に展開するもので、そのアクティビティが円滑に進行するような環境・条件を整えることは、大学として当然の業務である。そのなかでも、科目履修・研究についての助言・指導、及び各分岐点において適切な選択ができるような情報提供・助言は、大学生生活の成否に直接影響するところが大きい。ここでは、前者を学習支援、後者を学習キャリア形成支援と呼ぶことにして、その点検・評価を行う。

具体的には、まず、学習キャリア形成支援についての文書類（履修案内、シラバスなど）、口頭での説明会（ガイダンス、オリエンテーションなど）、及び履修登録、学科・コース分属を点検・評価する。そのあとで、学習キャリア形成支援及び学習支援の双方にかかわる課題として、教官による個別指導とそのためのも道具（アドバイザー制度、オフィスアワー、ポートフォリオなど）を取り上げる。

1) 履修案内・シラバス

履修案内・シラバスについては、当然のことながらすべての部局等が作成し学生に配付している。したがって、点検・評価すべきはその内容である。

履修案内については色々な工夫が重ねられ比較的分かりやすいものになってきているが、シラバスについては、その精度が部局によってばらばらである。学生の声としては

・本を読めば大体分かると思う。（工 H14 学部入学）

という肯定的意見がある一方、

・シラバスに記された内容が必ずしも分かりやすいものではなく、特に初学者は深く考えずに周囲の学生に合わせて履修する感があるので、どのようなことを学び、将来それがどう役立つのか明記してほしい。学生の立場からの記述もあるとよりよいのでは。

（エネ科 H14 修士入学）

・総人のカリキュラムがいい加減なので、もう少しマニュアルを作ってもよいと思う。（総人 H11 学部入学）

・シラバスの授業案内等をきちんと書き、それを読めば十分対応できるくらいにシラバスの拡充を望む。（薬 H12 学部入学）

・授業のシラバスですが、学部・大学院のすべての授業について開講状況を知らせて下さい。また、授業について詳細な内容についても記載して下さい。（エネ科 H14 修士入学）

という批判もあり、上述の事情を裏付けている。ただし、履修案内・シラバスについての不満の声は、全体的にみれば比較的少なく、学生の満足度という意味では大学として保つべき水準をクリアしているのではないかと推定される。ただし、今後行われる様々な大

学評価では、「シラバスでは、科目の目的や時系列的な授業内容だけでなく、前提知識、レポート等の有無、評価方法と基準などを明記する」ことが求められることになろう。例えば全学共通科目のシラバスはこの条件に遠く及ばない面がある。このような大学評価への対応を考えると、部局によってはかなりの改善が要求される。

上述のような方向で、例えば全学共通科目のシラバスを変更していけば、その頁数が増加せざるを得ない。したがって、学生が全体を簡単に一覧したあと自分が必要な部分だけダウンロードできる電子的情報配付システムの構築が必要となる。システムが機能すれば、学生への情報伝達の質が高まるとともに、配付書類を大幅に減らすことができ、省資源の効果も大きいと考えられる。

2) オリエンテーション・ガイダンス

「聞き取り調査」によれば、1部局等を除いて、他のすべての部局等で2回生以上にも年一回程度のペースでオリエンテーションもしくはガイダンスを実施している。2回生以上に対してそれを実施していない部局等ではオフィスアワーを設けており、それが代替機能を果たしていると考えられる。

オリエンテーション・ガイダンスの内容については、入学時のオリエンテーション、学科・コース分属のガイダンス、特別（卒業）研究配属の説明、など部局等に応じて多様なものがあり、全学レベルでの総括的な調査では十分に点検・評価することが難しい。それぞれの部局ごとに点検・評価を行うべきである。

学生の声には、

- ・毎年ガイダンスは行われているし、シラバスがしっかりしているので大丈夫。(薬 H11 学部入学)
- ・現状の維持でよいと思う。(工 H11 学部入学)
- ・宇治キャンパスでは、院生のためのオリエンテーション、ガイダンスですか、各研究室での研究テーマ等の紹介があり、一応できていると思う。(助手)

と現状を肯定するもの、また、

- ・無意味な時間を取ることはやめてほしい。必要最小限で説明してほしい。(工 H12 学部入学)
- ・専門科目のガイダンスの際、図書館の利用について説明が毎回ありますが、関心がないためか誰も聞いていない。もう少し興味の持てる話をしていただきたい。(工 H13 修士入学)
- ・紙と口頭での説明は二度手間。口頭での説明は大半の人が聞いていないように思われるのだが。(工 H10 学部入学)
- ・長時間かけて、だらだらやらずに、必要事項のみの確にお願いします。(農 H14 修士入学)

と単純化を望むものもある。しかし、その一方、

- ・研究室の説明などが完全に研究室任せで、情報が不十分なところがある。(理 H12 学部入学)
- ・全体への案内だけでなく、個別の相談なども充実させるべき。履修登録の説明が非常

に分かりにくい。(法 H13 学部入学)

- ・オリエンテーションの印象として、お題目の方ばかりで具体的なものが掴みにくかった。(文 H11 学部入学)
- ・もう少し丁寧なやってほしい。(法 H12 学部入学)
- ・説明不足。放任主義的で、とても分かりにくいです。もっと学生にとって分かりやすいオープンなものにしてほしいです。(医 H14 学部入学)
- ・初めて学生生活を送る学部生には、オリエンテーション、ガイダンスの全体が見えにくく、せつかくの機会を逃しているようにも思えます。入学手続き時などに、より整備されたパンフレットを配付するなどの対策が必要では？(助手)
- ・もっと丁寧なオリエンテーションなどが必要である。(事務(技術)職員)

と、より丁寧な説明を求める声も多い。このように要求が分かれるのは、多数の学生を対象として一律の説明を行うという形態を採る以上、避けられない現象である。この状況を改善するためには、全体的説明は平均的な学生を想定して簡単に行い、それ以上は個別に対応することが有効な対策となる。実際、「意識調査」においても

- ・学科オリエンテーションは分かりにくい部分も多い。学生が気軽に相談、訪問できる場があるとよい。(総人 H11 学部入学)
- ・専修分属のガイダンスは具体的にどのようなことをするのが分かりにくかった。もっと時間をかけたり、随時教授に相談に行けるシステムを作ってほしい。(文 H11 学部入学)
- ・全体への案内だけでなく、個別の相談なども充実させるべき。履修登録の説明が非常に分かりにくい。(法 H13 学部入学)

という「教官による個別相談」を求める学生の声も多い。また、部局によって事情が異なるようだが、先輩や同輩からの情報、又は学生間の Web Site に頼って選択することが多いことをうかがわせる学生の声もある。

- ・現在学生に依存している。(総人 H11 学部入学)
- ・1 回生の時には履修登録のコツが分からなく、友達頼りになりました。担任の先生などが支援をしてあげてください。(工 H14 修士入学)
- ・これまで不自由は感じなかったが、先輩のアドバイスや情報がなければ対応しづらかったと思うので、そういった縦のつながりが生まれるような仕組みをつくるか、より細やかな生きた情報を得やすくしてほしい。(農 H14 修士入学)

教官側からも

- ・工業化学科ではクラス担任を置いて、相談に乗っているが、学生との距離も感じる。学習不足に対して早い時期にガイダンスをする必要性有りとする。(教授)
- ・大学のホームページや学部のホームページでガイダンスなどについての質問を受け付けられるようになれば、なおよい。(教授)
- ・すべての教官と個人的なコンタクト(履修相談等々)がもっとオープンに行われる制度と案内が必要。(助教授)
- ・ガイダンス内容と同等の web page を設け、ガイダンスに出席できなかった学生にも情報を一元化して開示する。教務連絡、教科の手引きの電子化。(助教授)
- ・大学の学問研究が高校までの勉強とは質が異なるものだという事を、小グループ指

導のような形で知らせる機会を設ける（授業としてではなく、大学教育自体へのオリエンテーションとして）。（助教授）

という声がある。これらを総合すると、今後、次のような方向に進むべきと考えられる。

- ＃ 学習キャリア形成に応ずるために、教官が個別ないしは小グループで相談に応ずるシステム（アドバイザー、部局等ごとの少人数セミナー、オフィスアワーなど）を整備・充実させていく。
- ＃ インターネットによる情報伝達システムを整備し、基本的な情報が随時自由に取り出せるようにする。

アドバイザーやオフィスアワーについては本節第4項で詳しく検討する。インターネットによる情報伝達システムについては、既に第3節第1項で検討したとおりである。

「意識調査」における教官の自由記述のなかに、

- ・ ルールの簡素化（履修科目や種類について）。（教授）
- ・ 一部の事項は、あえて文章化せず、口頭のみ説明して、ニュアンスを伝えることが行われているが、このようなことは止めるべきで、もっと明確なルールとするべき。（教授）

というように、履修案内やオリエンテーションの前提となるルール自体の簡単化・明確化を求める声もみられた。現状のルールは様々な教育的配慮の結果として作り上げられたものであり、軽率な簡単化は慎むべきであろうが、その可能性の検討は部局等ごとに常に行われなければならない。また、明確なルールの記述には十分留意すべきである。さらに、

- ・ 部局等によって、オリエンテーション、ガイダンスのやり方がまちまちである。全学的にそろえられるような事柄は、統一したフォーマット（手続）で行えれば、効率的と考える。（助手）

といった全学的なフォーマットの統一を期待する声もある。これについても、学生側の利便性と実施の容易さに十分配慮した検討を行う価値はあろう。

3) 履修登録及び分属決定

現在、ほとんどの部局で学生に履修科目を登録させている。また、入学後に学科・コースへの配属を決めるところも多い。さらに、特別（卒業）研究を行う場合においては、指導教官を決定しなければならない。これらの登録・決定業務は、支援・サービスという用語の持つ印象からはるか速くに位置するが、学習キャリア形成に重大な意味を持つものであり、当然、本点検・評価の対象とされるべきものである。

履修登録については、全学共通科目において最も問題が大きい。すなわち、全学の学生が多様な目的を持って、多数の科目のなかから履修科目を選択するという事情のため、

- ＃ 選択の偏りによるクラス人数の差。
- ＃ 履修登録をしても実際には履修しないという学生が多数に上った場合の、教官・教室の効率化を図ること。

などの面で大きな問題が生じている。また、

- ＃ 学部科目と全学共通科目の相互参照がなされないままで放置されており、二重登録が生じていてもチェックされていない。

というシステム運用上の問題がある。これらの問題点については、教育課程委員会や企画調整専門委員会で取り上げられ、改善の努力が続けられている。具体的には次の対策が進められている。

まず、登録不履修という問題については成績の記載方法の変更で改善がみられた。クラス人数の問題については、一部科目で人数制限を実施したことで多少の緩和がみられている。また、セメスター制への移行及び提供科目の適切性の判定といった周辺状況の変化も、この問題についてはよい影響を及ぼしているようにみえる。しかし、これらは根本的な解決をもたらすものではなく、今後の対応が重要である。直近の対策としては、新しい教務電算システムの導入と企画調整専門委員会から提案された履修調整方法の実施がある。前者により、二重登録のチェック問題は（履修登録制度を採っている学部との間で）完全に解決される。また、後者によってクラス人数の問題も形態的には解決されると思われる。ただし履修調整については、学部ごとの教育方針の明確化とその学生への徹底、重要科目の多数回開設、といった条件整備を行って、学生の自主的な学習キャリア形成の障害とならないよう努力することが重要である。

専門科目や大学院科目の履修登録について、現在、大きな問題は顕在化していない。

学部教育における学科・コースへの分属や特別（卒業）研究の指導教官の選択については、学部・学科によってその在り方及び方法が多様である。学科・コースへの分属の在り方については、学部内に学科の区分があっても全学生がいずれかの学科に属することを強制していない学部から、入学時に学科別に合格させるところまでである。学科・コース分属の方法については、大部分の部局等が単位取得状況及び成績を基に学生の希望に対応している。しかし、特別（卒業）研究の指導教官の選択においては、基本的に学生間の話し合いに任せているところもあるが、特定コースに希望者が集中するために分属のための試験を行うに至った部局もある。このような多様性は、各学部がその教育理念と現実の諸条件の下で選択を行った結果である。本学の伝統を考えれば、これを統一するようなことは考えるべきではない。ただし、各学部ごとに十分な点検・評価を行い、必要があれば改善されることが望まれる。また、分属・決定方法を分かりやすく説明し、透明性を高めることも重要である。

大学院においては、入学時から専攻といった少グループでの教育が中心になっており、また指導教官も決まっている場合が大部分である。したがって、分属・指導教官の選択という点について事務的側面の問題はない。

4) アドバイザー制度、オフィスアワー、ポートフォリオなど

アドバイザー制度は、1人の学生に特定の教官を割当て継続的に学習キャリア形成の支援をするものであり、オフィスアワーは、各教官が一定の時間帯を設定して個別に授業又は研究内容の質問・相談にこたえるものと理解されている。ただし、前者においても学習内容に踏み込むこともあり得るし、後者の場合の相談事項が学習キャリア形成に関する場合もあり得る。したがって、両者の主な違いは継続性の有無にあるものと考えられる。

「聞き取り調査」では、学部レベルで継続的なアドバイザー制度を採用している部局等は15部局等のうち6部局等である。また、大学院レベルも含めてオフィスアワーを制度化

しているところは20部局等のうち3部局等である。すなわち、多くの部局でこのような制度は未整備であり、その位置付けを含め、今後、検討すべき課題といえる。

オフィスアワーについては、「意識調査」設問「今後、必要な支援・サービス」において、学生側で5位（25.2%）、教職員側で3位（35.7%）を占めている（図表2-7）。学生・教職員の双方の関心が高いが、どちらかといえば教職員側の方が積極的である。少なくとも講義開講期間及び特別（卒業）研究配属期間にオフィスアワーを設けて学生の来訪を歓迎する制度の導入が検討されるべきであろう。ただし、すべての教官が教育・研究以外の何らかの業務に従事しており、学生の都合のよさそうな時間帯にオフィスアワーを設定することが実質不可能に近い教官もいる。オフィスアワーの制度化のためには、学内の諸業務・諸委員会を整理するとともに、大幅な権限の委託などを行って、教官の十分な時間的自由を確保することが必須である。

アドバイザー制度についても、現状では、教官の時間の確保に難しさがある。しかし、「意識調査」のガイダンスに関する自由記述にみられるように、教官による個別相談の希望を持っている学生がかなりいる。また、工学部における調査結果では60%以上の学生が1～2回生の段階で学習上の「つまづき」を経験し、その多くが数学と物理に集中している。数学担当者との懇談会で、「自分の専門における数学の意義」が十分納得できないことがその一因である、という見解が示されている。これらの問題は、専門教官による個別のアドバイスを解決できる場合も多いと推測される。以上の事情を考慮すれば、

- ＃ 学生が常時、気軽に自分の学科・コースの教官と個人的ないしは少人数で接触し、学習キャリア形成や学習内容についてのアドバイスを受けることができる制度の整備。

が望まれる。

図表2-7 「意識調査」設問「今後、必要な支援・サービス」で5%以上の項目

[学生]		[教職員]			
1位	⑪ATM	53.2%	1位	⑰図書館開館時間延長	48.1%
2位	⑰図書館開館時間延長	46.8	2位	⑭駐輪場整備	41.7
3位	⑭駐輪場整備	35.0	3位	①オフィスアワー	35.7
	⑯教務窓口時間延長	35.0	4位	⑪ATM	30.8
5位	①オフィスアワー	25.2	5位	⑤セミナーハウス	21.4
6位	③パソコン講習	16.9	6位	⑦学生ラウンジ	20.9
7位	⑧コンビニ	14.3	7位	⑬車輛制限	18.4
8位	⑬車輛制限	11.8	8位	⑮車道と歩道分離	14.6
	⑱その他	11.8	9位	⑥カフェテリア	13.1
10位	⑥カフェテリア	10.8		⑱その他	13.1
	⑮車道と歩道分離	10.8	11位	④ボランティア活動	10.4
12位	②パソコン貸出	9.6	12位	③パソコン講習	9.7
	⑦学生ラウンジ	9.6	13位	⑯教務窓口時間延長	8.7
14位	④ボランティア活動	8.6			
15位	⑩ファストフード	7.3			
16位	⑤セミナーハウス	6.4			

その最も強力な実施形態としては、専門教官による少人数セミナーを時間割上の科目として（単位も含めて）設定してしまう方法が考えられる。しかし、これを入学から研究室配属まで続けるとなると、学生側、教官側ともかなりのロード過剰になり、実行は難しい。それを避ける方法として

- ＃ 1回生の一定期間のみ時間割上の1コマを割当てて、その後はオフィスアワーという

形で自由に訪問する形とする。

ことが考えられる。ただし、この形式は現在実施されている少人数セミナーと競合するので、その間の調整が必要である。上のような時間割上の配当を行わないなら、

■ アドバイザーを名簿上割当てておいて、必要に応じて（例えば履修登録前や Semester 終了時）学生が教官を訪問する。

という制度が次善の策として考えられる。教官との十分な面談時間を確保するためには、オフィスアワーの設定と並行して実施することが必要である。

どのような実施形態を採るにしても、学生の修学期間を通してアドバイザーを固定してしまうことには問題がある。第一の問題は、「名簿上割当てられた教官に学生が必ずしも馴染めない」という点がある。第二に、前述の「教官の忙しさ」の問題がある。いずれにしても、他の教官への振替えができるシステムが必要であろう。

上のように、アドバイザーが変更されることを想定するならば、継続性を確保する手段が重要である。その一つの可能性として、ポートフォリオがある。ポートフォリオは学習キャリアの記録であり、具体的には科目登録・取得・成績といったデータの時系列的ファイルに加え、各時点での学生自身の将来設計、授業内容の批判やメモ、教官面接時の質問・回答・コメントなどを記していくことが期待される。ポートフォリオは学生にとって自己の学習と成長の一断面を記録するものとなり、教官にとっては指導の継続性の保持手段となる。学生側、教官側がそれぞれのポートフォリオを作成すれば、学生側としても教官への配慮なく自由な記述が可能となる。また、カウンセリングが必要になった場合の有力なデータとなる可能性もある。

■ 教務電算化システムにおいて、ポートフォリオ作成をその業務範囲に含めるべきである。

以上で述べたアドバイザー制度は、その運用方法によっては「自由の学風」と「自学自習の原則」を掲げる本学の理念に反する懸念があり注意を要する。実際、これをすべての学生に強制することは、本学として行うべきではなかろう。しかし、こういった制度を導入することにより、例えば 50%以上の学生がその恩恵を受けて、より好ましい学習キャリアの形成に向うのではないかと考えられる。

アドバイザー制度と密接に関連する事項として、学生の単位取得状況の把握がある。「聞き取り調査」20 部局等中、

毎年チェック 5, 每期チェック 6, コース分け時又は特別（卒業）研究資格の判定時のみチェック 2, 卒業時以外チェック無し 6, 不明 1

となっている。本学における留年率、とりわけ長期在学して卒業できない学生が相当数に上る事実を顧みれば、積極的なチェックと単位取得が不十分な学生へのケアの制度的整備が必要である。計算機システムを使えばチェック自体は容易であるから、速やかに実施すべきである。単位取得が不十分な学生のケアは、前述のようなアドバイザー制度を整備してそのなかで行うのが最も望ましい。ただし、早期の進路変更のような実効性ある対応を行うためには、進級制度の導入など制度的改革が急がれる。「意識調査」から教官の声を一つ紹介しておく。

・最も基本的な“学ぶ姿勢”を強制する進級制度を取り入れる。これなくして学生に対するサービスは意味をなさない。(評議員)

5. 施設・器材の利用

1) 学習に直接かかわる施設・器材等の利用

実験室の使用・実験用機材の貸出しについては、安全性・環境性への配慮が重要であるから、技術職員・教官の指導の下で実施する必要がある。

一般的な学習用スペースの提供に関連する事項としては、「意識調査」設問「今後、必要な支援・サービス」のなかで、⑤セミナーハウスが取り上げられている（図表2-7）。これに対する回答は、学生側16位（6.4%）に対し教職員側5位（21.4%）と大幅な意識差がある。学生にとってセミナーハウス新設というのは現状からかけ離れたところに位置する施策であり、これよりも優先する要望が多数あるという現実を反映している。一方で、教職員の1/5強がこれを重要課題として挙げているのは、現状認識において大きな欠落があると言わざるを得ない。セミナーハウスに至るまでに、日常的に使える学生用のスペースと器材（学生専用である必要はない）を提供することが必要である。

「聞き取り調査」では、学部レベルで15部局等のうち2部局等が全学年に対して、15部局等のうち1部局等が3回生以上に対して、15部局等のうち6部局等が研究室配属学生のみに対して学習用スペース有りと回答している。ただし、その内容については（詳細な調査結果がないが）大きな差があると推定される。すなわち研究室に配属された4回生については、個別の机と適当数のパソコン又はワークステーション端末程度が割り当てられている場合が多い。しかし、全学年に対するスペースの場合は、大机を置いた共用のスペースと推測され、面積が学生数に対して必ずしも十分とはいえない可能性も高い。もちろん、一般学生対象に学習専用のスペースを提供しても、立地条件によっては利用効率が低くなったり一部学生の専用スペースと化してしまう可能性もある。したがって、その提供には十分に慎重な配慮が必要であるが、学生の最も重要なアクティビティであるべき自主的学習への便宜供与という観点から、現在以上の詳細な調査と必要に応じた積極的対応が望まれる。

大学院生に対しては、ほとんどすべての研究科で個人の机が割当てられているが、2部局等では共用の机にとどまっている。関連する学生の声を紹介しておく。

- ・他大学がどのようなことを行っているのか分からないので、何とも言えないが、理系と文系で（特に文学部）学生の処遇に大きな差がある。文学部の一部の学科？の学生に院生部屋 etc. がなかったりして（もちろん個人の机などもない）、そういう点を何とかしてほしい。（文 H13 修士入学）

ゼミ室などの貸出しについては、次の学生の声にみられるように、その要望が一定数ある。

- ・ゼミやサークルの活動のために教室をもう少し開放していただけたら嬉しいです。（理 H14 修士入学）
- ・自由な校風が売りである本学においては、主体的に行動するツールとしての設備や動機付けとなる機会の提供がまだまだ不十分であるとも思う。自己点検・評価、これからの活躍を期待します。（エネ科 H14 修士入学）
- ・学生が自由に使えるゼミ室や議論できるようなピロティーのような施設が少ないよ

うに思われます。誰でも、いつでも自由に使用できるようなそういった施設がもっと増えてほしいと思います。(法 H12 学部入学)

一方、現在の学生の状況に対応するため、特に学習意欲の向上を求めて、

- b グループごとに調査・解析等を含む自習を課し、その報告をプレゼンテーションという形で求める

という手法を取り入れた授業が増える方向にある、もしくは増やすべきであると考えられている。現在もこの種の授業は存在し、それに加えて実験レポートの作成などのために、グループでの打合せの場所が必要となっている。これに対して、学生は過去の慣習に従って適当に(例えば食堂を使うなどして)対処している。今後、学生のグループ活動を前提とした教育の在り方がますます重要となるから、スペース・資材を適切な量と利用時間の下で提供するシステムの整備が重要である。「聞き取り調査」によれば、20 部局等のうち 13 部局等が OHP、スクリーン、プロジェクタの貸出しが可能である。スペースの問題を含め、学生の必要性を満たしているか否かの点検を継続すべきである。

以上、総括すれば、学習に直接かかわる施設・機材の提供については、研究室・学科・専攻といった小単位の対応が先行し、学部の高学年・大学院学生に対してはそれなりのレベルを達成している。ただし、一部の部局では不十分なところもあり、また、低学年に対しては必ずしも十分な状況ではない。今後の教育方法の改善を考えれば、この種の支援の重要性は増すものと予測される。セミナーハウスといったものを考える以前に、通常の学習・研究用スペースと機材、報告書準備・作成用スペース・機材、発表準備・練習用スペース・機材、学生の自主セミナー用スペースといった、日常的に必要な施設・機材の提供を優先すべきである。提供に際しては、その利用実態を注意深く観察しつつ、順次充実を図ることが重要である。

2) 図書館の利用

図書館の利用については、開館時間が必ずしも十分ではないと考えられる。実際、「意識調査」設問「今後、必要な支援・サービス」において、⑩図書館開館時間延長が学生側 2 位 (46.8%)、教職員側 1 位 (48.1%) と、学生・教職員ともに半数近くがその延長を望んでいる(図表 2-7)。実際、自由記述においても、

- ・学生の勉学に対する支援の充実を望みたい。具体的には、図書館の開館時間を延長する、図書館の机の数を増やす。(助手)
- ・お役所的すぎる。窓口や図書館の開いている時間が短く、職員も感じ悪い人が多い。(文 H14 学部入学)

・図書館の閉館日が重なることが多く、非常に不便を感じています。休みの日をずらすなどの工夫を各図書館でしていただくことはできないでしょうか。(法 H12 学部入学)

と、開館時間の延長や開館日の増加を望む声も多い。検討すべき課題である。

図書の利用について、附帯的問題点を指摘したい。現在、一度購入した図書がなくなることはないという建前で、図書の登録が抹消されることは(火事などの特殊場合を除いて)ない。しかし、現実には盗難や紛失という事故が生じている。それに対して、登録抹消の手続きがないため、特定の図書を探し回って徒労に終わることがある。一方、特定の研究

室で購入した図書にはその研究室での利用頻度が極めて高いものが多い。このような図書についても外部からの要求に対して1ヶ月程度の貸出しをせざるを得ない場合があり、当該研究室の学生が大幅に迷惑を被ることがある。法人化の機会に、図書の紛失や貸出しについての旧き時代の建前を破棄し、実態に則した運用を行わなければならない。

3) 情報端末の利用

大学院においては、「聞き取り調査」で20部局等のうち14部局等で学生用のパソコン等が整備されている。また、学部においても、15部局等のうち8部局等でかなりの手当がなされている。他の部局等及び3回生以下の学生に対しては、学術情報メディアセンターの端末が提供されているわけだが、学生のニーズを十分満たしているかどうか、精密な調査が望まれる。

「意識調査」設問「今後、必要な支援・サービス」においては、学生側でパソコン講習が第6位(16.9%)となっており(図表2-7)、かなりの学生がそれを求めている。パソコンの利用が大学における学習に大きな意味を持っている現状においては、その講習も大学が行うべき業務の範囲と考えざるを得ない。学生からこのような要望が出されていることは、現在の基礎情報処理の授業が学部によっては必ずしも実務的な要求を満たしていないことも意味する。部局ごとに十分な対応が期待される。一方、場合によっては有料の講習会も視野に入れて検討するべきであろう。「意識調査」設問「今後、必要な支援・サービス」には、パソコンの貸出しという項目も挙げられており、学生側で12位(9.6%)となっている(図表2-7)。1/10程度の学生が貸出しを希望しているわけだが、これは大学が本来行うべき業務であるかどうか疑わしい。前述のように、大学としては、「パソコンの購入を勧め、それが極めて難しい場合には、端末の利用の便宜を図る」というあたりが妥当と考える。

6. 学外学習

インターンシップを制度化している部局等は20部局等のうち7部局等、また学外学習の応募手続きに関与している部局等は20部局等のうち11部局等に上っている。学外学習機会についての情報提供は全部局で行っている。学外学習を正規科目と同様に扱うか否かは、それぞれの教育理念・目的に応じて、部局等ごとに決定されるべきであり、現状はそれに基づいてしかるべき対応がなされていると推定されるが、現実の利用数についての調査も行い実態をより正確に把握すべきである。

留学相談については、20部局等のうち8部局等の部局等が実施していると回答したが、現実には海外留学する学生数は、海外から本学を訪れる学生数に比して極めて少ない。もちろん、留学を勧めるべきか否かは部局等の教育内容・教育方針に大幅に依存するもので、全学一律に考えるべきことではない。しかし、海外への留学が視野を広げ学習のレベルを深める効果があることを考えれば、現状は必ずしも望ましい状況とはいえない。相談があれば応ずる、といった留学相談の在り方を問うべきであろう。

海外留学機会の確保に関連して、本学側としての努力が要求されることも多い。その一つは、大学間の交流協定の経済的保証である。本学側が受入れ学生に対する奨学金を保証すれば、先方も同様に対応してくれるところも多い。この件は、分野別の重要性の問題があるので、実務的には部局等により対応すべきである。ただし、本学としてそれを可能とする枠組の整備が必要である。

また、一方、外国企業における研修の場合、IAESTE（日本国際学生技術研修協会）のような確立した組織に積極的に参加することが考えられる。この場合、やはり日本対外国の間での1対1の交換が原則となるので、本学としても受入れ企業の依頼に努力する必要がある。

第三章 經濟支援

第三章 経済支援

1. はじめに

本章では、本学が学生に対して行っている学生支援のうち、アルバイト・下宿紹介、健康保険組合、学生教育研究災害傷害保険、入学料・授業料免除、奨学金等の「経済支援」に焦点を当て、今回実施した『学生支援』に関する意識調査の回答結果を参照しながら現状分析を行いつつ、本学の経済支援の体制について点検・評価を試み、今後の改善に向けての提言を行う。

2. 本学の行う「経済支援」の現状

1) アルバイト・下宿紹介

① アルバイト紹介

学生部厚生課が紹介しているアルバイトは、家庭教師及び祭礼等であり、一般的なアルバイト紹介は行っていない。家庭教師及び祭礼等の情報は、随時掲出されているが、学生が行っているアルバイトの全体量から推定すればごくわずかでしかない(資料3-1, 2)。新入生に配付する『学生便覧』において、「大学生生活の中心は勉学にあり、余暇は自習や課外活動のための貴重な時間である」ことが記されていることから推察できるように、一般的なアルバイト紹介は大学が行う業務として認識されてなかった。『学生便覧』において、(財)内外学生センター京都学生相談所を紹介している程度である。

アルバイト・求人関連の情報誌が一般に普及しており、大学として実施すべき業務かどうか今後さらに検討する必要があるものと考えられる。このことは、後述する「意識調査」の回答結果からも読み取れる。

② 下宿紹介

学生部厚生課では、地域住民の理解を得ながら貸間の紹介を行っており、京滋地区大学間の学生下宿協定料金に基づき設定された料金以下の物件を学生に紹介している。昨今は、プライバシー確保等の問題により、設備が行き届いた学生アパートや学生マンションを好む傾向が強く、取り扱い物件数が減少してきているのが実態である。『学生便覧』において、(財)内外学生センター京都学生相談所や京都大学生生活協同組合を紹介していることから分かるように、学生が下宿等を探すときの情報源は大学ではなく、学外の専門業者に主導権が移っている。貸間についても、これまでの大家さんとの付き合いもあるとは考えられるが、大学に近い専門業者と提携し情報のネットワーク作りをして双方の利益に結びつくような仕組みを考えて行かなければならなくなるだろう。

2) 学生健康保険組合・学生教育研究災害傷害保険

健康保険等に関しては、健康相談・カウンセリング等と同様に生活支援として位置付けられるものでもあるが、いわゆる傷害保険の部分と医療保険の更なる補助金システムとして定着しているもので、「経済支援」としての側面があるので、本項でも触れておきたい。

① 学生健康保険組合

本学では、昭和 25 年(1950)から学生相互の医療費給付を目的とした学生健康保険組合が設置されており、一般学生の約 6 割が加入している。この保険制度は、学生が両親等の扶養親族となって医療保険の適用を受けた後さらに負担分の一定割合が補助される制度で、年間一人 500 円という低額な組合費ではあるが、年間医療費 10,000 円までは 50%が補助され加入率も高い(資料 3-3)。対象の医療機関は学内の医療機関となっているが、本学学生にとってメリットの大きい経済的な補助システムであるといえよう。

② 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、「大学に学ぶ学生が被る種々の教育研究活動中の災害に対する被害救済の措置として、文部科学省の外郭団体である「(財)内外学生センター」と「東京海上火災保険会社を幹事社とした損害保険会社 7 社」との間で一括契約するもの」で学生の災害補償に対する「全国的な救済措置として制度化されたもの」である。

学部の文系学部・理系学部・医学部で保険料が違うが、4 年間 3,200 円(文系)～6 年間 5,400 円(医学部)と低額な保険料となっている。この保険は、大学管理下での課外活動やインターンシップ、ボランティア活動等にも適用されるため、今後、大学の諸活動が広範囲に及ぶなかで、学生だけでなく、法人化後の大学にとっても有効なものとして位置付けられることとなり、全員加入の促進が求められている(資料 3-4)。

3) 入学料・授業料免除等

① 入学料免除

国立大学には、「経済的な理由によって入学料の納付が困難で、かつ、学業優秀と認められる者及びその他やむを得ない事情があるとき」に入学料を免除することにより、修学継続を容易にしようとするものとして、入学料免除の制度が整備されている。その出願資格から、学部入学段階で適用されている者はほとんどなく、修士課程又は博士(後期)課程での採択者が多い(資料 3-5)。しかし、全学免除に採択される者は少なく、半額免除に採択される者がほとんどである。学資負担者を失った家庭、不慮の事故や災害の被害を受け経済的に困窮している世帯の学生に対する救済措置として重要である。

② 授業料免除

国立大学の授業料免除制度は、「経済的な理由によって授業料の納付が困難で、かつ、学業優秀と認められる者及びその他やむを得ない事情があるとき」に授業料の全額又は半額を免除することにより、修学継続を容易にしようとするものとして整備されている。学

部・修士・博士という区分ごとに学生の所属世帯の所得限度額が示され、入学料免除制度と同様、学資負担者を失った家庭、不慮の事故や災害の被害を受け経済的に困窮している世帯の学生に対する救済措置として重要なものであり、その採択状況は（資料3-6）のとおりである。平成14年度(2002)前期における出願者に対する採択率は、全額免除・半額免除を含めて、学部が約52%、修士課程が約49%、博士課程が約59%、全体で約53%あり、所得限度額の条件を満たしている者がすべて採択されるわけではないが、ある程度カバーされているものと考えられる。

授業料免除推薦に当たっては、各学部・研究科からの推薦に基づき、学生部厚生課において、所属に関係なく条件に従って機械的に順位が付されコンピュータで処理されるので、学部等の所属による有利・不利はなく、学生個人の成績とその世帯の所得額に応じた順位によって採択が決定されている。

学部学生はともかく、大学院学生にあつては、家族とは別世帯になっていなくとも、実際の生計を別に営んでいることが往々にしてみられることや、精神的にも家族から独立していることなどから、家庭の所得ではなく学生本人の所得に基づき、一定の基準をクリアしていれば、出願資格のある者は相当程度採択されるというシステムに改めることを検討する必要があるものと考えられ、社会への有為な人材輩出や研究者養成という観点を経済的支援の面でも採り入れて行く必要がある。

③ 小口短期貸付金(学生援助会)

本学では、関係者の寄付を資金とする学生への貸付金制度を持っており、病気や不慮の事故、家庭からの送金の延着、その他の急な出費に対し、無利子で短期間の貸付融資を行っている。金額によっては、あらかじめ、保護者等を保証人とする債務保証書を学生部厚生課に提出する必要があるものの、以下のような条件により、学生が安易に民間の学生ローンなどに手を出さずとも済むような制度として利用されている（資料3-7）。

(貸付金)	1~5万円まで(1万円単位)
(返済方法)	1万円・・・1ヶ月以内一括返済
	2,3万円・・・4ヶ月以内一括又は分割返済
	4万円以上・・・6ヶ月以内一括又は分割返済

4) 奨学金

学生部厚生課で取り扱っている奨学金は、日本育英会奨学金、地方公共団体奨学金及び民間育英団体の奨学金があり、採択者数の関係から日本育英会奨学金の取扱いが中心となっている。

① 日本育英会奨学金

日本育英会奨学金の最近の制度変更や経緯等に関しては、後に詳述することとし、ここでは現状を概観することに留めたい。

日本育英会奨学金には、第一種奨学金(無利子貸与)及びきぼう21プラン奨学金(有利子貸与)があり、(資料3-8, 9)に示すように無利子を希望する学生が多いが有利子

に振り替えられることがある。

【学部学生】

(第一種) 自宅通学者・・・月額 42,000 円

自宅外通学者・・・月額 48,000 円

(きぼう 21 プラン)

月額 30,000 円、50,000 円、80,000 円、100,000 円のなかから選択

【大学院学生】

(第一種) 修士課程・・・月額 85,000 円

博士後期課程・・・月額 119,000 円

(きぼう 21 プラン)

月額 50,000 円、80,000 円、100,000 円、130,000 円のなかから選択

奨学金の返済については、当該学生の卒業（修了）後 6 ヶ月～最長 20 年以内に月賦等の方法により返還することとなっており、その返還金は原資として当該年度の奨学金の財源に繰り入れられるシステムとなっている。日本育英会奨学金だけに依存する姿勢を続けていけば、国家予算の状況により採択者数に一定の変動が生じることがあるため、成績優秀者に対しては返還の必要のない奨学金を給与として支給するなど、本学独自の奨学金制度の構築が今後望まれるところである。

② 地方公共団体及び民間団体奨学金

地方公共団体の募集する奨学金は、当該の地方公共団体出身者を対象としたものがほとんどであり、学生部厚生課で取り扱われている団体（23 団体）がすべてではなく、独自に募集を行っていることがある（資料 3-10）。

学生部厚生課で取り扱う民間団体奨学金の奨学生数は、56 団体 325 名（平成 13 年度（2001）実績）で、採択者数も少なく、奨学金の月額はおおむね 20,000 円から 50,000 円程度である。

後述の「意識調査」回答結果の自由記述からもみられるように、京都大学教育研究振興財団や同窓会組織等の本学関係の団体による本学学生に対する奨学金制度が望まれるところであり、大学全体の同窓会が組織されれば、奨学金制度の機能充実も期待できる。

3. 「意識調査」回答結果からみた「経済支援」

ここでは、先に実施した「意識調査」の回答結果を基に、関連の項目を抽出することで評価の検討を加えたい。

1) 経済支援の必要性の認識と経験

まず、「意識調査」の設問「本学が行っている主な「学生支援・学生サービス」のうち、必要がないと思われるものは何ですか。」の回答項目のうち、経済支援に直接かかわられると思われる 2 項目の結果を以下に示す。

⑧奨学金案内や手続き・・・学生 0%；教職員 0%

⑨入学料及び授業料免除・・・学生 0%；教職員 0.5%

すなわち、⑧奨学金案内や手続き及び⑨入学料及び授業料免除のどちらも、学生にとって必要な経済支援であることは共通理解となっている。

では、学生が受けている支援の実態はどうであろうか。学生のみを実施された設問「あなたが受けたことのある「学生支援・学生サービス」は何でしたか。」の結果をみると、次のようになった。

⑧奨学金案内や手続き・・・学生 51.0%

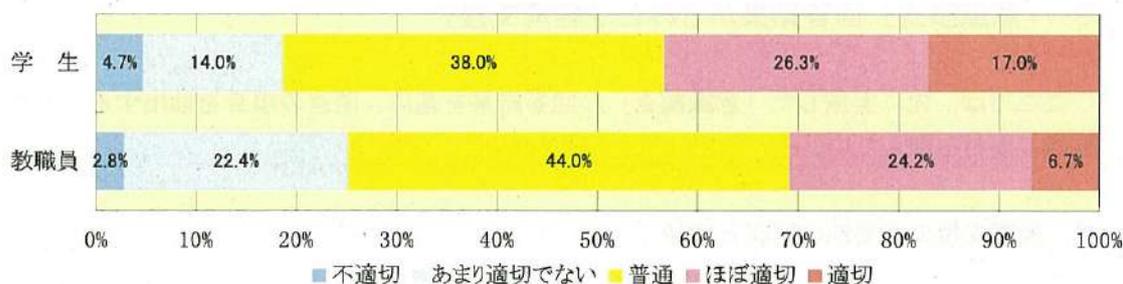
⑨入学料及び授業料免除・・・学生 15.0%

すなわち、学生の半数余りが⑧奨学金案内や手続きについて、また6人に1人の学生が⑨入学料及び授業料免除について、支援を受けた経験があると回答しており、経済支援の重要な柱である「入学料及び授業料免除」が学生支援の重要な項目の一つであることが読み取れる。

2) 本学の経済支援活動の全般的評価

次に、「意識調査」の設問7-1（教職員では設問5-1）の「③各種奨学金、授業料・入学料免除などの経済支援」において、現状を5段階で評定してもらった結果をまとめたのが図表3-1である。

「③各種奨学金、授業料・入学料免除などの経済支援」の回答分布のパターンは、「②健康管理、カウンセリング、宿舎紹介、学生寮などの生活支援」と似ている。このことは、「意識調査」内容の項目設定が似通っており、生活支援と経済支援の明確な区別ができなかったことから生じたものとも考えられる。回答のなかでは、学生・教職員とも、約4割の回答者は経済支援の現状を「普通」とするととらえ、経済支援が「不適切」とするものは教職員で2.8%、学生で4.7%、「あまり適切でない」とするものは教職員で22.4%、学生で14.0%であった。また、評定平均値は、学生3.37、教職員3.10であった。この評定尺度の構成は「普通」が3.00、それより大きな数値は「適切」という判断であることを示すので、全体としてはまずまずの評価が下されたといえるし、学生の方が不満が強いというわけではなく、無難な回答が大勢を占めたといえそうである。



図表3-1 「意識調査」～経済支援について

3) 経済支援の「今後の対応」に関する学生の意見・要望

「意識調査」の設問7-1の③に付属する「今後の対応」の自由記述に、学生が奨学金や授業料免除などに対する意見を寄せた内容を以下に整理して示す。互いに内容が似た記述についてはどれか一つに代表させている。

●現状に一定の満足を示す回答の例（学生）

- ・国立大学であり、十分な制度があると思う。
- ・ちゃんと学生のことを考えてくれてると思う。
- ・私自身、奨学金を受けているが、奨学金の案内や資格確認などの情報に関しては、大きく目立つように掲示されているし、よいと思う。
- ・問い合わせに対して丁寧に受け答えしていただいております。
- ・手続きが忘れがちでもきちんと連絡をくれるし、様々な情報を分かりやすく掲示しているので非常によいと思う。

●現状改善への努力を求める回答の例（学生）

- ・少しでも枠が広くなればよいと思う。
- ・難しいことかもしれないですが、経済支援対象者がもう少し増えれば。
- ・財政の範囲内でより充実させてほしい。
- ・今後も経済的に厳しい学生を支援し続けてもらいたい。
- ・今景気が悪く、学生の扶養者の収入が突然なくなってしまうこともこれから多くなっていくと考えられる。細かい事情はよく分からないが、これまでより授業料免除の基準を低く、また授業料免除等の保留を短くして早く結果を出すようにすべきだと思う。
- ・利用したことがないので分かりませんが、もしリストラなどに親があったときに、とても頼りになるものであり、もっとサービスを強化してほしいです。
- ・奨学金を増やしてほしいです(給与の)。不景気なのでうちの父もリストラ経験者です。
- ・奨学金の種類は増えることにこしたことはない。あともう少し奨学金が身近になる工夫がほしい(一覧にしてパンフを配る等)。手続きも大変なので、もらえる人とももらえない人の目安が申し込む前から分かりやすくなっているとよりよい。
- ・授業料免除の申請は今まで年に2回やってきたが、年に1回にしてほしい。教官のサインなどがいるので相当面倒くさい。奨学金の種類をもっと増やしてほしい。もらえない人がたくさんいる。そして、金額にあまり差が出ないようにしてほしい。4年間毎月15万ももらっている人もいるし、1円ももらえない人もいる。これが悪いと思う。

家庭の経済事情に関するコメントからの特徴を取り上げると、①昨今の景気低迷のなかで、経済的に恵まれない状況に陥った家庭には特段の配慮を求める声が多いこと、②申請システムの不備を指摘していることなど、本学だけで改善できることについては、可能な限り努力することが必要である。国立大学というシステム全体の不備が指摘されている点については、大学として関係機関に改善の要望を出すことを考慮すべきだろう。

●現状がむしろ改悪されることへの懸念を示す回答の例（学生）

- ・徐々に免除の敷居が高くなってきていると感じています。
- ・政府が奨学金の減額を表明しているが、京大がその風潮にのることはあってはならないと感じる。
- ・近年、授業料、入学料免除の基準が以前より厳しくなっており(財政難のため仕方ないのかもしれないが)、優秀な学生をもう少し支援する制度があってもいいと思う。
- ・制度としては今後も残していくべきだと思う。

●学生に対する政府の経済支援策の問題点を指摘する回答の例（学生）

- ・全体に不況だということも関係しているが、経済に困っている人間にとって最近の対応は「勉強はお金持ちがするものだ」と言われているに等しいような感さもある。
- ・欧州大学レベルにサポートがあると嬉しい。
- ・国に決めることだからどうしようもないかも知れないが、国立大学の授業料はもっと下げるべき。
- ・そもそも学生は、納得できる合理的な額の授業料を払っていると思っていない。誰もが免除を望むほど高い。学生が持つべき経済観を具体的に提示してほしい。
- ・授業料免除は、普通の収入の人は受けられない。大学院などは親の負担になるので、大学院の授業料の免除の対象を広げてほしい。
- ・博士課程での授業料は大きな負担。もっと引き下げるべき。また、院生が専門技術を生かして収入を得るための支援を何かできないだろうか？
- ・育英会を除く奨学金はハードルが高く、また育英会の奨学金がほしくてももらえない人もいる。提供する額を下げても、多くの人を採用できませんか？
- ・得られる人と得られなかった人の差が大きすぎるのではないかと思う。もう少し選択の幅を増やした方がよいと思う。金額を半分にして人数を倍にする枠を設けるなど。
- ・免除ではなく、無利子貸付の方が適切ではないか。
- ・無利子貸与の奨学金を増やしてほしい。

●採否の基準の透明性、公平性を要望する回答の例（学生）

- ・免除の基準を公開してもらいたい。全体の大まかな基準でも個々の判断基準でもいいので。同じ収入でも免除されたり、されなかったりと、基準が分からない。本部の経理に行ってもまったく教えてもらえない。
- ・査定が曖昧な部分が多い。家庭の収入を考慮しすぎているか。個人の生活状況をもっと把握する必要はないか。限られた予算があるとしても、検討を進め、人数を増やすことはできないか。
- ・奨学金がもらえるか、もらえないのかの判断基準が明確にされていない。
- ・第一志望の奨学金に落ちて、第二志望のものをもらいました。可能ならば、採否の基準を公開してほしいです。
- ・不必要な人にお金をあげて、本当に必要な人に支援されていない。本当にちゃんと審査してますか？
- ・奨学金や授業料免除の申請の際に、昨年度の収入を基準としているので、今年度の経

済状況が(特に定年退職などの事情)が反映されていない。

審査の基準等が明確でないことに関するコメントからは、具体的で明確な基準を開示し納得してもらうしかないものとするが、学業基準を含め、開示する範囲を検討する必要がある。また、退職及び中途就職の場合は、出願時の所得を基に申請させることにしている。

採択に当たっては、当該の条件をクリアしている申請者を機械的に順位付けし、上位から採択者が決定されることとなっており、人為的な操作が入る余地はない。また、採択者数は、予算的措置により決定されていることを明確に開示すればよいのであろう。

●家庭の収入を採否の基準とすることの問題点を指摘する回答の例(学生)

- ・親の収入によって限られてしまう奨学金がほとんどで、もう少し借りたい人が借りられるような奨学金制度があったらよい。
- ・もう少し対象者を増やしてほしいし、無返還のも増やしてほしい。例えば成績優秀者には与えるようにすればもっとやる気を出す人も増えると思う(収入制限なく)。
- ・親の収入状況により支援の可否が決まるのではなく、成績意欲によって決めてほしいです。
- ・授業料、入学料免除の基準が厳しすぎる。成績がよければ、免除してもらえるようにしてほしい。
- ・親の収入で判断されるのが辛い。25才にもなって親の援助で学業したくはないので、自ら働いて学費・生活費を払っているが、親の収入がそこそこあるために免除されない。苦学の精神を反故にされている。

●学業成績を採否の基準とする要望を示した回答の例(学生)

- ・成績などで授業料、入学料免除などのシステムがあってもよいと思う。
- ・取った成績によって、免除額が決まるシステムにすればよい。
- ・(特に学部生は)基準が親の収入に偏りすぎているが、もっと学生本人の成績、収入で判断すべきだと思う。
- ・授業料免除などを受けた者に対しては、その後の成績に対しても評価を行い、芳しくない場合はそれなりの対処を取るなど、その施行に対して厳重に臨むべきだと思う(再評価の必要性を求める)。
- ・奨学金を使って遊び歩いている人間に対して、支援を中止してほしい。

学生サイドから、経済的に恵まれない学生だけでなく、優秀な学生に対する支援を求めていることも注目される場所である。

●本学の広報の問題点を指摘する回答の例(学生)

- ・財政的に厳しくなっているので、経済支援の拡大は難しいと思いますが、例えば外部の財団などからの奨学金についてはホームページ上でも情報を提供するなどして、アクセスしやすいようにしていただくと大変助かります。

- ・入学料免除についての手続きがよく分からないため、受け逃しました。奨学金関係はもっと派手に知らせてほしい。
- ・奨学金の説明会等の情報が、十分に行き渡りにくい。WEBにアップするなどしてはどうか。
- ・奨学金関連の掲示が学生部に固まっており、各学部では情報を得にくい(あることにはあるが、たくさんの文書の中に埋もれており、探し出すのが難しい)。
- ・もしできるのであれば、奨学生の呼び出しがある場合等、授業の休講、教室変更が出る掲示板にも呼び出しがある旨掲示されれば便利だと思う。
- ・難を言えば、入学前に免除があることを知らなかったので1回の前期は出願できなかった。入学する学生が授業料、入学料の免除が行われていることをもっと知れるようにしてほしい。
- ・現在の育英会の掲示板みたいに、何枚もばらばらの内容を並べられると非常に分かりにくいです。もっと分かりやすくなるようにまとめることが必要だと思います。
- ・日付が過ぎていても、掲示板には貼ったままになっていることがある。

広報に関するコメントでは、web上での広報等が求められているが、本学のホームページには既にその情報が公開されている。とはいえ、在学生諸君に気付いてもらえないような広報の仕方に問題があるとも考えられる。

●本学の事務手続きの問題点を指摘する回答の例（学生）

- ・やむを得ないのですが、手続きが難しいので、もう少し申請しやすくしてほしいです。
- ・事務の方の対応が人によって親切・不親切があるように思うので、事務の方にもっと学生にやさしく教えるよう指導してほしい。情報自体はちゃんとあるので、別にこのままでもよいと思う。
- ・これらの手続きは必要な書類が何で、それをそろえるためにどうすればよいのかで大いに悩ませるものであった。制度そのものを変えられなくとも、その類の案内があると助かったと思う。
- ・授業料、入学料免除の申請手続きがもう少し簡便になるとよいと思います（マークシート化を更に進めるなど）。
- ・年間予定みたいなのを貼り出してほしい。
- ・長期休暇中に願書が公布される場合が多いが、取りに行けない学生がいます。
- ・事務上の手続きの日程を前期の正規課程中(つまり、後期授業料免除については、前期の正規課程中、前期については後期)事務掲示板に公表していただきたい。

事務手続き等に関するコメントには、対応した事務職員等に対する個人的な印象に強く影響される場合もあるが、システムとして改善すべき点が指摘されていることが多い。とりわけ、窓口業務の時間については、学生が授業時間の合間に手続きができるような時間設定が望ましく、昼休みの窓口開設も考慮すべきではなかろうか。

●海外留学などその他の要望事項（学生）

- ・海外留学などの支援（渡航費等の援助）をしてほしい。
- ・留学や各種インターンなどの積極的支援や、京大独自のイベント（関西の起点となるよう）などあれば嬉しい。
- ・フルブライトなどもっと情報を示してほしい。
- ・特に問題はないと思います。ただ大学（特に法学部）の成績評価が厳しいことは、民間の奨学金受給にとって大きな障害になっています。
- ・桂に行く人は、出費がかさむため、設備が整うまでは授業料免除などの措置をとってほしい。来年以降、学部まで工学部だが桂に移転したくないために違う学部を受けるといった人が増えるのでは・・・。

国際交流といえば、外国人留学生の受入れがすぐに思い浮かぶが、本学から海外へ留学する学生が受入留学生よりも圧倒的に少ないことは、平成14年(2002)3月刊行の『京都大学自己点検・評価報告書Ⅲ 2001』の第二部国際交流編において、学部学生の留学促進について指摘されており、海外留学に関する奨学金の申請手続き等諸情報の提供を行うシステムの充実が望まれる。

4) 経済支援の「今後の対応」に関する教職員の意見・要望

「意識調査」の設問5-1の③に付属する「今後の対応」の自由記述に教職員が意見を寄せた内容を以下に整理して示す。互いに内容が似た記述についてはどれか一つに代表させている。また、分類のカテゴリーは学生と基本的に同一であるが、「本学独自の経済支援策の必要性を指摘する回答」を付け加えた。

●現状に一定の満足を示す回答の例（教職員）

- ・現状でよいように思います。
- ・拡充にこしたことはないが、今の努力も多とすべきだと思う。
- ・授業料、入学料免除は非常によく機能していると思われる。寮の設備などによる異なる形の経済支援を充実させることがよいと思われる。
- ・有るにこした方がよいが、昔(30年前)程、どうしてもという程でもないと思う(我々の学生のときと比べてみて)。

●現状改善への努力を求める回答の例（教職員）

- ・我々が学生の時代に比べて、奨学金(特に日本育英会)が取りにくくなっている。この点につき、後援会、そのほかによる更なる援助を望む。
- ・学生への経済支援、奨学金はあらゆる手段を講じるべき。
- ・貧しい学生への支援を強化すべき。
- ・景気の悪化のなかで、経済的に困っている学生の比率は大きくなっている。免除制度の周知や留学生に比べ著しく見劣りする日本人学生への奨学金支給等への取組みが必要である。

- ・これからますます経済的不平等が拡大すると思われる。優れた学生が経済的な不安を持つことなく勉学・研究に励むことができるような体制が不可欠だと思う。
- ・免除のハードルが高すぎる。もっと支援してほしい。
- ・少なくとも恩恵を被る人数は十分とは言えない。全体の枠を質、量両面から増やす必要がある。免除について、煩雑になると思うが、全額、半額だけでなく、10%きざみで希望を書かせるなどできないか。
- ・大学院生、特に博士課程の学生はアルバイト、仕送りなしでも生活できるくらいのサポートをすべき。
- ・育英会の状況が厳しくなって、これからより多くの企業等の奨学金が増えればよいと思う。
- ・大学院生の高年齢化(入学生の多様化)が始まっているので、年齢制限を設けない研究奨学金などが必要。
- ・院生に対しては、ティーチング・アシスタント制度を積極的に活用することで経済援助をするとよいと思われる。
- ・大学院博士課程学生への経済支援を欧米並みにするべき。親、アルバイトに頼らず、最低限の生活を保障する。

ここでも現在の経済情勢を憂慮して、経済的に困っている家庭の学生に対しては手厚い保護を求めているコメントが多く、ティーチング・アシスタント制度や厚生施設の充実など、奨学金等の直接的な支援ではなく間接的な支援方法も考慮すべきとの意見もみられ、一考に値すると考えられる。

●現状が改悪されることへの懸念を示す回答の例（教職員）

- ・最近少し不安を感じる。
- ・国の支援の後退に対して、支援を促進する方策を検討することが必要。
- ・必要としている学生に十分行き渡ってはいないと思われる。日本育英会の動向も不透明であり、何らかの制度の創設が望まれる。
- ・今後、日本育英会の免除職がなくなると聞いている。安心して博士課程を修了して、大学の教官に就職できるという代替措置が必要と思う。今のままでは、大学の教官という職業に魅力がなくなってしまう。金銭的メリットは最低限必要では？
- ・日本育英会の廃止後の状況を注視し、必要に応じ対策を取るべきである。
- ・育英会の奨学金も有利子化、返済条件の悪化の傾向にあります。京大独自の奨学金を検討すべきでは。

●政府の学生への経済支援策の問題点を指摘する回答の例（教職員）

- ・「本学が…」と上記設問の中にあるが、本学の主体で、これらの支援が行われている状況でないのであり、政治の問題(文部行政)であって、国が考えるべきことである。
- ・最終的には文部科学省の判断によるので、仕方がないとは言え、授業、入学料の免除ができるだけ認められるように、粘り強く働きかけるべきである。
- ・日本育英会の奨学金は返済しなければならず、先進国として大いに問題がある。優秀

な学生に給与とすべきである。大学として文科省等へ働きかけるべきである。授業料・入学料免除はまずまず妥当と考えます。

- ・国の支援の後退に対して、支援を促進する方策を検討することが必要。
- ・博士課程進学を推進しながら、全員に育英会が当たらない。→全員(希望者)に第一種が行き渡るように。

●本学独自の経済支援策の必要性を指摘する回答の例(教職員)

- ・低所得者子弟が入学・勉強できる京大を目指すべきである。
- ・将来大学の基金による奨学生制度ができればよい。
- ・独立法人化に向けて、少額でも大学独自のものがあってもよいのではないか。
- ・授業料、入学料免除は法人化後の自由度が増えれば、もっと徹底して「経済的に苦しい学生への免除」を行うべき。審査の難しさはある。京大としても外部資金の一部を使って、奨学金制度を考えるべき。
- ・採用の可否理由を本人の求めがあれば、公開する必要があると思う。
- ・絶対的な採用率の低さが問題である。採用枠の拡大が、課題である。独法化に伴って大学独自の支援体制(OB、同窓会等の資金導入)。
- ・経済的に本当に苦しい学生は少なくなっているが、親からの仕送りなしで自立しようとする学生は皆苦しいのは当然である。ただし、大学から教育・サービスを受ける対価として、大学に入学料、授業料を払う姿勢は大切なので、大学が免除を行うのではなく、同窓会、京大後援会が基金を設立し、奨学金、授業料、入学金の貸与を行うべきである。大学が直接免除を行うのは不適切である。
- ・授業料等の免除自体原則廃止すべき。有償奨学金の拡充で対応する。不公平感をなくす方が、人間関係もよくなり、社会への貢献を図れる。
- ・本来的に奨学金は給与が原則であると考えるが、現在は貸与が原則となっている。しかも利子付きの「21世紀希望プラン」が大幅に増加している。また、学部卒については免除職の設定も廃止され、更には大学院修了者についても、成績が優秀な者についてのみ返還免除を行うとの議論が開始されていると聞く。こうした状況に鑑み、経済状況の厳しいものについては、なかなか困難ではあろうが、「京都大学」固有の奨学金を設立することは考えられないか。給付型の奨学金が制度的に困難であれば、入学料・授業料免除や減額などの制度の充実が必要ではないか。
- ・希望者全員に貸付制度を京大自身でつくるべき。

本学独自の奨学金や授業料免除の制度の整備を求める教職員の意見は多く、前述のように、京都大学教育研究振興財団や同窓会等の資金を導入して制度の整備を図るべきとする具体的な提案もあり、法人化に向けてこれらの点の検討が急がれるところである。

●採否の基準の透明性・公平性を要望する回答の例(教職員)

- ・基準を学生にオープンにし、不公平感をなくす必要がある。
- ・奨学金の推薦順位について、各部局・学科(専攻)ごとに枠を持っているらしく、大学全体としてみれば、公平な順位付けとなっているか疑問。大学全体として順位付けす

べき。

- ・対象者の選抜が適切であるかについて、少し疑問があります。本当に必要とする者に支援ができていないシステムであるのか？
- ・特に院生の奨学金は多すぎて、遊びに使っているのが目に付く。一方、留学生で苦学している者も多い。
- ・本当に経済支援が必要な人に与えるように！今の学生は贅沢な者が多い。
- ・学生について時々の多少の勤勉度チェックをする必要がある。
- ・大学院での奨学金の配布が、必ずしも本当に必要な人へ行われていない。要改善。

●家庭の収入を採否の基準とすることの問題点を指摘する回答の例（教職員）

- ・家計支援者所得によって対応に差をつけるのは、学生を「独立した個人」としてみなしていないので、あまり適切とは思えない。希望者全員に有利子(低金利)奨学金対応(額はかなり多めに)で対応するのがよいと思う。
- ・大学院生の場合、学術振興会のDC学振採用者は親と別会計ということで授業料が免除されているようであるが、真に困っている学生の経済支援という立場から再検討すべきではないだろうか。
- ・現状の経済状態重視の判定方法では、どうしても不公平感が生じる。一定の基準を満たしている者については、学力で順位付けを行った方がよいのではないか。

大学院生に対する授業料免除について、日本学術振興会の特別研究員(DC)に採用された者は、給与所得者として親の扶養親族から離れ、別生計としての扱いとなるので、親の扶養親族になっている日本育英会奨学金受給の大学院生よりも収入限度額の算出上、有利な扱いをされる場合があることが指摘されており、検討が必要である。

なお、この取扱いは文部科学省通知によるものであり、今後同省へ緩和の働きかけが必要である。

●学業成績を採否の基準とする要望を示した回答の例（教職員）

- ・現状の経済状態重視の判定方法では、どうしても不公平感が生じる。一定の基準を満たしている者については、学力で順位付けを行った方がよいのではないか。
- ・成績優秀者には、奨学金を増額し、返却の必要のないものを増やす。
- ・学業優秀な生徒には授業料免除など、更に増加してもらいたい。
- ・特に優秀な学生、博士の学生への奨学金、今は悪平等。大学として一丸となり要求すべき。
- ・成績優秀な院生への十分な経済援助。
- ・[反対意見]成績だけで決定するのはどうか。親の年収などで本当に困っている人もいる(自営業者など、一部不適切なことがあるのは知っているが)。本人が、どれくらいの家賃のマンションに住んでいるかなど、調べることで適切に処理できると思う。
- ・[反対意見]奨学金が経済状態ではなく、学業成績に依存しているので、本当に必要な学生に行き届いているか疑問。

大学院生には成績を重視した奨学金制度が整備されているものの、学生だけでなく教職員からも、優秀な学生に対する更なる奨学金制度の充実が求められており、法人化後の本学が独自に持つべき奨学金制度として検討に値すると考えられる。

●本学の広報の問題点を指摘する回答の例（教職員）

- ・情報の一元化、データベース化、電子化が必要(各種奨学金に関して)。
- ・Web ページ等でもっと情報を開示するといひ。
- ・どこに情報があるのか分かりにくい。Website 等でもっと情報を提供すべき。

●本学の事務手続きの問題点を指摘する回答の例（教職員）

- ・決定を早く。
- ・これも「入り口」に問題があるように思える。統一した案内窓口、「ここへ来れば、どこに行けばいいの分かる」みたいなものが必要では。
- ・窓口での対応に一貫した基準がないように見受けられる。担当者あるいは、時々によって対応が変わるといひのが解せない。学生にとっては死活に関わる問題なので、積極的かつ親身になった対応が求められる。
- ・各学部で受付書類点検・審査すべきである。そのためには人員の配置などが必要となる。
- ・経済不況の折、突然の親のリストラなどで窮地になる学生もあると思われる。随時、受け付けて登録させておき、募集等の折にきめ細かく連絡してあげるのがよろしいのでは。

●海外留学、留学生対策などその他の要望事項（教職員）

- ・学生の海外留学推進のための大学からの奨学金、助成金が乏しすぎる。
- ・留学生にもっと手厚く、特に私費で中国から来ている留学生は、かなり苦勞している（よく勉強もしている）。
- ・特に留学生対応が重要。奨学金は希望する学生には貸与などできるように願いたい。
- ・[反対意見]留学生に厚遇しすぎて、このままでは日本は駄目になる。

4. 経済支援の今後の改善に向けて

経済支援の大きな柱を「奨学金案内や手続き」と「入学料及び授業料免除」の2つと考える時、この2つが学生にとって必要な経済支援であることは、自由記述に寄せられた意見からも読み取れるところであり、共通理解となっているといえる。特に、今回の「意識調査」において、学生の51.0%が「奨学金案内や手続き」の支援を受けている実態が示され、奨学金が学生支援全体にとっても大きな柱の一つであることが確認された。また、「入学料及び授業料免除」も学生の15.0%が支援を受けているものであるが、前述した自由記述の回答にもみられるように、この制度自体を廃止し、奨学金制度に一本化すべきという意見もあった。

奨学金制度の問題は、我が国の奨学金制度を中心的に担ってきた日本育英会が、特殊法人等整理合理化計画（平成13年(2001)12月閣議決定）の一環として、いったん廃止されることになっているうえ、平成16年度(2004)から実施とされる国立大学の法人化ともかわり、国全体の制度の在り方が再検討されるとともに、本学としてどうしていくかを検討することが求められる時期に来ている。

日本育英会は、昭和18年(1943)に財団法人大日本育英会として創設され、昭和28年(1953)に日本育英会に名称を変更、「日本育英会法」に基づき、「優れた学生及び生徒で経済的理由により修学に困難があるものに対し、学資の貸与等を行うことにより、国家及び社会に有為な人材の育成に資するとともに、教育の機会均等に寄与すること」を目的として活動してきた。諸外国の公的奨学制度が給与制を原則としているのに対して、日本育英会の奨学制度は貸与制が原則である。平成10年(1998)の日本育英会法の一部改正により、教育職に従事したときの奨学金の返還免除について、大学院で受けた奨学金を除き廃止すること等が決定され、平成11年(1999)には利息付きの「きぼう21プラン奨学金」（第二種奨学金）が発足し、貸与人員の大幅増や採用基準の緩和、貸与月額の選択制の導入などが行われ、同時に家計急変者を対象とした無利息の「緊急採用奨学金制度」（第一種奨学金）が創設された。平成14年度(2002)は、約80万人の学生・生徒に5,166億円の奨学金を貸与している。

この日本育英会が特殊法人の整理合理化の対象となっても、奨学金制度はより強力な新しい組織でむしろ充実するというのが現在の政府の公式見解である。その根拠は、「教育を受ける意欲と能力がある人が確実にこれを受けられるよう、奨学金の充実や教育を受ける個人の自助努力を支援する施策を検討する」とした経済財政諮問会議の「骨太の方針」（平成13年(2001)6月閣議決定）にあるとされる。しかし、その新しい奨学金制度の姿はまだ今のところみえてこない。

他方、本学が法人化した後、自前の奨学金制度で学生の支援が可能になるという夢が語られている。学生と教官の自由記述の内容で一番大きく異なるのは、教官の回答に「本学独自の経済支援策」が入っている点である。教官の間では、国立大学法人としての本学あるいはそれを支援する京都大学教育研究振興財団や同窓会組織、さらには本学に寄せられる民間企業などの提供による外部資金に対する期待が語られている。

実際のところは、平成16年度(2004)以降の大学全体の運営資金がどうなるか分からない状況で、学生の奨学金制度のことまで考えられないのが現状であろう。しかしながら、本学を含む日本の大学は、学生に対する経済的支援のための基金をどのように確保し、そのための制度をどのように整備するかが、その大学の将来の発展を考える上で焦眉の急の課題となっている。

我が国の高等教育機関における学費と奨学金の今後の在り方について考えるために、諸外国、とりわけ先進工業諸国の例と比較しておきたい。文部科学省は、旧文部省の時代から毎年「教育指標の国際比較」という報告書を刊行し、我が国の教育制度をアメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツなどの国々と比較している。その平成9年(1997)版では、学生納付金の比較が行われた。それによると、日米英仏独の5カ国の中で「入学料」を課しているのは日本だけであり、他の4カ国は「授業料」のみである（実験・実習費などは別）。このことは、4年間の負担総額だけを考えれば、入学料を授業料に含めるか別枠に

するかという技術的な違いだけのようにみえるが、実際には、就業年限一杯在籍することを前提にするか、大学間の移籍を前提にするかの大きな違いがある。それはともかく、5年前の時点で「初年度納付金」を円ベースで比較すると、

日本	国立大学	739,200 円 (1997 年)
	公立大学	837,472 円 (1997 年、全国平均)
	私立大学	1,239,536 円 (1997 年、全国平均)
アメリカ	州立総合大学	359,214 円 (1995 年、全国平均)
	州立 4 年制大学	303,354 円
	私立総合大学	1,776,234 円
	私立 4 年制大学	1,287,516 円
イギリス	人文系	143,250 円
	理工系	305,600 円
フランス	国立大学	14,880 円
ドイツ	州立大学	12,148 円

となる。物価指数や為替レートなどの問題はおくとしても、日本の授業料はアメリカの私立大学に次いで高いことが分かる。イギリスは、納付金は実質的に国が負担しているし、フランス、ドイツでは納付金はないに等しい。日本の学生は、支出の部において、アメリカの私立大学を除いて、他の国の学生よりも多額の負担をしているといえよう。

他方、収入の部の重要な柱である奨学金については、国際比較は必ずしも容易でないが、例えばアメリカでは、上述のように学費は決して安くはないものの、学費に対する税金還付（一定の成績と薬物不使用の条件がある）、収入に比例して返還する教育ローンなどの制度、並びに、大学院生にはリサーチ・アシスタント（RA）、ティーチング・アシスタント（TA）の制度を通じて多額の経済支援が行われている。翻って我が国では、学費は高いのに奨学金制度が整備されているとはいえない。高学費低奨学金の現状を改め、低学費低奨学金（学費に対する援助）か、高学費高奨学金（奨学金形式としての援助）かのいずれかにすることが急務であろう。

しかしながら、「教育指標の国際比較」の平成 14 年度(2002)版によると、国内総生産（GDP）に占める高等教育費の公的負担の国別データは次のようになる。

日本	0.43%
アメリカ	1.07%
イギリス	0.83%
フランス	1.01%
ドイツ	0.97%

諸外国の半分以下の公的教育費では、学費に対する援助か、奨学金形式としての援助かという方法の問題以前に、十分な経済支援そのものが期待できるはずはない。我が国が「教育立国」を標榜するのなら、このことは避けて通れない問題である。

こうした国など学外からの支援策に頼ることには財政的にも限界があり、経済情勢に左右されやすいこととなる。繰り返しにはなるが、現在の貸与としての奨学金制度の充実を図ることで現体制を堅持するよりも、法人化後の大学を考慮して本学独自の奨学金及び授業料免除制度を創設することが期待される。

さらにもう一点だけ付け加えておきたい。ダイヤモンド会社デ・ビアス社を興したイギリスの政治家セシル・ローズ(1853-1902)は、その遺産により、優秀な学生にオックスフォード大学進学のための学資を与えることを目的としたローズ奨学金を残した。彼の植民地主義政策は決して肯定されるものでないとしても、名門オックスフォード大学の現在の繁栄は、このローズ奨学金の存在を抜きに語ることはできないと考えられる。例えば、クリントン前アメリカ大統領の政権は、クリントン前大統領自身を含め、このローズ奨学金で学んだメンバーが政権中枢のポストを占めたことで知られている(三輪裕範著『ローズ奨学生』文春新書 2001年)。これは、留学生に対する経済支援の在り方を考える上からも、示唆的な話である。

まとめとして、学費への支援制度と奨学制度は、①インターネットのWeb Siteなどを通じた積極的広報活動、②透明で公平な選考と採用手続き、③迅速できめ細やかな事務的対応、という実務的な裏付けも大切であるが、「国全体の観点からの人材養成」と「教育の機会均等の実現」という二つの教育理念に基づき、それが国家百年の大計である教育の根幹にあるべきものということを実感して定め、運営されなければならない。

本学においても、こうした観点から、学生の経済支援に一層の努力を注入することが求められているのである。

資料3-1 家庭教師の紹介状況

		平成9年度			平成10年度			平成11年度			平成12年度			平成13年度		
		計	(小) [高]	<中> {他}	計	(小) [高]	<中> {他}	計	(小) [高]	<中> {他}	計	(小) [高]	<中> {他}	計	(小) [高]	<中> {他}
学部	総合人間学部	6	(1) [2]	<3>	7	(1) [2]	<3> {1}	5	(1) [3]	<1>	9	(4) [4]	<5>	6	(3) [1]	<2>
	文学部	13	(4) [4]	<3> {2}	17	(3) [8]	<6> {1}	13	(2) [4]	<7>	12	(3) [6]	<3>	3	(1) [1]	{1}
	教育学部	7	[4]	<3>	6	(1) [1]	<3> {1}	7	(2) [2]	<3>	1	(1)		8	(1) [4]	<2> {1}
	法学部	27	(3) [16]	<8>	31	(6) [11]	<10> {4}	20	(3) [9]	<8>	10	(2) [5]	<2> {1}	12	(2) [4]	<5> {1}
	経済学部	9	(3) [1]	<4> {1}	11	[4]	<6> {1}	7	(1) [6]		20	(3) [10]	<5> {2}	5	(3) [1]	{1}
	理学部	17	(6) [6]	<4> {1}	20	(6) [8]	<5> {1}	24	(4) [9]	<10> {1}	21	(5) [12]	<2> {2}	10	(1) [6]	<2> {1}
	医学部	17	(1) [6]	<10>	7	[2]	<4> {1}	2	(1) [1]		8	[7]	{1}	5	[2]	<2> {1}
	薬学部	3		<3>	8	(2) [2]	<4>	3		<3>	10	(1) [9]		4	[2]	<2>
	工学部	45	(7) [24]	<11> {3}	74	(10) [36]	<24> {4}	38	(7) [17]	<13> {1}	47	(7) [21]	<18> {1}	44	(6) [15]	<18> {5}
	農学部	17	(1) [10]	<6>	37	(4) [19]	<12> {2}	15	[7]	<7> {1}	21	(3) [8]	<7> {3}	22	(2) [17]	<3>
	小計	161	(26) [73]	<55> {7}	218	(33) [93]	<77> {15}	134	(21) [58]	<52> {3}	159	(25) [82]	<42> {10}	119	(19) [53]	<36> {11}
修士課程	文学研究科				5	(1) [1]	<2> {1}				2	<1> {1}	4	(1) [1]	<1> {1}	
	教育学研究科				1	(1)							1	[1]		
	法学研究科												1	(1)		
	理学研究科	2	[1]	<1>	2		<1> {1}				2		<1> {1}	5	(1) [1]	<1> {2}
	医学研究科													1	[1]	
	工学研究科	2	(1) [1]		6	[3]	<2> {1}	3	[1]	{2}	3	[1]	<1> {1}	3	[2]	{1}
	農学研究科	2	[1]	{1}	5	[1]	<4>	1		<1>	2	(1)	<1>	1	[1]	
	人間・環境学 研究科	1	[1]		2		<1> {1}				4	(1) [2]	<1>	1	[1]	
	エネルギー科学 研究科	4	(1) [1]	<1> {1}	1		<1>	3	(1) [1]	<1>						
	情報学研究科							1	[1]					1		{1}
	小計	11	(2) [5]	<2> {2}	22	(2) [5]	<11> {4}	8	(1) [3]	<2> {2}	13	(2) [3]	<5> {3}	18	(3) [8]	<2> {5}
博士(後期)課程	文学研究科				1	(1)										
	経済学研究科	2		<1> {1}	2		<1> {1}									
	理学研究科	1		<1>	1	[1]					1	[1]		1		{1}
	工学研究科	4	(1) [1]	{2}												
	農学研究科										2	(1) {1}				
	人間・環境学 研究科	1	[1]		2	[1]	<1>									
	情報学研究科													3	[3]	
	小計	8	(1) [2]	<2> {3}	6	(1) [2]	<2> {1}				3	(1) [1]	{1}	4	[3]	{1}
	合計	180	(29) [80]	<59> {12}	246	(36) [100]	<90> {20}	142	(22) [61]	<54> {5}	175	(28) [86]	<47> {14}	141	(22) [64]	<38> {17}

(注) (小)：小学生，<中>：中学生，[高]：高校生，{他}：その他

資料3-2 伝統行事(祭礼)のアルバイト斡旋状況

		平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
求人	件数	10	8	9	10	12
	延人数(A)	818	764	825	884	733
就労	件数	10	8	9	10	12
	延人員(B)	818	764	825	854	721
	就労率(B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	96.6%	98.4%

(注) 厚生課アルバイト斡旋窓口取扱分

(今宮神社 須賀神社 葵祭 榎の宮神社 祇園祭 吉田神社 時代祭 久我神社 等)

資料3-3 学生健康保険組合の加入状況

		平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
学部	総合人間学部	60 (42.9%)	53 (39.3%)	85 (61.6%)	77 (58.8%)	84 (62.7%)
	文学部	98 (42.4%)	147 (63.6%)	144 (61.3%)	133 (58.1%)	139 (62.1%)
	教育学部	33 (48.5%)	35 (51.5%)	41 (58.6%)	41 (57.7%)	35 (55.6%)
	法学部	204 (48.7%)	237 (56.3%)	238 (59.9%)	250 (64.1%)	256 (70.7%)
	経済学部	138 (52.3%)	173 (63.4%)	142 (51.4%)	157 (59.0%)	151 (63.2%)
	理学部	156 (47.6%)	189 (60.6%)	217 (72.1%)	196 (64.9%)	203 (67.4%)
	医学部	58 (56.9%)	76 (72.4%)	72 (68.6%)	73 (70.9%)	63 (59.4%)
	薬学部	52 (59.8%)	67 (76.1%)	68 (81.9%)	53 (65.4%)	50 (58.8%)
	工学部	495 (47.2%)	596 (59.5%)	663 (66.6%)	548 (54.9%)	588 (61.5%)
	農学部	121 (38.4%)	172 (55.7%)	202 (64.7%)	200 (64.3%)	185 (59.7%)
	小計	1,415 (47.1%)	1,745 (59.3%)	1,872 (64.3%)	1,728 (59.9%)	1,754 (63.1%)
修士課程	文学研究科	48 (45.3%)	50 (42.0%)	25 (24.5%)	11 (10.4%)	42 (44.2%)
	教育学研究科		13 (33.3%)	4 (10.5%)	11 (27.5%)	14 (31.8%)
	法学研究科	12 (23.1%)	20 (30.8%)	11 (14.9%)	14 (20.6%)	8 (16.0%)
	経済学研究科	18 (24.7%)	18 (31.6%)	12 (17.1%)	14 (17.1%)	11 (22.0%)
	理学研究科	139 (50.4%)	144 (59.3%)	129 (56.1%)	144 (58.8%)	148 (60.9%)
	医学研究科	—	—	11 (36.7%)	24 (64.9%)	24 (61.5%)
	薬学研究科	35 (43.2%)	43 (54.4%)	32 (40.5%)	25 (32.1%)	25 (30.1%)
	工学研究科	314 (51.1%)	328 (54.0%)	270 (44.3%)	293 (47.1%)	287 (48.6%)
	農学研究科	165 (60.9%)	159 (60.0%)	170 (58.6%)	179 (56.5%)	144 (52.6%)
	人間・環境学研究科	32 (23.2%)	71 (55.9%)	43 (31.6%)	62 (46.3%)	83 (59.7%)
	エネルギー科学研究科	69 (57.5%)	83 (71.6%)	67 (57.8%)	62 (52.1%)	70 (57.4%)
	情報学研究科	69 (36.5%)	81 (42.0%)	70 (39.5%)	86 (45.7%)	95 (54.3%)
	生命科学研究科	—	40 (57.1%)	26 (31.3%)	71 (83.5%)	54 (76.1%)
	地球環境学舎	—	—	—	—	21 (60.0%)
	小計	901 (45.8%)	1,050 (53.0%)	870 (42.8%)	996 (47.0%)	1,026 (51.0%)
博士(後期)課程	文学研究科	4 (4.9%)	23 (29.5%)	14 (20.3%)	3 (3.8%)	16 (34.8%)
	教育学研究科		1 (3.0%)		1 (4.0%)	8 (34.8%)
	法学研究科	1 (5.6%)	4 (18.2%)		2 (7.7%)	1 (7.7%)
	経済学研究科	8 (16.3%)	8 (19.0%)	7 (15.2%)	6 (13.0%)	6 (21.4%)
	理学研究科	88 (45.4%)	94 (48.5%)	82 (45.8%)	79 (55.6%)	26 (22.6%)
	医学研究科	78 (50.0%)	80 (51.6%)	17 (10.0%)	72 (43.9%)	4 (2.7%)
	薬学研究科	13 (44.8%)	15 (57.7%)	13 (37.1%)	6 (20.0%)	14 (50.0%)
	工学研究科	56 (50.5%)	39 (33.9%)	49 (41.2%)	42 (41.6%)	48 (63.2%)
	農学研究科	41 (39.0%)	54 (44.6%)	42 (39.3%)	35 (38.0%)	46 (53.5%)
	人間・環境学研究科	3 (4.7%)	29 (31.5%)	23 (24.2%)	27 (40.3%)	16 (31.4%)
	エネルギー科学研究科	6 (25.0%)	6 (24.0%)	5 (25.0%)	6 (31.6%)	11 (100.0%)
	アジア・アフリカ地域研究研究科	7 (41.2%)	14 (60.9%)	14 (51.9%)	15 (45.5%)	2 (10.0%)
	情報学研究科	8 (25.0%)	12 (44.4%)	10 (22.7%)	18 (34.0%)	23 (95.8%)
	生命科学研究科	—	—	—	19 (46.3%)	37 (78.7%)
地球環境学舎	—	—	—	—	2 (33.3%)	
	小計	313 (34.6%)	379 (39.8%)	276 (28.9%)	331 (36.0%)	260 (36.0%)
	合計	2,629 (44.8%)	3,174 (54.0%)	3,018 (51.1%)	3,055 (51.6%)	3,040 (55.1%)

(注) 加入者は、当該年度入学者のみ。

資料3-4 学生教育研究災害傷害保険の加入状況

		平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
学 部	総合人間学部	58 (41.4%)	42 (31.1%)	78 (56.5%)	70 (53.4%)	89 (66.4%)
	文学部	104 (45.0%)	140 (60.6%)	138 (58.7%)	126 (55.0%)	134 (59.8%)
	教育学部	33 (48.5%)	35 (51.5%)	38 (54.3%)	35 (49.3%)	29 (46.0%)
	法学部	219 (52.3%)	224 (53.2%)	233 (58.7%)	219 (56.2%)	206 (56.9%)
	経済学部	145 (54.9%)	169 (61.9%)	147 (53.3%)	141 (53.0%)	142 (59.4%)
	理学部	186 (56.7%)	190 (60.9%)	219 (72.8%)	199 (65.9%)	208 (69.1%)
	医学部	61 (59.8%)	72 (68.6%)	75 (71.4%)	75 (72.8%)	59 (55.7%)
	薬学部	73 (83.9%)	78 (88.6%)	72 (86.7%)	58 (71.6%)	53 (62.4%)
	工学部	574 (54.8%)	619 (61.8%)	675 (67.8%)	543 (54.4%)	575 (60.1%)
	農学部	144 (45.7%)	180 (58.3%)	203 (65.1%)	192 (61.7%)	188 (60.6%)
	小計	1,597 (53.2%)	1,749 (59.4%)	1,878 (64.5%)	1,658 (57.5%)	1,683 (60.5%)
修 士 課 程	文学研究科	43 (40.6%)	52 (43.7%)	24 (23.5%)	7 (6.6%)	43 (45.3%)
	教育学研究科	1 (2.2%)	14 (35.9%)	3 (7.9%)	6 (15.0%)	12 (27.3%)
	法学研究科	15 (28.8%)	22 (33.8%)	8 (10.8%)	11 (16.2%)	7 (14.0%)
	経済学研究科	27 (37.0%)	22 (38.6%)	13 (18.6%)	17 (20.7%)	5 (10.0%)
	理学研究科	156 (56.5%)	156 (64.2%)	144 (62.6%)	162 (66.1%)	164 (67.5%)
	医学研究科	—	—	9 (30.0%)	24 (64.9%)	24 (61.5%)
	薬学研究科	41 (50.6%)	51 (64.6%)	37 (46.8%)	27 (34.6%)	24 (28.9%)
	工学研究科	337 (54.9%)	366 (60.3%)	304 (49.8%)	334 (53.7%)	318 (53.8%)
	農学研究科	191 (70.5%)	167 (63.0%)	192 (66.2%)	187 (59.0%)	153 (55.8%)
	人間・環境学研究科	33 (23.9%)	80 (63.0%)	41 (30.1%)	68 (50.7%)	84 (60.4%)
	エネルギー科学研究科	76 (63.3%)	87 (75.0%)	66 (56.9%)	67 (56.3%)	78 (63.9%)
	情報学研究科	72 (38.1%)	84 (43.5%)	73 (41.2%)	91 (48.4%)	101 (57.7%)
	生命科学研究科	—	46 (65.7%)	31 (37.3%)	72 (84.7%)	55 (77.5%)
	地球環境学舎	—	—	—	—	23 (65.7%)
	小計	992 (50.5%)	1,147 (57.9%)	945 (46.4%)	1,073 (50.6%)	1,091 (54.3%)
博 士 （ 後 期 ） 課 程	文学研究科	5 (6.2%)	23 (29.5%)	11 (15.9%)	1 (1.3%)	16 (34.8%)
	教育学研究科	—	1 (3.0%)	—	—	4 (17.4%)
	法学研究科	5 (27.8%)	4 (18.2%)	—	2 (7.7%)	1 (7.7%)
	経済学研究科	10 (20.4%)	21 (50.0%)	5 (10.9%)	4 (8.7%)	6 (21.4%)
	理学研究科	93 (47.9%)	108 (55.7%)	99 (55.3%)	77 (54.2%)	33 (28.7%)
	医学研究科	89 (57.1%)	85 (54.8%)	21 (12.4%)	75 (45.7%)	80 (54.1%)
	薬学研究科	13 (44.8%)	17 (65.4%)	18 (51.4%)	6 (20.0%)	14 (50.0%)
	工学研究科	58 (52.3%)	52 (45.2%)	59 (49.6%)	56 (55.4%)	56 (73.7%)
	農学研究科	53 (50.5%)	61 (50.4%)	53 (49.5%)	43 (46.7%)	56 (65.1%)
	人間・環境学研究科	5 (7.8%)	34 (37.0%)	25 (26.3%)	21 (31.3%)	13 (25.5%)
	エネルギー科学研究科	7 (29.2%)	8 (32.0%)	11 (55.0%)	10 (52.6%)	12 (100.0%)
	アジア・アフリカ地域研究科	9 (52.9%)	15 (65.2%)	12 (44.4%)	15 (45.5%)	18 (90.0%)
	情報学研究科	9 (28.1%)	16 (59.3%)	16 (36.4%)	26 (49.1%)	26 (100.0%)
	生命科学研究科	—	—	—	19 (46.3%)	38 (80.9%)
地球環境学舎	—	—	—	—	8 (100.0%)	
	小計	356 (39.4%)	445 (46.7%)	330 (34.6%)	355 (38.6%)	381 (52.8%)
	合計	2,945 (50.2%)	3,341 (56.9%)	3,153 (53.4%)	3,086 (52.1%)	3,155 (57.2%)

(注) 加入者は、当該年度入学者のみ。

資料3-5 入学料免除の実施状況

		平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
		免除者数(率)	免除者数(率)	免除者数(率)	免除者数(率)	免除者数(率)
学部	総合人間学部			1 (100.0%)		
	文学部					
	教育学部					
	法学部					
	経済学部		1 (100.0%)	1 (50.0%)		
	理学部					
	医学部		1 (100.0%)			1 (100.0%)
	薬学部					
	工学部					1 (100.0%)
農学部		1 (25.0%)			1 (100.0%)	
	小計		3 (33.3%)	2 (40.0%)		3 (75.0%)
修士課程	文学研究科	5 (35.7%)	5 (27.8%)	8 (32.0%)	4 (22.2%)	7 (24.1%)
	教育学研究科	9 (75.0%)	2 (28.6%)		4 (40.0%)	2 (18.2%)
	法学研究科	2 (28.6%)	6 (46.2%)	6 (42.9%)	3 (27.3%)	4 (40.0%)
	経済学研究科	10 (58.8%)	7 (31.8%)	2 (9.5%)	13 (48.1%)	9 (29.0%)
	理学研究科	14 (29.8%)	11 (21.2%)	16 (32.0%)	21 (41.2%)	15 (40.5%)
	医学研究科			2 (33.3%)	1 (16.7%)	3 (33.3%)
	薬学研究科	4 (50.0%)	5 (38.5%)	3 (42.9%)	3 (37.5%)	5 (71.4%)
	工学研究科	33 (38.8%)	45 (35.4%)	41 (33.1%)	34 (34.3%)	30 (44.1%)
	農学研究科	21 (40.4%)	12 (34.3%)	13 (27.1%)	24 (37.5%)	17 (38.6%)
	人間・環境学研究科	15 (40.5%)	6 (24.0%)	9 (25.7%)	10 (27.8%)	17 (44.7%)
	エネルギー科学研究科	9 (34.6%)	5 (31.3%)	3 (15.8%)	8 (28.6%)	13 (52.0%)
	情報学研究科	17 (51.5%)	21 (40.4%)	10 (26.3%)	11 (32.4%)	18 (42.9%)
	生命科学研究科		7 (41.2%)	7 (33.3%)	7 (36.8%)	2 (20.0%)
	地球環境学舎					7 (58.3%)
	小計	139 (41.1%)	132 (33.2%)	120 (28.8%)	143 (34.8%)	149 (39.9%)
博士(後期)課程	文学研究科	1 (33.3%)	1 (50.0%)	3 (50.0%)	3 (75.0%)	2 (40.0%)
	教育学研究科	1 (100.0%)				
	法学研究科	1 (100.0%)	1 (100.0%)			2 (100.0%)
	経済学研究科		1 (50.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	2 (66.7%)
	理学研究科	3 (30.0%)	5 (41.7%)	9 (47.4%)	6 (66.7%)	3 (37.5%)
	医学研究科	16 (76.2%)	16 (59.3%)	19 (57.6%)	17 (58.6%)	10 (58.8%)
	薬学研究科	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	2 (66.7%)
	工学研究科	9 (47.4%)	8 (42.1%)	13 (52.0%)	9 (45.0%)	9 (64.3%)
	農学研究科	5 (62.5%)	6 (54.5%)	9 (81.8%)	4 (36.4%)	3 (50.0%)
	人間・環境学研究科	2 (40.0%)	3 (42.9%)	5 (62.5%)	3 (37.5%)	4 (80.0%)
	エネルギー科学研究科	2 (66.7%)	3 (75.0%)	1 (50.0%)		3 (60.0%)
	アジア・アフリカ地域研究研究科		2 (33.3%)	5 (71.4%)	2 (22.2%)	1 (100.0%)
	情報学研究科	1 (33.3%)	3 (42.9%)	1 (100.0%)	2 (66.7%)	2 (40.0%)
	生命科学研究科				2 (50.0%)	2 (66.7%)
地球環境学舎					2 (40.0%)	
	小計	42 (53.8%)	50 (50.5%)	69 (58.0%)	51 (48.1%)	47 (57.3%)
	合計	181 (43.3%)	185 (36.6%)	191 (35.4%)	194 (37.4%)	199 (43.4%)

(注) 1. 免除者には、半額免除者も含む。
2. ()内は、出願者に対する免除者の比率である。

資料3-6 授業料免除の実施状況

	平成11年度				平成12年度				平成13年度				平成14年度	
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期	
	出願数	全額免除 半額免除	出願数	全額免除 半額免除	出願数	全額免除 半額免除	出願数	全額免除 半額免除	出願数	全額免除 半額免除	出願数	全額免除 半額免除	出願数	全額免除 半額免除
学部														
総合人間学部	52	32 7	43	26 12	58	27 10	52	25 7	47	18 6	52	19 11	38 (1)	18 5
文学部	66	41 7	60	32 15	72	25 10	66	24 17	72	31 17	73	37 11	69	31 10
教育学部	27	12 10	34	15 12	24	7 8	22	11 5	22	5 4	25	11 5	26	10 3
法学部	126	89 20	121	67 44	138	66 24	127	73 19	125	52 19	123	66 20	110	36 14
経済学部	99 (31)	79 (30) 10	97 (30)	71 (26) 21 (4)	107 (31)	34 (6) 37 (23)	107 (31)	38 (2) 40 (26)	93 (33)	35 (15) 24 (16)	85 (33)	33 (9) 26 (23)	95 (34)	30 (5) 25 (16)
理学部	119	80 15	110	64 36	104	40 28	101	45 19	102	40 9	94	43 14	99	42 7
医学部	50	34 5	46	24 15	52	16 15	44	17 13	34	12 4	35	11 4	33	14 3
薬学部	42 (6)	26 (5) 4	36 (6)	18 (3) 13 (2)	38 (6)	17 (3) 11 (5)	39 (6)	17 (4) 11 (4)	37 (6)	16 (3) 4	35 (6)	20 (2) 3 (1)	34 (6)	13 (1) 4 (2)
工学部	311 (22)	210 (20) 40	307 (23)	159 (21) 102	351 (27)	141 (5) 85 (18)	331 (27)	145 (2) 72 (24)	289 (28)	123 (24) 38 (5)	277 (29)	113 (12) 86 (15)	276 (33)	107 (8) 40 (15)
農学部	107 (2)	70 (2) 10	96 (2)	47 (1) 30 (1)	116 (3)	39 (1) 34 (1)	111 (3)	38 29 (2)	100 (4)	33 (3) 20	90 (4)	37 (2) 17 (1)	81 (5)	27 7 (2)
小計	1,001 (61)	673 (67) 133	950 (61)	523 (51) 305 (7)	1,054 (67)	412 (18) 278 (45)	1,000 (67)	433 (4) 232 (56)	921 (71)	367 (45) 140 (19)	889 (72)	380 (24) 167 (40)	861 (79)	328 (14) 117 (35)
修士課程														
文学研究科	60 (3)	42 (7) 4	53 (7)	31 (6) 19 (1)	59 (7)	20 (4) 14 (3)	51 (7)	20 (4) 14 (3)	58 (5)	15 (2) 10 (3)	45 (5)	13 12 (5)	62 (12)	16 (6) 6 (2)
教育学研究科	23 (7)	19 (6) 2	20 (6)	13 (5) 6 (1)	20 (6)	3 (2) 6 (3)	15 (5)	5 (3) 3 (2)	20 (3)	6 (2) 3	14 (3)	2 (1) 2 (1)	22 (3)	6 5 (3)
法学研究科	26 (5)	20 (4) 3 (2)	23 (6)	16 (3) 6 (3)	34 (8)	11 (2) 14 (4)	30 (7)	10 (3) 11 (3)	33 (13)	10 (5) 8 (5)	25 (9)	6 (1) 11 (7)	26 (8)	9 (3) 4 (2)
経済学研究科	55 (33)	41 (30) 5 (2)	47 (32)	37 (28) 5 (4)	53 (29)	22 (13) 16 (15)	44 (23)	12 (6) 17 (16)	59 (28)	27 (13) 20 (15)	55 (29)	24 (8) 20 (8)	70 (39)	27 (14) 16 (13)
理学研究科	115	60 23	87	43 36	104 (1)	35 22	90 (1)	23 20	101	40 13	85 (1)	38 (1) 11	85 (1)	28 6
医学研究科					7	2 2	6	3 6	13	2 2	11	5 2	21 (1)	3 3
薬学研究科	35	25 4	30	18 11	24 (1)	7 4 (1)	19 (1)	7 2 (1)	21	6 4	16	10 1	22 (1)	12 (1)
工学研究科	234 (20)	159 (20) 34	187 (19)	112 (14) 56 (5)	264 (23)	105 (11) 71 (11)	219 (21)	117 (13) 47 (6)	254 (26)	100 (22) 41 (3)	204 (27)	102 (20) 39 (7)	186 (25)	81 (20) 12 (1)
農学研究科	128 (5)	74 (5) 21	96 (6)	54 (5) 33 (4)	109 (6)	38 (4) 29 (2)	92 (6)	36 (2) 23 (4)	117 (11)	45 (8) 19 (2)	98 (10)	45 (5) 17 (4)	100 (11)	34 (4) 13 (5)
人間・環境学 研究科	77 (10)	48 (8) 6 (2)	53 (10)	36 (6) 17 (4)	58 (5)	23 (4) 14 (1)	49 (6)	24 (4) 11 (1)	70 (11)	26 (5) 15 (5)	62 (11)	31 (8) 9 (2)	74 (15)	29 (7) 14 (6)
エネルギー 科学研究科	55 (8)	33 (4) 12 (1)	52 (5)	26 (4) 17 (1)	41 (5)	16 (4) 11	34 (5)	19 (3) 8 (1)	56 (4)	24 (3) 9	51 (3)	20 (2) 13 (1)	52 (3)	15 (1) 6 (1)
情報学研究科	86 (18)	66 (18) 11	79 (17)	49 (16) 27 (1)	88 (18)	46 (14) 16 (3)	72 (15)	43 (11) 14 (2)	74 (13)	35 (11) 5	66 (12)	27 (5) 12 (6)	75 (17)	35 (10) 8 (1)
生命科学研 究科	20	12 1	14	9 4	36	11 6	25	8 6	35	10 4	29	10 3	24 (1)	5 2
地球環境学舎													11 (3)	8 (3)
小計	914 (113)	597 (102) 127 (7)	741 (108)	444 (67) 250 (20)	900 (108)	333 (58) 225 (41)	746 (103)	337 (49) 176 (39)	914 (114)	346 (71) 153 (33)	751 (110)	338 (51) 155 (51)	830 (140)	308 (69) 96 (34)
博士(後期)課程														
文学研究科	81 (11)	65 (10) 9 (1)	76 (10)	55 (9) 20 (1)	85 (11)	53 (11) 15	72 (11)	48 (11) 11	96 (11)	38 (10) 25	77 (11)	36 (7) 21 (2)	81 (8)	28 (2) 9 (3)
教育学研究科	37 (4)	30 (3) 4	35 (3)	28 (3) 6	43 (5)	24 (5) 7	36 (5)	24 (4) 6 (1)	35 (5)	17 (5) 7	34 (5)	18 (5) 4	24 (6)	8 (4) 4 (2)
法学研究科	32 (14)	25 (14) 4	29 (13)	24 (12) 5 (1)	22 (10)	13 (7) 5 (3)	21 (9)	12 (6) 5 (3)	23 (5)	7 (2) 2 (1)	23 (5)	7 (2) 4 (1)	16 (2)	4 (1) 4 (1)
経済学研究科	74 (24)	60 (23) 8 (1)	61 (23)	42 (15) 18 (8)	77 (26)	45 (17) 21 (5)	73 (24)	43 (17) 12 (5)	72 (19)	25 (14) 15 (2)	68 (19)	30 (13) 10 (3)	55 (17)	24 (12) 4 (2)
理学研究科	234 (30)	183 (8) 33	216 (8)	151 (6) 51 (2)	246 (8)	160 (5) 34	225 (8)	160 (8) 30	208 (8)	86 (5) 78 (2)	184 (4)	90 (3) 56 (1)	148 (7)	86 (4) 29 (3)
医学研究科	114 (42)	93 (41) 13 (1)	111 (43)	77 (41) 30 (2)	138 (44)	88 (42) 22 (1)	124 (42)	81 (40) 16 (2)	119 (41)	62 (32) 15 (1)	110 (41)	59 (26) 14 (4)	101 (39)	44 (31) 14 (3)
薬学研究科	25 (3)	19 (3) 5	22 (3)	17 (2) 5 (1)	40 (2)	25 (1) 5 (1)	36 (2)	24 (1) 7 (1)	37 (2)	11 (1) 15	33 (2)	19 (1) 7	29 (1)	17 1
工学研究科	139 (45)	105 (43) 11	125 (45)	103 (44) 18 (1)	164 (51)	119 (50) 24 (1)	149 (51)	114 (48) 20 (3)	148 (50)	82 (46) 32 (3)	137 (54)	89 (49) 24 (3)	151 (55)	98 (49) 14 (4)
農学研究科	154 (31)	124 (31) 16	138 (27)	102 (26) 32 (1)	156 (24)	91 (21) 25 (3)	141 (20)	79 (16) 26 (4)	150 (30)	69 (27) 22 (2)	129 (26)	64 (21) 16 (2)	119 (26)	43 (20) 18 (4)
人間・環境学 研究科	100 (10)	72 (9) 14	81 (7)	59 (7) 16	124 (16)	71 (14) 17 (1)	97 (14)	65 (13) 15 (1)	104 (18)	58 (15) 12 (3)	97 (17)	54 (12) 18 (3)	82 (20)	38 (12) 14 (4)
エネルギー 科学研究科	22 (4)	16 (4) 1	14 (4)	9 (3) 3 (1)	25 (4)	14 (3) 5	23 (4)	15 (4) 3	26 (4)	13 (3) 1	22 (3)	11 (2) 1	21 (2)	9 (2) 3
アジア・アフリカ 地域研究研究科	19	11 2	13	5 3	24 (1)	15 (1) 5	28 (1)	18 (1) 3	38 (4)	12 (3) 4 (1)	37 (4)	16 (3) 8 (1)	41 (3)	13 (3) 5
情報学研究科	35 (9)	25 (9) 7	37 (10)	25 (4) 11 (6)	49 (11)	26 (5) 5 (2)	47 (10)	35 (9) 4 (1)	56 (10)	29 (9) 13	60 (9)	29 (8) 10	53 (10)	29 (8) 7 (1)
生命科学研 究科									14 (2)	8 (2)	10 (2)	6 (2) 3	26 (1)	9 (1) 2
地球環境学舎													7 (3)	4 (2)
小計	1,056 (203)	828 (200) 127 (3)	958 (196)	707 (172) 223 (24)	1,193 (213)	753 (190) 192 (20)	1,072 (201)	718 (178) 158 (21)	1,126 (209)	518 (183) 230 (14)	1,011 (202)	528 (164) 196 (20)	954 (200)	434 (148) 128 (27)

(注) () 内は、私費外国人留学生を内数で示す。

資料3-7 小口短期貸付金の貸付状況

	平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
学部	総合人間学部		1	30,000	4	40,000	1	10,000	4	60,000	
	文学部	7	70,000	9	110,000	4	40,000	4	40,000	2	40,000
	教育学部							3	30,000	1	10,000
	法学部	11	210,000	11	190,000	10	200,000	3	30,000	4	40,000
	経済学部	12	240,000	6	140,000	6	110,000	7	70,000	6	100,000
	理学部	11	110,000	8	140,000	15	230,000	10	100,000	13	150,000
	医学部	2	60,000							2	60,000
	工学部	10	160,000	8	140,000	15	160,000	5	90,000	4	100,000
	農学部	2	20,000	1	10,000	1	10,000	1	10,000	3	70,000
	小計	55	870,000	44	760,000	55	790,000	34	380,000	39	630,000
修士課程	文学研究科	7	180,000	1	30,000	1	30,000	1	30,000	2	60,000
	教育学研究科					1	50,000	4	120,000	1	10,000
	経済学研究科	2	40,000	2	20,000	3	50,000	1	10,000		
	理学研究科	5	150,000	6	180,000	6	30,000	1	20,000		
	工学研究科	2	20,000	1	10,000			1	10,000	5	130,000
	農学研究科	1	30,000	1	10,000						
	人間・環境学研究科	3	60,000	6	150,000	1	30,000	1	10,000	3	30,000
小計	20	480,000	17	400,000	12	190,000	9	200,000	11	230,000	
博士(後期)課程	文学研究科			1	50,000						
	経済学研究科	4	40,000	2	60,000					1	10,000
	理学研究科			2	20,000	2	50,000	2	80,000	6	140,000
	医学研究科	1	30,000								
	薬学研究科							2	60,000		
	工学研究科					2	20,000	4	70,000		
	人間・環境学研究科	1	20,000								
小計	6	90,000	5	130,000	4	70,000	8	210,000	7	150,000	
合計	81	1,440,000	66	1,290,000	71	1,050,000	51	790,000	57	1,010,000	

資料3-8 日本育英会奨学金奨学生の推移

		平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
学部	学生数	13,510	13,551	13,569	13,546	13,410
	奨学生数	1,803	1,756	1,656	1,216	1,406
	きぼう21	610	609	1,084	1,694	1,382
	充足率	17.9%	17.5%	20.2%	21.5%	20.8%
修士課程	学生数	3,746	3,888	3,990	4,055	4,215
	奨学生数	1,232	1,321	1,469	1,383	1,371
	きぼう21	160	187	449	695	821
	充足率	37.2%	38.8%	48.1%	51.2%	52.0%
博士(後期)課程	学生数	2,459	2,659	2,839	2,997	3,044
	奨学生数	1,243	1,337	1,426	1,540	1,514
	きぼう21					31
	充足率	50.5%	50.3%	50.2%	51.4%	50.8%

(注) 平成9,10年度の「きぼう21プラン」は「第二種」に相当。

資料3-9 日本育英会奨学金出願・採択状況

		平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	
学 部	申 込 者 数	921	980	1,132	1,185	1,004	
	採用者数	第一種	450	400	388	255	201
		きぼう21	152	137	511	416	339
	併 用			13	8	18	
	採 用 率	65.4%	54.8%	80.6%	57.3%	55.6%	
修 士 課 程	申 込 者 数	1,112	1,079	1,292	1,492	1,520	
	採用者数	第一種	744	746	834	683	707
		きぼう21	111	95	353	404	412
	併 用		1	9	9	7	
	採 用 率	76.9%	78.0%	92.6%	73.5%	74.1%	
博 士 (後 期) 課 程	申 込 者 数	462	468	520	544	549	
	採用者数	第一種	459	452	495	538	502
		きぼう21					27
	併 用					4	
	採 用 率	99.4%	96.6%	95.2%	98.9%	97.1%	

(注) 平成9,10年度の「きぼう21プラン」は「第二種」に相当。

資料3-10 地方公共団体及び民間団体奨学金の種類(平成14年度)

学部学生対象

(民間団体給与奨学金)

種類	月額	奨学生数
石井記念証券財団	50,000	4
井深大記念基金	80,000	3
小原白梅育英基金	50,000	12
貝島育英会	20,000	3
川村育英会	15,000	1
樫山奨学財団	36,000	9
木下記念事業団	50,000	9
木村奨学会	33,000	2
京信榊田育英会	50,000	1
北澤育英会	48,000	1
久保育英会	15,000	2
鴻池奨学財団	24,000	1
小森記念財団	40,000	4
知恩会	45,000	1
中信育英会	20,000	8
戸田育英財団	30,000	4
日本証券奨学財団	45,000	8
日本コココーラ	15,000	5
ふくしん育英会	15,000	2
丸和育英会	25,000	5
三木記念会	20,000	3
三菱信託山室	30,000	11
村尾育英会	20,000	3
森下育英会	18,000	5
山岡育英会	30,000	12
山田育英会	15,000	6
山田育英財団	20,000	3
竹中育英会	70,000	8
計		136

(民間団体賞与奨学金)

種類	月額	奨学生数
あしなが育英会	40,000	4
井上育英会	35,000	5
交通遺児育英会	50,000	2
興英会	42,000	3
実吉奨学会	30,000	1
電通育英会	40,000	8
中村積善会	51,000	3
日本通運育英会	20,000	2
阪和育英会	35,000	3
日鉄鉱業奨学会	15,000	14
フジクラ育英会	18,000	1
法華倶楽部	24,000	1
吉田育英会	60,000	4
計		51

(地方公共団体奨学金)

種類	月額	奨学生数
青森県	25,000	1
石川県	40,000	5
岐阜県	32,000	10
岡山県育英会	47,000	2
山口県奨学会	36,000	1
愛媛県	40,000	1
福岡県奨学会	48,000	2
長崎県	31,000	3
鹿児島県育英財団	47,000	17
沖縄県	40,000	1
東大阪市	14,000	2
大村市	15,000	2
福江市	40,000	1
計		48

大学院学生対象

(民間団体給付奨学金)

種類	月額	奨学生数
井植記念会	30,000	1
鴻池奨学財団	24,000	1
昭和報公会	25,000	2
知恩会	50,000	2
日本証券奨学財団	55,000	4
三菱信託山室	50,000	5
森下仁丹奨学会	30,000	4
森安奨学基金	40,000	1
山岡育英会	60,000	4
竹中育英会	70,000	7
計		31

(民間団体貸与奨学金)

種類	月額	奨学生数
浦上育英会	50,000	3
交通遺児育英会	50,000	1
実吉奨学会	45,000	6
鈴木奨学会	42,000	3
西原育英事業団	30,000	1
法華倶楽部四恩育英会	24,000	2
計		16

第IV章

課外活動支援

第IV章 課外活動支援

1. はじめに

ヨーロッパにおける大部分の国は現在でも、教養教育は中等教育の役割であり、大学等の高等教育機関は、いわゆる専門教育を担うものとされている。昭和24年(1949)の学制改革で日本における教育システムは、その後の高等専門学校設置など多少の変更はあったが、基本的には小学校、中学校、高等学校、大学の単線的なものになった。ここでの大きな変革は、それまで大学入学以前の教養教育を担っていた旧制高等学校が廃止され、その大部分は大学の初年級教育に移行したことであろう。したがって、我が国の大学は学校教育における教養教育の完成に責任を持っていることになる。

教養教育は、大学におけるものであっても、教室における教育のみでよとするのではなく、課外活動による人間性、社会性の涵養が不可欠である。課外活動は本来学生の自主的活動を主とするものであるが、施設の整備・運用、あるいは必要に応じての指導・相談など、大学側の支援はなくてはならないものである。本学における課外活動は非常に活発であり、全国的に名を馳せるような実績を挙げているものもいくつかあるが、大学の支援体制が十分であるとは言い難いのも、また事実である。その実態を把握し、改善にはどうあるべきかを検討してみよう。

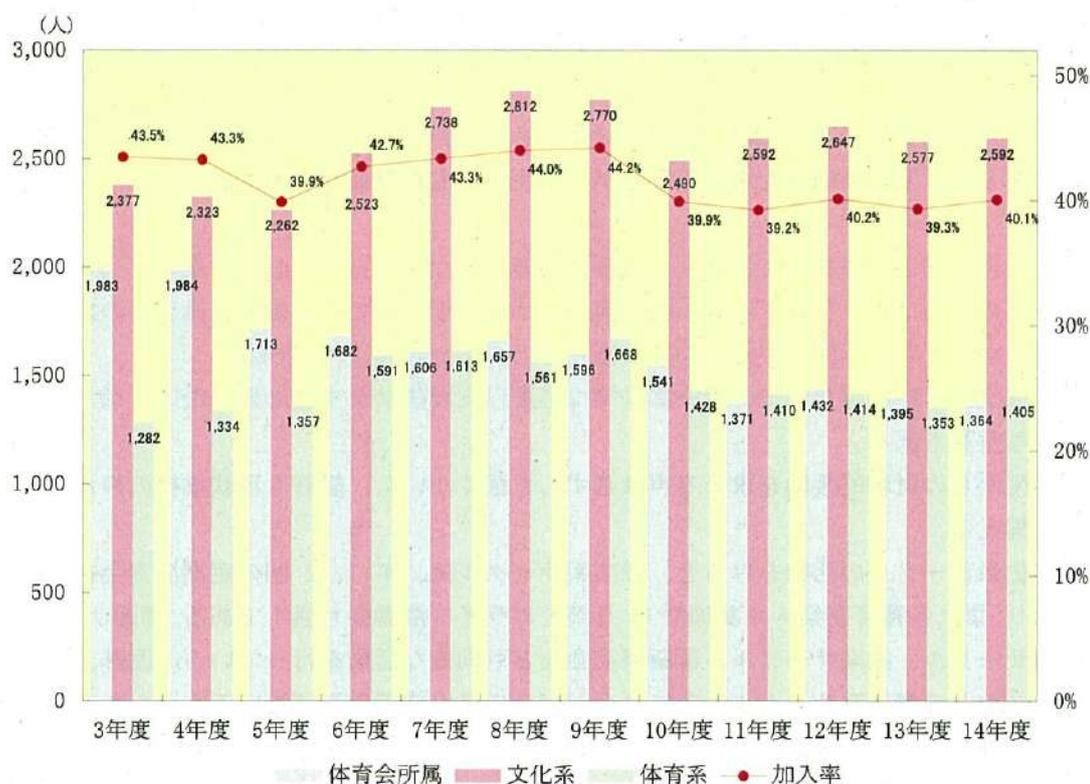
2. クラブ・サークル活動

本学の課外活動におけるクラブ・サークルなどの団体は学生が自主的に結成するものであるが、大学側からみると、公認団体と非公認団体がある。ある団体が公認団体として認定されるには、学生部が3年間の活動実績が公認団体にするのに十分であると判断することが必要である。各団体の活動状況を把握するため、学生部は毎年、公認団体と非公認団体となることを求めている団体に活動実績の報告を義務付けており、公認団体となった後でも、十分な活動がないと判断されれば、公認を取り消すことも原則的にはあり得る。学生部は公認団体にはサークル・ボックスの割当て、用具の貸し出し、活動に必要な場所を確保するための紹介などの便宜を計らっているが、後述の物品購入、施設補修などを除いた日常的な活動費用は援助していない。

体育会は学生スポーツの振興と発展向上を目的とする組織であり、学生による定例幹事会(主務会)と常任幹事会(本部)、教官の部長会によって運営されている。体育系サークルには体育会所属のものとはそうでないものがある。体育会所属の団体は当該種目について本学を代表するものとされており、一種目一団体を原則としている。体育会に所属するには、常任幹事会による1年間の調査後、常任幹事会の直轄運動部として3年間の活動状況が適当と認められ、定例幹事会で運動部への昇格が承認されることが条件となっている。同一種目で既所属団体があるときには、同好会などとして公認団体となって活動している。体育会は体育会費、寄付金などで運営されており、学生部は施設整備、補修費用のほか国

立七大学総合体育大会や近畿地区国立大学体育大会の主幹校になったときに施設の借り上げ費用等の補助をしている。

文化系サークルの数は、平成4年度(1992)の115サークルから減少しているものの、体育系サークルの数は過去十年ほとんど増減がない。文化系サークルの加入者は、平成4年度(1992)から1割以上増加している。体育会所属のサークルの加入者数は、平成4年度(1992)から3割以上減少しているが、これに対し、体育会に所属しない体育系サークルで平成4年度(1992)とほとんど変わらない。また、これらのサークルに加入している学生の総数において学部学生に占める割合は、平成4年度(1992)の43.3%に対し、平成14年度(2002)は40.1%でそれほど大きな変動はない(図表4-1)。なお、これらは、全学規模の公認団体であり、部局限りの団体、非公認団体は含まない。平成11年度(1999)の「学生生活実態調査」によれば、これらの団体を含めて学内の何らかのサークルに学部学生の3分の2が加入している。



図表4-1 課外活動(サークル)団体加入状況

全学規模の公認団体への支援としては、専門性の高い課外活動を行う団体の指導者に対する謝金として、平成11年度(1999)で34団体49名、平成12年度(2000)で29団体45名、平成13年度(2001)で30団体、51名に対し、指導者謝金を支給している。

また、課外体育関係物品購入費については、課外体育関係の物品購入に供するため、国立七大学体育大会の主幹校となったときなどに特別な措置が執られることもあり、文化系サークルに対しての課外教養関係物品購入費と併せて、副学長裁量経費から支出されている。

これらの支援に対しては、「意識調査」の自由記述の回答から、

- ・物品の購入、修理できない物の再購入に関して前向きに検討していただきたい。(学生)
- ・体育会に所属していましたが、予算がいつも足りず大変でしたので、補助金がもう少し頂ければよかったですと思います。(学生)
- ・運動部にお金下さい。(学生)
- ・サークルへの補助(施設や資金面)がもっとあるべきと思う。(学生)
- ・サークルに予算とかもらえたら有り難いです。これもっとPRすべきです。(学生)
- ・サークルに対する支援が事実上何もない。『公認』という格が何のために存在しているのか不明。(学生)
- ・人的、経済的援助を増やす。(教職員)
- ・クラブ活動が十分に行えることは学生支援の重要な柱。十分な財政援助を。(教職員)
- ・教官からの募金を集めて回らないでいいような経済的サポートが望ましい。(教職員)
- ・課外活動施設の充実を図るべき。活動支援にもう少し財政援助を。(教職員)

また、

- ・課外活動支援については、予算面で引率者等に苦勞をかけない配慮が必要。(教員)

などとして、支援の拡充を求める意見が、学生からも教職員からもある。

他方、

- ・大学は学びの場なので、サークル等に必要以上の援助をする必要はない。(教職員)
- ・この方面ばかり支援すると、本来何のために大学へ来ているのか、体育系の活動のためか、という疑問も生じるので、ほどほどでよいと思う。(教職員)
- ・大学は学びの場なので、サークル等に必要以上の援助をする必要はない。(教職員)

とする意見もある。

学生からの財政的援助を求める声は必ずしも強くないし、教官も現状維持の声が強いように思える。

文化系サークルの活動をみると、音楽系サークルは、年1、2回の定期演奏会を開催しており、また各種音楽祭への参加や11月祭でのライブ演奏会も盛んである。舞踊サークル、劇団サークル、能楽サークル、落語研究会なども同様な活動を行っている。囲碁、将棋、チェスなどの競技系サークルの中には全国大会で高い成績を挙げているものもある。その他、各種同好会、研究会、ボランティア団体など多彩な文化系サークルが、それぞれの目的に応じた活動を繰り広げている。

本学におけるフィールド調査・研究の行動面を担った登山・探検から直接の影響を受けた学生団体である山岳部、探検部は、数多くの行動的研究者を輩出している。

体育会所属のサークルは、本学の代表として種々の大会に出場している。アメリカンフットボール部は、関西の1部リーグで毎年優勝候補の一角を占める強豪チームであることはよく知られている。アメリカンフットボール部ほどではないが、国立大学のなかでは多くのサークルが良い成績を挙げている。例えば、平成5、9、11、12、13年(1993、1997、1999、2000、2001)の国立七大学総合体育大会で総合優勝し、平成8、10年(1996、1998)には総合2位であった(図表4-2)。また、近畿地区国立大学体育大会では、近年、男子、女子とも総合成績で上位の結果を上げている(図表4-3)。

図表4-2 国立七大学総合体育大会総合成績結果

	第32回 平成5年	第33回 平成6年	第34回 平成7年	第35回 平成8年	第36回 平成9年	第37回 平成10年	第38回 平成11年	第39回 平成12年	第40回 平成13年	第41回 平成14年
北海道大学	7	3	3	7	2	5	6	3	6	4
東北大学	6	1	1	4	5	4	2	5	2	1
東京大学	3	5	2	5	4	6	7	6	4	6
名古屋大学	2	2	5	1	2	3	4	2	3	2
京都大学	1	6	3	2	1	2	1	1	1	3
大阪大学	4	3	6	3	6	7	3	4	5	5
九州大学	5	7	7	6	7	1	5	7	7	7

図表4-3 近畿地区国立大学体育大会総合成績結果

	平成12年 (第38回)		平成13年 (第39回)		平成14年 (第40回)	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
滋賀大学	8	4	8	7	9	8
滋賀医科大学	12	13	10	11	—	—
京都大学	4	4	5	2	3	5
京都教育大学	5	2	10	8	5	2
京都工芸繊維大学	7	10	2	4	7	12
大阪大学	3	10	10	6	11	5
大阪外国語大学	8	7	1	1	1	1
大阪教育大学	1	1	7	9	8	8
神戸大学	2	9	3	3	2	4
神戸商船大学	12	13	10	11	12	12
奈良教育大学	10	3	9	11	10	11
奈良女子大学	—	12	—	11	—	10
和歌山大学	6	6	6	5	6	7
兵庫教育大学	11	8	4	10	4	3

3. 11月祭

様々なグループが参加して開かれる大学祭(11月祭)は、「全学生の自主的・創造活動の場として、講演会、展示会、音楽会、演劇会、体育祭、前夜祭など総合した催しがあり、大学生活で抱く問題意識を追求し、これを通じて社会と学内の種々の活動を結び付けようと毎年(11月下旬)行われている」もので、文化系サークルの公認団体である11月祭全学実行委員会が企画・運営に当たっている。第44回に当たる平成14年度(2002)は11月21日～24日に開催された。本部企画として、講演、ライブ、映画・ビデオ上映、古本・古レコード市のほか、応援団によって前夜祭、模擬店が企画された。各学部等の実行委員会は学部企画を催し、サークル、同好会による、屋内企画、自主制作演劇企画、グラウンド企画も盛んであった。しかし、一面では模擬店の出店が目立っており、本来の意義を問い直すことも必要ではなからうか。

本学はこの11月祭支援として、物品援助に総計約200万円を支出するとともに、後片付けの1日を含めて2,3日間の授業休止をアカデミックカレンダーに組み込んでいる。祝日が日曜日のとき翌月曜日を代替え休日にすることが導入され、さらには体育の日、成人の日が月曜日に固定された結果、後期の月曜日の授業日程が苦しくなっている上に、平成14年度(2002)からの Semester 制導入に伴い、通年授業による調整も難しくなっている。特に、平成14年度(2002)ではこの影響が大きく、11月25日(月)を後片付けの日として

授業休止にしたことの是非が問われた。社会との結び付きと学外への開放という視点からは、勤労感謝の日と日曜日を11月祭の開催日に含めることは不可欠であろう。したがって、月曜日が11月祭又はその片付けの日として充てられることは避け難いのが現状である。アカデミックカレンダーのなかで月曜日をどのように取り扱うかを検討する時期がきているように思われる。

4. ボランティア支援

学生のボランティア活動に対しては、ボランティア活動を目的とするサークルを公認団体としている以上の特別なことは行っていない。ボランティアの本来の意味から、大学が積極的な支援をすることには異論があろうが、情報収集、外部団体への紹介などは考慮すべきことであろう。

5. 課外活動の施設

本学の課外活動用の施設が、その質量ともに不十分であることは周知の事実であり、構成員のほとんどすべてが改善を求めている。その実態を以下にみよう。

1) サークルボックスと活動の場

学生のサークル活動の拠点となる部室を有しているサークル数は、体育館を含めて西部構内に部室を有するもの58、北部構内(農学部グラウンド)に部室を有するもの10、南部構内に部室を有するもの16、総合人間学部構内に部室を有するもの6、学生集会所(吉田寮地区)に部室を有するもの11、その他に部室を有するもの3となっている。文化系サークルでは、総数101のサークルのうち54サークルが部室を有するのに対し、47のサークルが部室を有していない。体育系サークルでは、体育会所属のサークルでは部室を有するものが46、有しないものが3であるのに対し、体育会に所属しない体育系サークルでは部室を有するもの4に対し、部室を有しないものは36となっている。

既存のサークルボックスについてはその老朽化を指摘する意見が、以下のように強い。

- ・サークルのボックスの提供については、京大はあれでもかなり恵まれている方だと聞くと、破損箇所の修繕なども大学の方でやってもらえれば有り難いと思う。実情では、穴の開いた天井などがそのままになっていたりする。使用者側の責任も問うようにして、使い方の悪い団体には場所の提供をしないほしい。(学生)
- ・西部構内のサークル棟は老朽化が激しい。また、各サークル部屋は大学が貸与しているのだから、もっと清潔にするよう指導すべき。(教職員)

更に、上記の部室を有するサークル数や、また下記の意見にもみられるように、部室の絶対数が不足している。

- ・体育会に所属しないサークルにも(野球等)Boxを設置してほしい。(学生)

- ・Box をきれいに。また京大公認でありながら Box がないのは腹立たしい。共有の Box をつくるなどという非現実的な案も論外だ。(学生)
- ・サークル棟や部室等の施設整備をすべき。できれば建て替えてほしい。(学生)
- ・サークル Box の新築、改築。(教職員)
- ・クラブボックスの設置(管理対策も含んで)。女子更衣室やシャワールームの完備(更衣する場がなく、トイレが屋外で行っているようですが…)。(教職員)
- ・文化系クラブの活動状況(物理環境)は、世界で最悪。立派な部屋をつくらないと恥ずかしい。(教職員)

部室なしにサークルが持続的活動を行うことが極めて困難であることは明らかであり、早急に、より多くのサークルが部室を確保できるよう、施設を建設する必要がある。大学当局も部室の新営に向けて、学生達と話し合いを続けてきたが、管理権や移転に際しての現実的な問題、防音等の施設の質の問題など、困難な問題が山積しているものの、折り合いをつけるための話し合いが継続されており、部分的改築を積み重ねるなど、妥協点を探る時期であろう。

公認・非公認団体にかかわらず、部室だけでなく、活動のできる場所も不足している。総合人間学部の A 号館の教室が音楽サークル等の利用に供されてきたが、A 号館の取壊しに伴い平成 14 年(2002)7 月以降利用不可能となり、代替教室を利用して活動が行われている。A 号館のサークルによる利用は、昭和 40 年代の大学紛争中に教室の学生による「占拠」がきっかけとなり、授業時間外という当然の制約の下ではあるが、サークルの練習、時には公演用として使われるのが常態になり、やがて既得権化していったのが実状である。A 号館内には教官研究室、会議室、事務室なども多くあり、本来の使用目的に反する利用は好ましくないが、上記のような施設の不足と劣悪さから、一方的な禁止も無理な状態にあった。総合人間学部は節度ある利用は許容せざるを得ないとして、利用規則を定めたが、実際に規則が守られている望ましい状態にはほど遠い。

以下の意見にみられるように、そもそも教室がこのような利用に供されること自体が正常ではなく、専用の活動施設の確保が早急に求められる。

- ・サークル・クラブの部屋棟、バンドなどの練習用の防音空間、コンサートもできるようなホール(講堂)が必要。(教職員)
- ・音楽練習場等課外活動の施設が不足。課外活動のなかで企画されるイベント、プロジェクト、集会、発表会等のなかから特徴のあるものを選んで予算的な補助を行う。本物の芸術を知らせるため、討論の経験をさせるための催しを開く。(教職員)
- ・学生が課外活動に教室を使用するのは、学生・院生・教職員、すべてにとって不幸である。(教職員)
- ・体育施設などが女子学生に十分対応できる施設となっていない。音響を発する課外活動が研究教育棟に隣接し、騒音の原因となっている所がある。十分な防音施設が必要。(教職員)

2) 体育施設

体育施設についても同様であり、たった一つの体育館でサークルや一般学生の体育需要

を満たすことは到底不可能であり、早急に施設の拡充を図る必要がある。図表4-4にあるとおり総合体育館のメインフロアは月曜日から木曜日までは8時45分から14時30分までスポーツ実習で占められ、15時以降21時までほとんどすき間なく課外活動に使われている。第一・第二武道場の課外活動への利用状況も同様である。

- ・課外活動、特に体育施設に関しては、たった一つの体育館など、貧弱さは否めない。職員と学生が争ってしか利用できないのは淋しい。(教職員)

図表4-4 平成14年度総合体育館使用状況一覧表

曜日	総合体育館 (メインフロア)									
	時間									
	9:00	11:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
月			(バレーボール男 15:00~18:00)							
			(ハンドボール 16:00~18:00)							
			(バスケットボール男 18:00~21:00)							
			(バトミントン 18:00~21:00)							
火			(バレーボール ※18:00~21:00)							
			(バトミントン 16:00~18:00)							
			(バスケットボール女 18:00~21:00)							
水			(ハンドボール 16:00~18:00)							
			(バスケットボール男 18:00~21:00)							
			(バレーボール女 18:00~21:00)							
木			(バスケットボール女 15:00~18:00)							
			(バレーボール男 15:00~18:00)							
			(バトミントン 18:00~21:00)							
金			(ハンドボール 16:00~18:00)							
			(バスケットボール男 18:00~21:00)							
			(バレーボール男 18:00~21:00)							
土		(バレーボール女 9:00~11:00)								
		(バトミントン 9:00~13:00)								
		(ハンドボール 9:00~13:00)								
		(バスケットボール女 11:00~13:00)								
		(バレーボール男 16:00~18:00)								
		(バスケットボール男 16:00~18:00)								
日	各競技試合及び自主練習									

(注) 火曜日バレーボール：隔週 15:00~18:00/18:00~21:00

曜日	第一武道場									
	時間									
	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
月			(柔道 15:30~18:00)							
			(合気道 18:00~19:30)							
火			(合気道 16:30~18:00)							
			(柔道 18:00~21:00)							
水			(柔道 15:30~18:00)							
			(合気道 17:45~19:00)							
木			(合気道 16:30~18:30)							
			(柔道 18:00~21:00)							
金			(柔道 15:30~18:00)							
			(合気道 18:00~19:30)							
土		(合気道 11:50~13:00)								
			(柔道 13:00~16:00)							
日	練習試合及び自主練習									

(注) これらの表に記載しているのは、体育会所属団体のみであり、このほかに、公認団体・非公認団体が空き時間を利用している。

曜日	第二武道場 時間									
	10:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
月			(空手道 15:00~17:00)		(剣道 17:00~19:00)		(少林寺拳法 19:00~21:00)			
火		(空手道 15:00~17:00)		(少林寺拳法 17:00~19:00)		(剣道 19:00~21:00)				
水				(剣道 17:00~19:00)			(空手道 19:00~21:00)		(居合道 19:00~21:00)	
木		(空手道 15:00~17:00)		(少林寺拳法 17:00~19:00)		(剣道 19:00~21:00)				
金		(空手道 15:00~17:00)		(剣道 17:00~19:00)		(少林寺拳法 19:00~21:00)		(居合道 19:30~21:00)		
土		(居合道 10:00~12:00)				(剣道 14:00~16:00)				(空手道 16:00~18:00)
日	練習試合及び自主練習									

(注) この表に記載しているのは、体育会所属団体のみであり、このほかに、公認団体・非公認団体が空き時間を利用している。

北部グラウンドの使用実態も総合体育館と同様に、月曜日から木曜日までは8時45分から14時30分までスポーツ実習、その後21時まで各種スポーツサークルの練習がひしめいている。ここでは早朝7時45分からも部活動に利用され、金、土、日曜日にも体育系サークル以外には入る隙間もない(図表4-5)。以下のように、体育系サークルに所属していない学生や教職員からの体育施設利用の希望が強く、その希望はもっともなものであることを考えると、この面でも、体育施設の早急な拡充が必要である。

- ・体育会系クラブが優先して利用しているので、それ以外の学生にとってはあまりメリットがないと思われる。(学生)
- ・体育会以外にももっと開放してもらいたい。(学生)
- ・体育施設は、体育会に所属している人以外にとって利用しづらい雰囲気がありますので、例えば曜日を決めて一般の学生が利用できる日などをつくってくださると有り難いです。(学生)
- ・グラウンドなど運動設備が手狭。部活やサークル以外で使えることが少ない。(学生)
- ・サークルや部活に入っていない人も参加できるような催しがあるといい。(学生)
- ・体育会やサークルの使用を分けて普通の学生が利用できる時間、場所を確保してほしい。(学生)
- ・体育施設:一部の人しか利用していないのでは?皆が利用しやすい環境をつくるべき。(教職員)
- ・クラブ、サークルに所属していない学生にも、スポーツできるような施設 or システムを考えていくことが望ましい。(教職員)
- ・体育施設を充実させるべきである。また、教職員も自由に使える施設がキャンパス内にはあるべきだ。(教職員)
- ・教養講座等充実しつつあるように思うが、体育施設(クラブ等に所属しない学生に対

- する)は不十分。(教職員)
- ・クラブに入らなくても、自由なテーマで短期の課外活動があるとよい。例えば3ヶ月コースの茶道、3ヶ月コースのサッカーとか。
 - ・クラブ等団体相手の対応しか見えない。個々の学生に対するサービスが見えるようにしなければならない。(教職員)
 - ・一部の学生のみが利用しているにすぎず、特権化している。施設の利用を特に見直すべき。(教職員)
 - ・一般の学生が気楽に利用できるよう施設を倍拡充する必要がある。(教職員)

図表4-5 北部グラウンド使用状況

曜日	北部グラウンド												
	時間												
	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
月	(ラククロス 7:45~) (サッカー 8:45~10:15) (サッカー 10:30~12:00) (サッカー 13:00~14:30) (陸上競技 15:00~19:00) (ホッケー 16:30~20:00) (サッカー 16:45~19:30)												
火	(ラククロス 7:45~) (サッカー 8:45~10:15) (サッカー 10:30~12:00) (サッカー 13:00~14:30) (アメリカンフットボール 14:30~21:00) (陸上競技 15:00~19:00) (ホッケー 16:30~20:00) (サッカー 16:45~19:30)												
水	(ラククロス 7:45~) (サッカー 8:45~10:15) (サッカー 10:30~12:00) (サッカー 13:00~14:30) (アメリカンフットボール 14:30~21:00) (陸上競技 15:00~19:00) (サッカー 16:45~19:30)												
木	(サッカー 8:45~10:15) (サッカー 10:30~12:00) (アメリカンフットボール 14:30~21:00) (陸上競技 15:00~19:00) (ホッケー 16:30~20:00)												
金	(ラククロス 7:45~) (体育実技Ⅰ陸上種目) (アメリカンフットボール 14:30~21:00) (陸上競技 15:00~19:00) (サッカー 16:45~19:30)												
土	(ラククロス 8:00~12:00) (ホッケー 9:00~12:30) (サッカー 14:00~18:00) (アメリカンフットボール 14:30~21:00) (陸上競技 15:00~19:00)												
日	(サッカー 14:00~17:00) (アメリカンフットボール 14:30~21:00) (陸上競技 各パート練習)												

(注) 青字：スポーツ実習(4/9~7/15, 10/1~12/23, 1/8~1/21)
 緑字：教育学部の教育職員免許状の教科科目(4/12~7/12)
 この表に記載の団体は体育会所属団体のみ。このほかに、公認団体・非公認団体等多数が空き時間等を利用している。

本学には総合体育館附設プール（50メートル、8コース）がある。これは財団法人日本水泳連盟公認プールであり、水の循環浄化システムと塩素投入の設備を持っている。体育会所属の水泳部が管理、清掃を担っていて、夏期40日間程度一般開放をしているが、延べ3,000人足らずの利用であり、主に課外活動に利用されている（図表4-6）。

図表4-6 プール利用状況

年 度		H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13
プー ル	課外活動	8,308	7,375	12,516	11,735	16,756	6,270	7,580	12,873	13,629	13,689	11,240	13,375	11,650
	一般開放	2,916	4,819	3,040	3,385	1,983	—	4,868				2,841	2,879	2,848
	授 業	203	168	200	140	134	77	72	166	190	0	0	12	0
	合 計	11,427	12,362	15,756	15,260	18,873	6,347	12,520	13,039	13,819	13,689	14,081	16,266	14,498

(注) 平成6年度は改修工事のため、一般開放を行っていない。

3) 西部講堂

西部講堂は、法学部及び経済学部の建物を解体した資材を使って、昭和12年(1937)に武道場として現在の場所に建てられた。その後、映画観賞用として改装され現在に至っている。昭和40年代の大学紛争時代にアングラ芸術の拠点となり、ここで育ち、飛躍していったアングラ芸術のリーダーも少なくない。本学の自由の学風と放縦さの接点でエネルギーが爆発したとも考えられ、ここでこそ可能になったものであろう。その活動は学内の劇団、音楽サークルに受け継がれ、一時ほどのことはないにしても、現在でも活発である。

建物が老朽化しており十分安全とは言い難く、木造建築であるため火災の危険もある。建て替えないしは廃棄が必要という意見も強いが、アングラ芸術のメッカ、故郷としての地位も確立しており、学内はもとより、学外の関連諸団体の理解を得るのは容易ではない。しかし、文化の拠点は建物によるわけではなく、そこで活動する人達、その伝統、雰囲気によるものであろう。管理、独特の雰囲気には配慮して、本学における芸術活動の場として再生する道を探るべきである。

現在は、学生の組織である「西部連絡協議会」が西部講堂の利用希望を取りまとめ、副学長の承認を得て運営を行っており、ここでの公演は、本学の公認団体の主催又は共催が原則となっている。

4) 遠隔地の施設

本学には遠隔地の施設として「白馬山の家」、「白浜海の家」、「笹ヶ峰ヒュッテ」、「志賀高原京大ヒュッテ」がある。前3施設は厚生補導担当の副学長が管理責任者となっており、志賀高原京大ヒュッテはスキー競技部OB会の所有である。白馬山の家と白浜海の家の実場での実際の運営は、体育会が責任を持っている。笹ヶ峰ヒュッテは山岳部が、志賀高原京大ヒュッテはスキー競技部が運営をしている。白馬山の家と白浜海をの家の年間利用者数は、それぞれ200人、1,000人前後である（図表4-7）。

図表4-7 白浜海の家・白馬山の家月別宿泊者状況

年 度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
4月	24	28	28		8			8	2			33
5月	13	31		22	15	25		2				
6月		56					8	8	1	8		2
7月	388	414	397	259	159	223	162	210	266	281	302	209
8月	125	155	96	158	329	165	290	185	211	132	171	217
9月	8			113	91	80	15	95	8	5	22	
10月	3	9			10	5	1	8			11	4
11月		8			3						4	4
12月	85	111	230	255	129	176	201	195	168	151	119	82
1月			17	24	132	135	220	172	86	72	85	68
2月	77	159	104	243	286	337	339	281	250	303	326	261
3月	55		130	36	54	156	198	257	108	34	2	2
合 計	778	971	1,002	1,110	1,216	1,302	1,434	1,421	1,100	986	1,042	882

(注) 白浜海の家(和歌山県西牟婁郡白浜町 収容人員30名): 通年開設

年 度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
4月												
5月												
6月	41											
7月	84	15	65	24	36	69	10	7	8		15	47
8月	15	144		106	104		66	30	25	3		
9月												
10月												
11月												
12月	163	211	268	132	96	62	23	39	2	39	71	77
1月					6	21	16		3	8		
2月	291	266	117	185	82	166	94	14	92	104	36	47
3月	107	70	105	40	150	125	141	257	87	25	19	72
合 計	701	706	555	487	474	443	350	347	217	179	141	243

(注) 白馬山の家(長野県北安曇郡小谷村大字千国字柳久保 収容人員26名): 夏季・冬季のみ開設

6. 課外教養行事(内容、参加者数、著名人の講演会の要望)

学生の教養を高め豊かにすることを目的とし正課外に次のような文化関係諸行事を実施している。すなわち、本学の創立記念行事として、昭和31年(1956)以来、「大学紛争」の時期を除き、毎年、創立記念日(6月18日)前後に、平成8年度(1996)以降は京都コンサートホールを会場に、著名な音楽家を招き音楽会を催しており、多数の学生・教職員の参加をみている(図表4-8)。

図表4-8 課外教養行事『創立記念行事音楽会』の実施状況

年度	名称	日時	会場	演奏者	定員
平成5年度	久保陽子・弘中 孝 おしゃべりコンサート	平成5年6月17日(木) 18時開演	京都会館 第二ホール	久保陽子 (ヴァイオリン) 弘中 孝(ピアノ)	950名
平成6年度	ザイラー ピアノ デュオ	平成6年6月16日(木) 18時開演	京都会館 第二ホール	エルンスト・F・ザイラー, カズコ・M・ザイラー	950名
平成7年度	NEW YORKが震えた津軽 の三弦 —山田千里の世界—	平成7年6月14日(水) 18時30分開演	京都会館 第二ホール	山田千里, 福士りつ, 渋谷和生, 茂木俊興, 猪本陽子, 西元	950名
平成8年度	90ストップの巨大パイプ オルガンの醍醐味	平成8年6月12日(水) 18時30分開演	京都コンサート ホール	吉田文, 吉田徳子	1,000名
平成9年度	京都大学 創立百周年記念音楽会	平成9年11月1日(土) 18時開演	京都コンサート ホール	京都市交響楽団 佐々木真(フルート) 高橋聖子(オルガン)	1,600名
平成10年度	ラグ・タイム&ガーシュエ ン	平成10年6月17日(水) 18時30分開演	京都コンサート ホール	池宮正信(ピアノ)	1,600名
平成11年度	熊本マリ(ピアノ) —スペインのたより—	平成11年6月15日(火) 18時30分開演	京都コンサート ホール	熊本マリ(ピアノ)	1,600名
平成12年度	バロック音楽への誘い	平成12年6月16日(金) 18時30分開演	京都コンサート ホール	コレギウム・ムジク ム・テレマン	1,600名
平成13年度	山下洋輔(ピアノ) ジャズ&クラシック	平成13年6月15日(金) 18時30分開演	京都コンサート ホール	山下洋輔 (ジャズピアニスト)	1,600名
平成14年度	希生・ザイラー ヴァイオリンコンサート ～情熱的な吟遊詩人～	平成14年6月14日(金) 18時30分開演	京都コンサート ホール	希生・ザイラー (ヴァイオリン) ヴァディム・サラブ リアーニ(ピアノ)	1,600名

また、毎年12月に(社)能楽協会の能楽師等の協力により、京都観世会館で狂言及び能楽の鑑賞会を催しており(図表4-9)、毎年定員を上回る参加がある。

図表4-9 課外教養行事『能楽鑑賞会』の実施状況

年度	日時	会場	演目	演者	定員
平成5年度	平成5年12月8日(水) 18時30分開演	京都観世会館	狂言 「無布施経」	茂山千五郎, 茂山真吾, 他	550名
			能楽 「融」	片山九郎右衛門, 宝生欣哉, 他	
平成6年度	平成6年12月6日(火) 18時30分開演	京都観世会館	狂言 「鳴子遣子」	茂山千作, 茂山千三郎, 他	550名
			能楽 「松風」	片山九郎右衛門, 片山清司, 中村彌三郎, 他	
平成7年度	平成7年12月7日(木) 18時30分開演	京都観世会館	狂言 「寝音曲」	茂山忠三郎, 安東伸元, 他	550名
			能楽 「遊行柳」	片山九郎右衛門, 中村彌三郎, 他	
平成8年度	平成8年12月11日(水) 18時30分開演	京都観世会館	狂言 「蝸牛」	茂山千五郎, 茂山千作, 他	550名
			能楽 「砧」	片山九郎右衛門, 片山伸吾, 他	
平成9年度	平成9年12月9日(火) 18時30分開演	京都観世会館	狂言 「千鳥」	茂山千之丞, 茂山千作, 他	550名
			能楽 「安達原」	片山九郎右衛門, 中村彌三郎, 他	
平成10年度	平成10年12月15日(火) 18時30分開演	京都観世会館	狂言 「察化」	茂山千作, 茂山千三郎, 他	550名
			能楽 「自然居士」	片山九郎右衛門, 植田隆之亮, 他	
平成11年度	平成11年12月3日(金) 18時30分開演	京都観世会館	狂言 「萩大名」	茂山千作, 他	550名
			能楽 「百万 法楽之舞」	片山九郎右衛門, 片山慶次郎, 他	
平成12年度	平成12年12月14日(木) 18時30分開演	京都観世会館	狂言 「素袍落」	茂山千作, 茂山正邦, 他	550名
			能楽 「藤戸」	片山九郎右衛門, 福王和幸, 他	
平成13年度	平成13年12月11日(火) 18時30分開演	京都観世会館	狂言 「桶の酒」	小笠原匡, 山本豪一, 他	550名
			能楽 「通小町」	片山九郎右衛門, 片山清司, 他	
平成14年度	平成14年12月10日(火) 18時30分開演	京都観世会館	狂言 「寝音曲」	茂山千之丞, 茂山あきら, 他	550名
			能楽 「鉢木」	片山九郎右衛門, 味方玄, 福王茂十郎, 他	

「意識調査」では、必要がないと思う支援・サービスのうち⑩課外教養行事は、学生で15.3%、教職員で20.4%でいずれも第一位であるが、しかし、以下にみるように、これらに対する学生の評価は高く、その一層の充実を求める声も強い。

- ・課外教養行事がすごくいいです。可能ならば回数を増やして下さい。(学生)
- ・課外教養行事がもっと増えると嬉しいです。(学生)
- ・音楽鑑賞などの行事があるのはいいことだと思います。(学生)
- ・ボランティアのような課外活動の宣伝を大きくすればよいと思う。課外教養行事の宣伝も大きくしてほしい。(学生)
- ・音楽会はよかったです。学生支援として必ずしも必要かは疑問だけれど。(学生)
- ・創立記念コンサート、能楽鑑賞会はよいと思う。ただ、無料であるというのは、良い面もあり悪い面もある。悪い面というのは、あまりやる気のない観客のために奏者が力を発揮しきれないこともあったように感じた。また、そういう面からも、出演者の吟味には注意を払う必要があるかと思う。(学生)
- ・もっと、音楽会をたくさんやるべきである。(学生)

ただし、以下のように、その宣伝が十分でないという声がある。

- ・課外教養行事と言われて思いつくものがない。何をしているのかももっと宣伝してもよいのでは?(学生)
- ・課外活動・課外教養行事として何が行われているのか不明。広報活動はちゃんと行っているのですか。(教職員)

しかし、少数ながら消極的な意見もあった。

- ・課外教養行事に学校側が積極的に首を突っ込む必要はないと思います。体育館改築してほしかったです。地下のトレーニングルームと道場は人数の割に狭く感じました。もっとスペースがほしかったです(少林寺拳法部だった)。(学生)
- ・課外活動にお金を使うなら、体育会の各クラブにもっと支援をするべき。どこも施設の老朽化で困っている。(学生)

また、

- ・本学出身の著名人等の講演の機会を増やしてほしい。(学生)
- ・特に利用したことがありませんので、コメントし難いのですが、課外教養行事(演習林に行くとか、コンサートですよ)などは、もっと活発にしてもいいと思います。(学生)

などの希望もあり、講演会やかつて行われていた臨地講演(京都を中心に滋賀、奈良等の古社寺などを訪ねて専門の教官から説明を受けるもの)の再開が検討されてよいであろう。

第V章
進路支援

第V章 進路支援

1. はじめに

本章では、就職支援を主に取り上げて現状分析を行い、進路・就職支援体制を点検・評価し、今後の展望を試みる。

学内で得られる資料・データ等や日常の知見、並びに 15 の学部・研究科及び 4 学科・専攻（以下、部局等と略称）の事務室に対して実施した「就職支援関係の業務に関する聞き取り調査（以下、「聞き取り調査」と略称）」を現状分析の参考にし点検を行う。また、平成 14 年(2002)10 月に実施した『学生支援』に関する意識調査（以下、「意識調査」と略称）」の結果を援用しながら、一般的知見も加味し点検・評価を行うとともに、今後の展望を含めた考察を行う。

2. 全学の就職支援の概要

1) これまでの支援

本学は、京都帝国大学以来の 100 余年の歴史を持つ伝統のある大学であることから、①多くの卒業生が社会のあらゆる場で活躍しており、その人脈により支えられてきたこと、②いわゆる京大ブランドが社会的に認知されてきたこと、③指導教官等のつながりのある企業等とのコンタクトが直接行われてきたこと、などの理由により、全学として組織的な就職支援を行ってこなかった。

このことは、『京都大学自己点検・評価報告書Ⅱ 2000』においても、「京大ブランドの残光で明らかな売り手市場であった」ことにより、「本学はこれまで就職支援に真剣には取り組んできたとはいえない」ことが指摘されている。昨今は、採用に際して、出身大学よりも学生個人の資質、実力や可能性を重視する企業等が増えてきていることから、いつまでも京都大学の銘柄に依存できない（資料 5-1, 2）。

2) キャリアサポートセンター

本学では、こうした状況認識の下に、学生の就職活動を支援するため、平成 13 年(2001)11 月にキャリアサポートセンターを設置し、関係情報の提供、就職活動における悩みや不安などについて専門の職員を配置し組織的に支援活動を行っている（図表 5-1）。

キャリアサポートセンターには、学生が自由時間に利活用できるように以下の設備が整えられている。

- ① 情報検索性パソコン（関係情報や企業等の HP の閲覧）
- ② 求人情報ファイル（求人票や企業案内ファイルほか）

- ③ 就職関連図書、雑誌（会社年鑑や資格試験参考書、就職・受験ジャーナルほか）
- ④ 面接ビデオ、企業セミナービデオほか

図表5-1 キャリアサポートセンターの利用状況

	平成13年		平成14年						
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
就職相談	20	21	12	7	10	9	19	7	17
情報検索パソコン利用	6	18	13	20	6	6	9	12	27
ファイル・図書閲覧	24	16	50	34	56	102	103	28	28
合計	50	55	75	61	72	117	131	47	72

キャリアサポートセンター設置による支援体制は、まだ緒についたばかりであるが、全学的な就職支援組織として、まず学外から企業等の就職担当者が訪問する部署として、本学の就職に関する諸情報が集約されていなければならない場所である。各学部・研究科の就職担当部署とも連携し、就職に関する諸情報の共有化を図り、インフォメーションセンターとしての機能を果たす必要がある。

また、進路・就職相談窓口として専門の職員を配置し、企業等との結びつきを継続的に行う必要がある。そのためには、一定のプログラムに則ったシステムを導入するよりも学内事情に詳しい当該のプロスタッフを育成することが必要であることを認識しなければならない。

今後、キャリアサポートセンターには、これまで本学の各学部・研究科が様々な方法で行ってきた就職支援の活動を尊重し、連携を図りながら、学外とのインターフェイスとして全学的な総合調整機能が期待されている。

3) 就職ガイダンス

本学では、平成14年度(2002)において、全学の学生を対象として、就職専門企業によるプログラムに基づいて5回の就職ガイダンスを実施している(図表5-2)。今後は、就職ガイダンスの企画・実施をキャリアサポートセンターが主体となって行うことにより、本学の独自色を出したガイダンスを実施することが期待される。

4) IT環境

近年、インターネットの利用が盛んになるにつれて、企業等のHPの情報発信機能が充実し、そこから直接就職情報を入手する学生が増えてきたこともあり、PCの利活用が就職活動に不可欠のツールとして定着してきた。理系の学部・研究科におけるPCの利用環境は充実しているものの、文系の学部・研究科においては十分とはいえない状況であり、キャリアサポートセンターや学術情報メディアセンターでのPC利用は当然のこととして、インターネットの利用できる環境整備を図る必要がある。大学としては、インターネットの利活用だけでなく、「意識調査」設問「今後、必要な支援・サービス」の③パソコン講習における学生の回答(16.9%)にみられるように、PCの使用方法を含めた教育的配慮を行うことが支援の重要な施策の一つとなることを認識する必要がある。

図表5-2 平成14年度京都大学就職支援年間プログラム

プログラム名	開催日	場所	内容
国家公務員採用試験制度説明会	平成14年 4月 4日(木)	文学部新館 第3講義室	「国家公務員採用試験制度について」 【説明者】人事院近畿事務局 担当官
第1回就職ガイダンス 「キャリア・プランのためのガイダンス」	平成14年 7月 11日(木)	法経第4教室	・キャリアサポート体制の告知・進路について考える ・就職活動の進め方とスケジュール ・夏期の企業インターン・シップ参加意義と活用について ・キャリアアップのための資格検定 ・適正・適職診断テスト、模擬試験等の案内 【講師】㈱リクルート・ワークス研究所 主任研究員 松村 直樹氏
第2回就職ガイダンス 「就職活動総括ガイダンス」	平成14年10月17日(木)	法経第4教室	・就職環境と企業の採用動向・就職活動の進め方 ・就職活動における情報収集、自己分析の仕方 ・先輩の就職活動体験報告(マスコミ・金融) 【講師】㈱リクルート 就職ジャーナル 編集長 富塚 優氏
第3回就職ガイダンス 「業界研究セミナー」～ 京大OBを招いて～	平成14年10月31日(木)	法経第4教室	・知って得する自分にあった企業の選び方 ・パネルディスカッションによる企業比較 ・OB・各企業への質問 【講師】㈱リクルート 就職ジャーナル 編集長 富塚 優氏
裁判所職員採用試験説明会	平成14年11月 7日(木)	法経第4教室	裁判所事務官採用Ⅰ種、Ⅱ種及び家庭裁判所調査官補採用Ⅰ種試験の受験希望者への説明会
各府省業務説明会	平成14年11月14日(木) 平成14年11月18日(月) 平成14年12月11日(水)	京大会館	国家Ⅰ種(行政、法律、経済)2回、(理・工・農・薬) 【参加省庁】内閣府、外務省、財務省、総務省、国土交通省、文部科学省、経済産業省等
第4回就職ガイダンス 「自己PR・エントリーシート対策」	平成14年12月19日(木)	法経第4教室	・自己PRのポイント ・企業はエントリーシートのどこを見るのか!! 【講師】㈱アイジャスト 代表取締役 辻 太一朗氏
第5回就職ガイダンス 「面接対策セミナー」	平成15年 1月 16日(木)	法経第4教室	・エントリーシート・面接で企業が学生を見るポイント ・壇上模擬面接 ・先輩の就職活動体験報告 【講師】HRD研究所 人材開発トレーナー 青山 憲吾氏
「郵政総合職」業務説明会	平成15年 2月 6日(木)	文学部新館 第2講義室	郵政総合職試験の概要、日本郵政公社の業務内容等 【説明者】近畿郵政局人事部

3. 就職支援の評価

本学は、平成13年度(2001)から全学レベルでの就職説明会が開催され、多数の学生が参加している。これまで説明会がなかった理由として、①近年の不況に至る以前は、本学の銘柄大学としての評価を生かして、ほとんどの学生を就職させることが可能であったこと、②就職説明会の機能が他の手段によって確保されていたこと、が考えられる。

就職説明会の機能としては、次のようなものが考えられる。

まず、最初の機能として、学生に対して、就職用のエントリーシートの書き方、面接の受け方、電話の対応などの就職活動に関する基礎的な知識を与えるというものがある。

次に、学生へのキャリア設計に関する知識を与えることにある。法曹資格や公認会計士などの資格試験や専門職の説明会では、そのための準備を行うことが説明されるが、これら以外の資格試験などで特別な準備が必要でないものについては、どのようなキャリア設計すればよいのか、学生は漠然とした知識しか持っておらず、このために説明会が機能する。さらに、就職説明会には、ある時点で学生に就職活動への自覚を呼びかけるという機能がある。企業の側もこれまでは本学を銘柄大学として優遇しており、学生は企業からの呼びかけに反応するだけでよかったという側面もある。

また、以前は、パワーエリートへの道が開かれていることについての学生の意識が明確に存在し、キャリア設計は自明のものとして考えられてきたという傾向がある。そこでは、公務員や大企業の社員といったキャリア選択が中心となり、一定数の学生が研究者を志望する以外の選択肢はほとんど考えられなかったといえよう。これらのことから就職説明会そのもののニーズが低く説明会を開かなくても、特に不満の声は挙がらなかったともいえる。

しかし、現在の経済情勢において、キャリア設計についての基本的な状況がこれまでと大きく変化し、将来の見通しが持てなくなっていることなどの危機意識を、学生が持たざるを得ない状況にあることは確かである。高度成長期以来の安定的なキャリアマップが音を立てて崩れようとしている。学生にとって、この条件のなかでどのような選択をすべきか不安定な状況に置かれていることが就職説明会に参加する動機ともいえる。

就職説明会へ参加しない学生は、これまでと同じパターンでの情報収集と就職手順を踏み従来型のキャリア選択を行い本学の銘柄を有効に利用していることがうかがえる。支援として制度化されたものが十分であるとはいえないが、「意識調査」において、不十分な就職支援に比べてその満足度がそれほど低くないのは、現実に困っていないという事実を反映したものであろう。そのことは、就職機会が充足していることへの満足であって、支援制度を他大学と比較して充実度を評価しているわけではない。

本学の銘柄を最大限に生かし、従来型のパワーエリートへのキャリアコースを志向する学生が多いのも事実である。激変する社会情勢のなかで、その選択が今後も有効に機能するものとはいえず、明確なキャリア選択に向けた支援制度が必要であろう。

4. 「意識調査」回答結果

実施した「意識調査」の回答結果をみてみよう。就職支援について、「支援・サービスと思わない」、「必要がないと思う支援・サービス」のうち、⑥就職・進路相談、⑦就職説明会を選んでいる学生、教職員はほとんどいない。就職の氷河期といわれる今日、本学においても就職活動の支援が不可欠なものと認識されている。一方で、就職に関心があるのは3回生以上の学生であることを割り引いて考えたとしても、「受けたことがある支援・サービス」で、⑥就職・進路相談を受けたとする学生は極端に少ない。また、企業・官庁にとっては、情報伝達、宣伝の場である就職説明会に参加したことのある学生は7人に1人である。かなりの学生が参加しているものの、十分とはいえない。

前述のように、本学における就職・進路支援は最近まで全学的な組織がなく、各学部

・研究科がそれぞれの対応をしてきた。一般的にいえることは、理系の方が外部からの直接の要請も多く、就職希望の学生と密な接触が行われている。これは本学における全学体制が常に抱える問題の典型的な事例とみなすことができる。このことは学生の評価にも反映している（図表5-3）。



図表5-3 進路支援についての学生の評価

ここでは、総合人間学部を理系とした。

進路支援に対する文系学生の評価が低いことは、図表5-3から明らかである。5段階評価の平均を取ってみても全体で2.89であるのに対して、文系学生は2.58である。ちなみに理系学生は2.99である。

- ・他大学などに比べて遅れていると思う。資料の閲覧などもできないし、説明会、講習会が少ない。（文 H12 学部入学）
- ・就職活動中、私学の人達に比べて不利だと感じた（他大学ではもっと就活関係の訓練を受けているため、例えば面接の練習や自己PRの方法等）。今までは“学歴社会”であったために“京大”がそうしたトレーニング不足を補って余りあるくらいだったかも知れないが、これからは違う。（文 H11 学部入学）
- ・私は他大学出身者だが、この大学のどこに就職情報を集める場所があるのかわからない。（文 H13 修士入学）
- ・就職についてはまったく学生が独自に行っている感を、他大学と比べると強く受ける。個別企業への、特に文系学生への後押しをもう少しやってくれてもいいのでは？（教 H11 学部入学）
- ・私の所属する学部では、そもそもどのスタッフが進路支援を行っているかが不明瞭。学生とスタッフの距離を縮める方法がないので、余計相談しにくい。（教 H12 学部入学）
- ・進路相談などあるのか？放ったらかしと違うのか。あるとしても存在を知らせないと。（法 H13 学部入学）
- ・就職相談への対応がなさすぎる。学生の主体性が要求されるのは当然であるが、だからといって学生サービスの必要がないわけではない。特に1、2回生向けのガイダンスを行い、研究生活、労働へのイメージを具体的なものにすべきである（それが固められず、今でも困惑している人が多くいる）。（法 H11 学部入学）

理系の学生においても本学の支援体制に満足していない。

- ・進路相談・就職相談とも、個別に対応する窓口が貧弱ではないか。大部屋でのガイダンスを通知するだけで、あとは何もしていないように見える。(理 H14 修士入学)
- ・どこに行けばそのような相談を受けられるのか分からないため、自分が進路を決めるときに困りました。(薬 H11 学部入学)
- ・学科の就職担当がいい加減だったので、掲示、対応など見直してもらいたい。(工 H13 修士入学)
- ・できれば、教官の人との個人面談のような形のものがある方が自分の進路などを話せると思う(2、3分程度でもよいので)。自分から教官のところに行きづらい雰囲気がある。(工 H11 学部入学)
- ・他大学と比較して充実していないと思うので、もっとたくさん情報を提供してほしいし、オープンな雰囲気がほしい。(農 H14 修士入学)
- ・学科、研究室の教官にはアドバイスをいただけるが、いわゆる就職課に相当するところがあってもよいのでは。(情報 H14 修士入学)
- ・大学院生にも就職ガイダンスを開いてほしい。就職相談窓口を増やしてほしい。(生命 H14 修士入学)

工学部や工学系の研究科における進路・就職支援は、学科・専攻単位、あるいは研究室単位で行われており、他の部局に比べよく機能していると思われる。工学部・工学研究科の学生の評価(図表5-4)は、



図表5-4 進路支援についての工学部・工学研究科の学生の評価

であり、5段階評価の平均も3.18であり突出して高い。自由記述にもこの事実はよく現れている。

- ・利用したことがないので何とも言えない。学部がしてくれるので不要かも。(工 H13 修士入学)
 - ・それなりに行われているのでいいと思う。(工 H14 修士入学)
 - ・このままでいいと思います。(工 H11 学部入学)
 - ・友人などの様子を見ていると就職相談等しっかりされているようなので、このままでいいと思う。(工 H11 学部入学)
 - ・とてもお世話になった(就職相談)。(工 H11 学部入学)
 - ・力になっていただきました。(工 H13 修士入学)
 - ・私は相談したことがないのですが、京都会館などで就職セミナーが行われているようで、進路支援はしっかりしていると思われます。(工 H14 修士入学)
 - ・工学部、工学研究科では、問題なく行われている。(教職員)
- しかしながら、工学部でも現状に不満を訴える者が少なくないのも事実である。研究

室などの小単位で個人を中心とした対応になっていて、支援にばらつきが多いということであろうが、支援体制のない部局に比べればはるかに恵まれているとあってよい。個人的支援の問題点を指摘する意見もあることに留意しておくべきである。

- ・部局によっては、指導教官等がかなりコントロール（縛りをかけている）しているところがあり、学生の意見が十分に反映されているか不明。必要以上の圧力がかけられないようにできないか。（教職員）
- ・工学系ではかなり丁寧な指導をしている。むしろ、学生の自由意思を無理に変えさせる恐れもあり、注意が必要。（教職員）

全学的な体制を整備すべきであることは論をまたないが、具体的にどのような組織にすべきか難しい問題である。きめ細やかな対応が行われているだけに、工学部における支援体制を、研究室から専攻単位に統合するだけでも形式的な支援になりかねない。

- ・各学部の就職状況に合わせ適切な指導ができるよう、各学部に専門の部署を置いてほしい。（文 H12 学部入学）
- ・掲示だけでなく、直接本人に情報を伝えるなどしてこのようなサービスの認知をもっと深めてほしい。（文 H14 学部入学）
- ・就職のための窓口、課を事務室に設置するのがよいと思います。「就職」は大学の核だと思います。（法 H13 修士入学）
- ・先輩方の就職活動の体験談や、企業の情報をもっと入手しやすくしてほしい。公務員試験の情報も法学部なのに少ないので、セミナーなどの形で提供してほしい。（法 H12 学部入学）
- ・学部・学科を越えて、全学として就職相談してほしい。（工 H11 学部入学）
- ・他大学と比較して充実していないと思うので、もっとたくさん情報を提供してほしいし、オープンな雰囲気がほしい。（農 H14 修士入学）
- ・就職課などを事務室に設けるべきだと思います。（エネ科 H13 修士入学）
- ・特に学部生相手の相談窓口を設置すべき。（教職員）
- ・講座主任の教授に対する負担が軽減されるとよい。（教職員）
- ・他大学のように教官・事務職員も含めた窓口をつくる。
- ・常設の相談窓口を設けるべき。配属研究室によって、就職の有利・不利がないよう学部で一括して取り扱う。（教職員）
- ・キャリア・サポート・センターに教官スタッフを置き、周知させ、拡大する必要があるのでは？（教職員）
- ・就職相談は、専従の組織（就職部長など）を設置し、支援体制を充実する。（教職員）
- ・大学院への進学指導がいたって不備。非適格者が多数進学している。強化必要。（教職員）
- ・現状では、理系では指導教官が行ったりもしていると思うので、そのあたりとの兼ね合いをどうしていくのが課題か???（教職員）
- ・全学としてまったく無責任な体制だと思われるが、私の所属する部局（専攻）単位ではきちんと運営されている、と思う。これを全学的に行うべきかどうかは判断する材料を持ち合わせていない。（教職員）

- ・これまで、学部・研究科によっては就職担当の教官や事務官を配置している場合もあるが、いわば「放ったらかし」であり、京都大学はほかの大学等と比較して綿密な指導は欠けていたと思われる。しかし、総合人間学部発足時に専門職員を配置し、就職指導を行ってきた実績もあり、さらにはキャリアサポートセンターの設置や就職ガイダンスの実施など徐々に体制を整えつつあると言えるのではないだろうか。ただ、学部レベルではまだまだであるというのが現状である。今後はより一層キャリアサポートセンターを、文字通り就職支援の中心組織として機能させることが必要であり、そのためにはスタッフの充実も図らなければならない。(教職員)

以上の意見はいずれも現状をよしとせず、何らかの改善が必要であることを主張している。その改善の方向もキャリアサポートセンターが統合、調整機能を果たしつつ、各学部・研究科の対応を工学部以上のものにしていくべきと、おおよそ一致している。学部としての対応は上記の工学部・工学研究科並びに後述の総合人間学部の取り組みが参考になる。

- ・総人では力を入れてもらっているが、ほかにも同様にやるか、何かすべき。(総人 H11 学部入学)
- ・総人にあるような進路相談室を全学に広げる。文学部などは不親切で有名である。(総人)
- ・総合人間学部のみが就職支援に力を入れているという印象を受ける。もっと全学を上げて行すべき。(文 H11 学部入学)
- ・総人で行われた就職説明会はとても参考になった。(文 H11 学部入学)
- ・サポートセンターがあるようだが、学生に聞くと何も得るものがない、総人みたいなことはしないのか、という声がある。全学のセンターならもっと大々的に宣伝し、活用されるような努力をすべきである。(教職員)
- ・総合人間学部は、新しい学部で就職相談には力を入れていると思う。(教職員)
- ・総人以外の部局はより積極的な進路支援が望まれよう。従来のような放任主義では、今や無理であろう。(教職員)
- ・大学としてのサポートがなされていない。出口が見えるようにサポートする必要がある。経験豊かな人材の配置と業者任せのサポートでは学生は満足していないし、教官、学生を含んでの WG で企画をすべきだと思います。全学学生が総人のガイダンスに頼っているのではないのでしょうか。(教職員)

「意識調査」において「進路支援」としたのは、理系学部卒業生の多数が大学院への進学を希望し、法学部の学生が少なからず法曹資格取得を目指している現状から、学生がキャリア設計にどの程度の支援を求めているかを認識する必要があったからである。大学院進学、資格取得の最終決定は本人が行うが、指導教官個々の支援が機能していることもあり、支援を求める意見はほとんどない。学生気質の変化、専門職大学院の構想など、広い意味の進路支援が求められている。

- ・大学院への進学指導がいたって不備。非適格者が多数進学している。強化必要。(教職員)
- ・大学院入試の際の成績のみで、講座配属が決定される場合、希望の進路と進めない可能性が多い。カンニングが多く非常に問題である。(教職員)
- ・大学院情報は過去問なども含め、もっと充実させてほしい。(総人 H11 学部入学)

5. 学部での支援制度の特徴と評価

1) 「聞き取り調査」のまとめ

① 就職の体制

今回、各学部・研究科に対する「聞き取り調査」の結果、ほとんどの部局等で就職担当者が置かれ、事務室で情報提供が行われていることが分かった。部局等によっては、専攻長や学科長が就職担当となっているところもあるなどその対応にばらつきはあるが、ほぼ全部局等にわたって就職担当の教官、事務担当者又は進路・就職に関する委員会組織が置かれ、就職に対する体制整備が図られつつある。

② 就職指導・資格試験

就職に直結した専門領域に関する資格試験等、そのガイダンスを含めた就職指導を行っている部局等は一部にある(4/19:「聞き取り調査」を行った19部局等のうち4部局等が該当することを示す。以下、同様。)。今後は、薬学部・薬学研究科や医学部・医学研究科のような将来就く職業に直結している部局は別として、所属学部・研究科の相談窓口が整備され、学生がキャリア設計に必要な資格試験等の情報提供を行うことにより新たなニーズにこたえることが可能となる。

現状は、一般的な資格試験等の情報収集は本人の積極的な努力に委ねられていることが多く、可否等に関する情報も試験実施機関に頼らざるを得ない。本学が特定の資格試験の受験を推奨するのであれば、有効な情報収集体制を構築する必要がある。

③ 就職ガイダンス

学部・研究科においては、進学・就職ガイダンスの必要性を認識していないところもあるように思われる。一例ではあるが、進路指導委員会及び進路指導室が設置されている総合人間学部の例を挙げると、4回生を対象とした進学ガイダンスを大学院入試実施前の7月頃に実施し、3回生を対象とした進学ガイダンスも10～11月頃に実施している。また、全回生を対象とした就職ガイダンスを3回、3回生を対象とした就職ガイダンスを11月～1月頃に1回実施している。さらに、大学院人間・環境学研究科の学生も対象に含め、数十社の参加企業の協力を得て企業ガイダンスを21回実施し、のべ参加学生数は3,000名近くに上っており(平成13年度(2001)実績)、他学部・研究科の学生も参加している。最近では、企業等が採用選考に使用しているテストである、「SPI 検査」の模擬テストを学内で実施しており、学生から好評を得ている。

④ 指導教官等

学生のキャリア設計支援を組織的に行っている部局はほとんどなく、その役割を指導教官が担っているのが実態であり、事務室等は情報提供のみにとどまっている。

新たに設置された国際融合創造センター(IIC)が、ベンチャービジネスに関する起業支援を実施するなど、これまでの対応とは異なった試みに着手しようとしている。進路・就職への多様化やそこから派生する様々な可能性が生まれつつあり、指導教官個々の努力

に依存するのみならず、学生のキャリア設計を組織的に支援する対策を検討する必要がある。

⑤ インタビューから

今回の点検・評価に当たって、マイノリティ・グループに対してのインタビューを実施した。そのなかで、企業等の説明会の情報が適切に伝達されず、就職支援活動を学部・研究科が行っていることすら認識できないとする意見があった。クライアントである学生への支援・サービスが機能していない実態を指摘しており、情報伝達・PR に対する積極的な改善策が望まれる。

2) 「聞き取り調査」結果からの評価

学部・研究科によって職業との関連の差異があるために、学部・研究科レベルでの対応が相当に異なる。医学部や薬学部においては、国家資格の取得を念頭に置きカリキュラムを編成することが、職業に直結した就職支援となっている。それぞれ国家試験のためのガイダンスを行い、その出席を最高学年である学生全員に求めており、就職支援というよりも資格取得への支援を行っているといえる。

医学部・薬学部においては、不適応で転学部するというケースを除けば、キャリアへの選択は既になされており、支援はそれを前提としている。

法学部においては、就職のためのガイダンスは行われていないものの、法曹資格取得を目指す学生のために、履修関係ガイダンスのなかで司法試験について触れており、国家公務員試験についても同様にガイダンスで説明が行われている。また、『便覧』には、司法試験及び国家公務員試験の資料がまとめて掲載され、一定のキャリア選択への支援が行われている。

工学部・工学研究科や農学部・農学研究科では卒業・修了後の進路と教育内容が連動していることが多く、公務員・企業への就職が比較的多い。教育・研究と分野が重なる企業との連携を利用して学外へのインターンシップ制度の整備が期待されている。ただし、工学部・工学研究科も農学部・農学研究科も就職支援は主として学科・専攻等を単位としている。それぞれの領域ごとに対応する就職先が異なり、窓口として学部・研究科では大きすぎることで、それぞれの業界の状況を知っている教員が学科・専攻等の単位でしか動けないこと、更には同窓会の編成などによるものである。また、両部局では、同窓を通しての情報収集や相互連携のためには、特定業界にくまなく同窓生を送り込む必要がある。それを通して、学問的にも実務的にも勢力を維持するという方策は多くの大学で採られており、これまではかなり機能してきたといつてよい。人脈による情報収集が機能することにより、同窓を縁とする人脈形成が大学の職業的機能の一部を構成していることは否定できない面がある。

そうした卒業生を送りこむ選択は、担当教員の努力に委ねられており、教室等の推薦による就職は、現在でも機能しているといつてよい。しかし、業界全体の枠組みが大きく変化しない状況であれば、この形式による就職は、学生にとっても望ましいものであるかもしれないが、現在のような激動期においては、進路が限定される等その有効性について

疑問視せざるを得ない。

企業活動と密接であるという点では、経済学部も類似した部分を持ち、企業の側も積極的に経済学部卒業生を採用しようとする。ただし、経済学部の学生は専門知識を買われての採用ではなく、ホワイトカラーとして柔軟性があるという意味での採用だと考えられる。こうしたこともあって、現在でも教員の側の積極的な就職関与（支援）は行われていない。就職担当者や就職ガイダンス、就職指導もないという状態で、学生を放置しておいても就職先はあるが、問題を残しているといつてよい。

同様のことは、教育学部にもいえる。教育学部は、教員養成ではなく、教育学・心理学などを主とする教育を行っており、これまでの卒業生も教員よりもマスコミなどを志望する学生が多く、実績でも一般企業へ就職する者が多数を占めている。教育学部の教育目標のなかには、教育政策や教育行政に当たる職業への方向付けはあるものの、特定の職業的方針はなく、学生の自主的な判断が優先されており、結果としては放任の形になっている。最近では、大学院修士課程修了を資格の前提とした臨床心理士に人気があるが、このような職業資格が増えてきたことにより、教育学部の職業指導も変化する可能性がある。

理学部、文学部、総合人間学部は職業的な意味からは現場とはかなりの距離がある。これらの学部は、ヨーロッパの大学の知的伝統を引き継いでおり、職業教育とは切り離されていることに共通点はあるものの、就職への対応はそれぞれ異なる。

理学部の学生の多くは大学院へ進学を希望する者が多い。以前は、大学院修了後、研究職や高校教員となる者が圧倒的に多かったが、現在は企業への就職が増加している。技術のすそ野が広がってきたために、基礎物理学や純粋数学といった領域にも企業の採用が拡大してきたものといえる。

文学部でも学生の多くは大学院への進学を希望する者が多いが、その進路については学生の自主的な判断が優先されており、これまでは制度化された就職支援を行っていない。しかし、ここ数年企業や官公庁等に就職する学生が増加しつつあり、文学部の性格が変化しているように、今後も就職する学生が増加し続けるならば、就職支援を制度化する必要があると思われる。

この両学部では、教育理念が職業教育に結びつきにくいだけに、就職支援をどのように設定するかという問題は持続する。結果として、教育が徹底するほど、職業への志向が弱くなることはあり、そのなかで支援の制度をどのように考えていくか、今後の課題となる。

総合人間学部の場合には、設置後それほどの期間が経っていないことから、同窓生を頼るなど、部局として本学の銘柄に依存することが難しい立場にあり、学部レベルでの就職ガイダンスが充実している。ガイダンス内容も、かなり丁寧であり、先輩を持たない学生に対して、就職の初歩から教えており、本学のなかではもっとも充実した就職支援を行っているといえる。これは、積極的に教育を職業と結びつけることによって学生の確保に努めているといつてよい。また、理系と文系の双方を抱えているという教育特性のため、統一的なイメージでの学生の売り込みが難しいということもあり、企業に対するアピールとしても学部主催の企業ガイダンスが行われていると考慮される。

総じて学部レベルでの対応は、かなり学部ごとの特徴が現れ、それぞれの学部の歴史的経緯を反映している。しかし、現在の段階では、大学に明確なアドミッションポリシー

が要求され、それに応じた学生の教育と職業的方向付けがなされる必要がある。これまでのキャリア形成を越えた対応にどのように応じられるかが求められており、現在の対応が十分であるのかを検討する必要がある。

6. マイノリティ学生支援

1) 女子学生支援

女子学生の就職支援は、全学就職ガイダンスで女性向けのものが開催されている程度で、ほとんどが自助努力によってなされている。それでも他大学に比較すると就職率は悪くないが、十分な支援が行われていないのが実状である。

女子学生の多い文系学部では就職専門の窓口を設置している学部はなく、単に資料を置くといった情報提供のみにとどまっている。全学の就職窓口であるキャリアサポートセンターが就職相談を一手に引き受けることになるが、各学部の状況に応じた就職相談カウンセリングが行われるわけではないため、一般的な就職活動についてのアドバイスにとどまらざるを得ない。

女子学生は、専門的な資格取得などに関心を向ける傾向にあり、その支援策の充実を図っていくことで、そのステップとして就職支援に結びつけることも考えられる。男女雇用機会均等法の存在はあるものの、女子学生のなかには、卒業後、人材派遣会社への就職という形で、事実上、フリーターになっている者もある。雇用情勢の悪化が続くなかで、女子学生支援はより積極的に行われる必要がある。

2) 身障者支援

身障者学生の絶対数がそれほど多くないことにもより、就職支援は特別に設けられていない。企業（事業所）には、事業規模によって一定比率での雇用が義務付けられており、本学を卒業した身障者が一定規模以上の企業等へ就職する場合には、ある程度優遇されてきたといってよい。

しかし、身障者の自立という点を考えた場合、それに頼っているだけでよいわけではなく、身障者の自立に向けた多様な支援策を今後検討する必要がある。

3) 留学生支援

留学生に対する組織的な就職支援はほとんど行われていない。留学生は、卒業後帰国するものと考えられてきたが、現在では、相当数の留学生が日本での就職を希望している。帰国する場合においても、日本での就職経験が自国での就職にとっても有利であるとする学生は多く、留学生への就職支援が必要とされるようになってきた。

その支援の実態は、指導教官による個人的努力によるものが多い。理系の場合には、かなりの実績を上げているようであるが、文系の場合には、留学生の就職実績が少なく、留学生のニーズに基づいた有効な支援が行われているか疑問である。

こうしたことへの早急な対策が求められているとともに、留学生の受入れの際に、かなり明確にアドミッションポリシーとの摺り合わせが必要とされる。研究者養成として留学生を受け入れるというだけではなく留学生のニーズが職業的キャリアの獲得であるということも考慮し、個々の学部・研究科のみならず全学的視点で積極的に取り組むべき課題といえよう。

4) 帰国子女支援

帰国子女については、法学部、経済学部では別枠で外国学校出身者のための入試を行っているが、海外経験を生かしたり語学力を伸ばしたりするなどの、特別な教育が行われているわけではない。資質の異なる留学生や帰国子女を同一のカリキュラムで教育し（留学生の場合には多少の違いが用意されている学部もある。）、学士試験合格として送り出すことが適切かどうかを検討する必要がある。

しかしながら、キャリア選択に向けた教育支援は行われていないものの、多くの場合には、その語学力等によって、企業側からマイノリティとしての扱いを受けているとは考えられないことから、これまで特別な支援が行われてこなかったといえよう。大学としてキャリア選択に向けた教育をどのように考えるかは難しい問題であるが、とりわけ帰国子女の場合においては、教育内容にその課題が存在するといえよう。

7. キャリア設計支援

就職支援の前段階でのキャリア設計についての支援策がほとんどなされていない。これは、これまでの「京大ブランド」の通用力が持続しているうちは問題にならないが、個人としてどのようなキャリアを選択すべきかという悩みを持つ学生には、極めて深刻な問題である。

高校までの生活経験しか持たない学生にとっては、自分に可能なキャリアの範囲はそれほど広くない。自分が体得し得るキャリアの範囲を拡大した選択を可能にするためには、相応の訓練やカウンセリングを必要とする。現在の状況では、学生個人が学習した結果、既存路線に組み込まれざるを得なかったとってよいのではなかろうか。現今のように大きく社会構造が変容して、社会全体の構造が変動する時代には、個別の学生のキャリア設計が問い直されることになる。

このような状況において、学生がキャリア設計の情報と自己分析が可能な支援を必要としていることはいうまでもない。しかし、現在の大学には、そのような支援の枠組みは設けていない。自分のキャリアを自己決定することは当然であるとしても、それに必要な情報提供や支援の枠組みが用意されていない状況は望ましいことではない。キャリアカウンセリングは、指導教員個々の努力に頼らざるを得ない現状ではあるが、就職指導に熱心なあまり、既存の社会構造にとられる傾向もなきにしもあらず、専門的なスタッフによる支援体制の構築が望まれる。

キャリア設計のなかで、進路支援として言及しなければならないのは、大学院への進

学である。一般に、理系学部の学生は、大学院進学を希望する者が多く、そのことが学部段階での就職支援が活発でないことの原因の一つとして考えられよう（資料5-3）。医学研究科に専門大学院が設置され、その他の理系では大学院修士課程の在り方が、研究者養成とともに高度専門職業人の養成を視野に入れており、その方向に文系も進みつつある。今後、修士修了時点での就職支援活動に力を注ぐことが重要になるだろう。

大学院進学状況は、学部・研究科によって様々ではあるが、企業の修士課程修了者と学部卒業者の採用時を比較した場合、文系と理系では同年採用時における処遇に差があることから、大学院進学率の差が生じてきたことはこれまでも指摘されている。就職支援あるいは進路支援のスタンスをどこに置くかによって左右される要素となるものであり、社会情勢の把握を的確に行う必要がある。理系に関しては、パワーエリートになるための要件として大学院進学をとらえることができるが、その状況がどこまで持続するか、あるいは新たな展開があるのかに注視すべきである。

第二新卒（入社後まもなく退職し、次の年度の採用活動に参加する卒業生）は、キャリア選択の結果として、その修正を必要とする状況にある。彼らへの対応は、そこに至るまでのキャリア設計支援でなければならず、その対応は、各学部・研究科等でまちまちである。それも部局等の窓口ではなく、個別の教員に対応を求めるケースが多い。したがって、不適応や失敗の原因を把握するという事は難しく、情報のフィードバックが機能しない。今後、この支援を行うに当たっては、なぜ不適応を起こしたのか、キャリア設計のどこにミスがあったのか、どのような情報が追加されるならば選択ミスが防げたのかといった情報を大学が蓄積することが必要となる。

また、キャリア設計において、既存の企業や公務員、専門職の枠組みだけではない可能性が増大していることにも注意する必要がある。起業等に関しては、学生がベンチャーを起業するというケースは徐々に増大している。特に理系学生が技術を持って起業するケース、これに文系の学生が参加するというケースなど、既にいくつかの事例が現れている。このようなケースに対応するような支援策は現在では非常に希薄である。わずかに、学内では、国際融合創造センター（IIC）による創業のための講義（単位にはならない）と、経済学部で、ベンチャービジネス論が開講されている程度である。今後、ビジネススクールや MOT スクール（技術経営大学院）などの構想のなかで、本学から発信するベンチャー企業支援のための知的支援策が必要となる。

さらに、現在では NPO や国際公務員といった領域が拡大している。NPO も単なるボランティアではなく、有償ボランティアの形で、職業としての可能性が高くなってきている。国際公務員も、これまでとは異なり、直接に応募する形態が増大しており、大学から直接に就職するという可能性が高くなってきた。

これらについて、指導教員は、どのようにすれば就職することができるのか、また、どのような知識や教育が必要であるのかといった点に関する情報や経験を兼ね備えているわけではない。個別の教員による情報や知識の蓄積はもちろんであるが、大学内で制度としての就職関係の情報アーカイブが存在することが望ましい。

キャリア設計支援を今後どのような制度で対応すべきかという点は検討しなければならないが、就職支援以前の段階における支援が必要な情勢であることは間違いなく、そのための制度を各学部・研究科レベルで十分に考えることが重要である。

8. 結論・評価

本学の就職支援における制度的実態について、強固な支援体制を築いているとはいえない。それにもかかわらず満足度の高い学生がいるのは、実際に就職活動を行った結果として、自分が満足できるようなキャリアに就けたという状況に由来している。

要するに、本学の学生は、就職しようと思えば、どこかに就職は可能である。しかし、どこに就職すればよいかという点では、高度成長期のように明確にパワーエリートのコースがみえているわけではない。そのためのガイドラインが不明確であり、さらに、それ自体が望ましいかどうかという価値観の不安定さに直面している。

この点では、本学の学生は贅沢な悩みを持っているといえなくもない。しかし、社会的に有為な人材を提供しようとするならば、就職支援以前のキャリア選択支援を充実させる必要があることも明らかである。その意味では、本学の現在のキャリア設計支援は乏しい状態にあり、改善の必要があるといつてよい。

大学は社会に対して人材供給の機能を持っているだけに、どのような人材をどの領域が必要としているかについての状況判断や大学としての戦略的判断を行う部局等が必要とされているといつてよい。本学が社会的に意義ある存在であるためには、人材供給について、大学の側の判断だけではなく、人材受入れ側にどのようなニーズがあるのか、学生の意識が変わり、社会のニーズが変化してきていることに対応した職業教育としての大学教育をどのように考えるかについて明確な判断が求められている。

職業教育としての大学教育は、既に、本学内での研究チームが調査を行っている（竹内洋編『職業教育としての大学』広島大学高等教育叢書広島大学高等教育研究所刊、1995）が、そこでの結論もまた、大学の意図せざる教育の側面としての職業教育が、実際には社会や卒業生に対して重要な意味を持っているというものであった。大学が否応なく社会的な存立基盤を問われている現在、教育が学生のキャリアと連動していることが求められているといえよう。キャリア設計支援という領域は、職業教育としての大学教育を有効にするという意味において、教養教育の側面を明確にするためにも必須であるといえる。

現在の大学には、アドミッションポリシーを明確にすることが求められているが、それは、学生の入口だけではなく、出口における状態、どのような学生を社会に送り出すかという点をも含んでいる。アドミッションポリシーと連動した職業教育像の明確化を考慮した教育の充実が求められている。

資料5-1 平成13年度産業別就職状況

産業名		学部		大学院修士課程		大学院博士(後期)課程	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率
農業		2	0.2%	2 (1)	0.2%	2	0.5%
林業・狩猟業		1	0.1%	1	0.1%		
漁業・水産業				1	0.1%		
鉱業		1	0.1%	2	0.2%		
建設業		23 (4)	2.7%	49 (8)	4.4%	3	0.8%
製造業	食料品・たばこ	15 (5)	1.8%	59 (14)	5.3%		
	繊維工業	2	0.2%	4	0.4%	1	0.3%
	衣服・その他繊維	3 (1)	0.4%	10 (2)	0.9%	1	0.3%
	出版・印刷	28 (10)	3.3%	17 (2)	1.5%		
	化学工業	29 (11)	3.4%	139 (41)	12.4%	22 (2)	5.7%
	石油・石炭製品	2 (1)	0.2%	5	0.4%		
	鉄鉱業	19 (3)	2.2%	23	2.0%	1	0.3%
	非鉄金属	2	0.2%	2 (1)	0.2%		
	金属製品			3	0.3%		
	一般機械器具	15	1.8%	39 (5)	3.5%		
	電気機械器具	54 (9)	6.4%	218 (14)	19.4%	6	1.6%
	輸送用機械器具	34 (5)	4.0%	57 (2)	5.1%		
	精密機械器具	7 (1)	0.8%	31 (5)	2.8%	1	0.3%
その他	10 (2)	1.2%	38 (6)	3.4%	5	1.3%	
電気・ガス・水道業		22 (5)	2.6%	38 (4)	3.4%		
運輸・通信業	運輸	19 (5)	2.2%	22 (1)	2.0%	1	0.3%
	通信	15 (4)	1.8%	27 (3)	2.4%		
卸・小売業	卸売業	30 (2)	3.5%	6 (1)	0.5%	1	0.3%
飲食店	小売業	6 (3)	0.7%	3 (1)	0.3%		
金融・保険業	銀行・信託業	73 (13)	8.6%	17 (1)	1.5%		
	証券・商品取引	16 (7)	1.9%	9 (1)	0.8%	1 (1)	0.3%
	保険	42 (6)	4.9%	2	0.2%	2	0.5%
	その他	9 (1)	1.1%	4	0.4%		
不動産業		5	0.6%	1	0.1%		
サービス業	医療保険	3 (1)	0.4%	4 (1)	0.4%	49 (3)	12.7%
	法務	4 (2)	0.5%	3	0.3%		
	教育	18 (9)	2.1%	13 (3)	1.2%	94 (18)	24.4%
	宗教	1	0.1%				
	非営利団体	8 (5)	0.9%	27 (6)	2.4%	146 (18)	37.8%
	その他	165 (44)	19.4%	159 (33)	14.2%	15 (1)	3.9%
公務	国家公務	82 (19)	9.7%	47 (6)	4.2%	5	1.3%
	地方公務	62 (20)	7.3%	34 (10)	3.0%	5	1.3%
上記以外のもの		22 (7)	2.6%	7 (3)	0.6%	25 (1)	6.5%
合計		849 (205)		1,123 (175)		386 (44)	

(注) ()内は、女子を内数で示す。

資料5-2 平成13年度職業別就職状況

職業名	学部		大学院修士課程		大学院博士(後期)課程			
	人数	比率	人数	比率	人数	比率		
科学研究者	10 (4)	1.2%	146 (31)	13.0%	169 (19)	43.8%		
農林水産業・食品	2 (1)	0.2%	62 (13)	5.5%	3	0.8%		
技術者 鉱工業	機械	23	2.7%	119 (7)	10.6%	1	0.3%	
	電気	25 (3)	2.9%	194 (9)	17.3%	5	1.3%	
	化学	10 (3)	1.2%	105 (25)	9.3%	20 (1)	5.2%	
	その他	9	1.1%	39 (4)	3.5%	2	0.5%	
技術者 その他	土木・建築	18 (1)	2.1%	59 (10)	5.3%	4	1.0%	
	情報処理	50 (11)	5.9%	105 (12)	9.3%	1	0.3%	
	その他	20 (2)	2.4%	133 (22)	11.8%	8 (1)	2.1%	
専門的・ 技術的 職業従事者	教員	幼稚園						
		小学校						
		中学校						
		高等学校	9 (4)	1.1%	7 (3)	0.6%	2 (1)	0.5%
		高等専門学校						
		短期大学					1 (1)	0.3%
		大学			2	0.2%	65 (11)	16.8%
		盲・聾・養						
		その他	4	0.5%	1	0.1%	6 (2)	1.6%
薬剤師 医師	医師・歯科医師					49 (3)	12.7%	
	獣医師							
	薬剤師	3 (1)	0.4%	4 (1)	0.4%			
	看護婦・保健婦							
医療保健	栄養士							
	その他							
芸術家・デザイナー	4	0.5%	1 (1)	0.1%				
その他	14 (4)	1.6%	16 (3)	1.4%	2 (1)	0.5%		
管理的職業従事者	2	0.2%						
事務従事者	595 (162)	70.1%	82 (25)	7.3%	16 (2)	4.1%		
販売従事者	31 (4)	3.7%	29 (2)	2.6%	8 (1)	2.1%		
サービス職業従事者	4	0.5%	5 (1)	0.4%				
保安職業従事者								
漁業 農林	農林業従事者	1	0.1%					
	漁業従事者	1 (1)	0.1%					
運輸・通信従事者	1	0.1%	3 (1)	0.3%	1	0.3%		
技能、採掘・建設、労務								
上記以外の者	13 (4)	1.5%	11 (5)	1.0%	23 (1)	6.0%		
合計	849 (205)		1,123 (175)		386 (44)			

(注) ()内は、女子を内数で示す。

資料5-3 平成13年度卒業（修了）者の進路状況

		進学	就職	研修医	その他	計
学部	総合人間学部	59 (44.4%)	49 (36.8%)		25 (18.8%)	133
	文学部	69 (30.4%)	107 (47.1%)		51 (22.5%)	227
	教育学部	15 (26.8%)	32 (57.1%)		9 (16.1%)	56
	法学部	24 (5.8%)	248 (60.0%)		141 (34.1%)	413
	経済学部	28 (11.6%)	181 (75.1%)		32 (13.3%)	241
	理学部	246 (78.1%)	47 (14.9%)		22 (7.0%)	315
	医学部	1 (0.9%)		101 (94.4%)	5 (4.7%)	107
	薬学部	69 (82.1%)	7 (8.3%)		8 (9.5%)	84
	工学部	825 (80.6%)	136 (13.3%)		62 (6.1%)	1,023
	農学部	240 (79.5%)	43 (14.2%)		19 (6.3%)	302
	小計	1,576 (54.3%)	850 (29.3%)	101 (3.5%)	374 (12.9%)	2,901
大学院 修士課程	文学研究科	49 (50.0%)	8 (8.2%)		41 (41.8%)	98
	教育学研究科	25 (64.1%)	13 (33.3%)		1 (2.6%)	39
	法学研究科	16 (25.0%)	37 (57.8%)		11 (17.2%)	64
	経済学研究科	33 (52.4%)	18 (28.6%)		12 (19.0%)	63
	理学研究科	120 (56.9%)	79 (37.4%)		12 (5.7%)	211
	医学研究科	9 (40.9%)			13 (59.1%)	22
	薬学研究科	35 (44.9%)	41 (52.6%)		2 (2.6%)	78
	工学研究科	98 (16.9%)	463 (79.7%)		20 (3.4%)	581
	農学研究科	100 (35.8%)	170 (60.9%)		9 (3.2%)	279
	人間・環境学研究科	66 (54.1%)	41 (33.6%)		15 (12.3%)	122
	エネルギー科学研究科	13 (12.0%)	95 (88.0%)			108
	アジア・アフリカ地域研究研究科				3 (100.0%)	3
	情報学研究科	28 (16.7%)	131 (78.0%)		9 (5.4%)	168
	生命科学研究科	52 (63.4%)	27 (32.9%)		3 (3.7%)	82
小計	644 (33.6%)	1,123 (58.6%)		151 (7.9%)	1,918	
大学院 博士（後期） 課程	文学研究科		5 (8.1%)		57 (91.9%)	62
	教育学研究科		15 (45.5%)		18 (54.5%)	33
	法学研究科		11 (84.6%)		2 (15.4%)	13
	経済学研究科	2 (6.1%)	16 (48.5%)		15 (45.5%)	33
	理学研究科	2 (1.0%)	132 (68.0%)		60 (30.9%)	194
	医学研究科		92 (66.2%)		47 (33.8%)	139
	薬学研究科		18 (66.7%)		9 (33.3%)	27
	工学研究科		45 (45.0%)		55 (55.0%)	100
	農学研究科		46 (56.8%)		35 (43.2%)	81
	人間・環境学研究科		6 (8.6%)		61 (87.1%)	70
	エネルギー科学研究科		2 (10.5%)		17 (89.5%)	19
	情報学研究科		4 (17.4%)		19 (82.6%)	23
	小計	4 (0.5%)	392 (49.4%)		398 (50.1%)	794
合計	2,224 (39.6%)	2,365 (42.1%)	101 (1.8%)	923 (16.4%)	5,613	

(注) 大学院修士課程のアジア・アフリカ地域研究研究科は、修士修了相当者を指す。
進学者とは、大学院、大学学部、短期大学専攻科のいずれかに進んだ者の数を示す。
博士(後期)課程には、研究指導認定退学した者を含む。

第Ⅵ章

生活支援及びキャンパス整備

第VI章 生活支援及びキャンパス整備

1. 序—自己評価の視点

これまで、国立大学は、教育・研究に専念することが本務で、大学の管理・運営については、国のルールに従っている限り、「問題なし」の免罪符が与えられてきた。「経営」についても、予算配分に当たり、国から支給される財源をそのルールに従って学内に配分している限り、同様であったといつてよい。そのため、今日の社会通念、経済的状況のなかで到底容認されないような管理・運営上の問題が顕在していても、外部の評価にさらされるか社会的な批判を浴びない限りは、解決の難しい問題であればあるほど「放置されたまま」の状態が続いてしまうことも多い。時折、真摯な自己反省がそこに光を当てても、対応を自助努力に委ねられるだけではすぐに限界を迎え、いつしかそれは「仕方がないこと」として諦念されてきた。自分の力で自己改革する自由を規制される代わりに、自らの責任を問われることもなく生きていける組織にあっては、そこで行われる自己点検や自己評価は、常に「自己弁護に至る自問自答」に陥る傾向がある。

国立大学は、平成16年度(2004)から国立大学法人に移行する予定であり、法人化後の大学の管理・運営と経営の責任は、直接大学にかかることとなる。個々の大学の経営手腕の巧拙により、学生や教職員の減少、また、外部資金や競争的資金の減少などをもたらし、経済的な「ツケ」としての結果を招くことにも繋がる。そのような事態を目前に控え、これまで大学が手付かずで抱えてきた問題を広く構成員に周知(情報開示)し、資金的な裏付けを基に具体的な課題に早急に取り組み、健全な対策が実施できる体制を築き上げておくことが急務である。したがって、この自己点検・評価は、新たな体制に向かおうとする確かな「自覚と意思」を大学の構成員から感じることができ、大学が抱えているはずの問題を、構成員が共通的に危機意識を持って認識し、有効な対策を見出す努力をしようとしているか、その姿勢を評価するものとして位置付けられよう。

本章では、『『学生支援』に関する意識調査』の回答結果の「生活支援及びキャンパス整備」に焦点を当て、その内容に関する適切性と今後の改善策について記されている自由記述を分析し基本的な資料とした。そのなかで、サービスを受ける側である学生の評価と問題点の指摘、要望を取りまとめ、サービスを提供する側の教職員の意識を比較し、その問題解決のために前向きな管理・運営の取組みが提案されているかを検討し、「生活支援」に関する自己点検・評価を行うことにした。

2. 学生のための生活支援とは何か

これまで本学が学生に提供してきた生活支援としては、以下の5項目に集約される。

- a) 健康管理、カウンセリング
- b) 住居：下宿、アパート、学生寮
- c) 交通：駐車・駐輪、学内連絡バス

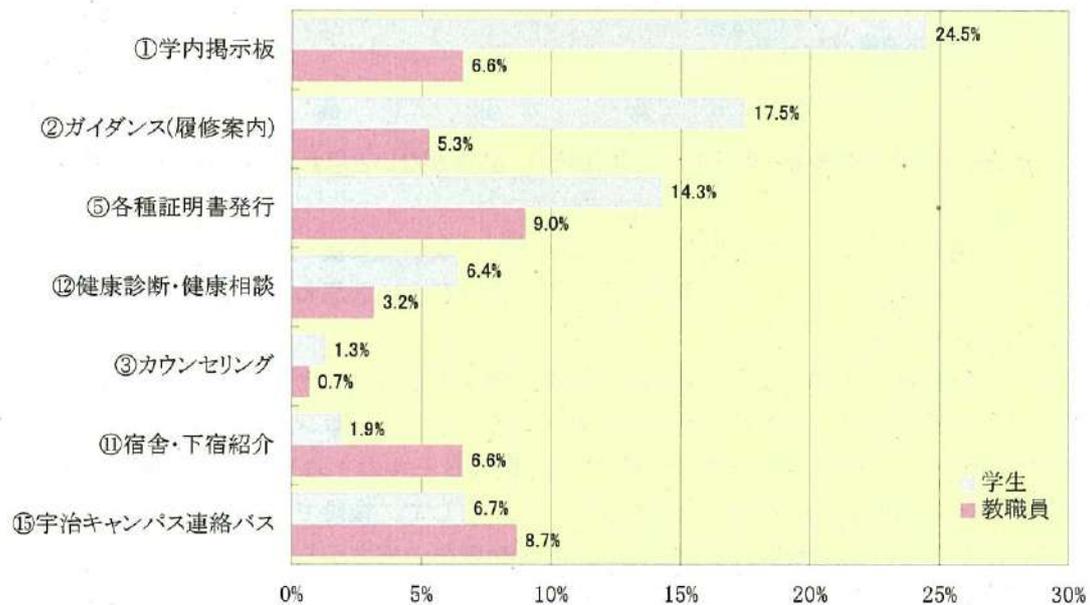
- d) 身体障害者支援
- e) 大学における生活環境：憩いの場、学生会館、アメニティ、学生控室、生協、モニュメント

まず、今の学生や教職員が、「何が学生のために必要な生活支援」と考えているのかを知るには、「意識調査」の設問「受けたことがある支援・サービス」、「支援・サービスと思わないもの」、「必要がないと思う支援・サービス」（いずれも複数回答可）、の結果が参考になる。

設問のなかで、生活支援にかかわる項目として選択肢に挙げられたものは、③カウンセリング、⑪宿舍・下宿紹介、⑫健康診断・健康相談、⑮宇治キャンパス連絡バス、の4項目である。

学生への「受けたことのある支援・サービス」の回答結果では、⑫健康診断・健康相談が全体のなかでも最も多く、91.4%である。長い行列を作る一斉の定期的な健康診断は、小・中・高までの教育課程では受診が義務付けられてきたことや、定期健康診断を受検しなかった場合、試験を受けられないことにもよろう。また、⑮連絡バスは13.7%、吉田キャンパスから宇治キャンパスに教育・研究のために通わねばならない学生にとっては、当然、必要な交通手段となる。一方、任意性のある③カウンセリングは5.1%、⑪宿舍・下宿紹介は5.4%であった。

「支援・サービスと思わないもの」について、学生で高い値のものを順に示すと、①学内掲示板、②ガイダンス(履修案内)、⑤各種証明書発行である。しかし生活支援関連の項目である⑫健康診断・健康相談、③カウンセリング、⑪宿舍・下宿紹介、⑮宇治キャンパス連絡バスは図表6-1のとおり低い値であった。ここでの値の低さは、逆に、それらは、「支援・サービスと思っている」方の項目とみなされていると考えるのが妥当であろう。



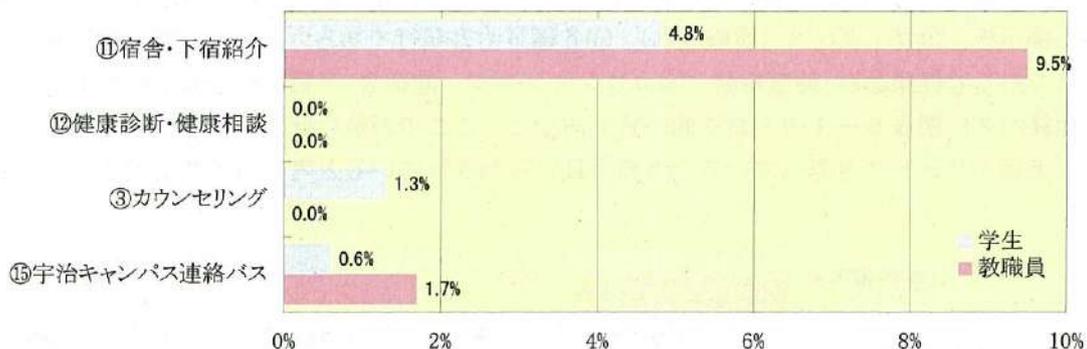
図表6-1 「学生支援・学生サービス」だと思わないもの

さらに「必要がない支援・サービス」をみると、⑰課外教養行事が、より高い値である一方、①学内掲示板は極端に低くなっている（図表6-2）。参加に任意性のある⑰課外教養行事は、サービスから外してもよいが、①学内掲示板は、大学にあって然るべき必要な設備であり、学生支援や学生サービスと呼ぶべきものではなく、情報伝達のための手段と考えられている。



図表6-2 「学生支援・学生サービス」のうち、必要がないと思われるもの

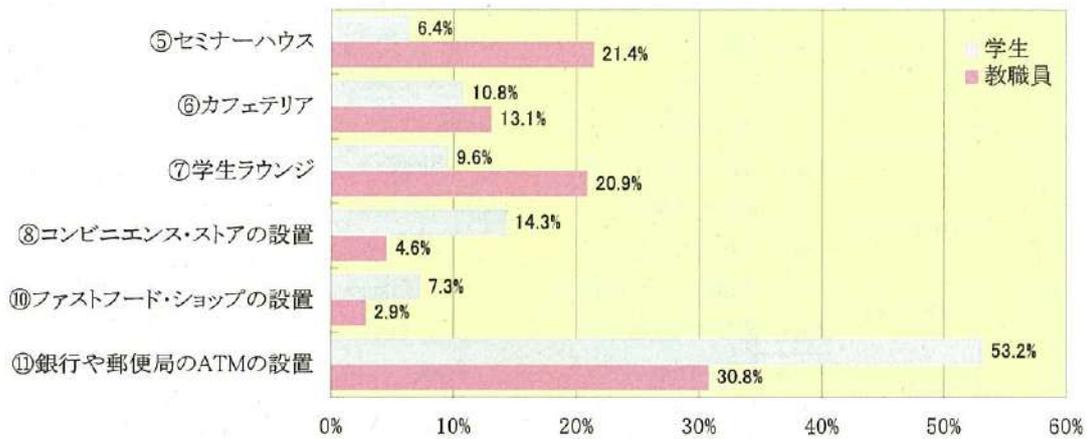
生活支援関連の項目で「必要がない支援・サービス」と回答されたもので、その数値が最も高いものでも⑩宿舍・下宿紹介の（学生4.8%、教職員9.5%）である。それ以外の⑫健康診断・健康相談、③カウンセリング、⑮宇治キャンパス連絡バスは非常に低い値である（図表6-3）。これらは、学生のために「絶対必要」なサービスとして意識されていることを物語るものであろう。



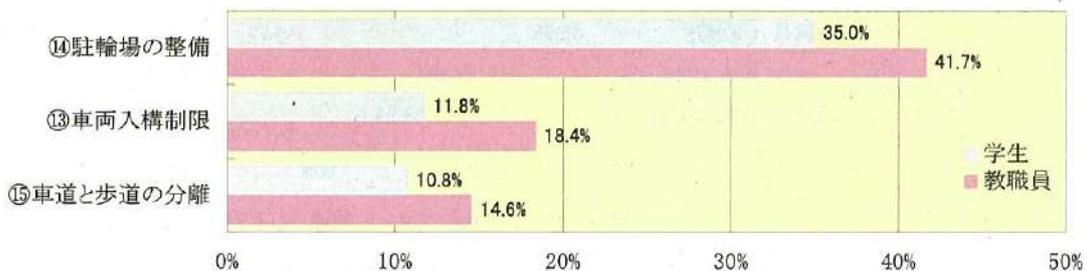
図表6-3 「学生支援・学生サービス」のうち、必要がないと思われるもの（生活関連）

「意識調査」では、本学が現在十分には行っていない「支援・サービス」として17の項目を挙げ、そのなかから、本学が特に力を入れた方がよいと思われるものを3つ挙げる設問がなされている。

生活支援関連の項目には、学生会館の建設に関係する⑤セミナーハウス、⑥カフェテリア、⑦学生ラウンジ、今後の学外からの導入施設として、⑧コンビニエンス・ストアの設置、⑩ファストフード・ショップの設置がある。図表6-4のとおり⑪銀行や郵便局のATMの設置には、学生から最も高い要望がきている。そして、後段で取り上げる、キャンパス整備にかかわる、⑭駐輪場の整備には、学生・教職員の双方から高い要望が出ており、具体的な対策としての⑬車両入構制限、⑮車道と歩道の分離にも、学生、教職員、双方から1割以上の要望がある（図表6-5）。



図表6-4 特に力を入れた方がよいと思われるもの（生活関連）

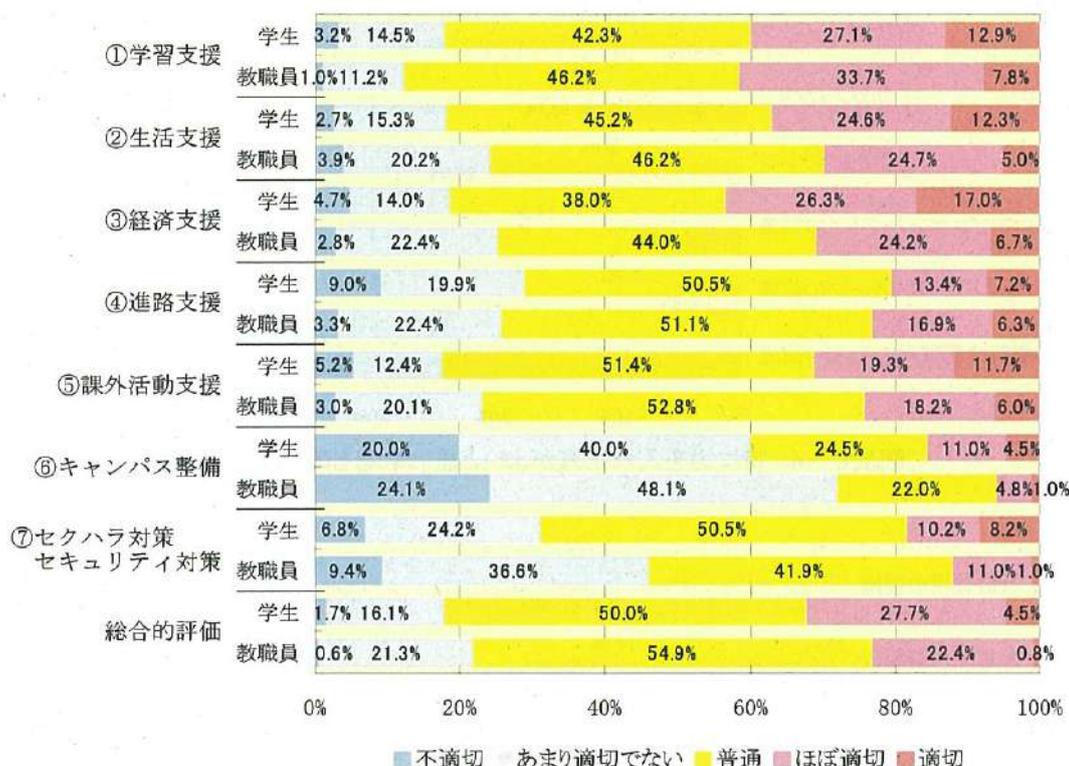


図表6-5 特に力を入れた方がよいと思われるもの（キャンパス整備）

この結果から、本学の本部構内で現在必要とされている生活支援の基本的な姿が把握される。まず、極めて今日的な需要といえるのが、学生、教職員の双方から要望の多い⑪銀行や郵便局のATMの設置である。これは学生からの要望が、それぞれ10%程度ある⑧コンビニエンス・ストア、⑥カフェテリア、⑩ファストフード・ショップの設置と同様に、国立大学の法人化の後、外部資本の導入により可能となる極めて現実的な課題である。次にキャンパス整備の根幹である駐車・駐輪場の整備については、構内に駐車する自動車に対しては、⑬車両入構制限と⑮車道と歩道の分離を望み、路上に溢れる自転車については、その必要性から、学生、教職員共々、⑭駐輪場の整備を極めて強い要望として望んでおり、特に教職員の要望は最高の4割にも及び、次に高い要望の⑤セミナーハウスや⑦学生ラウンジの2倍の数値となっている。

3. 健康管理、カウンセリング、宿舎紹介、学生寮などの生活支援

「意識調査」の設問 7-1（教職員では設問 5-1）では、「②健康管理、カウンセリング、宿舎紹介、学生寮などの生活支援」の総合的な判断が、「適切である」から「不適切」までの5段階評価で問われている。学生、教職員の回答結果を全体的評価として示し（図表6-6）、さらにそこで同時に記された自由回答形式の「今後の対応」を分析することで、課題や問題点を抽出することにした。



図表6-6 「学生支援・学生サービス」の総合的判断

1) マイナス評価の考察

②生活支援に対して、「不適切である」及び「あまり適切ではない」のマイナス評価を与えている者は、学生で18.0%、教職員は24.1%である。

設問 7-1（教職員では設問 5-1）の他の項目での、学生、教職員の同様なマイナス側の評価の比率を比較のために図表6-7に示す。このなかで⑥キャンパス整備を学生、教職員とも、6割〜7割が「不適切」及び「あまり適切でない」としていることを別格にすれば、②生活支援は、⑦セクハラ対策・セキュリティ対策の学生31.0%、教職員46.0%よりも低く、実際、学生で2割程度、教職員ではそれより少し高めの値であり、他の項目同様、平均的にはそれほど不満が持たれているわけではない。しかし同時に自由回答のなかから「今後の対応」を詳しく分析すると、本学での学生の生活支援には、特化した問題が存在することが分かる。

図表6-7 「学生支援・学生サービス」の総合的判断のマイナス評価の比率

	学生	教職員
① 学習支援	17.7%	12.2%
② 生活支援	18.0%	24.1%
③ 経済支援	18.7%	25.2%
④ 進路支援	28.9%	25.7%
⑤ 課外活動支援	17.6%	23.1%
⑥ キャンパス整備	60.0%	72.2%
⑦ セクハラ対策、セキュリティ対策	31.0%	46.0%
総合的評価	17.8%	21.9%

2) 自由回答「今後の対応」の分析

自由回答には、学生、教職員が意見を寄せている。内容は、1) 全体的な対応、2) 健康管理・診断、3) カウンセリング、4) 宿舎紹介、5) 学生寮、の5項目に分けられ、その内容は、a) 現状でよい、満足、b) もっと量や質を充実、c) 広報・PR不足、d) その他（そのような支援を知らない、いない、他に委託、など）に分けられる。この二つの分類のクロス集計を取り、その比率の大小を、学生と教職員と比較することで、生活支援にどのような考えを持っているかを理解することができる。以下に特徴ある部分を抽出し、評価を加える。

- (1) 自由回答で大学の現在の生活支援を、「現状でよし」とする肯定的な判断は、教職員では5%以下であるが、学生では15%とその3倍あり、健康診断の評価も含めて現状に肯定的な評価を与えるものがかなりいる。
- (2) 学生からは、「このような生活支援のサービスがあることを知らなかった。もっとPRすべき」とする意見が、3割を超えてあり、より積極的な広報努力が求められよう。
- (3) 25%近くの教職員が、学生のためカウンセリングや心のケアにかかわるサービスを充実させるべきであると考えているのに対して、学生からの同じ要望は5%に満たない。少なくともカウンセリングは、セクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントとして現れることになる問題を未然に防ぐことになり、学生が潜在的に抱える問題を早期に把握して対応する上でも、大学がこれから率先して整えていくべきサービスである。
- (4) 学生寮には、双方から多くの不満が上がっており、自由回答をした学生の23%近く、教職員も40%を超えて、現状を酷評しており、部屋数の絶対的不足や老朽化、衛生や設備の不備など、量的、質的な面とともに、管理・運営についての改善を強く要望している。学生の評価を端的に示す回答として、「あんな学生寮で、学生支援になっているわけない」とか、「吉田寮とか熊野寮は怖くて近づけない、あっても入りたくない」などがある。一方、教職員からも、「学生寮は最低の水準にある」、「寮の状況は非常識」という厳しい評価がなされており、管理体制の改善や、留学生のための新寮建設などが急務であるとしている。学寮問題は、本学積年の「負の遺産」であり、法人化を前に、その適切な対応と決断を「先送り」してはならない問題である。

4. 駐車・駐輪場、学生会館などのキャンパス整備

1) マイナス評価の考察

「意識調査」の設問7-1（教職員では設問5-1）で「⑥駐車・駐輪場整備、学生会館などのキャンパス整備」についての総合評価が問われている。7つの項目に分けて問われている学生支援の総合評価では、この「⑥キャンパス整備」に対して、構成員からの最も厳しい批判が集中している。「不適切」及び「あまり適切でない」を回答した者は、学生で60.0%、教職員では72.2%にも達する。比較のために、他の項目でこの「適切でない」の

側に評価された比率をみると、学生では、「⑦セクハラ対策・セキュリティ対策」が次に不評の31.0%、「④進路支援」が28.9%、その他はいずれも20%以下であった。一方、教職員では、「⑦セクハラ対策・セキュリティ対策」がやはり次に多くて46.0%、それ以外の項目のこの「適切でない」の側に評価された比率は、いずれも25%以下であった（図表6-7）。先に設問6（教職員では設問5）で示した結果でも、今後、本学が力を入れるべきサービスには、「⑭駐輪場の整備」が学生の35.0%、教職員の41.7%の高い比率で望まれていたように、キャンパス整備の中心課題は、学内の駐車・駐輪の問題である（図表6-5）。

2) 自由回答「今後の対応」の分析

ではこのキャンパス整備に対して、今後、どのような対応や改善をしていったらよいかを問う自由回答には、多くの学生、教職員が意見を寄せている。その内容を整理・分析してみると、学生に比べ、教職員の方がより深刻にこの事態を憂い、具体的な対策を考えていることが分かる。以下に学生と教職員に分けて、その評価・要望の構図を整理する。

① 学生の意見

- (1) 学生では、大学の最近行われた駐輪整備の努力に、「良くなっている」、「整備員に感謝する」、「このままでよい」といった好意的な評価を述べているものが9%ほどいる。
- (2) しかし残りの9割は、今のキャンパスの整備状況に対して強い不満を示している。狭いキャンパスに建物が多く建てられ、そこに車と自転車が路上に溢れ、放置自転車も多く、歩行者の安全が危惧される現状をとんでもひどい状態であると訴えている。
- (3) その対応としては、まずソフト的な対策として「入構規制(車の乗り入れ禁止)」を挙げるものが9%あり、ハード的な対策として、「駐車場の整備」を挙げるものが15%ある。
- (4) 「駐輪場の整備」は最も多く、37%を占める。駐輪施設としては最近設置されたコンクリート製据置き型駐輪装置には不評の声も多く(3.5%)、屋根付や2階建て駐輪場の要求も目立つ(3%)。また、定期的な放置自転車の撤去の要望も強い(7%)。
- (5) 関心がないのか、学生の学生会館整備の要望は少なく、1%程度であり、狭いキャンパスにこれ以上建物を増やす必要はないとする意見の方が3%に達している。

これら9割に達する学生の要望を踏まえ、狭隘な吉田キャンパスをこれ以上建物や施設で埋め尽くすことなく、地球環境に配慮しながらより豊かで美しい教育・研究環境をもたらすことが望まれる。その進め方は、学生らの指摘のなかにも明確に示されている。まず駐車場や学生会館の建設といった多額な経費を要する施設でこの問題の解決を図るのではなく、車の入構規制の徹底、歩行者を優先した歩道と自転車道の分離、そして定期的な放置自転車の撤去といったソフト的な対策(規制)からの実施である。

② 教職員の意見

- (1) 教職員では、現在のキャンパス整備を是とする意見は1%以下である。
- (2) 車の「入構制限」を要望するものが18%、そのうち約半数は、車の全面的な入構禁止

を求めている。

- (3) 「駐車場の整備」を求めるものは20%、このうちの3割が駐車場の地下化・立体化や有料化を望んでいる。
- (4) 車の駐車場は障害者用のみとする、又は構内に駐車場は不要とする者は6%ある。
- (5) 自転車の駐輪場を要望する意見が最も多く、29%ある。
- (6) 学生会館の建設・整備を望む教職員は10%もあり、学生の要望がほとんどない1%と対照的である。
- (7) キャンパス整備の状況については、教職員サイドからはかなり厳しい評価が出ており、「本部は特にひどい。最貧国クラスの大学に見える」、「劣悪すぎる」、「最悪である」、「大学の雰囲気ではない」、「無政府状態」、「本部キャンパスは歩くのが難しい」、「モラルもないに等しい」、「国内の大学のなかでも最悪に近いと考える」など、現状を酷評する形容詞には事欠かない。しかしそれに対して、「放任状態をやめる」、「抜本的対策」、「本格的に整える」という意識を持ち、駐車場・駐輪場の整備などに、「市場メカニズムを導入」、「予算的措置を講じる」、「独法化すればもっとやりやすくなる」、「駐車場を有料化して自主財源」、「PFI(Private Finance Initiative)で駐車場建設」などの具体的な提案も出ており、教職員側が、現状を傍観者の態度でのみみているわけではない。

駐車場・駐輪場の整備、学生会館の建設に対する、教職員の意見は明確であり、具体的な方策の提案も含め、取組みに対する積極的な意識は評価される。そして現在、ないに等しい学生会館は、大学が学生サービスとして当然、提供すべきものであった。しかしこれまで本学は、研究室の増設、新規実験設備の導入など、研究環境の充実に力点を置き、学生会館や学寮などの整備課題は、脇に置いてきた事実は否めない。その間に、キャンパスの過密化が異常に進み、もはや立錐の余地もなしの極限状態に達してしまったのが実状である。

学生会館の建設、そしてたとえ有料化されようとも立体的な駐車場の整備などは、まず、学生の足である自転車の駐輪場を必要数確保し、歩行者が「安全に学内を通行できる」ようにしてからである。より多くの豊かさを求める前に、まず学内で許可する交通手段を明示し、自分の足で歩こうと努力する人に危害が及ばない措置を講ずること、それが義務である。

3) 桂キャンパス

狭隘な吉田キャンパスの中での教育と研究活動の維持と発展に限界を来し、新たな展開の地としての第三キャンパスへの移転を永らく模索してきた本学は、工学研究科と情報学研究科を桂坂に移転することを平成11年(1999)9月に決定し、平成15年(2003)5月には化学系・電気系の移転が開始される。両研究科に所属する学生・教職員、合計約3,200人が新キャンパスに移り、そこでの生活を開始するに当たっては、当然のことながら様々な環境整備が必要とされる。学生支援、とりわけ生活支援については、歴史都市京都の中心に位置し、周辺の豊かな文化環境が与えてくれた有形・無形の資産をここでも望むことは、残念ながら論外である。しかしながら、少なくとも新キャンパスに移行させる教育と研究

を支障なく継続できるようにすることは義務である。さらに、往年の経緯のため吉田キャンパスでは望めなかったサービスについては、これまで以上の質のものを提供することも義務となろう。それは、窒息しつつある吉田キャンパスに、再び豊かな学術的環境を取り戻すため、率先して吉田の地を去り、桂キャンパスに本学の新たな拠点形成する苦勞を受け入れた工学研究科と情報学研究科の学生・教職員に報いる礼でもあろう。生活支援の基本は、住居と通学手段、そして勉学・研究に集中できる豊かな環境である。両研究科とも学部教育は本部に残し、桂キャンパスは、大学院の学生を中心にした研究と教育の場となる。留学生を主体にした学生寮は、ここでは率先して整備されるべきであろう。また、大学院主体であれば、当然、夫婦用学寮や研究者用の宿舍整備も充実したものが求められよう。そして必ず大きな問題となるのは、本部のある吉田と桂キャンパスを結ぶ効率的な交通手段である。公共交通機関が主体となろうが、地下鉄の桂への延伸にはかなりの時間が掛かり、バス路線の整備、吉田と桂を結ぶ無料のシャトルバスの運行などが、大学が主導的に対応すべき課題となろう。いずれにせよ、学生、教職員が一体となって新しい環境を自分らの快適な教育・研究環境に整えていくために、その過程で発生する様々な問題に迅速に対処していける体制作りが不可欠である（放ったらかしや、自助努力に任せるようなことはしない）。

学内組織として、学生からの苦情やサービス要求のみならず、そこに教職員からの苦情や問題提起も受け止め、問題解決のための具体的な対策の検討からその実施までを短期間に決定できる、危機管理室を兼ねたライフ・サポートセンターを設ける必要がある。このような組織は、総長を長とする大学執行部と直接連携が取れ、迅速な対応が要求される問題に対して、その判断と意志決定が可能な体制とするものであり、当然、吉田キャンパスにも必要とされるものである。

5. マイノリティ・グループから見た生活支援評価

今回の学生支援の自己点検・評価では、少数ではあるが、身体障害を持つ学生、帰国子女、留学生を対象にして、生活支援についてのインタビューが行われた。「意識調査」は、多くの学生や教職員を対象にしてアンケートを行ったものであるが、インタビューを行ったマイノリティ・グループの学生は、健常者で日本人であることを前提にした大多数の学生とは異なった条件を持つ少数者である。したがって、数の多さを取り上げる通常の統計的調査では、彼らが抱える問題の深刻さを汲み取ることはできない。その意味で、今回、マイノリティ・グループに焦点を当てた調査を行い、彼らの問題を大学全体の問題として取り上げたことは意味のあるものであった。マイノリティ・グループが指摘した問題は示唆に富み、彼らの評価をしっかりと押さえるだけでも、本学の学生支援全体にかかわる基本的問題が指摘されよう。インタビューのなかから、生活支援に関係する部分を以下に抽出し、評価を加える。

1) 障害者（身体に障害のある学生）

- 入学前にみた京都大学の障害者対応設備は、そのままでは、入学しても学習が不可能であった。
- 現在は改善され、講義、セミナーともほとんど問題はなく、行動範囲内はスロープが設置され、エレベーターと併せれば移動の不自由さはない。エアコン、ベッド、机を備えた部屋も提供されている。
- しかし、これらの改善、日常の細々したバックアップは教務掛の好意に頼っているのが実状であり、態勢としては問題がある。
- 障害者は一様ではないことを理解してほしい。車椅子を必要とする障害者でも一様ではない。私にとって学習に問題がないレベルまで設備改善が進んでいることは確かであるが、別の障害者には不十分であることが多くあることが一般的である。
- 京都大学ではちょっとした困難に、学生と教職員が拘りなく助けてくれる。
- 車で大学へ来るとき、あらかじめ教務掛に電話して専用駐車場の開錠を依頼する。大学内での駐輪マナーが悪く、時にはこの（障害者用）駐車場に駐輪してしまう人がいる。特に悪意があるとは思わないが、一般的な駐車・駐輪マナーが悪くて苦勞する。
- 特定の教職員、学生の好意に頼っている部分が多く、システムとしては問題がある。
- 京都大学は良くも悪くも放っておかれている。これは障害者のケアについてもいえると思う。

2) 障害者（聴覚に障害のある学生）

- OLLの授業は機器と補聴器が構造上合わず、受講がまったく不可能であった。
- 障害者のケアをボランティアのみに頼るのはよくない。まずは大学が専門家を配置し、ボランティア的活動にも当然の対価を払うべきである。
- 難聴者にとってインターネットの進歩は大変有り難い。情報という点では健常者とまったく同等な生活ができる。

3) 帰国子女

- 寮を改善してもっと多くの人が入れるようにすべき。寮生の自治権、管理権の問題があることは知っているが、設備、量の改善が進まないのは大学の責任である。自治権、管理権を主張しているのは一部であり、大部分の寮生は無関心である。安いことが魅力であり、アジアからの私費留学生等の困窮学生には不可欠なものになっている。設備を豪華にする必要もないし、教育という意味もあるのだから、すべてを個室にすることはどうかと思う。
- 大学は勉強ばかりするところであるとは思っていない。大学では人間性を豊かにすることも大事な側面であると思う。課外活動に十分な支援をすべきである。その際、立派なホールを建設し、サークルボックスを十分用意するという夢物語ではなく、現有の施設を有効利用することを考えたらどうか。

- トイレが汚い。建物の耐震性に不安を感じている。
- 食堂(生協の中央食堂)をもっと広くして欲しい。メニューにはあえて文句を言わない。

4) 留学生(工学系)

- 住居の問題が最も深刻である。ホスト・プロフェッサー、特別なネットワーク、知人などの努力に頼っている部分が多すぎる。
- 各部局に留学生の憩いの場的なものを作り、留学生同士のコミュニケーション、相談の場にしてはどうか。

「障害者は一様ではない」。自分がマイノリティに区分けされたとき、障害が目の前に顕在化する。障害は各人の「個性」でもあり、それは教育と同様に、「効率」で解決される対象でもない。見知らぬ異国に行き、言葉が喋れなければ、誰でも障害者の視点に立った経験をする。障害(個性)を尊重し、環境の側から障害を取り除くサービスを提供することで、人々は障害から開放される。障害者が望むものは、親切な人の存在や人間の好意ではない。自分の力で生きていける環境である。その視点に立ったとき、今のキャンパスには何が欠けており、何が必要であるかみえてこよう。数や権力の力で解決を望めないマイノリティの視線と発言は、問題の本質を鋭く突く。

本学が標榜する「自由の学風」とは、力ある者のみが謳歌できる自由ではない。それは様々なハンディを持ちながらも、本学に集い来た者が、自然と人間の真理を学び究めるときにこそ、等しく享受できる自由として示されるべきものである。

6. 総括評価

今回実施された「意識調査」に先立つものとして、学生の生活実態を調査した、『京都大学学生白書、平成11年度《学生生活実態調査》のまとめ一概要一』がある。その3頁には、京大生の「住居と通学」の実態が的確に述べられており、関連部分を以下に引用する。

「自宅外通学生の4人に3人が時計台から半径2km圏内に下宿」

京大生の72%が親元を離れて下宿生活をしている。吉田キャンパスを中心に半径1km圏内に下宿している者が最も多く、全京大生の32%、次いで2km圏内23%、5km圏内13%の順である。自宅通学生28%のうち京都市内に住んでいる者は全京大生の8%、(以下中略)。

自宅外通学生の住居を種別でみると、マンションが全体の50%を占め、次いでアパートが36%で、その他の伝統的な住居タイプである貸間、借家、学生寮等をはるかに凌いでいる。また、一人部屋に住んでいる者が94%で圧倒的多数。京大学生寮に入居している者は2%に過ぎないが、共同生活への憧れだけでなく、経済的理由から入居しているものもあり、学生寮の存在意義を軽視できない。

「自転車で溢れる吉田キャンパス構内 自転車通学は全京大生の60%に迫る」

住居から大学までの主な交通手段は、自転車が断然トップで57%、50cc以下の原付自転車9%とバイク4%を合わせると、実に70%近くの京大生(自宅通外通学生の86%)が二輪車を利用して通学している。わが国の高度成長期に学生数が急増したのと相俟って、構内に溢れる自転車は吉田キャンパスの狭隘化の深刻なシンボルになっている。(中略)京都市内に住む自宅通学生(8%)の過半数は二輪車で通学。また、公共交通機関を利用している者でも、最寄の駅からさらに自転車に乗り継いで大学まで通って来る者が多い。京大生が徒歩を好まないというよりも、機動性に優れた自転車は、京大のキャンパスライフに欠かせない道具になっているようだ。

「自宅外通学生4人のうちの3人が、時計台から半径2km圏内に下宿し、全京大生の60%が自転車で通学」。このようなプロフィールを持つ京大生が、早朝、群をなして大学に通ってくる光景を思い浮かべてみると、地球温暖化や化石燃料の枯渇を視野に入れ、脱車社会を目指し、地球環境の視点から将来を計る時代を迎えた今日、それはなんと好ましく映る姿ではなかろうか。

「大学の近くに住み、そこから自転車で通学して来る」。本学はそのような学生の多いことをまず誇りにすべきである。そしてそのために必要とされる駐輪用のスペースは、必需品として提供すべきであり、主要なゲートの周辺に分散配置して必要量を確保することが求められる。

多くの学生が市中の民間のマンション、アパート、下宿などに住んでいるが、一定量の室数を持つ学生寮を大学が確保しておくことも当然であろう。特に新たな需要として、留学生や夫婦のための大学寮も必要である。それらを学内の敷地の中で早急に持つことが難しい場合には、市中にある民間の町屋を留学生宿舎として大学が借り上げること、また民有地を定期借地として借り受けそこに新たな学寮を建設することなども、法人化後には可能となろう。大学の寮である限り、寮生が一定の自治権を持つのは当然であるが、寮の管理・運営の最終責任は大学にある。留学生の宿舎斡旋は、留学生寮の提供と連動させて学生支援として行うべきものであろう。一般学生に対しての宿舎・下宿の紹介は、民間に委託する方向になろう。

狭いキャンパスに車の入構規制があること、それもまた当然である。そして学内に必要な駐車場は、「車によって健常者と同じような移動の自由を得られる人のためのもの」を優先して造っていくべきである。

今回の「意識調査」で教職員からの要望が少なからずある学生会館の建設は、学生からは要望が少ないことが分かった。今の状況では、それはより緊急度の高い駐輪場や学生寮の問題を先送りにして取り組むような課題ではない。学生が自由にくつろぎ、話し合いができるラウンジなどの施設が教育環境として必要なことは当然であり、それは安心して歩けるもっとゆとりのあるキャンパスを望むことと、まったく同列の要望である。しかしただでさえ狭い今のキャンパスを、さらに新たな建物で埋め尽くすことは誰も望んではいない。本当に学生・教職員の双方が必要と考えるのであれば、工学研究科の桂移転で空きが出る建物などを改修し、それを学生会館に転用するなど、実現化の方法はいろいろ考えられよう。

学生と教職員の間で、「意識調査」の結果を比較してみると、学生が生活支援やキャンパス整備に対して抱く不満を、教職員はより強い危機意識を持って感じており、問題解決のための具体的な手立てについて、提案も少なからず行われていることは評価されよう。しかしながら、今、手直しを求められている日本型の社会システムがそうであるのと同様に、これまで国の規制とともに庇護も受けてきた国立大学では、そこで解決されずに残ってきている問題の多くは、現行の組織形態での大学では、それ以上、自立的な対策が取り得なかったこともまた事実である。いずれにせよ、今回そこに問題があることが明確になった学内駐車・駐輪場問題と学生寮問題については、法人化の後、その対応に対する評価が、市場原理において問われる結果になろう。

7. 結び

キャンパス整備について、『京都大学自己点検・評価報告書Ⅲ 2001』の編集後記に、紀平英作氏は次のようなメッセージを残している。

吉田キャンパスは、過去 30 年ほどの間に建物の密集が進み、現在、醜悪といってよいまでの狭隘状況を呈している。樹齢百年を越える木々がいとも簡単に切り倒され、コンクリートの建物がひしめきあう空間は、さながら大学全体が、潤いを失ったコンクリート・コンプレックスそのものである。(中略)

大学にとってキャンパスとは、教育研究活動を支える基礎要因として、単なる建物・施設の集合という以上の意味を持つ。知的営みを支える空間は、例えば思索に行き詰まったときに新たな思考の機会を与えるちょっとした散策の場があること、また行き交う人々がひととき語り合える公空間が点在すること、そうした穏やかなスペースが思いがけない意味を持つ。木立や緑地、また望むらくは散策に適した小池などがキャンパスに欠かせないのは、そのゆえである。

至言である。

今我々が目の前にする吉田キャンパスは、これまでの日本の発展を支えてきた経済効率を最優先させてきたのと同質な、表層的な研究効率主義により作られたキャンパスの姿ともいえよう。紀平氏のメッセージは、第5節マイノリティ・グループから見た生活支援評価の第3項帰国子女の、「大学は勉強ばかりするところであるとは思っていない。大学では人間性を豊かにすることも大事な側面である」という指摘にも通底する。そして、同じく第1項の障害者からの、「京都大学は良くも悪くも放っておかれている。これは障害者のケアについてもいえると思う」もまた、厳しくそして正しい指摘である。

創設以来、本学は「自由の学風」を標榜してきている。しかし今の本学の「自由」は、「放縦」に変質してきているのではなからうか。そして、それは何が欠けているからなのか。答えの一つを、池田潔『自由と規律』(岩波新書 1949 年 pp.156~157) から例示して、本章を終わりにする。

自由と放縦の区別は誰でも説くところであるが、結局この二者を区別するものは、これを裏付けする規律があるかないかによることは明らかである。社会に出て大らかな自由を享有する以前に、彼らはまず規律を身につける訓練を与えられるのである。(中略)あらゆる紛争は輿論によって解決され、その輿論の基礎となるものは個々のもつ客観的な正邪の判断に外ならない。私情を捨てて正しい判断を下すには勇気が要るし、不利な判断を下されて何等面子に拘ることなくこれに服するにも勇気を必要とする。彼等は、自由は規律を伴い、そして自由を保障するものが勇気であることを知るのである。

第Ⅶ章

危 機 管 理

第七章 危機管理

1. はじめに

安心して学べる教育環境、伸び伸びと人間性を高める場を用意することは、大学本来の機能として不可欠である。いかに豊かな教育内容を用意し、肌理の細かい学生支援を提供しようとも、学生と教職員が危機感を抱くようなことがあるならば、大学が大学として機能しない。しかし、京都大学の現状はこの問題に十分対応できているとは言い難いのではないだろうか。教育・研究現場での事故防止、事故対応、差別、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等の人権問題、キャンパス・セキュリティなどの安全管理問題を、広い意味の危機管理という視点から検証する。

2. 教育・研究現場での安全

大学の教育・研究現場では、実験、フィールド・ワークなどで安全に細心の注意を払わなければならない分野が多い。高等学校での理科教育における実験の軽視が進み、化学、物理など実験が重要な科目を履修していても、実際に実験を行わない場合が多い。学生達が実験の基礎的なことを知っているとは仮定できない。また、学生達の多くは自然のなかで遊んだ経験をほとんど持たないため、自然のなかで安全に身を処するすべを知らないのが普通である。このような現実を踏まえて、実験、フィールド・ワークに入る前と現場での安全教育を徹底する必要がある。

最近の数年間では、毎年数例の事故があり、その多くは実験中の爆発等によるものだが幸い軽微なものである。しかし、フィールド・ワーク中の交通事故による死亡もある。学生が教育現場で事故にあったときの保障制度として、「学生教育研究災害障害保険」がある。その入学年ごとの加入状況（図表7-1）をみると、

図表7-1 学生教育研究災害障害保険の加入状況の推移

(学部)

		平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
学部	総合人間学部	41.4%	31.1%	56.5%	53.4%	66.4%
	文学部	45.0%	60.6%	58.7%	55.0%	59.8%
	教育学部	48.5%	51.5%	54.3%	49.3%	46.0%
	法学部	52.3%	53.2%	58.7%	56.2%	56.9%
	経済学部	54.9%	61.9%	53.3%	53.0%	59.4%
	理学部	56.7%	60.9%	72.8%	65.9%	69.1%
	医学部	59.8%	68.6%	71.4%	72.8%	55.7%
	薬学部	83.9%	88.6%	86.7%	71.6%	62.4%
	工学部	54.8%	61.8%	67.8%	54.4%	60.1%
	農学部	45.7%	58.3%	65.1%	61.7%	60.6%

(修士課程)

		平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
修士課程	文学研究科	40.6%	43.7%	23.5%	6.6%	45.3%
	教育学研究科	2.2%	35.9%	7.9%	15.0%	27.3%
	法学研究科	28.8%	33.8%	10.8%	16.2%	14.0%
	経済学研究科	37.0%	38.6%	18.6%	20.7%	10.0%
	理学研究科	56.5%	64.2%	62.6%	66.1%	67.5%
	医学研究科	—	—	30.0%	64.9%	61.5%
	薬学研究科	50.6%	64.6%	46.8%	34.6%	28.9%
	工学研究科	54.9%	60.3%	49.8%	53.7%	53.8%
	農学研究科	70.5%	63.0%	66.2%	59.0%	55.8%
	人間・環境学研究科	23.9%	63.0%	30.1%	50.7%	60.4%
	エネルギー科学研究科	63.3%	75.0%	56.9%	56.3%	63.9%
	情報学研究科	38.1%	43.5%	41.2%	48.4%	57.7%
	生命科学研究科	—	65.7%	37.3%	84.7%	77.5%
	地球環境学舎	—	—	—	—	65.7%

(博士(後期)課程)

		平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
博士(後期)課程	文学研究科	6.2%	29.5%	15.9%	1.3%	34.8%
	教育学研究科		3.0%			17.4%
	法学研究科	27.8%	18.2%		7.7%	7.7%
	経済学研究科	20.4%	50.0%	10.9%	8.7%	21.4%
	理学研究科	47.9%	55.7%	55.3%	54.2%	28.7%
	医学研究科	57.1%	54.8%	12.4%	45.7%	54.1%
	薬学研究科	44.8%	65.4%	51.4%	20.0%	50.0%
	工学研究科	52.3%	45.2%	49.6%	55.4%	73.7%
	農学研究科	50.5%	50.4%	49.5%	46.7%	65.1%
	人間・環境学研究科	7.8%	37.0%	26.3%	31.3%	25.5%
	エネルギー科学研究科	29.2%	32.0%	55.0%	52.6%	100.0%
	アジア・アフリカ地域研究研究科	52.9%	65.2%	44.4%	45.5%	90.0%
	情報学研究科	28.1%	59.3%	36.4%	49.1%	100.0%
	生命科学研究科	—	—	—	46.3%	80.9%
地球環境学舎	—	—	—	—	100.0%	

(注) 入学者に対する加入率。

となるが、学部学生はほぼ、50%~60%程度であり、修士課程になると実験とフィールド・ワークのない文系の研究科が極端に低く、薬学研究科を除いて理系研究科は学部とほぼ同じ傾向をみせている。実際に起こっている事故の多さからみて、この数字は低すぎると考えられ、少なくとも実験、フィールド・ワークを教育・研究の中心に据える学部、研究科の学生は全員この保険に加入することが望ましい。当該の学部、研究科は学生達に強く勧める、場合によっては強制加入とするべきである。

教育現場での事故では、指導教官、学科、専攻、学部、研究科、ひいては大学がその責任を問われる。公的に問われる責任は国家賠償法による保障があるが、これでは賄えない保障、当面の医療費、捜索費用などのために事故補償の保険がある。本学では、理系の研究科、専攻がグループとしてこの保険に加入している。加入の現状は図表7-2のとおりである。

図表7-2 教職員の災害障害保険加入の概要

部局	加入状況	加入率	一人当たり年間保険料	その他
理学	専攻または学科ごと加入	約70%	5,000円以上10,000円未満	研究科全体で加入を検討中
工学	地球系 専攻ごと加入 (見学会、実験の都度)	10%	5,000円未満	
	建築系 学科で加入	100%	5,000円未満	
	物理系 専攻ごと加入(航空は除く)	100%	機械、材工5,000円未満、原子核、量子 理工5,000円以上10,000円未満	
	電気系 学科で加入	100%	教授5,000円、助教授・講師3,000円	
	化学系 化学系団体に加入 保険料は教授のみ	100%	5,000円以上10,000円未満	
農学	学部・研究科で加入	100%	5,000円未満	
エネルギー 科	研究科で加入	100%	5,000円未満	
生命科学	研究科として加入を検討			

上記以外は加入していない、又は実態を把握していないとなっている。実験とフィールド・ワークにかかわる学部、研究科は協力講座の分も含めて、何らかの工夫をしておく必要がある。

現行ではこの保険の保険料は加入教官の個人負担になっている。予定されているように、国立大学が法人化した暁には、国立大学法人の安全管理規則はこれまでの人事院規則から民間企業の安全管理と同じ労働基準法の下に移行する。国家賠償法の傘から外れることになり、大学全体で事故補償のシステムを構築する必要がある。また、現行の教官個人負担による保険も保険料が高騰すると思われ、これもカバーする形での対応も考えなければならない。

上述とは逆の問題であるが、学生を含む本学の構成員が外部に与える危害について、本学の責任を問われることがある。典型的なのは、悪意がないにしても他機関のコンピュータに不法侵入したり、サイバーテロ的な行動を取る者が、現在でもあり、激しい抗議をされている。これが補償問題に発展することも覚悟しておく必要があり、大学の危機管理システムのなかに組み込んでおかねばならない。

学生が個々に抱える様々な問題についての相談施設としてカウンセリングセンターが設置されている。4名の常勤、2名の非常勤カウンセラーが心理適応、学業、進路選択などのカウンセリングに応じているが、ここ数年の年間相談件数は400～500件程度であり、のべ面接回数は三千数百回に上る。昭和55年(1980)には二百数十件、千回程度であり、1980年代に件数、回数とも非常な勢いで伸びている。問題を持った学生が多くなったとも解釈できるが、学生が問題を抱え込まず、気軽に相談に持ち込むようになったというのが、本当のことであろう。この種の施設としてよく機能しているといえる。各学部・研究科は、このセンターの専門家との連携を十分に取ながら、問題を抱えた学生に対応すべきである。

相談内容については、平成10年度(1998)までは教育相談件数が心理適応相談件数を相当上回っていたが、平成11年度(1999)にはほぼ同数になり、平成12年度(2000)には逆転した。1回生の教育相談が急減しているが、これを学部で見ると工学部と農学部が目立った減少をしている(資料7-1)。また、1回生の相談件数が非常に多く、学年が上がって大学に適應するにつれて件数も減るのが通例である(資料7-2)。

3. 差別問題

本学では被差別部落、外国人を差別する落書きが後を絶たない。大部分はトイレ内の落書きであるが、差別ピラの配布、図書室の地図への書き込みもある。当該部局の対応だけでなく、大学当局は総長の告示等で、差別落書き、差別行動は許されない、と怒りを表明している。平成11年(1999)9月には、総長の諮問にこたえて同和・人権問題委員会は「差別落書き対応マニュアル」を部局長会議に報告した。差別落書きを発見した部局はこのマニュアルに沿って対応しているが、差別落書き、差別行動の根絶には程遠いというのが実態である。

差別落書きに限らず、セクシュアル・ハラスメントなどの人権問題の大部分は差別意識によるものである。差別問題を被差別部落の差別のみに特定することでは、差別問題そのものの解決にはならない。後述のセクシュアル・ハラスメント問題への対応など、一定の進歩はあるものの本学の差別問題への対応(当局のみならず大学全体)が形式的に流れすぎて、個々の事例ごとへの対応、対策に終始している嫌いがある。昭和44年(1969)に施行された同和对策特別措置法は幾たびか延長され33年間続いたが、平成14年(2002)3月に失効した。これを前に部落解放運動の運動方針、部落差別問題への対応も大きく変化したと思われる。部落差別問題を他の差別を含む差別問題一般を解決していくなかで解消していこうとしている。例えば、トイレに被差別部落を差別する落書きが発見されたとき、これを人目に触れないようにすることを第一義とする対応が続けられてきたが、これは性差別に関する落書きについての対応と明らかに違う。この点について具体的には、むしろ差別落書きを公にして、皆で怒りを共有することが、結局は差別の根絶に繋がるとし、差別落書き、差別文書が複製されて拡がることであってはならないが、事実を隠してそれによしとするのはよくない、といった方向に向かっている。

翻って、京都大学では差別問題のなんたるかを十分理解せずに、相変わらずいわゆる同和对策的な対応が後を絶たない。一方、それをよしとしないグループは、「事実確認会」で差別落書きの取扱いの「落ち度」を認めさせ、「糾弾会」で責任者を追求するという、部落解放運動における旧来の手法を踏襲している。また、差別問題の解決のための理念、方法を検討し、それを学内の具体的活動に繋げていくべき使命を持っている同和・人権問題委員会が、「事実確認会」に引きずり回され、本来の活動ができない状態にある。平成13年(2001)に理学部図書室で地図帳への差別落書きが発見されたとき、当時の理学部自治会は理学部執行部の対応についての確認だけでなく、理学部構成員に対して学習会を呼びかけ、組織した。残念ながら理学部構成員の意識が低く、参加者はそれほど多くはなかったが、理学部執行部はこの活動を高く評価した。京都大学内の差別問題の解決に向けての運動は、硬直化した追求とそれに対する対策といったものでなく、理学部自治会のような生産的な方向に向けていくべきである。

今回の学生支援についての自己点検・評価の過程で行った、身体障害を持つ学生へのインタビューで、一般学生の障害者への偏見、差別意識はほとんどなく、周辺に障害者がいると分かれば、むしろ積極的に手を差し伸べる、という明るい側面を確認した。この事実と繰り返し学内で起こる差別「事件」との落差は、初等中等教育の現場で頻発するいじめ問題と若者達のボランティア活動への積極さとの落差と同様に理解し難い。しかし、これ

を一部の例外的な者の行為であるが故であるから、といった単純な理解ではなく、大学全体の差別に対する怒りの意識を高めることがまず行うべきことである。

4. セクシュアル・ハラスメント

平成 11 年(1999)にセクシュアル・ハラスメントの防止に関し、人事院規則並びに文部省訓令が制定された。これに伴い、本学は人権問題対策委員会を設置し、セクシュアル・ハラスメントについての全学対応システムの整備を図った。各部局の人権問題委員会は部局の相談窓口を設置し、カウンセリングセンターが全学相談窓口になっている。委員会と相談窓口は互いに助言、連携を取りながら、セクシュアル・ハラスメントの問題に対応している。また、本学のホームページのキャンパスライフの項にセクシュアル・ハラスメントについての解説、本学の対応、相談窓口を公開している。

京都大学人権問題対策委員会が発行している『セクシュアル・ハラスメントの防止と解決のために』では冒頭に

大学は、教育、研究、課外活動や労働の場として、さまざまな人間関係の交錯する社会です。その中でわたしたちは、民族・国籍・出身・性・性的指向・障害の有無・職種などによる不当な差別や人権侵害のない環境を作ってゆかねばなりません。大学には教育・研究の自由を保障するために自治が認められています。けれども場合によってはそのために、閉鎖性、密室性が生まれ、問題があってもそれが外からは見えにくくなることもあります。とくに「性」にかかわる事柄には、いまの社会の男女のあり方に関する偏見あるいは「性」というのが私的な領域に属するといった思いこみや羞恥心などが働きます。そのために、ある問題が「性」にかかわるとき、それが人権侵害として認識されなかったり、オープンに語られにくかったりします。けれども、問題があるときには、それを指摘し、話し合っただけでなければ、状況を変え、問題を解決することはできません。さまざまな人間関係のなかで「弱者」の立場に置かれた人が声をあげることができ、また、その声を受け止めて対応できるような環境を、わたしたちが皆で作ってゆくことが必要です。

と述べている。その上で、セクシュアル・ハラスメントには、相手方の意に反する性的な行動を行い、それに対する対応によって、相手に就学、就労、教育、研究上の利益又は不利益を与える「対価型セクシュアル・ハラスメント」と、相手の意に反する性的な言動を行うことにより、就学、就労、教育、研究の環境を損なう「環境型セクシュアル・ハラスメント」があると述べている。

セクシュアル・ハラスメントについては、自身あるいはごく近い周辺の人が被害を受けた経験がない場合は問題意識が低いことが多いが、軽微な被害であっても、それを目の当たりにした経験を持つ場合には、トラウマとして激しい精神的被害を受けるのが普通である。また、我が国では、上記の環境型セクシュアル・ハラスメントをセクシュアル・ハラスメントとみなさない社会的風潮がいまだに強い。今回の『『学生支援』に関する意識調査』において、セクシュアル・ハラスメントについての厳しい記述がほとんどないこと、女子学生への直接のインタビューでも対応が不十分とする訴えはなかったことは、たまたまセクシュアル・ハラスメントの直接の被害者はいなかったということの意味していると思わ

れる。しかし、「意識調査」において設問 7-1「⑦セクハラ対策や構内警備などのセキュリティ対策」の評価をみると、学生全体及び女子学生の評価は図表 7-3 のとおりである。



図表 7-3 「意識調査」～セクハラ対策・セキュリティ対策について

女子学生の評価が低く「あまり適切でない」と評価したものが全体における評価よりはるかに多い。セキュリティとセクシュアル・ハラスメントを併せて評価してもらっているので、はっきりとセクシュアル・ハラスメントについては言い難いが、自由記述に表れている意見と合わせると、特に被害を受けた経験はないが、安心できる状態でないという不安を表していると思われる。

女子学生へのインタビューにおける、クラスメイト、研究グループのメンバー、教官などの過剰な関心、親切をセクシュアル・ハラスメントと感じたとき、後の人間関係を考えて、相談窓口を持ち込むことも難しい、という問題提起に対して、現状の組織ではこたえようがない。「意識調査」の自由記述にある

- ・セクハラ先生（気軽に声をかけすぎです）撲滅のための講習会でも行ったらどうでしょう。
- ・セクハラは女性（被害者）側から訴えにくい。モラルの向上に力を入れてほしい。
- ・セクシュアル・ハラスメント対策については、機関毎に相談員が設けられている。しかし、実際に仄聞している事例は、しばしばその学部等で発生しており、当事者が内部同士である場合、相談しにくい、効果が期待できないなどが予想されるため、現在の体制とは異なるもう一つの情報が円滑に流れる仕組みを構築する必要があるのではないかと思う。

はこの問題点を率直に突いているものである。

『セクシュアル・ハラスメントの防止と解決のために』には、

セクシュアル・ハラスメントについて問題提起する人を、けっしていわゆるトラブル・メーカーと見たり、セクシュアル・ハラスメントに関する問題を当事者間の個人的な問題として片付けたりしないでください。このような問題を生み出す環境は私たち自身が変えていかなければなりません。そのためには、問題を意識し、オープンに語り合っていくことが必要です。

とあるが、実は問題提起すらできないことが問題であり、後段の「このような問題を生み出す環境は私たち自身が変えていかなければなりません」をどのように実現するかが最重要課題である。精神論を形式的に述べてよしとするのではなく、具体的な行動を起こす時期にきている。

- ・真剣な取り組みが必要。セクハラ・アカハラ問題については、学内の啓発活動を更に充

実すべきである

セクシュアル・ハラスメントへの対応においては、被害者の人権のみならず、加害者の人権にも配慮しなければならない。このため、どの程度事例があるかについての統計すらないのが実状である。問題提起さえ難しいゆえ個人的な問題として処理されているものまで含めれば、セクシュアル・ハラスメントの事例は想像をはるかに超えるものになると思われる。

- ・本学では、噂の域にとどまるのも含めて、非常に多くセクハラの話を書く。
- ・セクハラ被害は非常に多いと思われる。もっと気軽に相談できる環境づくりを心掛けてもらいたい。

差別落書きについての対応マニュアルとは違った形ではあるが、セクシュアル・ハラスメントについても「セクシュアル・ハラスメント相談の心得」が用意されている。しかし、これはセクシュアル・ハラスメント相談を受けたときの対応の仕方、接し方についての心得であるが、問題解決についての対応マニュアルといったものではなく、現場では被害者の訴えに、その場その場の対応をしているのが実状である。セクシュアル・ハラスメントの被害者の「試験中のカンニングでさえ学部によっては1年留年になるのに、卑劣な犯罪であるセクシュアル・ハラスメントの加害者である学生には何の処分もないのか」という怒りに満ちた抗議にこの大学はどうこたえるのであろうか。

セクシュアル・ハラスメントは学内だけの問題ではない。本学の構成員のインターネット掲示板への書き込みを、セクシュアル・ハラスメントであるとする抗議が少なからずあり、ほとんどは当事者間の問題であるとして処理されているが、いずれは大学としての対応を求められることになる。また、学外者の本学構成員に対するストーカー行為も報告されているが、これは本学と本学構成員の個人情報についての認識と管理の甘さが原因になっているものが多い。本学の個人情報管理の在り方について再検討が必要である。

5. アカデミック・ハラスメント

アカデミック・ハラスメントは教育・研究の現場での上下関係、研究手法・テーマ等の違いから起こるものが大部分である。学部学生には就職、大学院進学への支援の問題として、違った形で起こることはあるにしても、それほど多いとは考えられない。しかし、大学院生にはしばしば深刻な問題をもたらす。極端な場合には、アカデミック・キャリアとしての前途を絶たれることになりかねない。

「意識調査」ではこの問題について明確に評価を求めなかったせいもあり、学生の自由記述は

- ・セクハラ、アカハラは理系の方がもっとひどいと聞く。厳しいルールを設けるべき。程度の記述であったが、教官層からは
- ・アカハラ、セクハラは教官の序列が強すぎるために起こる。大学でも会社でも権力者に対する監査機構は必要である。
- ・セクハラだけでなく、アカハラや職権乱用等が生じないように、各構成員の自覚が必要。
- ・セクハラ同様アカデミック・ハラスメントへの対応も必要。健康診断と同様くらいに

全員の検診を一度やった方がよいのでは？（バカバカしいかもしれないが、案外セクハラ、アカハラもどきは多い）。

- ・セクハラとともにアカデミック・ハラスメント（職員のみの問題でなく）、人権擁護に対する対策が必要。
- ・京都大学として（学部内ではなく）きちんとした体制を整えるべき。特にアカハラ対策に関して。

などがある。これらの意見が教授から助手までのすべての階層から出ていることは、問題の深刻さを表していると考えられる。

アカデミック・ハラスメントについては、セクシュアル・ハラスメントと違って全学的対応の組織はもとより、部局ごとの相談窓口すらない。日本の大学における研究室の閉鎖性、職階による序列の硬直性がいわれ、それが研究の活性化を阻害しているという強い主張がある。その多くは研究現場の実態を知らない者の誤解によるものであるが、教官層から幅広く上記のような意見が出ることは、その主張は一部とはいえ事実を突いていると思われる。大学院重点化を機に実現した大講座化、大部門化は研究室の閉鎖性の解消が目的であったが、組織としての転換が必ずしも研究現場に反映していない。

学生へのインタビューで大学院生から「指導教官を変えることはできないのか」という質問があった。研究室での人間関係の難しさからくるものであろう。例えば、専攻単位でこういった問題に対応できる組織を整備することにより、学生支援という意味でのアカデミック・ハラスメントの解消は相当に進むと考えられる。

6. キャンパス・セキュリティ

本学は安心して学び、研究する環境にあるとは言い難い。ここ数年はキャンパス内で恐喝、暴行、シンナー吸引が頻発している。例えば、平成 11 年(1999)12 月に農学部が「シンナー吸引者が月平均 3.2 回、バイクの盗難及び暴走行為が月平均 2.5 回あり事務部で対応に苦慮している」と報告している。「意識調査」における「セクハラ対策や構内警備などのセキュリティ対策」の学生と教職員の総合評価は図表 7-4 のとおりである。



図表 7-4 「意識調査」～セクハラ対策・セキュリティ対策について

比較すれば、教職員の方が学生よりも厳しい評価をしている。これは教職員の方が大学に所属している期間が長いことと、その立場上、情報を多く持っているということによるのであろう。これは 1 回生の評価が他の階層に比べて極端に良いことからもうかがえる。

自由記述においても学生達は「特に問題ない」、「現在のままでよい」といったものが目立つが、

- ・時々夜変な人がいるので、もっと構内警備をしてほしい。また、オートロックのキーナンバーは定期的に変えたらどうか。
- ・農学部棟の警備員の数を増やしてほしい。夜の構内を安全に歩けるようにしてほしい。
- ・セキュリティに関しては、目も当てられません。何とかして下さい。
- ・夜間においては構内は非常に危険の感を覚える。もう少し構内警備を強化していただきたい。

など、セキュリティの強化を訴えるものも多い。逆に

- ・24時間、どこからでも学内に入ってこれるので、いっそのこと裏門も開けておいてほしい。自転車で移動しにくい。
- ・中央キャンパスが夜間正門しか開いていないのは不便。結果的に柵の乗り越えが横行しているので、セキュリティということの意味がないのでは？
- ・構内警備も大事だが、9時以降正門以外から出られないのはかなり不便である。夜中も北側から出られるようにはできないだろうか？（守衛さんを残すなどして）

不便さの解消を訴えるものもある。

教官には

- ・夜間は警備員による巡回をこまめに行うべきである。
- ・夜間のキャンパス内の治安は残念ながら、あまり良好でないと思います。実験等で夜遅くなる学生もおりますので、夜間の構内警備はもう少し強化するのが、望ましいと考えます。
- ・構内警備はもっと強化すべき。極めて危険な状況。
- ・吉田キャンパスにおいては、各種政治団体による勧誘が昼間より行われており、かつ夜間においては不審者（大人、バイク暴走等）の往来が多い。全面的な警備が必要かと思われる。
- ・学内に不審者（シンナー少年 etc.）が多い。夏の夜、女子学生を一人で帰らせるのに不安を感じる。

といった、セキュリティの不十分さについての記述が多い。

キャンパス・セキュリティを高めること自体について危惧を感じるという

- ・警備はあんまり厳重なのも息苦しいので、こんなもんかと。
- ・警備などは重要であるが、これを徹底する代わりに学生の行動が制限されるのでは本末転倒。
- ・構内警備はそれほど強化しないでほしい。学風を守るためにも、強固過ぎる警備機構は欲さない。

といった学生の記述はあるが、教職員はほぼ一様に何らかの方策が必要であるとしている。

- ・大学に警察官が入れないところから問題。それでいて構内警備は大変手薄。
- ・大学の自治は教育・研究における自治であり、教職員・学生の生命、財産に危害が及ぼうとするときは、被害者の要請による警察官の立ち入りを認めるべきである（評議会における事後承認）。

といった意見もあるが、全面的に警察に頼るのは、大学の自治、本学の学風の変化にもか

かわることであり、安易すぎる方策である。しかし、大学は治外法権を持っているわけではなく、社会の一機関である。刑事事件の捜査、犯人逮捕の際に警察の立ち入りを拒むことは、社会的責任を問われることになる。暴走族、犯罪の現行犯追尾に際して、警察が学内立ち入りを躊躇しているのも現実であり、警察と改めて協議し、一定のガイドラインを確立すべきである。

- ・警備員を増やして不審者を一扫すべき。特に京大構内に逃げ込めば警察にも追いかけてられない、という状況を改善すべきだ。

大学の自治権を隠れ蓑にして、シンナー吸引者の横行、暴走族の逃げ込みなど、大学が無法地帯になり、環境の悪化を懼れる近隣住民の「大学の学生、教官が大学の自治をいうならば、自身で24時間立ち番をすべきである」といった主張は無視できないものである。

- ・外国大学のようなキャンパスポリス。
- ・自治をいうなら、ユニバーシティ・ポリスは必要。

など、大学自身が一定の警察権を有することは、大学の自治と警察権の両立には馴染みやすいが、法整備も必要でありすぐに実現できるものではない。警察権は持てないにしても

- ・夜間は警備員による巡回をこまめに行うべきである。
- ・外部者が十分進入し得る状態であると思われる。警備会社との連携を進めるべき。
- ・キャンパス内で強盗や暴力事件が発生しているので、警備保障会社等に管理を委託するようにしてはいかがか。
- ・実質的な「警備員」を配置してほしい。特に夜の安全性には問題点が多い。警備保障会社と契約すべきである。

といった、警備強化は考えねばならない。また照明設備の充実、建物ごとの管理方法の工夫など、なし得ることは多い。

資料7-1 カウンセリングセンター(旧 学生懇話室)来談状況〔所属別〕

		平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
総合人間学部	心理適応相談	4 (1)	1 (1)	7 (5)	8 (4)	6 (2)	5 (4)	8 (4)	1 (6)
	教育相談	1	1	5 (5)	5 (3)	1 (1)	1 (2)	7 (2)	5
	職業相談					3 (1)		2	2 (1)
	グループワーク	2	2	2					
	その他			1			1		4 (2)
	小計	1 (1)	1 (1)	23 (1)	1 (7)	20 (4)	23 (6)	1 (6)	25 (9)
文学研究部	心理適応相談	33 (1)	27 (1)	28 (1)	23 (1)	28 (1)	26 (1)	24 (1)	24 (1)
	教育相談	30 (1)	57 (1)	37 (20)	48 (1)	26 (1)	1 (7)	32 (1)	1 (8)
	職業相談	3 (2)	3 (1)		2 (1)		1 (1)		2
	グループワーク	2	2	1					
	その他	2 (1)	1	1	1	1 (1)		2 (1)	
	小計	70 (31)	90 (30)	67 (34)	74 (26)	55 (25)	43 (20)	58 (28)	40 (1)
教育学研究部	心理適応相談	1 (1)	1 (8)	22 (1)	1 (1)	1 (1)	7 (3)	1 (8)	1 (1)
	教育相談	1 (1)	1 (4)	9 (2)	1 (4)	9 (5)	1 (6)	1 (2)	7 (4)
	職業相談	1 (1)			5 (5)	4 (3)		1 (1)	1 (1)
	グループワーク	2 (2)	2 (2)						
	その他	1	1			5 (4)		1 (1)	1 (1)
	小計	31 (24)	33 (1)	31 (1)	32 (1)	32 (24)	21 (9)	29 (1)	26 (1)
法学研究部	心理適応相談	29 (11)	22 (4)	27 (9)	21 (9)	19 (8)	22 (11)	25 (5)	18 (7)
	教育相談	7 (2)	6 (3)	16 (4)	11 (6)	11 (5)	9 (2)	8 (3)	5 (3)
	職業相談	3 (1)	4 (2)	1	3 (2)	5 (2)	1 (1)	4 (1)	5
	グループワーク		1			2			
	その他	1 (1)	3 (1)	7 (2)	2 (1)	3		3 (1)	2 (1)
	小計	40 (15)	36 (10)	51 (15)	37 (18)	40 (15)	32 (14)	40 (10)	30 (11)
経済学研究部	心理適応相談	19 (2)	14 (2)	15 (3)	11 (1)	10 (2)	11	10 (1)	6 (1)
	教育相談	23 (6)	16 (4)	50 (20)	24 (6)	24 (8)	24 (7)	25 (4)	19 (6)
	職業相談	1 (1)	1	1		2	6	3	5 (1)
	グループワーク			2	1	1			
	その他	4	5	2 (1)		1	1	2	2 (1)
	小計	47 (9)	36 (6)	70 (24)	36 (7)	38 (10)	42 (7)	40 (5)	32 (9)
理学研究部	心理適応相談	34 (3)	40 (7)	41 (8)	36 (9)	34 (6)	32 (8)	25 (7)	22 (6)
	教育相談	18 (5)	12 (2)	22	23 (6)	26 (6)	26 (3)	27 (5)	33 (2)
	職業相談	4	3 (1)	3	3	3 (1)		4 (1)	5
	グループワーク	2		1					
	その他	4	3	2	2	8 (2)	4 (2)	2 (1)	4 (2)
	小計	62 (8)	58 (10)	69 (8)	64 (15)	71 (15)	62 (11)	58 (14)	64 (10)
医学研究部	心理適応相談	10 (3)	9 (3)	4 (2)	7 (4)	5 (2)	8 (2)	5	9 (5)
	教育相談	1		2	3 (1)	7 (2)	3	1	3
	職業相談		1						1 (1)
	グループワーク				1				
	その他					1			2 (1)
	小計	11 (3)	10 (3)	6 (2)	11 (5)	13 (4)	11 (2)	6	15 (7)
薬学研究部	心理適応相談	2		4 (2)	2 (2)	4 (2)	3	9 (6)	1 (1)
	教育相談	7 (1)	4 (1)	1 (1)	6 (3)	10 (5)	3 (1)	3	5 (2)
	職業相談							1	3 (2)
	グループワーク								
	その他	2	2			1			1 (1)
	小計	11 (1)	6 (1)	5 (3)	8 (5)	15 (7)	6 (1)	13 (6)	10 (6)
工学研究部	心理適応相談	38 (3)	26 (3)	33 (3)	29 (1)	26 (3)	23 (4)	23 (7)	26 (5)
	教育相談	55 (2)	67 (4)	94 (2)	49 (4)	115 (5)	98 (4)	55 (5)	58 (4)
	職業相談	1	4	1	7 (1)	4 (1)	1	4	2 (1)
	グループワーク	2			1 (1)	1			
	その他	4 (1)	8 (1)	7 (1)	3	5	2	2	3 (2)
	小計	100 (6)	105 (8)	135 (6)	89 (7)	151 (9)	124 (8)	84 (12)	89 (12)
農学研究部	心理適応相談	23 (4)	16 (2)	12 (3)	18 (6)	13 (3)	12 (4)	18 (7)	18 (5)
	教育相談	76 (19)	94 (29)	45 (14)	28 (9)	38 (14)	48 (13)	22 (6)	17 (4)
	職業相談	1	3 (1)	1	4	4 (1)	1	1	1
	グループワーク		1 (1)						
	その他	2 (2)	2	7 (2)	4 (1)	4 (2)		7 (3)	1
	小計	102 (25)	116 (33)	65 (19)	54 (16)	59 (20)	61 (17)	48 (16)	37 (9)
他の独立研究科	心理適応相談				3 (2)	5 (2)	4 (2)	12 (5)	14 (9)
	教育相談				2	3	8 (1)	3	9 (1)
	職業相談						1	2	2
	グループワーク								
	その他				1 (1)	2		3 (2)	3 (2)
	小計				6 (3)	10 (2)	13 (3)	20 (7)	28 (12)
その他	心理適応相談	13 (7)	8 (5)	8 (2)	6 (5)	12 (8)	8 (6)	14 (6)	35 (13)
	教育相談		1 (1)	1 (1)		1 (1)	3	1	11 (1)
	職業相談								4 (1)
	グループワーク								
	その他	3 (1)	2 (1)	2 (1)		1	3 (1)	5 (3)	17 (15)
	小計	16 (8)	11 (7)	11 (4)	6 (5)	14 (9)	14 (7)	20 (9)	67 (30)
計	心理適応相談	218 (66)	181 (45)	201 (64)	181 (64)	176 (61)	161 (54)	190 (67)	204 (79)
	教育相談	243 (62)	279 (67)	290 (69)	209 (56)	281 (65)	269 (46)	194 (43)	186 (35)
	職業相談	14 (5)	19 (5)	7	24 (9)	25 (9)	11 (2)	22 (3)	33 (8)
	グループワーク	10 (2)	8 (3)	6	3 (1)	4			
	その他	23 (6)	27 (3)	29 (7)	13 (3)	32 (9)	11 (3)	27 (12)	40 (28)
	小計	508 (131)	514 (123)	533 (140)	430 (133)	518 (144)	452 (105)	433 (125)	463 (150)

(注) ()内は、女子を内数で示す。

資料7-2 カウンセリングセンター(旧 学生懇話室)来談状況 [身分別]

		平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
1年	心理適応相談	27 (6)	20 (5)	21 (8)	14 (7)	26 (10)	23 (11)	21 (5)	28 (8)
	教育相談	138 (32)	155 (38)	156 (41)	93 (21)	143 (36)	129 (18)	65 (14)	37 (8)
	職業相談	1			2 (1)	3 (1)		2	3 (1)
	グループワーク								
	その他	4 (1)	6	8 (1)	4	6 (2)		7 (3)	4 (1)
	小計	170 (39)	181 (43)	185 (50)	113 (29)	178 (49)	152 (29)	95 (22)	72 (18)
2年	心理適応相談	21 (11)	10 (1)	25 (10)	19 (8)	17 (6)	9 (2)	23 (8)	22 (8)
	教育相談	50 (13)	75 (16)	43 (13)	31 (8)	40 (7)	48 (11)	31 (8)	41 (10)
	職業相談	1	1	1	1	3	1		1 (1)
	グループワーク								
	その他	6 (3)	6	3	2	6	1	1	3 (2)
	小計	78 (27)	92 (17)	72 (23)	53 (16)	66 (13)	59 (13)	55 (16)	67 (21)
3年	心理適応相談	30 (9)	23 (7)	16 (8)	23 (6)	17 (5)	22 (7)	15 (2)	29 (12)
	教育相談	25 (9)	18 (5)	21 (8)	17 (5)	20 (4)	19 (5)	20 (2)	22 (6)
	職業相談	3 (2)	2	1	3 (1)	4 (1)	2	4	2
	グループワーク		1 (1)						
	その他	4	3	7 (4)	1	5 (3)	1	1 (1)	2 (1)
	小計	62 (20)	47 (13)	45 (20)	44 (12)	46 (13)	44 (12)	40 (5)	55 (19)
4年	心理適応相談	30 (8)	20 (4)	30 (10)	19 (7)	23 (6)	17 (5)	30 (8)	18 (5)
	教育相談	17 (5)	14 (4)	17 (2)	15 (8)	18 (6)	15 (2)	16 (4)	13
	職業相談	3 (2)	9 (4)	1	3 (2)	5 (2)	5 (2)	7 (1)	3
	グループワーク	2	1 (1)	1	1 (1)				
	その他	2	2	2 (1)	1 (1)	2	2	4 (1)	1 (1)
	小計	54 (15)	46 (13)	51 (13)	39 (19)	48 (14)	39 (9)	57 (14)	35 (6)
5年	心理適応相談	21 (6)	21 (4)	14 (3)	17 (6)	10 (4)	11 (4)	13 (6)	14 (3)
	教育相談	6 (1)	2	7	10 (4)	8 (1)	7 (1)	14 (3)	7 (2)
	職業相談	1		2	3 (2)	2 (1)		3 (1)	5
	グループワーク	1 (1)							
	その他		3 (1)	2	1			1 (1)	
	小計	29 (8)	26 (5)	25 (3)	31 (12)	20 (6)	18 (5)	31 (11)	26 (5)
6年以上	心理適応相談	33 (8)	31 (9)	32 (8)	21 (5)	29 (8)	25 (7)	23 (7)	7 (3)
	教育相談	2	2	13	16 (1)	24	16 (1)	11 (1)	10 (3)
	職業相談	2 (1)	1		4 (1)	1 (1)			4
	グループワーク			3	1	1			
	その他		1	1	1	3			3 (1)
	小計	37 (9)	35 (9)	49 (8)	43 (7)	58 (9)	42 (8)	35 (8)	24 (7)
大学院 修士課程	心理適応相談	17 (3)	15 (3)	22 (6)	18 (4)	21 (6)	23 (5)	26 (14)	25 (10)
	教育相談	3 (2)	7 (2)	22 (3)	18 (8)	16 (6)	18 (6)	21 (5)	32 (4)
	職業相談	2			7 (1)	5 (2)	3	6 (1)	8 (4)
	グループワーク	4	2	2		2			
	その他	1	3	2	2 (1)	4 (3)	3 (2)	4 (2)	6 (3)
	小計	27 (5)	27 (5)	48 (9)	45 (14)	48 (17)	47 (13)	57 (22)	71 (21)
大学院 博士(後期)課程	心理適応相談	10 (1)	14 (5)	12 (4)	11 (5)	11 (5)	15 (5)	16 (7)	21 (14)
	教育相談	1	1	8 (1)	4	8 (2)	9 (1)	10 (2)	12 (1)
	職業相談	1	2 (1)	1					3 (1)
	グループワーク		1						
	その他	1 (1)		2		2		3 (1)	3 (3)
	小計	13 (2)	18 (6)	23 (5)	15 (5)	21 (7)	24 (6)	29 (10)	39 (19)
聴講生・研究生	心理適応相談	6 (1)	6 (2)	7 (3)	13 (8)	8 (4)	5 (2)	6 (3)	9 (5)
	教育相談	1	2		3 (1)	2 (1)	4 (1)	4 (4)	2 (1)
	職業相談			1	1 (1)	1 (1)			
	グループワーク		1						
	その他					1			1
	小計	7 (1)	9 (2)	8 (3)	17 (10)	12 (6)	9 (3)	10 (7)	12 (6)
その他	心理適応相談	23 (3)	21 (5)	22 (3)	26 (8)	14 (7)	11 (6)	17 (7)	31 (11)
	教育相談		3 (2)	3 (2)	2	2 (2)	4	2	10
	職業相談		4			1			4 (1)
	グループワーク	3 (1)	2 (1)			1			
	その他	5 (1)	3 (2)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	3 (1)	5 (3)	17 (16)
	小計	31 (5)	33 (10)	27 (6)	30 (9)	21 (10)	18 (7)	24 (10)	62 (28)
計	心理適応相談	218 (56)	181 (45)	201 (63)	181 (64)	176 (61)	161 (54)	190 (67)	204 (79)
	教育相談	243 (62)	279 (67)	290 (70)	209 (55)	281 (65)	269 (46)	194 (43)	186 (35)
	職業相談	14 (5)	19 (5)	7	24 (9)	25 (9)	11 (2)	22 (3)	33 (8)
	グループワーク	10 (2)	8 (3)	6	2 (1)	4			
	その他	23 (6)	27 (3)	29 (7)	14 (3)	32 (9)	11 (3)	27 (12)	40 (28)
	小計	508 (131)	514 (123)	533 (140)	430 (133)	518 (144)	452 (105)	433 (125)	463 (150)

(注) ()内は、女子を内数で示す。

『学生支援』に関する意識調査

『学生支援』に関する意識調査の概要

1. 平成 14 年度自己点検・評価「学生支援」を実施するに当たり、本学在学学生及び教職員からの意見を聴取するため、平成 14 年(2002)10 月に『学生支援』に関する意識調査を実施した。
2. 本学在学学生については、各学部 1 回生から 4 回生(医学部のみ 6 回生)を対象に各 200 名ずつ約 800 名、大学院生(修士課程)1、2 回生(アジア・アフリカ地域研究研究科のみ博士課程)を対象に各 100 名ずつ 200 名にアンケートへの回答を依頼した。
3. 本学教職員については、副学長及び総長補佐をはじめ、各部局長、学部・研究科の評議員約 80 名、本学教員(教授、助教授、講師、助手)から無作為に 1/3 を抽出した約 800 名、事務局長をはじめ、事務局に所属する課長以上(学生部については掛長以上)及び各学部・研究科の事務(部)長、教務関係の掛長以上 90 名を対象にアンケートへの回答を依頼した。
4. 本紙では調査の結果と自由記述を原文のまま掲載した。自由記述のなかには、判読不可能な文字を〇〇と記載してある。また、回答者本人が特定できるような表現や特定の個人や団体への誹謗中傷に関する表現は、修正又は削除した。

『学生支援に関する意識調査』集計表

		学 生		教 職 員		
1)	性別	男	244 (77.7%)	-	-	
		女	69 (22.0%)	-	-	
		不明	1 (0.3%)	-	-	
	入学年度	学部	H14	23 (7.3%)	-	-
			H13	30 (9.6%)	-	-
			H12	70 (22.3%)	-	-
			H11	59 (18.8%)	-	-
			H10	10 (3.2%)	-	-
		修士	H9	-	-	-
			H14	53 (16.9%)	-	-
			H13	57 (18.2%)	-	-
		博士	H12以前	1 (0.3%)	-	-
			H14	1 (0.3%)	-	-
	不明	H13	1 (0.3%)	-	-	
	不明		6 (1.9%)	-	-	
	教職員	評議員	-	-	28 (6.8%)	
		教授	-	-	116 (28.2%)	
助教授		-	-	89 (21.6%)		
講師		-	-	21 (5.1%)		
助手		-	-	105 (25.5%)		
事務(技術)職員		-	-	49 (11.9%)		
不明		-	-	4 (1.0%)		
住居	自宅	68 (21.7%)	-	-		
	下宿・アパート・寮	240 (76.4%)	-	-		
	不明	6 (1.9%)	-	-		
2)	①総合人間学部	20 (6.4%)	-	-		
	②文学部・文学研究科	25 (8.0%)	-	-		
	③教育学部・教育学研究科	6 (1.9%)	-	-		
	④法学部・法学研究科	26 (8.3%)	-	-		
	⑤経済学部・経済学研究科	11 (3.5%)	-	-		
	⑥理学部・理学研究科	26 (8.3%)	-	-		
	⑦医学部・医学研究科	24 (7.6%)	-	-		
	⑧薬学部・薬学研究科	14 (4.5%)	-	-		
	⑨工学部・工学研究科	90 (28.7%)	-	-		
	⑩農学部・農学研究科	35 (11.1%)	-	-		
	⑪人間・環境学研究科	6 (1.9%)	-	-		
	⑫エネルギー科学研究科	8 (2.5%)	-	-		
	⑬アジア・アフリカ地域研究研究科	2 (0.6%)	-	-		
	⑭情報学研究科	14 (4.5%)	-	-		
	⑮生命科学研究科	6 (1.9%)	-	-		
	⑯地球環境学舎	1 (0.3%)	-	-		
	不明					
3)	①学内掲示板	274 (87.3%)	-	-		
	②ガイダンス(履修案内)	258 (82.2%)	-	-		
	③カウンセリング	16 (5.1%)	-	-		
	④留学相談	5 (1.6%)	-	-		
	⑤各種証明書発行	268 (85.4%)	-	-		
	⑥進路・就職相談	14 (4.5%)	-	-		
	⑦就職説明会	45 (14.3%)	-	-		
	⑧奨学金の案内・手続き	160 (51.0%)	-	-		
	⑨入学科・授業料免除	47 (15.0%)	-	-		
	⑩アルバイト紹介	61 (19.4%)	-	-		
	⑪宿舍・下宿紹介	17 (5.4%)	-	-		
	⑫健康診断・健康相談	287 (91.4%)	-	-		
	⑬課外活動支援	28 (8.9%)	-	-		
	⑭体育施設の利用	111 (35.4%)	-	-		
	⑮学治キャンパス連絡バス	43 (13.7%)	-	-		
	⑯学生健康保険・災害保険	119 (37.9%)	-	-		
	⑰課外教養行事	32 (10.2%)	-	-		
⑱その他	2 (0.6%)	-	-			
4)	①学内掲示板	77 (24.5%)	27 (6.6%)			
	②ガイダンス(履修案内)	55 (17.5%)	22 (5.3%)			
	③カウンセリング	4 (1.3%)	3 (0.7%)			
	④留学相談	3 (1.0%)	3 (0.7%)			
	⑤各種証明書発行	45 (14.3%)	37 (9.0%)			
	⑥進路・就職相談	6 (1.9%)	5 (1.2%)			
	⑦就職説明会	6 (1.9%)	10 (2.4%)			
	⑧奨学金の案内・手続き	9 (2.9%)	8 (1.9%)			
	⑨入学科・授業料免除	11 (3.5%)	14 (3.4%)			
	⑩アルバイト紹介	10 (3.2%)	33 (8.0%)			
	⑪宿舍・下宿紹介	5 (1.9%)	27 (6.6%)			
	⑫健康診断・健康相談	20 (6.4%)	13 (3.2%)			
	⑬課外活動支援	9 (2.9%)	17 (4.1%)			
	⑭体育施設の利用	13 (4.1%)	7 (1.7%)			
	⑮学治キャンパス連絡バス	21 (6.7%)	36 (8.7%)			
	⑯学生健康保険・災害保険	11 (3.5%)	14 (3.4%)			
	⑰課外教養行事	39 (12.4%)	77 (18.7%)			
⑱その他	1 (0.3%)	7 (1.7%)				
5)	①学内掲示板	3 (1.0%)	1 (0.2%)			
	②ガイダンス(履修案内)	2 (0.6%)	1 (0.2%)			
	③カウンセリング	4 (1.3%)				
	④留学相談	1 (0.3%)	1 (0.2%)			
	⑤各種証明書発行					
	⑥進路・就職相談	5 (1.6%)	3 (0.7%)			
	⑦就職説明会	3 (1.0%)	9 (2.2%)			
	⑧奨学金の案内・手続き					
	⑨入学科・授業料免除		2 (0.5%)			
	⑩アルバイト紹介	12 (3.8%)	46 (11.2%)			
	⑪宿舍・下宿紹介	15 (4.8%)	39 (9.5%)			
	⑫健康診断・健康相談					
	⑬課外活動支援	13 (4.1%)	12 (2.9%)			
	⑭体育施設の利用	3 (1.0%)	3 (0.7%)			
	⑮学治キャンパス連絡バス	2 (0.6%)	7 (1.7%)			
	⑯学生健康保険・災害保険		3 (0.7%)			
	⑰課外教養行事	48 (15.3%)	84 (20.4%)			
⑱その他		1 (0.2%)				
6)	①オフィスアワー	79 (25.2%)	147 (35.7%)			
	②パソコン貸出	30 (9.6%)	17 (4.1%)			
	③パソコン講習	53 (16.9%)	40 (9.7%)			
	④ボランティア活動	27 (8.6%)	43 (10.4%)			
	⑤セミナーハウス	20 (6.4%)	88 (21.4%)			
	⑥カフェテリア	34 (10.8%)	54 (13.1%)			
	⑦学生フランチ	30 (9.6%)	86 (20.9%)			
	⑧コンビニ	45 (14.3%)	19 (4.6%)			
	⑨メールマガジン	7 (2.2%)	10 (2.4%)			
	⑩ファストフード	23 (7.3%)	12 (2.9%)			
	⑪ATM	167 (53.2%)	127 (30.8%)			
	⑫構内放送	13 (4.1%)	10 (2.4%)			
	⑬車輛制限	37 (11.8%)	76 (18.4%)			
	⑭駐輪場整備	110 (35.0%)	172 (41.7%)			
	⑮車道と歩道分離	34 (10.8%)	60 (14.6%)			
	⑯教務窓口時間延長	110 (35.0%)	36 (8.7%)			
	⑰図書館開館時間延長	147 (46.8%)	198 (48.1%)			
⑱その他	37 (11.8%)	54 (13.1%)				
7)	①学習支援	1:不適切	10 (3.2%)	4 (1.0%)		
		2:あまり適切でない	45 (14.5%)	43 (11.2%)		
		3:普通	131 (42.3%)	177 (46.2%)		
		4:ほぼ適切	84 (27.1%)	129 (33.7%)		
		5:適切	40 (12.9%)	30 (7.8%)		
	②生活支援	1:不適切	8 (2.7%)	15 (3.9%)		
		2:あまり適切でない	46 (15.3%)	77 (20.2%)		
		3:普通	136 (45.2%)	176 (46.2%)		
		4:ほぼ適切	74 (24.6%)	94 (24.7%)		
		5:適切	37 (12.3%)	19 (5.0%)		
	③経済支援	1:不適切	14 (4.7%)	11 (2.8%)		
		2:あまり適切でない	42 (14.0%)	87 (22.4%)		
		3:普通	114 (38.0%)	171 (44.0%)		
		4:ほぼ適切	79 (26.3%)	94 (24.2%)		
		5:適切	51 (17.0%)	26 (6.7%)		
	④進路支援	1:不適切	25 (9.0%)	12 (3.3%)		
		2:あまり適切でない	55 (19.9%)	82 (22.4%)		
3:普通		140 (50.5%)	187 (51.1%)			
4:ほぼ適切		37 (13.4%)	62 (16.9%)			
5:適切		20 (7.2%)	23 (6.3%)			
⑤課外活動支援	1:不適切	15 (6.2%)	11 (3.0%)			
	2:あまり適切でない	36 (12.4%)	74 (20.1%)			
	3:普通	149 (51.4%)	195 (52.8%)			
	4:ほぼ適切	56 (19.3%)	67 (18.2%)			
	5:適切	34 (11.7%)	22 (6.0%)			
⑥キャンパス整備	1:不適切	62 (20.0%)	95 (24.1%)			
	2:あまり適切でない	124 (40.0%)	190 (48.1%)			
	3:普通	76 (24.5%)	87 (22.0%)			
	4:ほぼ適切	34 (11.0%)	19 (4.8%)			
	5:適切	14 (4.5%)	4 (1.0%)			
⑦セクハラ対策 セキュリティ対策	1:不適切	20 (6.8%)	36 (9.4%)			
	2:あまり適切でない	71 (24.2%)	140 (36.6%)			
	3:普通	148 (50.5%)	160 (41.9%)			
	4:ほぼ適切	30 (10.2%)	42 (11.0%)			
	5:適切	24 (8.2%)	4 (1.0%)			
総合的評価	1:不適切	5 (1.7%)	2 (0.6%)			
	2:あまり適切でない	47 (16.1%)	76 (21.3%)			
	3:普通	146 (50.0%)	196 (54.9%)			
	4:ほぼ適切	81 (27.7%)	80 (22.4%)			
	5:適切	13 (4.5%)	3 (0.8%)			
回答数		314 (100.0%)	412 (100.0%)			

『学生支援』に関する意識調査票(学生用)

平成14年10月

関係各位

京都大学大学評価委員会
自己点検・評価等専門委員会委員長
丸山正樹

「学生支援」に関する意識調査のご協力をお願い

本学では、大学設置基準に基づき、毎年自己点検・評価を実施しております。平成14年度においては、「学生支援」及び「入学試験」を自己点検・評価項目として設定し、それぞれ作業部会を置き、現在その作業を進めております。

そこで、「学生支援」作業部会では、学生に対するサービスを提供する側である大学(教職員)とその提供を受ける側の学生を対象に「学生支援」に関する意識調査を実施することにしました。本調査は、「学生支援」に関するすべての項目を網羅するものではありませんが、自己点検・評価を実施する上で、「学生支援」に関する主要な意識を把握し、皆さんの率直な意見を評価に反映したいと考えております。

また、本学は基本理念のなかで、自由の学風を強調し、社会との調和ある共存を謳っていますが、その自由はともすれば放任に陥ってしまうことが一部には指摘されています。

こうしたことを含め、皆さんの意見を参考にしながら、自己点検・評価を進めたいと考えておりますので、本調査へのご回答を宜しくお願い致します。

大変お忙しいところ恐縮ですが、本調査にご回答いただき、10月23日(水)までに、同封の返信用封筒にて学内便(各所属学部教務掛または総合人間学部全学共通科目掛へ届けて下さい。)でご返送いただきますよう、お願いいたします。

なお、本調査結果は、自己点検・評価の目的以外に使用することはございません。また、個人が特定できる形での公表はいたしません。

本件問合せ先
京都大学総務部企画課大学評価掛
TEL:075-753-2088
FAX:075-753-2089
E-mail:hyouka52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

『学生支援』に関する意識調査票

〈設問事項〉

1) 以下のことについてお答え下さい。

性 別 男 女

入学年度 ・学部：平成（ ）年度入学
・修士課程：平成（ ）年度入学
・博士(後期)課程：平成（ ）年度入学
・教職員

住 居 自宅 下宿・アパート・寮など

2) 【学生の方のみ】あなたが所属する学部又は研究科は？次の中から○印を付けて下さい。

- | | |
|-------------------|--------------|
| ① 総合人間学部 | ② 文学部・文学研究科 |
| ③ 教育学部・教育学研究科 | ④ 法学部・法学研究科 |
| ⑤ 経済学部・経済学研究科 | ⑥ 理学部・理学研究科 |
| ⑦ 医学部・医学研究科 | ⑧ 薬学部・薬学研究科 |
| ⑨ 工学部・工学研究科 | ⑩ 農学部・農学研究科 |
| ⑪ 人間・環境学研究科 | ⑫ エネルギー科学研究科 |
| ⑬ アジア・アフリカ地域研究研究科 | ⑭ 情報学研究科 |
| ⑮ 生命科学研究科 | ⑯ 地球環境学舎 |

『学生支援』に関する意識調査

3) 【学生の方のみ】 本学が行っている主な「学生支援・学生サービス」に下記のものがあります。これらのうちで、あなたが受けたことのある「学生支援・学生サービス」は何でしたか。次の中から○印を付けて下さい。(複数回答可)

- | | | |
|---------------------|-------------------------|-------------|
| ① 学内掲示板 | ② ガイダンス (履修案内) | |
| ③ カウンセリング | ④ 留学相談 | ⑤ 各種証明書発行 |
| ⑥ 進路(就職)相談 | ⑦ 就職説明会 | ⑧ 奨学金案内や手続き |
| ⑨ 入学料及び授業料免除 | ⑩ アルバイト紹介 | ⑪ 宿舍・下宿紹介 |
| ⑫ 健康診断、健康相談 | ⑬ 課外活動支援 | ⑭ 体育施設の利用 |
| ⑮ 宇治キャンパス連絡バス | ⑯ 学生健康保険, 教育・研究災害保険の手続き | |
| ⑰ 音楽会や能楽鑑賞会等の課外教養行事 | | |
| ⑱ その他 (| |) |

4) 前述の本学が行っている主な「学生支援・学生サービス」のうち、あなたが「学生支援・学生サービス」だと思わないものは何ですか。次の中から○印を付けて下さい。(複数回答可)

- | | | |
|---------------------|-------------------------|-------------|
| ① 学内掲示板 | ② ガイダンス (履修案内) | |
| ③ カウンセリング | ④ 留学相談 | ⑤ 各種証明書発行 |
| ⑥ 進路(就職)相談 | ⑦ 就職説明会 | ⑧ 奨学金案内や手続き |
| ⑨ 入学料及び授業料免除 | ⑩ アルバイト紹介 | ⑪ 宿舍・下宿紹介 |
| ⑫ 健康診断、健康相談 | ⑬ 課外活動支援 | ⑭ 体育施設の利用 |
| ⑮ 宇治キャンパス連絡バス | ⑯ 学生健康保険, 教育・研究災害保険の手続き | |
| ⑰ 音楽会や能楽鑑賞会等の課外教養行事 | | |
| ⑱ その他 (| |) |

5) 前述の本校が行っている主な「学生支援・学生サービス」のうち、必要がないと思われるものは何ですか。次の中から○印を付けて下さい。(複数回答可)

- | | | |
|---------------------|-------------------------|-------------|
| ① 学内掲示板 | ② ガイダンス (履修案内) | |
| ③ カウンセリング | ④ 留学相談 | ⑤ 各種証明書発行 |
| ⑥ 進路(就職)相談 | ⑦ 就職説明会 | ⑧ 奨学金案内や手続き |
| ⑨ 入学料及び授業料免除 | ⑩ アルバイト紹介 | ⑪ 宿舎・下宿紹介 |
| ⑫ 健康診断、健康相談 | ⑬ 課外活動支援 | ⑭ 体育施設の利用 |
| ⑮ 宇治キャンパス連絡バス | ⑯ 学生健康保険, 教育・研究災害保険の手続き | |
| ⑰ 音楽会や能楽鑑賞会等の課外教養行事 | | |
| ⑱ その他 (| |) |

6) 本校が現在十分には行っていない「学生支援・学生サービス」等として考えられるものを下記に挙げています。これらのうちで本校が特に力を入れた方がよいと思われるもの3つに○印を付けて下さい。

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| ① オフィスアワー [*] の設定 | ② パソコンの貸出 |
| ③ パソコンなどの講習 | ④ ボランティア活動の紹介 |
| ⑤ セミナーハウス | ⑥ カフェテリア |
| ⑦ 学生ラウンジ | ⑧ コンビニエンス・ストアの設置 |
| ⑨ メール・マガジン | ⑩ ファストフード・ショップの設置 |
| ⑪ 銀行や郵便局のATMの設置 | ⑫ 構内放送 (警報など) |
| ⑬ 車両入構制限 | ⑭ 駐輪場の整備 |
| ⑮ 車道と歩道の分離 | ⑯ 教務窓口の時間延長 |
| ⑰ 図書館の開館時間延長 | |
| ⑱ その他 (|) |

* オフィスアワー：教官が所属又は受講の学生諸君から質問を受けるなどのために研究室訪問を認める時間

『学生支援』に関する意識調査

7) 以下の設問事項には、次の5段階評価により総合的な判断をお願いします。

5段階評価	評価点
	↑ 5 : 適切である。
	4 : ほぼ適切である。
	3 : 普通である。
	↓ 2 : あまり適切ではない。
1 : 不適切である。	

(設問1) 現在、本学が行っている「学生支援・学生サービス」について、次の①～⑦の現状を判断し、5段階評価により回答して下さい。また、今後、どのように対応、改善すればよいと思いますか。自由にお書き下さい。

① オリエンテーション、ガイダンス（履修案内）などの学習支援

評価点	
今後の対応	

② 健康管理、カウンセリング、宿舍紹介、学生寮などの生活支援

評価点	
今後の対応	

③ 各種奨学金、授業料・入学金免除などの経済支援

評価点	
今後の対応	

④ 進路相談、就職相談などの進路支援

評価点	
今後の対応	

⑤ 課外活動、体育施設、課外教養行事などの課外活動支援

評価点	
今後の対応	

⑥ 駐車・駐輪場整備、学生会館などのキャンパス整備

評価点	
今後の対応	

⑦ セクハラ対策や構内警備などのセキュリティー対策

評価点	
今後の対応	

『学生支援』に関する意識調査

(設問2) これまで、本学が行ってきた「学生支援・学生サービス」について、5段階評価による総合的な判断とその他ご意見があれば、自由にお書き下さい。

評価点	
ご意見	

ご協力ありがとうございました。この調査票を提出して下さい。

なお、この調査結果は、平成15年3月頃に京都大学のホームページにて自己点検・評価報告書として公表いたします。

『学生支援』に関する意識調査票(教職員用)

平成14年10月

関係各位

京都大学大学評価委員会
自己点検・評価等専門委員会委員長
丸山正樹

「学生支援」に関する意識調査のご協力のお願い

本学では、大学設置基準に基づき、毎年自己点検・評価を実施しております。平成14年度においては、「学生支援」及び「入学試験」を自己点検・評価項目として設定し、それぞれ作業部会を置き、現在その作業を進めております。

そこで、「学生支援」作業部会では、学生に対するサービスを提供する側である大学(教職員)とその提供を受ける側の学生を対象に「学生支援」に関する意識調査を実施することにしました。本調査は、「学生支援」に関するすべての項目を網羅するものではありませんが、自己点検・評価を実施する上で、「学生支援」に関する主要な意識を把握し、皆さんの率直な意見を評価に反映したいと考えております。

また、本学は基本理念のなかで、自由の学風を強調し、社会との調和ある共存を謳っていますが、その自由はともすれば放任に陥ってしまうことが一部には指摘されています。

こうしたことを含め、皆さんの意見を参考にしながら、自己点検・評価を進めたいと考えておりますので、本調査へのご回答を宜しくお願い致します。

大変お忙しいところ恐縮ですが、本調査にご回答いただき、10月23日(水)までに、同封の返信用封筒にて学内便でご返送いただきますよう、お願いいたします。

なお、本調査結果は、自己点検・評価の目的以外に使用することはございません。また、個人が特定できる形での公表はいたしません。

本件問合せ先
京都大学総務部企画課大学評価掛
TEL:075-753-2088
FAX:075-753-2089
E-mail:hyouka52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

教職員用『学生支援』に関する意識調査

『学生支援』に関する意識調査票

〈設問事項〉

1) あなたは教員ですか、または職員ですか？次の中から○印を付けて下さい。

・評議員 ・教授 ・助教授 ・講師 ・助手 ・事務（技術）職員

2) 本学が行っている主な「学生支援・学生サービス」のうち、あなたが「学生支援・学生サービス」だと思わないものは何ですか。次の中から○印を付けて下さい。

(複数回答可)

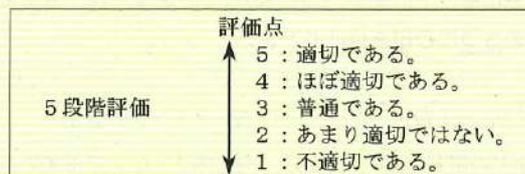
- | | | |
|---------------------|------------------------|-------------|
| ① 学内掲示板 | ② ガイダンス（履修案内） | |
| ③ カウンセリング | ④ 留学相談 | ⑤ 各種証明書発行 |
| ⑥ 進路（就職）相談 | ⑦ 就職説明会 | ⑧ 奨学金案内や手続き |
| ⑨ 入学料及び授業料免除 | ⑩ アルバイト紹介 | ⑪ 宿舍・下宿紹介 |
| ⑫ 健康診断、健康相談 | ⑬ 課外活動支援 | ⑭ 体育施設の利用 |
| ⑮ 宇治キャンパス連絡バス | ⑯ 学生健康保険，教育・研究災害保険の手続き | |
| ⑰ 音楽会や能楽鑑賞会等の課外教養行事 | | |
| ⑱ その他（ | | ） |

3) 前述の本学が行っている主な「学生支援・学生サービス」のうち、必要がないと思われるものは何ですか。次の中から○印を付けて下さい。（複数回答可）

- | | | |
|---------------------|------------------------|-------------|
| ① 学内掲示板 | ② ガイダンス（履修案内） | |
| ③ カウンセリング | ④ 留学相談 | ⑤ 各種証明書発行 |
| ⑥ 進路（就職）相談 | ⑦ 就職説明会 | ⑧ 奨学金案内や手続き |
| ⑨ 入学料及び授業料免除 | ⑩ アルバイト紹介 | ⑪ 宿舍・下宿紹介 |
| ⑫ 健康診断、健康相談 | ⑬ 課外活動支援 | ⑭ 体育施設の利用 |
| ⑮ 宇治キャンパス連絡バス | ⑯ 学生健康保険，教育・研究災害保険の手続き | |
| ⑰ 音楽会や能楽鑑賞会等の課外教養行事 | | |
| ⑱ その他（ | | ） |

教職員用『学生支援』に関する意識調査

5) 以下の設問事項には、次の5段階評価により総合的な判断をお願いします。



(設問1) 現在、本学が行っている「学生支援・学生サービス」について、次の①～⑦の現状を判断し、5段階評価により回答して下さい。また、今後、どのように対応、改善すればよいと思いますか。自由にお書き下さい。

① オリエンテーション、ガイダンス（履修案内）などの学習支援

評価点	
今後の対応	

② 健康管理、カウンセリング、宿舍紹介、学生寮などの生活支援

評価点	
今後の対応	

③ 各種奨学金、授業料・入学科免除などの経済支援

評価点	
今後の対応	

④ 進路相談、就職相談などの進路支援

評価点	
今後の対応	

⑤ 課外活動、体育施設、課外教養行事などの課外活動支援

評価点	
今後の対応	

⑥ 駐車・駐輪場整備、学生会館などのキャンパス整備

評価点	
今後の対応	

⑦ セクハラ対策や構内警備などのセキュリティー対策

評価点	
今後の対応	

教職員用『学生支援』に関する意識調査

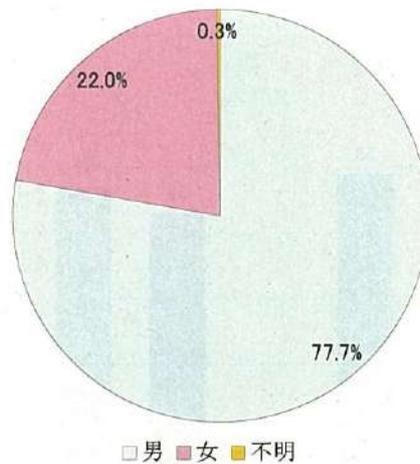
(設問2) これまで、本学が行ってきた「学生支援・学生サービス」について、5段階評価による総合的な判断とその他ご意見があれば、自由にお書き下さい。

評価点	
ご意見	

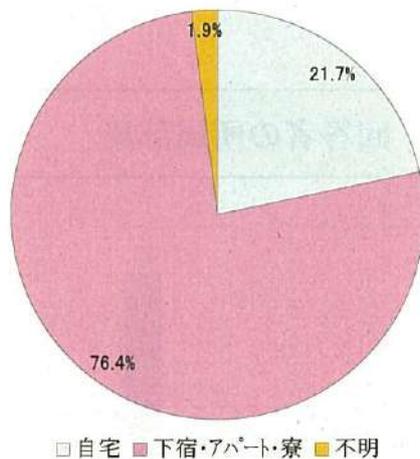
ご協力ありがとうございました。この調査票を提出して下さい。

なお、この調査結果は、平成15年3月頃に京都大学のホームページにて自己点検・評価報告書として公表いたします。

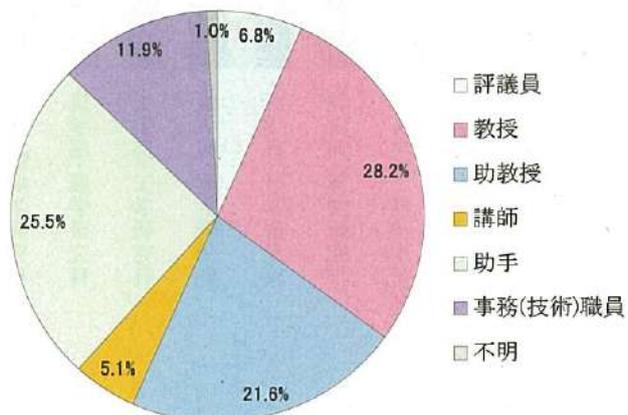
【学生 設問1)】 回答者の性別



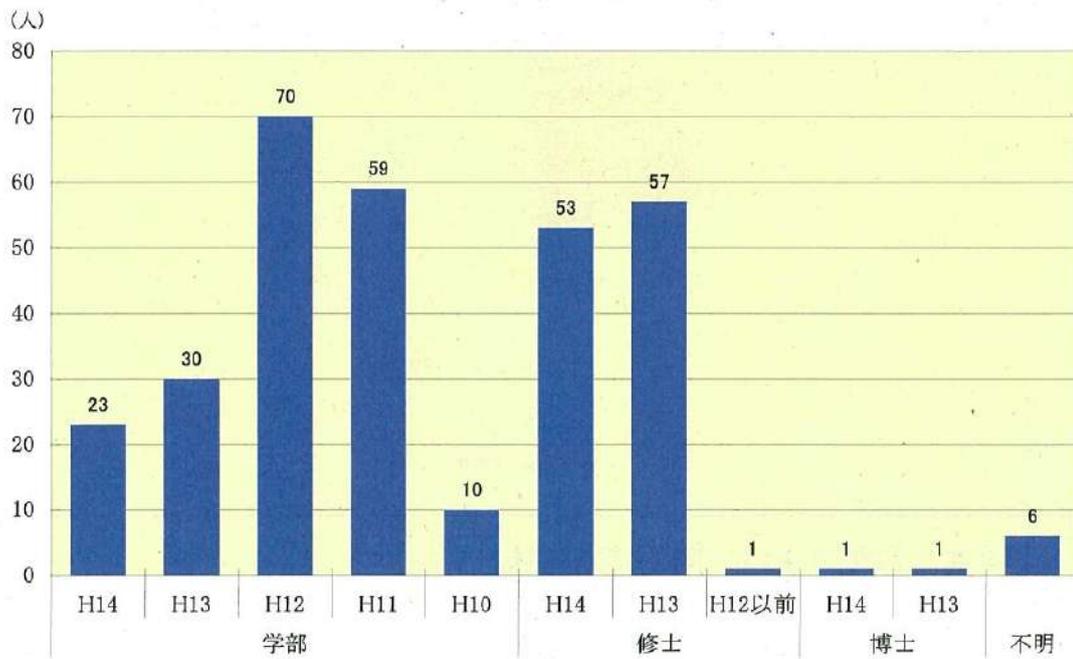
【学生 設問1)】 回答者の住居



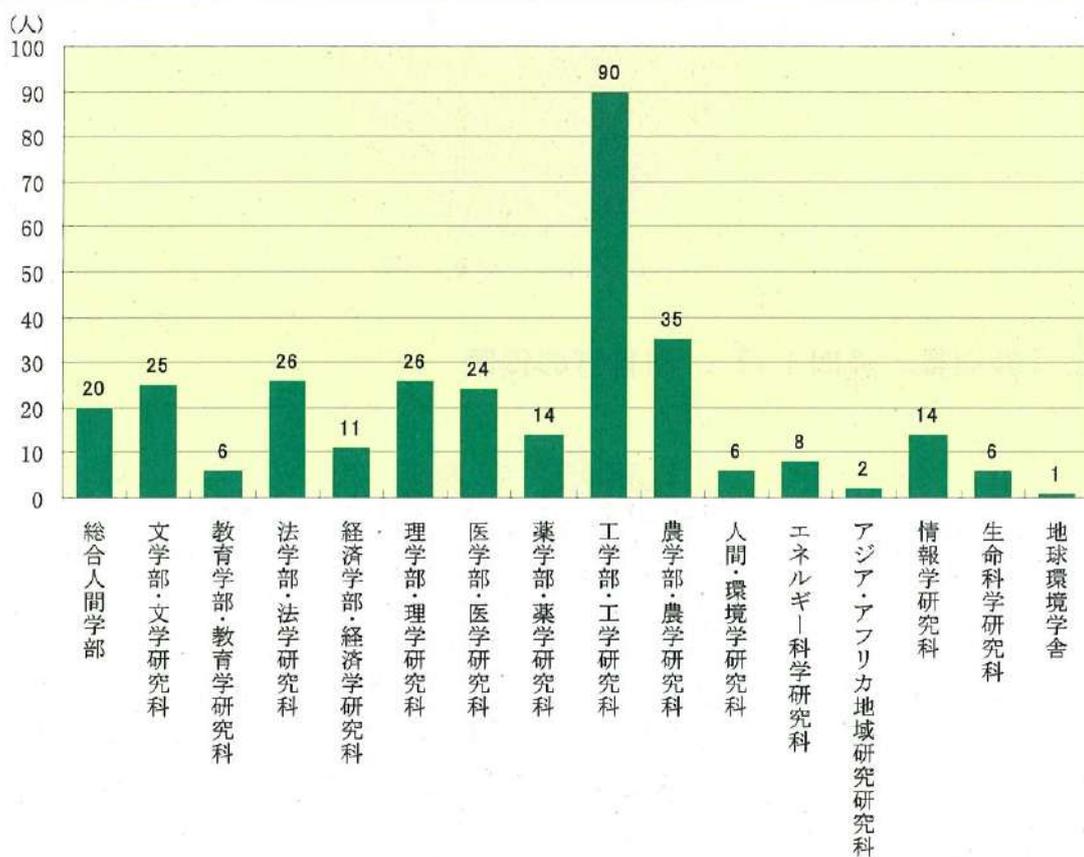
【教職員 設問1)】 回答者の役職



【学生 設問1)】 回答者の入学年度

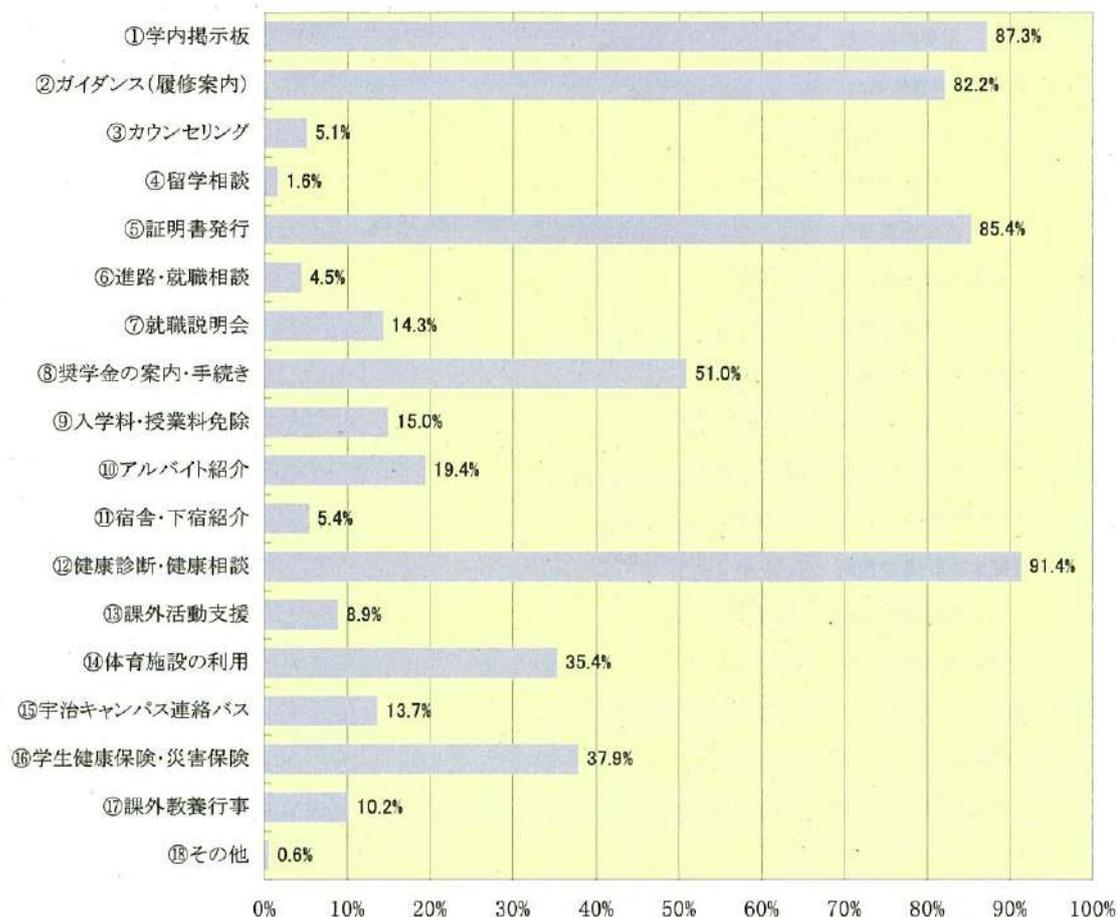


【学生 設問2)】 回答者の所属部局



【学生 設問3)】

あなたが受けたことがある「学生支援・学生サービス」は何でしたか。(複数回答可)

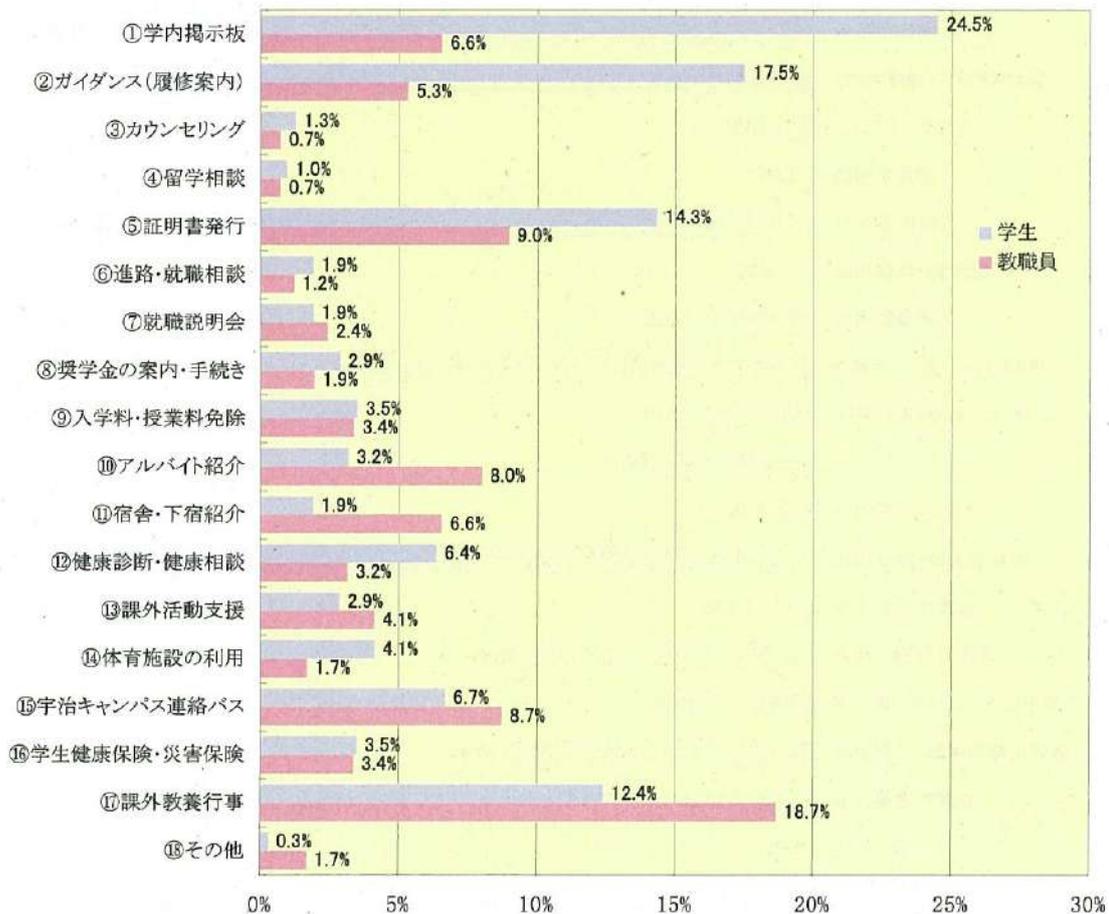


⑱その他 の回答

- ◆コピー機の使用。(文,H13修士入学,男)
- ◆VBL施設利用。(エネ科,H14修士入学,男)

【学生 設問4）】【教職員 設問2）】

あなたが「学生支援・学生サービス」だと思わないものは何ですか。（複数回答可）



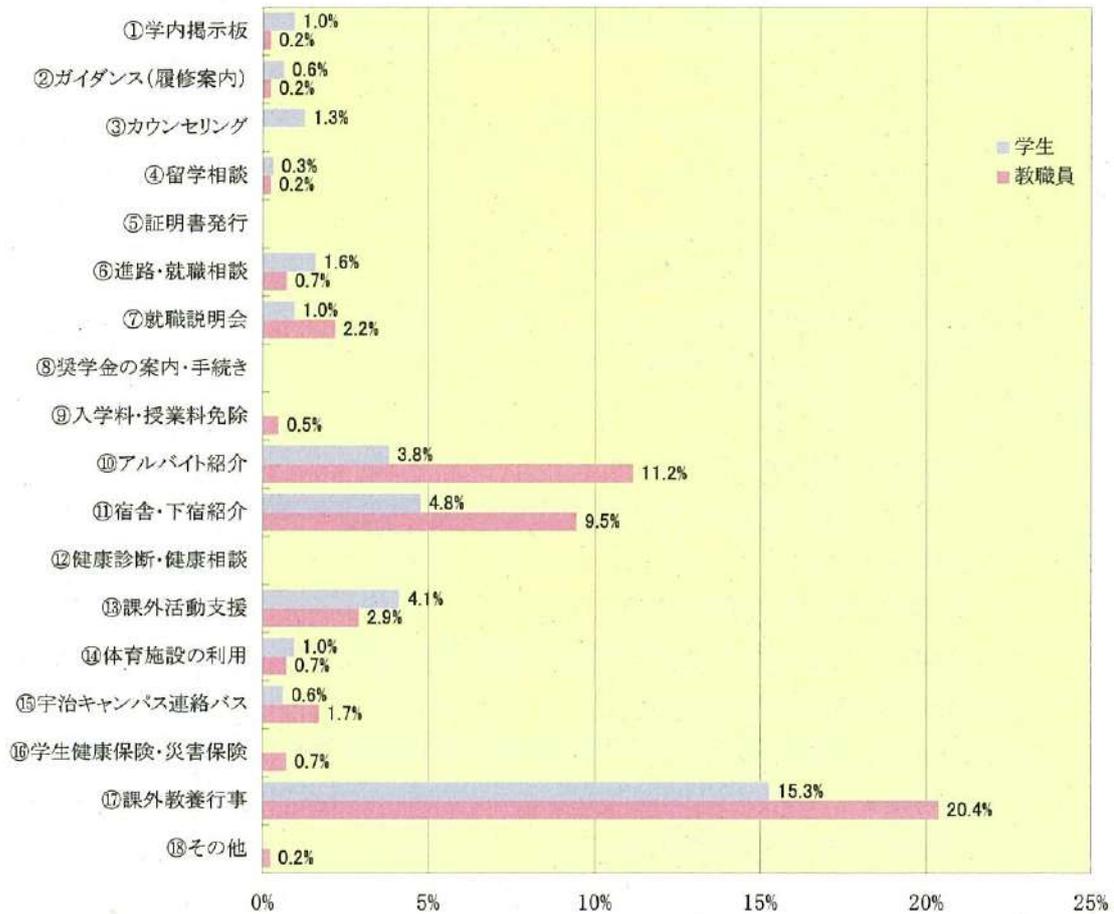
⑱その他 の回答

◆質問の意味が不明。「学生支援・学生サービス」の定義がよく分からないから。(工,H14学部入学,男)

- 間接的ではあるが、生協運営の許可(?)。(評議員)
- ランチをとるためのよりよい設備。おいしい食事の確保。生協の独占は問題。(教授)
- 履修届(目的がはっきりしないから)。(教授)
- 講演会、討論集会の開催。(教授)
- ②、⑤、⑨などは支援・サービスではなく、大学として当然行うべきものである。また⑮は学生のためだけではない。(助手)
- ここに掲上の大半が支援・サービスというより、大学本来の業務と考えます。⑩、⑪などの一部は生協などに外部委託してはいいかがでしょうか。(事務(技術)職員)
- ⑩、⑪は外注可か。(事務(技術)職員)

【学生 設問5)】【教職員 設問3)】

「学生支援・学生サービス」のうち、必要がないと思われるものは何ですか。(複数回答可)

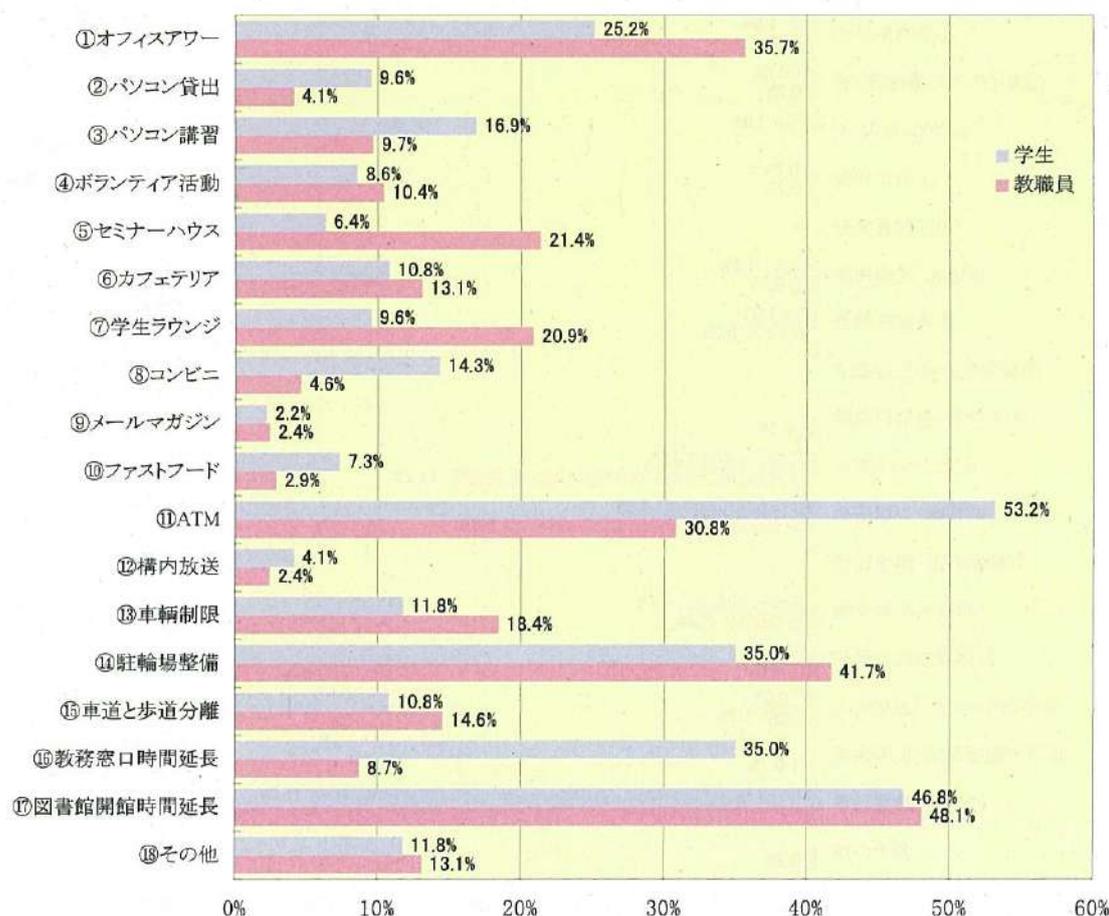


⑱その他 の回答

●⑩、⑪は外注可か。(事務(技術)職員)

【学生 設問6)】【教職員 設問4)】

「学生支援・学生サービス」として特に力を入れた方がよいと思われるものは何ですか。(3項目選択)



⑱その他 の回答

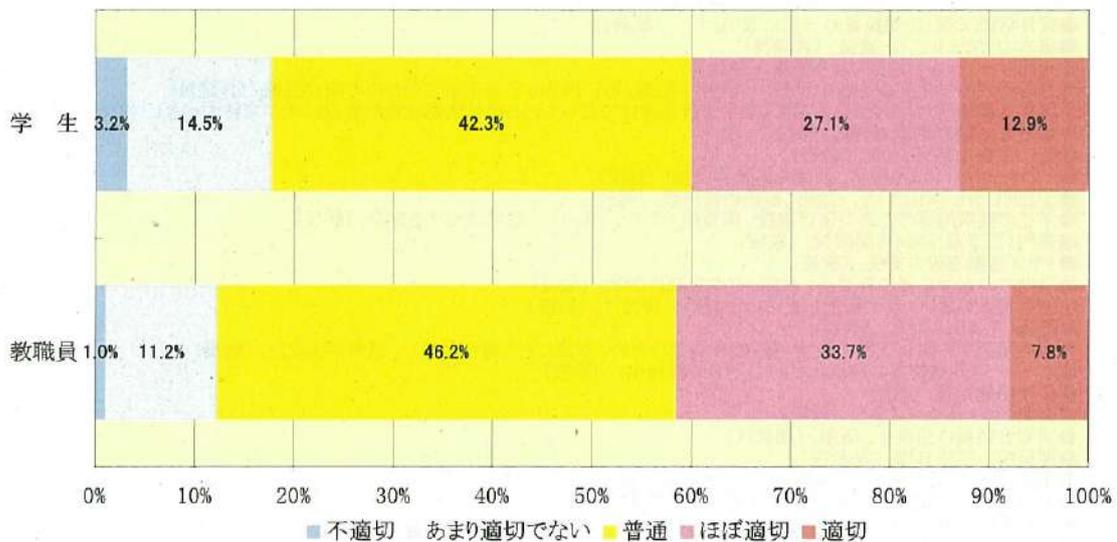
- ◆メディアセンターの土日開館。(総人,H13学部入学,女)
- ◆課外活動を取り巻く環境の整備・拡充。(総人,H12学部入学,男)
- ◆学生が主体的に参加できる(学生がつくる)イベント、あるいは勉強会の企画。(総人,H12学部入学,女)
- ◆メディアセンター開館時間延長。(文,H11学部入学,女)
- ◆駐車場の整備。(文,H14修士入学,男)
- ◆事務員の態度改善(無愛想にも程がある)。(法,H13学部入学,男)
- ◆法学部教室のエアコンをもっと充実させるべき。(法,H12学部入学,男)
- ◆通行がしづらい。(法,H12学部入学,男)
- ◆法学部図書館。一時貸出願を出しても本が戻ってこない、その手続きの強化。(法,H14修士入学,女)
- ◆就職課の設置。(法,H13修士入学,男)
- ◆教務窓口が昼休みに開いていたら便利です。(経,H13学部入学,男)
- ◆パソコンでインターネットの速度が遅い。(経,H12学部入学,女)
- ◆留学生センターのサービスになるかもしれませんが、留学生向けの支援。(理,H14修士入学,女)
- ◆駐車設備の拡充(特に土日の扱い)。(理,H14修士入学,男)
- ◆各校舎に自販機を設置。(理,H14修士入学,男)
- ◆駐車場の整備。(医,男)
- ◆5番に当たるのかも知れませんが、学生がグループ勉強会などを行うためのスペースをより多く確保する。(医,H9学部入学,男)
- ◆⑨と近いかもしれませんが、(休講等の)各種掲示をコンピューター上で参照できるようにするといと思います。(医,H14修士入学,男)
- ◆BAR(工,H14学部入学,男)
- ◆コインロッカーの設置。(工,H14学部入学,男)

- ◆台風などで警報が出たときの、休講になる基準をはっきり作ってほしい。(工,H14学部入学,男)
 - ◆広い芝生や、小洒落たベンチなどのいわゆる「キャンパスらしい」開放的な空間。(工,H12学部入学,女)
 - ◆自販機の設置(飲み物)。(工,H12学部入学,女)
 - ◆駐車場の完備。(工,H11学部入学,男)
 - ◆構内の駅の設置。(工,H11学部入学,男)
 - ◆パソコンが使える時間の延長(メディアセンターなど)。(工,H11学部入学,男)
 - ◆桂キャンパスの生協充実。(工,H14修士入学,女)
 - ◆駐車場の整備。(工,H14修士入学,男)
 - ◆メディアセンターの利用時間延長。(農,H12学部入学,男)
 - ◆学生の自由スペースの設置。(農,H12学部入学,男)
 - ◆就職活動の支援、その活動の広報。先生方も含めて。(農,H11学部入学,女)
 - ◆各種証明書発行の時間延長(24hにしてほしい)。(農,H13修士入学,女)
 - ◆宇治へ本部バスの便数の増加、土曜・日曜もやる。(エネ科,H14修士入学,男)
 - ◆学生が自由に使うことのできるプロジェクター等を置いた部屋。(エネ科,H14修士入学,男)
 - ◆A・A研においての学生組合の設置。(ア・ア,H14博士入学,男)
 - ◆体育館に温水プールやジャグジーを付けてほしい。(ア・ア,H13博士入学,男)
 - ◆24時間営業のコンビニ。(情報,H14修士入学,男)
-
- 課外活動支援(正規授業の一部に取り込む)。(評議員)
 - 構内のセキュリティ確保。(評議員)
 - 夜間ガードマンの巡回による警備。(評議員)
 - 西部構内の学生支援施設の整備、体育館の整備、特に増加する女子学生のための施設整備。(評議員)
 - 課外活動場所(学生会館)の建設(学生が現在教室で行っている課外活動は専門施設にすべて移すべき)。(教授)
 - 留学生会館の建造、整備。(教授)
 - 留学生寮の充実・拡張。(教授)
 - インターネットによる掲示、教員免許取得支援。(教授)
 - ⑤と同じかもしれないが、全国に宿泊研修施設。(教授)
 - 学生の健康増進のための体育施設、体育館があるが、もっと一般的に使える施設。(教授)
 - 裏門(百万遍)の24時間開放。(教授)
 - クラブ活動施設の充実。(教授)
 - 学内での本学主催の音楽会、演劇、その他芸術活動。(教授)
 - 携帯電話等のアンテナ設置のための土地等の貸付け。(教授)
 - 教室のOA化の対応。(教授)
 - 宇治地区での窓口業務の充実。書類1枚提出のため、本部に行く場合が多い。情報が少ない。(教授)
 - オートバイ入構禁止の厳正化(キャンパスの静謐化)。(教授)
 - 精神保健対策。(教授)
 - 夜間のガードマンによる。(教授)
 - 同窓会組織の活性化、活用。(助教授)
 - 図書館の開館日増。(助教授)
 - 電波LANによる学内ホットスポットサービス。(助教授)
 - 宇治キャンパス連絡バスの増便&時間延長。(助教授)
 - 駐車場の整備。(助教授)
 - 学生グループ学習室の増設。(助教授)
 - 寮の整備。(助教授)
 - 特に留学生に対する宿舎の紹介、学生向けの案内も英文化が望ましい。(助教授)
 - 新設研究室の実験室の確保。(助教授)
 - シラバス整備。(助教授)
 - 宇治地区(遠隔地)の学生に対する書類発行を宇治の窓口で行えるようにする。(助教授)
 - 大学附属遠隔地施設の見学。(助教授)
 - 各学部での修学や進路についての専門領域の知識を踏まえた相談窓口。(講師)
 - 各種届け出の電子化。(講師)
 - 構内の整備(芝生、植樹など)。(講師)
 - 自由ゼミなどへの講義室の利用(時間延長)。(講師)
 - 就職課の設置(特に3回、4回生相手の)。(助手)
 - 学内での安全対策、防犯。暴行などが起きても、警察がすぐに来れない。大学自治、学生自治会などの問題は知っているが、本当に何とかしてほしい。(助手)
 - 放置自転車の廃棄。(助手)
 - キャンパス間連絡バスの増発。宇治←→桂。(助手)
 - (有料)駐車場。(助手)
 - 実験スペースの確保。(助手)
 - 学部生向けのパソコン環境の改善。(助手)
 - 熊取キャンパス連絡バス。(助手)
 - 情報・インフラの整備。(助手)
 - 遠隔地施設に所属する学生へのサポート。(助手)
 - 学内のサイン、建物内の禁煙・分煙。(事務(技術)職員)
 - ⑧、⑩、⑪は民間に任せる部分は民間にやらせるべきだ。②は、各自購入を機能要件を示し、義務化し、PC基礎科目の履修をさせるべき。*PCの陳腐化は3~4年の周期であり、大学で購入し、更新する余力はない。(事務(技術)職員)
 - 福利厚生施設の充実、就職斡旋、職場開拓。(事務(技術)職員)
 - 学生(特に大学院生)の就職支援のための社会・企業への情報の発信。学生の声を広く聴くシステムの開発。(事務(技術)職員)
 - 教務窓口の昼休みの開設。(事務(技術)職員)
 - 食堂の充実。(事務(技術)職員)
 - 全学同報システムによる学生への周知通知サービス。(事務(技術)職員)
 - 学生会館。(事務(技術)職員)
 - インターンシップ制度。

【学生 設問7)】【教職員 設問5)】

「学生支援・学生サービス」について、次の7 項目の現状を判断し、5 段階評価して下さい。

① オリエンテーション、ガイダンス(履修案内)などの学習支援



【自由記述】今後の対応について

- ◆卒業までの流れを詳しく、早い時期に、過去認められた卒論テーマなどを含めて、ガイダンスすべき。学生サービスにはあたらないが、入学試験の前にこのようなガイダンスをするか、資料を募集要項に入れるべき。(総人,H14学部入学,男)
- ◆結局何をやる所なのか分からなかったりする(総人は特に)、学生向けの学部内の学問の体系(学問のすみ分けとか、学際的なことを期待して選んだ専攻が、一つのことに固執してたりすると悲しいです。)を示すような資料がほしい。そして、先生とも楽しくコミットする機会がほしい。(総人,H13学部入学,女)
- ◆総合人間学部便覧の単位に関する記述等は、誤解のないように書いてもらいたいと思います。特に、新生入生にとっては、手引きを見ただけでは、分かりにくいのではないかと思います。(総人,H13学部入学,男)
- ◆履修案内、履修の仕方などがもっと分かりやすくなるとうい。(総人,H11学部入学,男)
- ◆いつも行ってもあまり意味がない。履修案内のシラバスを充実させてくれれば十分。あるいは、シラバス配布後に質問を受けてくれる場があるとよい。(総人,H11学部入学,女)
- ◆工学部で行われているようなアドバイザーをつけるなど。(総人,男)
- ◆総人の副専攻での単位のそろえ方が、総人の本を読むだけでは分かりにくいので、副専攻ガイダンスもやってほしい。あとオリエンテーションで、大学全設備をもっと詳しく案内する機会を設けては。(総人,H13学部入学,女)
- ◆総人のカリキュラムがいい加減なので、もう少しマニュアルを作ってもよいと思う。(総人,H11学部入学,女)
- ◆現在学生に依存している。(総人,H11学部入学,男)
- ◆学科オリエンテーションは分かりにくい部分も多い。学生が気軽に相談、訪問できる場があるとよい。(総人,H11学部入学,女)
- ◆教員免許等々、資格関連のオリエンテーションないしガイダンスの充実を図ってほしい。(総人,H11学部入学,男)
- ◆それがいつ行われるのかをネットなどに載せてもっと分かりやすくしてほしい。(総人,H13学部入学,男)
- ◆前・後期授業開始前後に学生の学習状況を見るためのガイダンスを設けた方がよい。(各学年)(総人,H12学部入学,男)
- ◆少し長い気はするけどよいと思う。(総人,H12学部入学,女)
- ◆ないよりはあった方がいいものだと思います。気持ち、精神的な意味でも有効。(総人,H11学部入学,男)
- ◆配付資料を読み上げるだけなら時間の無駄。もっと学生が欲している情報に目を向けるべき。(文,H12学部入学,男)
- ◆ほとんど役に立たない。ポケゼミ形式を参考にして、もっと積極的にやってほしい。(文,H12学部入学,男)
- ◆行ってもあまり得るものがない。(文,H14学部入学,女)
- ◆オリエンテーションの印象として、お題目の方ばかりで具体的なものが掴みにくかった。(文,H11学部入学,女)
- ◆不親切な点がある。履修や登録の際、分かりやすい説明で、広報、オリエンテーションを充実させるべきだと思う。(文,H11学部入学,男)
- ◆一年入学時から選択できる専門科目を増やすこと。二年の時に専門を1、2つ受講して、簡単なガイダンスだけでは専修に所属してから違和感を感じてしまう。このため早めに少しでも専門的な学問に触れるようにした方がきっかけになってよいと思う。(文,H13修士入学,男)

- ◆各研究室のPRが足りないように思える。教授が自分の研究室を魅力的にし、学生が行きたいと思えるようなPRをしてほしい。(文,H12学部入学,女)
- ◆履修等は学生にとって分かりづらく、不明な点が生じやすいことなので、窓口等で気軽に質問できる雰囲気が必要であろう。(文,H12学部入学,男)
- ◆多くの教官の話を聞く機会を設ける。(文,H11学部入学,男)
- ◆少ない回数の中で、できる限り分かりやすく、誤解を与えず、学生の学習意欲を引き出すために力を入れるべきだと思います。(文,H11学部入学,男)
- ◆良くも悪くも印象が残っていない。今の水準を維持すればよいのでは。(文,H11学部入学,男)
- ◆専修分属のガイダンスは具体的にどのようなことをするのか分かりにくかった。もっと時間をかけたり、随時教授に相談に行けるシステムを作してほしい。(文,H11学部入学,男)
- ◆“自分から研究室に入ってみたらいかがですか”と一押ししてあげる。(文,H13修士入学,男)
- ◆教官への連絡を徹底した方がいい。ガイダンスに教官が40分近くも遅れて来るのはどうかと思う。(文,H13修士入学,女)
- ◆個別相談の課を随時設置すべき。(文,H12学部入学,男)
- ◆学生次第のことなので、現状でよいと思います。(文,H12学部入学,女)
- ◆図書館の使い方や研究室の使い方などの説明がもっとほしい。(文,H12学部入学,女)
- ◆現状のままでよいと思う。(文,H13修士入学,男)

- ◆もっと丁寧にオリエンテーションなどをしてほしい。(教,H14学部入学,女)
- ◆ホームページ上での情報提供や、インターネットを使用した履修届提出などもあれば便利だと思います。(教,H14修士入学,男)

- ◆口頭だけでなく、詳細な説明プリントを配布すべき。講義が内容と違うことも多々ある。(法,H13学部入学,男)
- ◆履修案内では、司法試験の話だけでなく、もっと履修の仕方などの説明をした方がいいと思う。(法,H14学部入学,女)
- ◆狭い教室に大人数が集まるので、部屋が一杯で入れなかったり、とても暑くなったりすることを改善してほしい。(法,H12学部入学,男)
- ◆もう少し丁寧にやってほしい。(法,H12学部入学,男)
- ◆特に何も言わないのではなく、履修しておくのが望ましい講義を指示してほしい。(法,H13学部入学,女)
- ◆全体への案内だけでなく、個別の相談なども充実させるべき。履修登録の説明が非常に分かりにくい。(法,H13学部入学,男)
- ◆学生の知りたいことに、十分答える内容ではない部分があるので、内容の改善してほしい。(法,H12学部入学,女)
- ◆掲示やインターネットで、当日来ることのできない学生への配慮を期待します。(法,H12学部入学,女)
- ◆試験登録や履修届の提出時期について、およそいつ頃に何が行われるかを常に掲示してほしい。(法,H14修士入学,男)
- ◆レポートの書き方、文献の検索の仕方など、基本的なことを入学した時点で教えての方がよい。(法,H13修士入学,男)
- ◆もっと簡素化してもよい。(法,H12学部入学,男)
- ◆法学部においては、2年生までは履修案内が行われるが、3年生からは全体向けの案内がない。特に3年生からは演習が始まるが、説明会の有無が、各演習毎の判断によるため、希望する演習でも説明会が開かれないことがある。(法,H11学部入学,男)
- ◆履修案内のより一層の充実。(法,H14修士入学,男)
- ◆特に問題はないと思います。(法,H13修士入学,男)
- ◆現状でよい。(法,H11学部入学,男)

- ◆冊子の内容が分かりにくく、大学というものを知らない入学したての学生にとって、そもそも難解である履修システムの理解を更に困難にしている。また、オリエンテーションについても短時間で分かりにくい。(経,H13学部入学,男)
- ◆履修案内が不親切。もう少し「こういう仕事にはこう、こういう目的にはこう」というサンプル例示とかしてほしい。(経,H12学部入学,男)
- ◆各先生が、何を専門にしているかをもっと知りたい。また、他学部の情報を得られる機会が少ないので、改善してほしい。(経,H12学部入学,女)
- ◆もう少し丁寧にしてほしい。(経,H13学部入学,男)
- ◆特に改善すべき点はないと思われるが、オリエンテーションの告知はもう少ししっかりやるべきだと思う。(経,H13修士入学,男)
- ◆より認識されやすい掲示がなされた方が、受ける側としても分かりやすいのでは。(経,H12学部入学,男)

- ◆情報をより頻繁に与えてほしい。ガイダンスの日程の告知が掲示板だけでは心許ない。(理,H13学部入学,男)
- ◆学部のとくに比べて大学院ではどのように履修すればよいかの説明が少なく、いまだに友人と相談することがあるので、ガイダンスを開くことは必要だと思います。(生命科学研究科はガイダンスが開かれていましたが。)(理,H14修士入学,女)
- ◆私が入学したときには、この存在も知りませんでした。ですから広報活動もお願いします。(理,H14修士入学,男)
- ◆システムとか外見上のことは当たり障りなく分かるが、実態や内情に関する情報が乏しい。(理,H13修士入学,男)
- ◆大まかに分かるが、もう少し具体的な内容がほしい。(理,H13学部入学,男)
- ◆話が冗長になりがち。もっと要点をまとめてほしい。(理,H13学部入学,男)
- ◆新学期にシラバスを受け取ってから、開講するまでの期間が短いと思うので、シラバスに書いてある重要事項を理解して科目を選ぶまでの時間がもう少しあればいいと思う。(理,H14修士入学,男)
- ◆特に入学前は学内に友人がいないと情報が入ってこない。重要度・対象を明確に広報してほしい。(理,H14修士入学,男)
- ◆特に学部のシラバスについて、講義内容をきちんと説明するようにしてほしい(内容が更新されない、説明が短い、など不備が多い)。(理,H14修士入学,男)
- ◆毎年ほぼ同じ内容なので、その年ごとに少しはバリエーションを持たせてほしい。(理,H13修士入学,男)
- ◆研究室の説明などが完全に研究室任せで、情報が不十分なところがある。(理,H12学部入学,男)
- ◆その日時の掲示が大学に来ないと分からない(HPに出てる?)ので、もっとネットを使うべき。(理,H14修士入学,男)

- ◆説明不足。放任主義的で、とても分かりにくいです。もっと学生にとって分かりやすいオープンなものにしてほしいです。(医,H14学部入学,女)
- ◆少なくとも入学生に対しての授業のガイダンスを開講日1日前にやるのはやめてほしい(医学部)。遅すぎる。(医,H14学部入学,男)
- ◆もう少しきちんとしてほしい。(医,H10学部入学,男)
- ◆主催側の質問に適切に返答できるように準備すべきだと思います。また、こちらからの要望がどのような形式で扱われて処理されているのかが明らかになるとよいと思います。(医,H14修士入学,男)
- ◆毎年行われているかどうか分かりませんが、毎年行うべきだと思います(既にそうならごめんなさい)。(医,H11学部入学,男)
- ◆もっと分かりやすく。(医,H10学部入学,男)
- ◆見やすい掲示版の工夫。ごちゃごちゃしているので、期限が過ぎたチラシの除去など。(医,H14修士入学,女)
- ◆一年間の大まかなカリキュラムを知らせていただきたい。現在は春、秋、冬学期単位なので。(医,H12学部入学,男)
- ◆実施することの連絡をもっと分かりやすく。知らないうちに終わってしまったことがあります。(医,H10学部入学,男)
- ◆このままでいいです。(医,H14学部入学,男)
- ◆改革の時期だから、早め早めの報告を学生にもしてほしい。(医,H10学部入学,男)

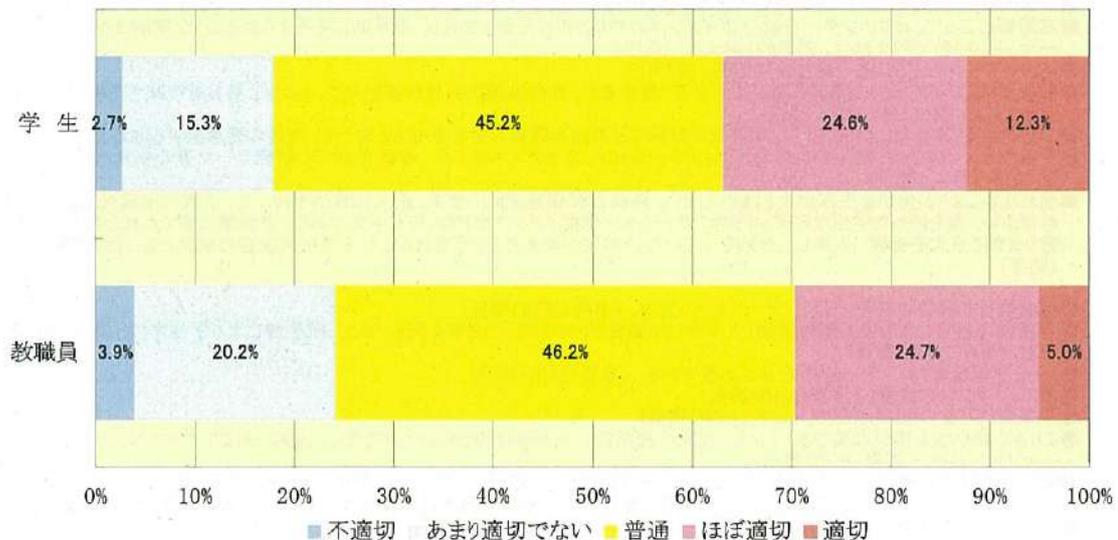
- ◆後期に入ったときにガイダンスをしてほしい。(薬,H13学部入学,女)
- ◆現在年1回、年度初めに行われているが、前後期のはじめ年2回にしてほしい。ガイダンスは自分の進路や勉強方針を決める上で、非常に役立っているが、年1回では少ない気がするし、何となく、放ったらかしにされているように思う。(薬,H12学部入学,女)
- ◆ガイダンスといっても形式的なもので、結局自分で決定するのだから、わざわざガイダンスなど行い、時間を奪われるぐらいなら、シラバスの授業案内等をきちんと書き、それを読めば十分対応できるぐらいにシラバスの拡充を望む。また、ここは大学なのだから、自分で決定するための情報の提供ぐらいで、やめるべきである。(薬,H12学部入学,男)
- ◆無駄な話が多く、それによって時間も長くなっているように思います。なるべく分かりやすく簡潔にしてほしいです。(薬,H12学部入学,女)
- ◆大体の必要なことは言ってくれるが日程の掲示を学休中に行うのはやめてほしい。(薬,H12学部入学,男)
- ◆特に生徒に対して積極的にアドバイスしようという態度は見られない。(薬,H12学部入学,男)
- ◆4月は履修の手引きを読むに必死でした。掲示板を見るのも一苦労でした。履修手引きのややこしいのはしょうがないしろ、掲示板の新旧ごちゃごちゃなのを改善してくれば新入生も少しは楽なのでは・・・(薬,H14学部入学,女)
- ◆今のままでいいと思う。(薬,H12学部入学,男)
- ◆薬学部は毎年ガイダンスがあり、非常に役立ち助かっています。(薬,H11学部入学,女)
- ◆毎年ガイダンスは行われているし、シラバスがしっかりしているので大丈夫。(薬,H11学部入学,女)
- ◆学部内では非常に丁寧にやっています。(薬,H14修士入学,女)
- ◆まず、全学共通科目と専門科目の登録を同じ所でやるべきです。そうすればもっと分かりやすいはず。(工,男)
- ◆説明会を増やす。(工,H14学部入学,男)
- ◆履修内容の詳細を口頭で説明してもらいたい。(工,H11学部入学,男)
- ◆シラバスの内容をそのまま口で言っているだけであったので、それを改善。(工,H14学部入学,男)
- ◆コース分け(工学部)の詳しい内容を教えてほしい。どのような成績が付けられ、自分が今どれぐらいの順位にいて、どのコースに行ける可能性があるかなど。(工,H13学部入学,男)
- ◆ガイダンスの回数を増やし、学生に自分の現状把握の助けをもっとする必要があるのでは。(工,H12学部入学,男)
- ◆履修に関することで変更があった場合、ネット上で公表すべき。掲示板に貼り出すだけでは見落とす場合がある。(工,H12学部入学,男)
- ◆成績発表が遅すぎる。(工,H12学部入学,男)
- ◆新入生には特に念入りにガイダンスすべきだと思う。(工,H11学部入学,男)
- ◆メールでの連絡を充実してほしい。(工,H14修士入学,女)
- ◆ガイダンスは、初学年生のみが必要で、そのほかの学年では必要ないと思う。実際、本に書いていることを読むだけなので必要ないと思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆おおむねよいが「英語による講義」の締め切りが4月中旬であり、うっかりしていると登録できないことがある。もう少し遅らせられないか。(工,H13修士入学,男)
- ◆現状では単に履修届、健康診断書、採尿容器を配るだけであり、それなら特定の日に学生を集めなくても事務の窓口で渡せばよい。(工,H13修士入学,男)
- ◆休み中ではなく、せめて講義が開講中に連絡してほしい。(工,男)
- ◆ガイダンスが授業の先日で、そのときに初めて授業内容を知ることになったので、少し混乱した。できればもう少し早くガイダンスをしてほしい。(工,H14学部入学,男)
- ◆別に不便さはないと思います。(工,H13学部入学,男)
- ◆行う時期がもっと早く正確に分かる方がよい。家が遠いのでそうちよくちよくは来られないため。(工,H12学部入学,男)
- ◆複数の日時で行ってほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆現状の維持でよいと思う。(工,H11学部入学,男)
- ◆卒業の条件が分かりづらい。(工,H11学部入学,男)
- ◆履修案内などは授業に出ないとイメージが湧かない。(工,H11学部入学,男)
- ◆春休み後のオリエンテーションの日などを地元が遠くの人のためにメール等で知らせてもらえればよいと思います。(工,H11学部入学,男)
- ◆できれば、開催日時などをメールで Info してもらいたかった。(工,H11学部入学,男)
- ◆履修科目一覧が読みにくい。(工,H11学部入学,男)
- ◆今後ともこのままでいいと思います。(工,H11学部入学,男)
- ◆紙と口頭での説明は二度手間。口頭での説明は大半の人が聞いていないように思われるのだが。(工,H10学部入学,男)
- ◆1回生の時には履修登録のコツが分からなく、友達頼りになりました。担任の先生などの支援をしてあげてください。(工,H14修士入学,男)
- ◆特に変える必要なし。(工,H14修士入学,男)
- ◆何とも思わなかったのですが、このままでいいと思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆特に問題はないが、ガイダンスの日付などが学部の掲示板の片隅に小さく示されていることがあり、見落とす場合があったので、分かりやすくしてほしいと感じました。(工,H13修士入学,男)
- ◆本を読めば大体分かると思う。(工,H14学部入学,男)
- ◆複数回実施による人数分散。(工,H13学部入学,男)
- ◆オリエンテーションでは入学した1回生が早く本学に馴染めるよう食事会などを行ったらどうかと思う。(工,H12学部入学,男)
- ◆ガイダンスの日程をもっと分かりやすくすればよい。(工,H12学部入学,男)
- ◆おおよそこの種の通知は長期休暇中になされることが多く、見に来るのが面倒なことがあるから、メールで配信とかしてほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆ガイダンスの日時の発表が遅いと思う。4月上旬にガイダンスを行うのであれば、3月中旬ぐらいには掲示がほしい。後期が始まる前にもガイダンスがあった方がよい。(工,H12学部入学,男)
- ◆無意味な時間を取ることはやめてほしい。必要最小限で説明してほしい。(工,H12学部入学,女)
- ◆いつ、どこでやるか早めに知らせてほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆日程を掲示だけでなく、Eメールなどでも知らせてほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆年1回、分かりやすく行われているので、このままでいいのではないか。(工,H11学部入学,男)
- ◆事務通達をインターネット上に公開してほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆現行のままでよい。(工,H14修士入学,男)
- ◆講座がどのようなことをしているのか、説明文を付けるのは分かりやすくしていいが、毎年同じコメントを載せるところがあるのは、どうかと思う。(工,H14修士入学,男)
- ◆今のままで十分よいと思う。(工,H14修士入学,男)
- ◆土木の履修案内は、評価方法などが明記されていなくて不便。(工,H14修士入学,男)
- ◆今まで通りでよいと思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆学部での支援は適切であると思いますが、修士に関しては説明が少ないと思います。大学院生用のシラバスも作ってほしいと思います。(工,H13修士入学,男)
- ◆専門科目のガイダンスの際、図書館の利用について説明が毎回ありますが、関心がないためか誰も聞いていない。もう少し興味を持てる話をしていただきたい。(工,H13修士入学,男)

- ◆そのままがいい。(工,H12学部入学,男)
- ◆今のままでいいと思います。(工,H14修士入学,男)
- ◆特に問題はないと思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆大学が何をやっているのか分かりにくい。何をどこに行けば受けられるのか分かりやすくしてほしい。(農,H14学部入学,男)
- ◆もっと親切に、情報量を増やしてほしい。(農,H12学部入学,男)
- ◆まづうまく全員に伝達できていない。それこそメール等を用いて二重三重の連絡がほしい。放っておけば終わりという姿勢が評価できない。また内容も分かりにくく、職員も極めて不親切。プロ意識が欠如している。(農,H12学部入学,男)
- ◆告知が不足しているように感じる。HPなどに載せるなどして学外からももっと自由にweb閲覧できるようにしてほしい。セキュリティ面については、IPで弾くのではなく、IDとパスワードで制限してはどうだろうか。(農,H12学部入学,男)
- ◆シラバスだけで履修科目を決めにくいので、もっとガイダンスをしてほしい。(農,H12学部入学,男)
- ◆適当すぎる。友達や先輩に聞いた方が分かる。司会だった先生に質問しても答えが返ってこなかった。(農,H11学部入学,女)
- ◆もっと分かりやすくガイダンスしてほしい。(農,H11学部入学,男)
- ◆授業内容が判断できないときがある。一つの授業につき、A4一枚くらい示すべきである(専門授業は特に)。(農,H11学部入学,女)
- ◆もう少し統一してやってほしい。情報が分散していて様々な所へ行かねばならず、見落としやすい。ネット上で一部公開してもよいのでは(特に休講情報)。(農,H14学部入学,男)
- ◆あんな感じでいいと思う。(農,H11学部入学,男)
- ◆簡潔に短くすべき。(農,H11学部入学,男)
- ◆長時間かけて、だからやらせずに、必要事項のみの確にお願いします。(農,H14修士入学,女)
- ◆これまで不自由は感じなかったが、先輩のアドバイスや情報がなければ対応しづらかったと思うので、そういった縦のつながりが生まれるような仕組みをつくるか、より細やかな生きた情報を得やすくしてほしい。(農,H14修士入学,女)
- ◆場所が狭いので、広いところ、または日を分けて行う。(農,H13修士入学,女)
- ◆掲示板の調子がよくないことがある。北部生協前の電子掲示板はずっと前から止まっています。(農,H13学部入学,男)
- ◆現状で特に不満はありません。(農,H13学部入学,男)
- ◆もっと具体的に話してほしい。(農,H11学部入学,女)
- ◆より具体的に。(農,H13修士入学,男)
- ◆このままでいいと思います。(農,H13修士入学,男)
- ◆このままで十分。(農,H14修士入学,男)
- ◆十分分かりやすかったです。(農,H13修士入学,男)
- ◆シラバスに記された内容が必ずしも分かりやすいものではなく、特に初学者は深く考えずに周囲の学生に合わせて履修する感があるので、どのようなことを学び、将来それがどう役立つのか明記してほしい。学生の立場からの記述もあるとよいのでは。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆あるということは知っているが、知らせが掲示のみなので見落とすことも多い。何らかの広報手段をつくってほしい。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆どこで、どのようなオリエンテーションやガイダンスが行われているかが分かりにくいので、それらをまとめて示してあるホームページなどがあればよいと思う。(エネ科,H13修士入学,男)
- ◆特に支援を必要としないのでは。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆日程の告知について、自宅が遠方の者は掲示板を見に来るのが大変そうである。もっとよいシステム(例えばテレホンサービス等)を設置すべき。(情報,H13修士入学,男)
- ◆やって当たり前です。(情報,H14修士入学,男)
- ◆他学部、学科へのアクセスをもっと柔軟にほしい。履修方法の簡略化、online 情報の充実。(情報,H13修士入学,女)
- ◆現状維持。(情報,H14修士入学,男)
- ◆特に問題ないと思う。必要な情報は伝わっているし、ガイダンスに出ない学生がいたとしても、学生同士の情報交換に必要な事柄は伝わるので。(情報,H13修士入学,男)
- ◆今のままでいいと思います。(情報,H14修士入学,男)
- ◆学生同士の横のつながりが広がるようなオリエンテーションがあればよいと思う。(生命,H14修士入学,女)
- ◆大事な掲示については、文字の色を赤などにして、変化をつけると見る側としては嬉しいです。(生命,H14修士入学,男)
- ◆特に院生に対しては、履修のガイダンスのみで、カウンセリングや図書館の利用法などの一般的(学問以外)なサービス案内がほとんどない。生協についてなど、学部生と同じようなオリエンテーションが必要。(H14修士入学,男)
- 各学部によるが、もともと高卒者には分かりにくいので、工夫が必要。(評議員)
- もっと時間をかけて分かりやすく説明すべき。(評議員)
- 学生の進路希望に沿ったきめ細かいガイダンスが必要。履修科目のセットを複数用意するなどの支援が必要(カリキュラムの在り方も検討しなければならない)。(評議員)
- 必要なことは、手取り、足取りのサービスではなく、勉学への動機付けである。これはガイダンスなどの形にはまったものばかりとは限らない。学生と教官の食後のチャットしたふれあいなどにある。そのようなふれあいの空間が少なすぎる。(評議員)
- 学生が自分で考えるクセをつける第一段階として、方法を教えない。(評議員)
- 全学のすべてのシラバスがホームページで見ることができるよう。まとめた形で。(評議員)
- 外国人留学生への履修案内を充実させるため、英語での案内など増やす必要がある。(評議員)
- 基礎となる学習科目の早期獲得のすすめ。(評議員)
- 全学規模(?)と各専攻規模があり、一様には論じられないのでは?(評議員)
- もう少しきめ細かいガイダンスを。(評議員)
- 途中で、再度または再々度の機会があっても。(評議員)
- 格別に改める必要なし。(評議員)
- オフィスアワーを設定し、充実を図る。(評議員)
- 理想を言えばきりがないが、強いて言えば学生の真の悩みには対応していない。(評議員)
- 研究所にいたので現状が分かりません。(教授)
- 教官とのコンタクトをもっと密にする。(教授)
- 機構が企画、実施するような形とし、なるべく全体で要領よく行う。また英文の履修案内も作る。(教授)
- 日常レベルで学生の相談に対応できる、また各学生の現況を把握し、アドバイスができる体制の確立。(教授)
- 学生個人にマンツーマンで教官が対応すべきである。特に大学院生に対するものは、形式だけに終わっている。(教授)
- これまでコンピュータでの履修届と手書き履修届が大きく異なっていた。統一すべき。本年は少し違っ改善か?(教授)
- 全学共通科目に関するオリエンテーション、ガイダンスが各学部でばらばらで不徹底である。より適切な指導が望まれる。(教授)

- あまりにも事務的な作業になってしまっている感じがする。もう少し、少数単位できめ細かく、時間をかけて、できれば全員参加の(学科単位)の泊ミーティング方式の導入。(教授)
- 留学支援:留学志望の学生に対する有利な制度の確立。(例)単位の互換、交流校の積極的紹介。課外活動:意欲のある特徴のあるイベント・プロジェクトを募集する。(例)討論集会、研究会、発表会等に金銭的支援を行う。(教授)
- 大学が組織改編をしているが、学生にもっと知らせるべき。(教授)
- 入学時のオリエンテーションは、担当教官の負担が大きい。費用負担も大きすぎる。全学共通科目のガイダンスを丁寧にする必要があります。(教授)
- 個別のオリエンテーション、ガイダンスを行うこと。メンター制の導入。(教授)
- 多重(同じ時間帯の)履修届を厳しく抑止する。(教授)
- サービスと称する項目に対して、できない学生への親切的対応。(教授)
- 実は現状をあまり知らないが、1回生の始めの頃のオリエンテーションを強化すべきではないかと思う。(教授)
- ガイダンス、HPの充実。(教授)
- IT技術に移行していけばいい。(教授)
- 学期の始めだけでなく、きめ細かな対応が必要になってきている。(教授)
- ある程度の範囲でよいが、学生がこれらについて教官に個人的に相談できるシステムを整備する。(教授)
- 一部の事項は、あえて文章化せず、口頭のみ説明して、ニュアンスを伝えることが行われているが、このようなことは止めるべきで、もっと明確なルールとするべき。(教授)
- フォローアップの充実。(教授)
- 何をやるためには、どのような勉強が必要か、そのためにはどのような授業を取ればよいか具体的なガイダンスが必要。(教授)
- 現在の程度で十分と考える。(教授)
- 初年度のガイダンスの充実。進路の悩みに対する相談。(教授)
- 大学初年度の学生に対して、きめ細かいガイダンスを行う。(教授)
- 一回生からの徹底(情報提供などの)が必要。(教授)
- 進路指導を明確に。自己申告により達成度評価。(教授)
- 研究室や教官のホームページで内容を適切かつ充実するように全学的支援をむしろ必要としているのではないか。(教授)
- 4月(入学時)と5月末頃2回行うとよい。(教授)
- 現状のままでよいと思う。(教授)
- このまま続けたい。(教授)
- 更に入学時の人権問題のガイダンスなどが必要。(教授)
- 現状程度で十分。(教授)
- もう少し簡潔に書けないものか。(教授)
- 工業科学科ではクラス担任を置いて、相談に乗っているが、学生との距離も感じる。学習不足に対して早い時期にガイダンスをする必要性有りと考え。(教授)
- ルールの簡素化(履修科目や種類について)。(教授)
- 将来はインターネットを通じて履修登録ができるようになることと4~5月の混雑が解消可能となる。(教授)
- 個人のニーズに応じた個別的助言を与える。(教授)
- 大学のホームページや学部のホームページでガイダンスなどについての質問を受け付けられるようになれば、なおよい。(教授)
- 情報の質、量のバランスをもう少し取ってはどうか。教科によってバラツキが大きい。(教授)
- 教官の片手間仕事、専門家が要る。(教授)
- 他学部の事情は存じませんので、本学部では適切であると思います。(教授)
- (電気系では)アドバイザー制度により、学生への個別指導も行っている。よい制度であるが、教官の対応次第では、学生にとってマイナスになることもあるので、運用に注意が必要。(教授)
- インターネットによる内容の分かりやすい解説の頁を設定する。(助教授)
- 教官の取組み方において著しい格差が見られる。最低基準を大学が示し、取組み方の低い教官には大学・学部が責任を負い、肩代わりする必要があろう(例えば、講義情報のHP上での公開など。)(助教授)
- 入学前のオリエンテーションの充実が必要。(助教授)
- 教官同士のカリキュラム調整が不十分。シラバスも不十分なので充実させる。(助教授)
- 現実に則したガイダンスが必要。(助教授)
- (こちらの認識不足もあると思いますが)研究所等と関連する大学院コースについてのガイダンスはあまりないと思います(少なくとも研究所から出張してガイダンスをしたことはない)。今後はあってもよいと思います。(助教授)
- ガイダンス時に配付するシラバスの充実(学生による講義評価の結果も含める)。(助教授)
- 大学の学問研究が高校までの勉強とは質が異なるものだということを、小グループ指導のような形で知らせる機会を設ける(授業としてではなく、大学教育自体へのオリエンテーションとして)。(助教授)
- 現状でよい。(助教授)
- 健康診断の組み合わせをうまくする。(助教授)
- ホームページによる情報提供の充実。(助教授)
- 全学共通科目に対するガイダンスの強化。(助教授)
- すべての教官と個人的なコンタクト(履修相談等々)がもっとオープンに行われる制度と案内が必要。(助教授)
- ガイダンス内容と同等の web page を設け、ガイダンスに出席できなかった学生にも情報を一元化して開示する。教務連絡、教科の手引きの電子化。(助教授)
- 履修規程の簡素化。(助教授)
- ガイダンスなどは、専門の場合、学科別とかで行われる場合が多いが、これからは、他学科の講義を受けるケースも増えてくると思うので、そのあたりの対応をお願いしたい。(助教授)
- ホームページにオリエンテーション、ガイダンスに関する情報を掲載してはいかがでしょうか。(助教授)
- 履修について教官側との連携を密にする。(助教授)
- 担当者により、ムラがあるのは困る。基本的内容をあらかじめ確認する必要。(助教授)
- 履修上の迷いや懸念を気軽に相談できるチューター存在があるとよいと思う。京大の教官は世界的な研究者であることも多く、学生にとって敷居が高い。(講師)
- 卒業に必要な単位がそろっているかどうかを本人が事前に確認できるシステムがほしい。(講師)
- 大学生ともなれば、学習は自己責任で行うべきではないか。(助手)
- 常識に関する研修を実施すべきである。(助手)
- 学生の自主性を尊重するのが本学の方針と考えているので、現状のままで構わない。(助手)
- 他学部への聴講をやりやすくする(せつかく総合大学だから)。(助手)
- カウンセリングなどにより、将来進みたい分野に必要な講義を知ることができるようにするべきだ。(助手)
- 初めて学生生活を送る学部生には、オリエンテーション、ガイダンスの全体が見えにくく、せつかくの機会を逃しているようにも思えます。入学手続き時などに、より整備されたパンフレットを配布するなどの対策が必要では? (助手)

- 回数を増やしては？入学時すぐなど、全体像が分からないときに行っているように思える。(助手)
- 学生が納得、理解できるように、もう少し時間を費やしては？(助手)
- 充実させるか、まったく行わないか、中途半端な状態を脱すべき。(助手)
- 特に新入生や編入生に対しては、より親切的なガイダンスを充実させるべきであると思う。(助手)
- 学部や学科の枠組みにとらわれずに、他学部、他学科の履修、単位認定のよりオープンな仕組みが必要。(助手)
- 学生の希望がある場合、随時ガイダンス等が行えるようになるといい。(助手)
- シラバスなどに読書ガイド(その分野の古典、標準的教科書)を必ず付記することがなされるとよい。(助手)
- 部局等によって、オリエンテーション、ガイダンスのやり方がまちまちである。全学的にそろえられるような事柄は、統一したフォーマット(手続)で行えれば、効率的と考える。(助手)
- インターネットなどによる一様な情報提供。(助手)
- 履修案内(ガイダンス)と開講の間が短すぎると考えます。昨今は選択科目が多いので、もう少し科目を吟味する時間を学生に与えてもよいように思います。(助手)
- 一定のカリキュラムに沿って行い、単位数の計算など事務系職員に対応を中心とすべく、増員の要求をする方がよい。(助手)
- 宇治キャンパスでは、院生のためのオリエンテーション、ガイダンスですか、各研究室での研究テーマ等の紹介があり、一応できていると思う。(助手)
- 至れり尽くせりが何かを生み出すとは思えない。外部の評価等を気にせず、京大は自信を持って、京大の学風・伝統を維持すればよい。志を持った学生ならば、オリエンテーションやガイダンスなどなくても平気である。過保護に育てられた学生が、親の言うままに京大を受験、入学し、志を持っていない学生が増えたという表れか。もはや京大は昔の京大とまったく違うのかも。(助手)
- 教養科目の履修相談やオリエンテーションの充実。(事務(技術)職員)
- 専属指導教官による個人指導体制(入学から卒業までの4年間)の充実を図る。また、院生等による学部学生への支援も模索する。(事務(技術)職員)
- もっと丁寧なオリエンテーションなどが必要である。(事務(技術)職員)
- オフィスアワーの設置。(事務(技術)職員)
- 学部間にバツキがあるため。(事務(技術)職員)
- よりきめ細かな支援が必要であり、また、従来の総括的、一方通行的なものだけでなく、個別に対応したオリエンテーション、ガイダンスが必要。(事務(技術)職員)
- 窓口での履修指導について、部局によってきめ細かく行っている所、学生の自己管理と突き放している所、様々である。すべての部局において、きめ細かな対応ができる体制の整備並びに教官、事務官の意識改善が必要である。(事務(技術)職員)
- 今のままでよいと思う。(事務(技術)職員)
- 期間の拡大。(事務(技術)職員)
- 4年一貫教育なんて言うんだったら、もっと具体的なモデルケースでの指導が必要。(事務(技術)職員)
- 学部・学科により違うので、判断できかねます。(事務(技術)職員)
- 学部での実態が見えず、聞こえてこない。(事務(技術)職員)
- 現状と問題点不明。(事務(技術)職員)
- 時間が非常に短い。(事務(技術)職員)
- 全学共通科目に対するガイダンスが必要。(事務(技術)職員)
- カリキュラムがそれぞれ異なっており、事務系職員でも所属学部等のカリキュラムについて熟知するには一定の年数が必要になっている。このため、学生に対する支援がどのように行われ、また学生からどのような評価を得ているか、という問題は把握が非常に困難であると思われる。また、教官は学科・講座レベルはともかく、学部全体の把握を行うとの意識は教務担当委員として、学部のガイダンスを実施する場合以外)それほど持っていないのではないか。各学部での学生からの評価を経年的に実施しなければ、学生からの評価を把握するのは不可能と考えられる。そのほかの方法として、学生がそれぞれ実体験に基づいたホームページを立ち上げており、それを参考にすることもよいかも知れない(URL: kyoto-u.com)。全学共通科目については、新入生に対して基本的なガイダンスが実施されるべきであると思う(高等教育研究開発推進機構が実施する予定と聞いており、時代の流れに沿ったものと期待している)。(事務(技術)職員)
- 相談コーナーを常時開設すべき。(事務(技術)職員)
- 不断に改善について努力すべきである。(事務(技術)職員)
- 総合大学としての利点を生かした資格取得の種類、その履修方法などを全学的なパンフレット等によって周知してはどうか。その際、対応する授業科目名とその履修方法(登録方法)などをしてやればよいのではないか。(事務(技術)職員)
- 各学部により内容が異なるが、共通事項(免除、奨学金)は例えば入学式後に実施するなどしてはどうか。(事務(技術)職員)

② 健康管理、カウンセリング、宿舎紹介、学生寮などの生活支援



【自由記述】 今後の対応について

- ◆健康診断をもっと詳しい検査まで行うべき。現行ではよほどひどくないと、引っかけからない。(総人,H12学部入学,男)
- ◆吉田寮、要掃除。健康診断が適当すぎる。(総人,H13学部入学,女)
- ◆特に宿舎紹介等は、どこでどう行っているのか分からない。もっと掲示板を整理した方がいいのではと思うし、アピールした方がいいと思う。(総人,H12学部入学,女)
- ◆診療所の時間延長。(総人,男)
- ◆このままでよい。(総人,H13学部入学,女)
- ◆カウンセリングはいいと思う。学生寮は汚すぎる。(総人,H12学部入学,男)
- ◆診療所の時間が授業と重なっているの、対応してほしい。(総人,H11学部入学,男)
- ◆学生が受けられるサービスが何なのかあまり知られていないと思う。もっと学生に宣伝してほしい。(総人,H11学部入学,女)
- ◆特に吉田寮は歴史的建造物になる可能性があるの、建て替えたり、取り壊したりすべきではない。(総人,H14学部入学,男)
- ◆保健診療所は利用しています。もっと時間帯を広げてほしいです。(総人,H13学部入学,女)
- ◆毎年1回の健康診断は適切です。下宿、寮関係は不動産業者をお願いしましたが、学生個人の自己責任で選択し、決定すべき。選択肢が増えるのはいいこと。(総人,H11学部入学,男)
- ◆年度始めの健康診断は特にいいと思う。(総人,H13学部入学,男)
- ◆利用経験なし。(文,H11学部入学,男)
- ◆学生寮について、吉田、熊野寮などはあっても入りたくない。(文,H13修士入学,男)
- ◆これらの支援が行われていることをもっと宣伝してほしい。(文,H12学部入学,女)
- ◆学生寮はもっときれいなものを増やしてほしい(月額は多少高めでもよいので)。現在ある吉田寮などを取り壊せということではなく(それはそれで伝統として残したらよいと思う)。(文,H12学部入学,女)
- ◆アルバイトの紹介を祭りや家庭教師以外のものを含めることで充実させてほしい。近くに学相があるとは言え、それに頼ってしまっただけでは学校としては不十分。(文,H11学部入学,男)
- ◆広報活動が徹底していないため、認知度が低いと思う。(文,H11学部入学,男)
- ◆もう少しきれいできちんとした学生寮がほしい。(文,H13学部入学,女)
- ◆健康診断を学部毎などもう少し分散できないのか？(文,H12学部入学,男)
- ◆健康診断の際、掛員は女子のときは女子、男子のときは男子としっかり分けた方がいいと思う。特に女子の場合は絶対そうでなければならないと思う。(文,H12学部入学,男)
- ◆そのような支援があることを知らない人が多い。(文,H12学部入学,女)
- ◆学生寮の設備をもっと整えた方がいいと思う。(文,H14修士入学,男)
- ◆ほかでもできるので特に不便を感じないし、大学がやりすぎるのも問題があると思う。(文,H13修士入学,男)
- ◆今のままでいいと思う。(文,H14学部入学,女)
- ◆健康管理はいつも利用させていただいています。先生方も親切でとてもよいと思います。ただ、吉田寮はどうかならないかといつも感じるのですが、やはり大学自治等で対立しているのでしょうか。(文,H11学部入学,男)
- ◆この点については現状はかなりよいと思われます。(文,H11学部入学,女)
- ◆現状のままでいいと思う。(文,H13修士入学,男)
- ◆健康管理について、具体的にどのような支援が行われているのかをもっと前面に押し出し、PRしてもよいと思う。(教,H12学部入学,男)
- ◆あまり知名度が高いとは言えず、積極的な広報をする必要あり。(教,H11学部入学,女)
- ◆健康診断の手際に改善が見られた。(教,H12学部入学,女)
- ◆まあまあ。現状維持がよい。(教,H14学部入学,女)
- ◆健康診断は定期的に行われていて、自己の健康管理に役立っています。宿舎紹介等はどこに行けば情報が得られるか知らない人も多いと思います。(教,H14修士入学,男)

- ◆存在知らない。それほど無名だということは、大したサービスでないことが推定される。(法,H13学部入学,男)
- ◆学生寮をもっとちゃんと整備すべき。(法,H14学部入学,女)
- ◆特に寮の設備の不備は甚だしい。(法,H13学部入学,男)
- ◆学生寮をもう少しきちんとしてほしい。アパートを借りており、高額で家計に響きます。(法,H12学部入学,女)
- ◆健康診断などは有益であると思う。そのほかは利用したことがないので分からない。(法,H13学部入学,男)
- ◆4月に健康診断をして、その結果が6月になっても出してもらえないのが不満です。なぜそんなに時間がかかるのか理解できない。(法,H13修士入学,男)
- ◆より充実させた方がよい。(法,H12学部入学,男)
- ◆健康管理、カウンセリングに関しては、更なる質の向上がより望まれる。ただ、宿舍紹介は安く、狭い物件がほとんどであり、多様なニーズには対応しきれていない感がある。(法,H11学部入学,男)
- ◆現状でよい。(法,H11学部入学,男)
- ◆健康診断のときに問診をもう少し丁寧にして下さい。(法,H14修士入学,男)
- ◆特に問題はないと思います。(法,H13修士入学,男)
- ◆特に問題はないと思う。(法,H14修士入学,男)

- ◆もっと気軽にカウンセリングを受けやすい環境を整えてほしい。(経,H12学部入学,男)
- ◆どのサービスも充実しているとは言いが、改善する必要はない。学生が自己管理すべきものであるから。ただ、カウンセリングというサービスがあるということとアナウンスメントすべきだ。学生はそのようなサービスがあるということを知らない。(経,H13修士入学,男)
- ◆①どのような内容かが分かりにくい点がある。②HPの開設などで閲覧しやすくする必要がある。(経,H13学部入学,男)
- ◆健康診断は学期が始まる前にしてほしい。(経,H13学部入学,男)
- ◆あまり何をしている、できるのか、よく分かりません。(経,H12学部入学,女)

- ◆何とも言えません。(理,H14修士入学,男)
- ◆保健管理センターの情報管理のズサンさを何とかすべき。同じ月に違う名目で2回血液検査をさせられたり、医師との話で「再検査の必要はない」と言われていた項目で何度も再検査をさせられたことがある。(理,H13修士入学,男)
- ◆健康診断のときに、人が集まりすぎて時間がかかりすぎる。混みすぎている。(理,H12学部入学,男)
- ◆宿舍紹介がどこでどのように行われているのか知らない。もっと分かりやすい所に出してほしい。(理,H13修士入学,男)
- ◆学生寮を私立または欧米並みに整備されることを希望します。(理,H14修士入学,女)
- ◆学外機関(公的・民間)との対比が見えない。学内でしかない売りを広めてほしい。(理,H14修士入学,男)
- ◆健康に関して、健康診断等が学内で安くできるのはいいいが、曜日によって休みの科があるのをなくせば、更によいと思う。(理,H14修士入学,男)
- ◆従来型の寮以外に、「従来型の寮向き」でない学生のための寮があればと思う。(理,H14修士入学,男)
- ◆寮はこれ以上減らさないでほしい。(理,H13修士入学,男)
- ◆利用していないのでよく分かりません。(理,H14修士入学,男)

- ◆告知が分かりにくい。(医,H10学部入学,男)
- ◆もう少し充実させてほしい。特に寮は改築すべき。(医,H14学部入学,男)
- ◆学生寮に関して、そこに入居している人に対し、悪いイメージを持っている人が多く、そこに入りたいと思えない。寮がきれいではない。(医,H12学部入学,男)
- ◆学生の精神状態をよりきめ細かくケアするためにスクリーニング導入。(医,H9学部入学,男)
- ◆カウンセリングはもう少し宣伝した方がいいのでは。やってみることも知らなかった。(医,H14学部入学,男)
- ◆学生寮をもっときれいにしてほしい。(医,H12学部入学,女)
- ◆あまり利用したことがないので分かりませんが、宿舍などを探すときは、多分大学に頼らないと思うので、削除してもよいかも。(医,H11学部入学,男)
- ◆学内の診療所の時間を増やしてほしい。(医,H10学部入学,男)
- ◆健康診断書を書いてもらうにはどうすればよいかなど、受けることのできるサービスの情報をもっと多く学生が目に見えるような工夫があるとよいと思います。(医,H14修士入学,男)
- ◆あることは知っているが、いざというときどこに行ったらよいか分からないので、ポスターなどで広告するなどの工夫を。(医,H14修士入学,女)
- ◆信頼できてよいです。(医,H14学部入学,女)
- ◆健康管理についてはもう少し頑張っていただければよいと思います。(医,H14学部入学,男)

- ◆清潔で、住みやすい寮をつくってほしい。思想的に固まっている(と思われる)寮があってもよいが、寮ぐるみで活動をしていないような、入りやすい雰囲気の良い寮がほしい。また、健康診断は形だけのように入る。寮(H11学部入学,女)
- ◆このような生活支援があるのは知っているが、はっきりいって利用しにくい。保健管理センターの診療は、友達の話によると「よく分からないから病院に行ってくれ」と言われたらしい。医学生が診療するという噂もある。もっと進んで利用したいと思えるようなサービスをしてほしい。(薬,H12学部入学,女)
- ◆健康相談所などはあまりいい噂を聞かないので、よい医者、よい設備を置いてほしい。(薬,H12学部入学,女)
- ◆健康診断のとき、とても混んでいるので、もっと分割して行ってほしい。(薬,H12学部入学,男)
- ◆利用したことがないので、何とも言えないが、やはり掲示に気を配ってほしい。事務局がどこにあるかさよく分かりにくいし、どの部屋なのかも分かりにくい。(薬,H12学部入学,男)
- ◆体力測定を取り入れればなおよい。(薬,H12学部入学,男)
- ◆どのようなサービスが受けられるのかわからないため、あまり利用できません。(薬,H11学部入学,女)
- ◆寮についてはもう少し何とかした方がいいと思う。吉田寮とか熊野寮は怖くて近づけない。(薬,H11学部入学,女)
- ◆誰でも利用しやすい環境を整えてほしい。(薬,H13学部入学,女)
- ◆健康診断を受ける際の待ち時間が長いのが非常に気になる。もう少し広い施設で行うこと(しかも迅速に)を希望する。(薬,H12学部入学,男)
- ◆健康診断くらいしか利用してませんが…。(薬,H14学部入学,女)

- ◆受けたことありません。(工,H14修士入学,男)
- ◆学生の診療所で治療が受けられるということを最近まで知らなかった。もっと広告しては?(工,H14学部入学,男)
- ◆もっと積極的に宣伝してほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆健康診断の待ち時間が長すぎる。もっと学部、学科を細かく分けて時間帯を指定すればいいと思う。その時間に無理な人は別にまとめるなどすればいい。(工,H12学部入学,男)
- ◆学生寮の環境改善。(工,H12学部入学,男)
- ◆学生寮をもっと整備してほしい。住みにくいと思う。(工,H11学部入学,男)
- ◆学生寮については老朽化が激しく住もうと思わない。桂キャンパスでは住居が少なそうなので学生寮を充実してほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆きれいなジムの設置。(工,H11学部入学,男)

- ◆学生寮の部屋数が少ない。キャンパスも増えることだし、新しい寮もつくってほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆あんな学生寮で、学生支援になっているわけないやろ。(工,H14修士入学,男)
- ◆健康診断がスムーズに行われるように改善できないものか。日程、時間帯等を調整して…。(工,H14修士入学,男)
- ◆今のままで。(工,,男)
- ◆定期健康診断のとき、工学部はもっと各学科ごとで異なる日に実施するなどの対策がほしい。(工,男)
- ◆健康診断しか受けたことがないので、よく分かりません。(工,H14学部入学,男)
- ◆新しい学生寮がほしい。全室個室で。(工,H13学部入学,男)
- ◆健康診断を受けているだけで、ほかは利用していないので、コメントできません。(工,H13学部入学,男)
- ◆利用したことがないので、何とも言えないが、こういうサービスがあることを学生誌などでもう少し宣伝してもよいと思う。(工,H13学部入学,男)
- ◆自分があまり関わらない項目だから、よく分からないですが、今は下宿か寮かといわれれば、大多数が下宿だと思います。この傾向を緩和してもよいのでは。(工,H12学部入学,男)
- ◆寮はもっと衛生的にすべきと思う。(工,H12学部入学,男)
- ◆健康診断で、有料でも構わないので、骨密度測定などもやってほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆学生寮に関しては、先入観からあまりいいイメージがない。なんか大幅な改築とかがあるんじゃないか。(工,H12学部入学,男)
- ◆女子寮のような寮をもっと多くの人が利用できるように設備を整えるとよい。(工,H12学部入学,女)
- ◆寮がもっときれいだったらうれしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆健康診断以外は受けたことがないので分からない。(工,H11学部入学,男)
- ◆健康診断の結果がいつからどこでもらえるのか分かりにくい。多分分からなくて取りに行かない人が多いと思う。(工,H11学部入学,男)
- ◆あまり使用した経験がありません。(工,H14修士入学,男)
- ◆あまり受けた記憶がないのでなんとも言えません。(工,H14修士入学,男)
- ◆あまり利用したことがないので、分からない。(工,H14修士入学,男)
- ◆学生寮をもっと充実させてほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆もっと広報を。(工,H14修士入学,男)
- ◆ほとんど活用したことがないので、よく分からない。(工,H13修士入学,男)
- ◆ほとんど利用したことがないので分かりません。(工,H13修士入学,男)
- ◆利用したことがないので、評価できない。(工,H13修士入学,男)
- ◆今まで利用したことがないので分からない。(工,H13修士入学,男)
- ◆健康診断以外受けたことがないため何とも解答しようがない。生協で勧めてくれた下宿に入学当時入居したが、正直しようもなかった。しょうもない物件を脅迫まがいに勧める精神を疑う。(工,H13修士入学,男)
- ◆健康診断については、人数分散を。(工,H13学部入学,男)
- ◆4月の健康診断はともよいのでこれからも続けてほしいですが、もっと項目を増やしてほしい。(工,H13学部入学,男)
- ◆ほぼ適切だと考える。(工,H12学部入学,男)
- ◆もっと寮などの住宅情報がほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆宿舎紹介などで物件数が増えると助かる。桂キャンパスの情報もほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆健康診断の待ち時間が長い。(工,H11学部入学,男)
- ◆現在は完璧だが、一年後、桂に移転後は最低であると思う。食堂もしばらくつづられず、交通の便も悪いため、今より月に2~3万の出費がかさむようになり、やっていけないようになる人が増える。飯をコンビニですますと栄養面も気になる。(工,H10学部入学,男)
- ◆工学研究科は桂に移転するのですが、桂の宿舎紹介を強化してほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆利用する機会がないので分からない。(工,H13修士入学,男)
- ◆情報の更新がまめに行われているか疑問。(工,H13修士入学,男)
- ◆健康診断しか利用していないので、詳しくは分かりません。(工,H13修士入学,男)
- ◆健康診断も適切になされており、このままでよい。(工,H11学部入学,男)
- ◆現状でよいと思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆使ったことがないから分からない。(農,H11学部入学,男)
- ◆健康管理センターの窓口の対応は、いつも機敏さがまったくなく、きちんと対応してほしい。(農,H13修士入学,女)
- ◆健康診断の結果を渡すのが遅く、連絡も目立たない。(農,H12学部入学,男)
- ◆健康診断で、せめて血液検査くらいはやってほしい。(農,H11学部入学,女)
- ◆存在をアピールしてほしい。寮はもっと改善してほしい。(農,H11学部入学,女)
- ◆カウンセリング(教育学部)は、あまり知られていないと思う。もっと広報するとよいと思う。(農,H11学部入学,女)
- ◆よく知らないけれども、吉田寮の状態はひどいと思う。どうにかならないか…。イメージが悪い。(農,H14修士入学,女)
- ◆健康診断の結果は郵送してほしい。取りに行くのを忘れてたりするし。そのほかは利用したことがないので分からない。(農,H14学部入学,男)
- ◆もう少しサービスの存在をアピールし、どのようにすれば受けられるのか、明確に示してほしい。(農,H13学部入学,男)
- ◆よく分かりません。(農,H12学部入学,男)
- ◆利用していないので分からない。健康診断は、日程を増やしてほしい。混雑がひどくイライラする。(農,H12学部入学,男)
- ◆存在を知らない人が多い。(農,H12学部入学,男)
- ◆あまり関わっていないので分からない。(農,H11学部入学,男)
- ◆あまりこういった点に関してお世話になっていないので、なんとも言えません。(農,H14修士入学,女)
- ◆健康診断に歯科検診があると嬉しいです。(農,H14修士入学,男)
- ◆今まで利用したことがないので分かりません。(農,H13修士入学,男)
- ◆内容はいいと思うけど、いつ、どこに行けば、そのサービスを受けられるのか分かりにくい。(農,H14学部入学,男)
- ◆吉田寮に入ったことがあるが、木造で大きな地震が起きたときが心配である。(農,H13学部入学,男)
- ◆精神面のケアをもっと充実させていくべきだと思う。(農,H13修士入学,男)
- ◆カウンセリングをして下さってるのを知らなかったの、もう少し広く広報してほしいです。(農,H13修士入学,男)
- ◆十分。(農,H14修士入学,男)
- ◆もう少しこの支援をしていることのアピールをする方がよいと思います。(人環,H14修士入学,男)
- ◆健康診断でチェックできるものがすこし少なすぎるように思います。(人環,H14修士入学,女)
- ◆健康診断は年1回受けられるし、診断票も安くもらえるし、いいです。カウンセリングとか宿舎紹介ってやっているんですか。あまり知りません。(人環,H13修士入学,男)
- ◆自分としてはあまり気にしていないのだが、学生寮の学生運動に関してやはり、自分の親の世代の人々は不安に感じているようです。(エネ科,H13修士入学,男)
- ◆実際に私たち学生の目に付くのはまず生協の店舗施設であるので、生協と協力して学生が気付きやすい所に姿を現してほしい。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆学生寮の衛生を改善すべきだと思います。(エネ科,H13修士入学,男)

- ◆ カウンセリングはあまり頼りにならなかった。学生寮は設備が老朽しすぎである。(エネ科,H13修士入学,男)
- ◆ もっと多くの人が利用できるようにもっと多くアピールする。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ 健康診断以外はなかなかお世話になることがない。どんな雰囲気なのかよく分からない。(特にカウンセリング)説明会なんかあると有り難い。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ 健康管理は大切だと思います。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ 宿舍紹介に関しては、不動産仲介の免許を保持しない学生がバイトがてらに行くことで、サービスの質の低下を招くなど、問題が多いと思うので、行うべきではない。(ア・ア,H14博士入学,男)
- ◆ もうちょっと頑張って。(情報,H14修士入学,男)
- ◆ 寮の設備をまともなものにしてほしい。(情報,H14修士入学,男)
- ◆ 利用したことがないのでよくわからない。(情報,H13修士入学,男)
- ◆ 学生寮は存在するのですか?定期的に健康管理プログラムがあるといい。(情報,H13修士入学,女)
- ◆ 健康診断の際の行列をなくす工夫をしてほしい。(情報,H14修士入学,男)
- ◆ 特に必要性は感じていませんので、今のままでいいと思います。(情報,H14修士入学,男)
- ◆ 家賃の適切な値段設定をしている学生専用マンションなどを不動産屋と提携して紹介するなど、学生の側に立った宿舎を紹介してほしい。キャンパスごとに保健センターのような施設がほしい。(生命,H14修士入学,女)
- ◆ 自治寮でない、大学の管理する寮を検討するべきと思う。(生命,H14修士入学,男)
- ◆ もっと気軽に健康バロメーターを測る環境があってもいいかと。例えば血圧計、体脂肪計、体重計をとある所に置いて、自由に使えるような。(H14修士入学,男)
- 学生寮などは、極めて汚く古い。(評議員)
- 宿舍、学生寮についてはまったく駄目。(評議員)
- もう少し何とか。(評議員)
- 学生寮の機能を欧米の大学の水準に(質、量とも)。(評議員)
- 学生寮の在り方は改善が必要。セメスター毎に一度部屋換えができないか(アメリカの寮は部屋換えしている)。(評議員)
- 学生寮の増設。(評議員)
- 学生寮の積年の問題を解決しないと、学生寮の改善が望めない。(評議員)
- 学生寮の充実。(評議員)
- 特に学生寮の整備が必要。(評議員)
- より多くの学生、院生が利用できるよう学生寮を拡充すべきである。(評議員)
- 支援職員数が少なすぎる。(評議員)
- 健康管理と学生寮は別概念。回答できない。(評議員)
- 学生寮の充実が望まれる。(評議員)
- 学生寮として適切なものの用意がない。(評議員)
- カウンセリング等のメンタルケアを充実する必要がある。特に大学院生レベルの学生に対するケアの必要性が増すであろう。(評議員)
- これ以上は個々の問題が入って難しい。(評議員)
- 今のままでよい。(評議員)
- 大学院生と学部学生をもっと交流させた方がよい。Tutorもしくは Guide として、院生にはお金を払う。(評議員)
- 研究所にいますので現状が分かりません。(教授)
- 学生が精神的におかしくなったとき、教官が自ら病院で医師の診断を得るという方法は、本学においてもっとシステマチックにするべきである。心の病に対する体制ができていない。(教授)
- 学生寮は最低水準である。(教授)
- 市場メカニズムに委ねるべきである。(教授)
- 健康管理へのアドバイス。引きこもりへの早期カウンセリング、学生寮の正常化対策等、まったく不十分。(教授)
- アウトソーシングをして充実する。教官・事務官のすべきことではないし、能力もない。(教授)
- 経済情勢もあり、入寮希望が増加している。寮の整備拡充を行うべき。(教授)
- 特にカウンセリングについて、より一層の充実を望む。(教授)
- 特に学生寮の設備が老朽化している。改善が必要に思われる。(教授)
- カウンセリングのための設備、カウンセラーの人数など不十分。(教授)
- 特に精神面でのカウンセリングは十分とは言えず、不登校の学生が多いように思う。(教授)
- 学生寮はあまりにも少なすぎる。もう少し収容人数を増やすべきであろう。(教授)
- カウンセリングの医者が必要ではないか。学生寮は桂キャンパスに必要。(教授)
- 親元を離れているケースが多いので、危機管理(急病、ケガへの対応)、マニュアルつく成。一般学生のための「学生寮」としてほしい。勉学(例えば成績)とリンクさせた入寮。(教授)
- カウンセリングの専門家を相応の待遇で雇うべき。関係分野の研究者にカウンセラーをしてもらおうと、どうしても研究もしなければならぬので、十分な対応ができない(最近の学生は、カウンセリングの必要な者の比率が増えていると思う)。(教授)
- 学生寮は大学が管理すべき。大学教官や留学生と一緒に生活する。(教授)
- 宿舍紹介、学生寮紹介は実質的に何もなされていないのではないかと。(教授)
- 特に留学生に対して。(教授)
- 心の病を持つ学生が増えてきているように感じる。体のカルテのみでなく、〇〇的な心の診断に基づく心のカルテを作る必要がある。(教授)
- 健康診断項目を増やす。(教授)
- カウンセリングについては伝えやすい形で充実すべきである。(教授)
- 特に宿舍・学生寮は欧米諸国に比べて見劣りがする。充実を期待したい。(教授)
- 教室・研究室内で対応の難しい学生がいるとき、多く精神科の治療を既に受けている。カウンセリングで本人の自覚を促すのもよいが、それにも限界があるので、教官がどう対応すべきか、また治療機関とのやりとりをどうしたらよいかについて親身になってくれる精神保健部門の校医的活動をより充実させるべき。また治療をもっと学内的に行うべき。保健診療所の精神保健部門は、東大や名大に比し、あまりにも薄すぎる。寮の状況は非常識。(教授)
- 寮は非常によくないので、廃寮を早期に実現すべき。(教授)
- 本来学生自身が対応・対処すべき。(教授)
- これらが行われていることをもっと広く宣伝する。(教授)
- 企業の応援を得て、民間の学生寮などを導入し、職員を派遣する。有料の駐車場、または駐輪場を学生に提供する。(教授)
- 学生寮に問題有り。(教授)
- あまり分からないが、宿舍紹介がどうも生協の主な仕事になっている。イニシアティブが生協であるのは、納得いかない。(教授)

- カウンセリングなどは、行くまでのケアをする人もシステムもない点が問題。(教授)
 - 留学生を含めて更に充実させる。(教授)
 - 寮の増設が必要。入学時の集団カウンセリングなどで宣伝が必要。(教授)
 - 専門のスタッフの充実が急務。(教授)
 - カウンセリングの更なる充実(教授)
 - 専門業者、NPO等へお願いした方がよい。(教授)
 - 宿舍・学生寮の増加、充実。(教授)
 - 宿舍紹介については、生協を通して行うのが十分と考える。現在の学生寮の管理はほぼ学生の自治にあるが、経済的に貧困な学生が希望したとき、入寮可能な状態になっているのか疑問。(教授)
 - 健康管理: カウンセリングは現状維持ー更なる拡充を希望。学生寮: 現役寮生を指導しているが、よく体調を崩す。設備や運営システムに問題を感じるが、本人達は満足しているようで不思議だ。(教授)
 - ①の項目と同じスタンスで、特に精神面に対するケアを充実させる。専門家の人数を増加させる。(教授)
 - 学生部、保健診療所の充実、窓口の充実が学生ボランティア(アルバイト)の導入により、可能ではないか(ただし、予算の確保が必要)。(教授)
 - 実態が教官に届いてないので、教官への情報提供も必要。(教授)
 - これらは個別に扱われるべきと思うが、例えば健康管理とカウンセリングは保健診療所の拡充などで更により状態にする。下宿への支援は地域社会のなかで工夫や努力が必要であろう。(教授)
 - 留学生に対しては、宿舍紹介(保証人を含めて)が必要であり、国外からのビジターに対しても、このサービスがあってもよい。(教授)
 - 学生数の割には不十分。(教授)
 - 健康診断のみではなく、健康講座を適宜の頻度で行う。(教授)
 - 学生は、月6、7万の高いマンション住まいが多いと聞く。学生に質素な暮らしを、の風潮を復活させたい。(教授)
 - カウンセリングを希望する学生に比して、対応する教官の数が必ずしも十分でない。(教授)
 - 十分に行っていると思う。(教授)
 - 宿舍等は民間業者に任せればよい(教授)
 - 学生のドミトリーをつくっていくような方策必要。(教授)
 - 学生寮の一層の充実。(教授)
 - カウンセリングの体制をより強化して学生の日頃の悩みについて、大学がきめ細かく対処できるようにしてほしい。(教授)
 - ただし上記の「宿舍紹介」は不要。今後職員(特に臨時職員)数が独法化等により減らさざるを得ない状況が見込まれるなかで中止すべき。(教授)
-
- 健全な学生寮の充実。(助教授)
 - 留学生の宿舍が不足しているので、増やす。(助教授)
 - 特に外国人留学生、外国人研究者のための宿舍の大幅な増設が必要。(助教授)
 - 宇治地区にはないので、宇治地区にも充実させるべき。(助教授)
 - 寮の整備。(助教授)
 - 特に留学生の短期滞在(1~3ヶ月程度)用の宿舍を見つけるのが難しい。学生寮を留学生用に使うことはできないか。(助教授)
 - カウンセリングを強化すべき。(助教授)
 - 学生寮の充実、留学生寮の充実。(助教授)
 - カウンセリングについて、プライバシーを守りながら気楽に相談できる環境があればよい。(助教授)
 - 学生寮をもう少しきちんと整備した方がよい。(助教授)
 - 生協、その他の(民間)業者と連携したサービス向上を目指すとのよいのではないのでしょうか。(助教授)
 - 実態不明。(助教授)
 - 健康診断が形式的。集団検診の体制でやっている以上、改善は難しいと思われませんが。(助教授)
 - 各学科単位でのカウンセリングサービス(助教授)
 - 利用状況はいかがなんでしょうか? 評価しづらいので。(助教授)
 - カウンセリングの充実が必要。(助教授)
 - カウンセリングは良好と(利用した者から)聞いているが、これが利用できることが広く知られていないように思います。宿舍、寮については、留学生に対するサービスの充実が望まれます。(助教授)
 - 教官に対する周知も必要。とにかくカウンセリングの存在と実状。(助教授)
 - カウンセリング施設の充実。(助教授)
 - カウンセリングの充実。(助教授)
 - 診療所の充実。(助教授)
 - 積極的なカウンセリングが必要な学生(カウンセリングを受ける手前で対処が必要な学生)への対応が望まれる。父兄の参加もやむなし。(助教授)
 - 個別の相談手段及び窓口を増やす。(助教授)
 - 現状でよいように思います。(助教授)
-
- 現状においては、カウンセリングセンターへの相談申込みが多く、対応の限界である。本来的にはカウンセリングセンターへの申込みが少なくなるよう、各研究科・学部の教育環境を改善すべきだが、差し当たりカウンセラーの補充等を考えるべきである。(講師)
-
- 無いに等しいので、思いつくことは何でもすべき。(助手)
 - 部局レベルで受入れる外国人(留学生など)の宿舍を探すのが、いつも大変です。留学生用の寮などをもっと整備してほしい。(助手)
 - 学生寮の整備などはあまりに不十分。現存のものに加えて新しく建設すべき。(助手)
 - 寮については難しいかもしれないが、設備の充実した低費用なものが必要ではないか。(助手)
 - 宿舍紹介や学生寮については、現代の学生像に合わせたものを提供できるようにしないと、意味のないサービスになる気がする。「安さ」だけが際立って見えるように感じる。(助手)
 - 特に学生寮については現代的な設備(東大の新しい寮などに代表されるもの)を導入し、安価かつ良質な生活環境を学生に提供すべきだと思う。(助手)
 - 入りやすい学生寮の整備。(助手)
 - もっと丁寧な健康診断を。(助手)
 - 遠隔地の学生に対する配慮を考えてほしい。(助手)
 - 窓口を分かりやすくする。(助手)
 - 学生寮の新築。(助手)
 - 学生寮を整備すべき。(助手)
 - カウンセリングを必要とする人をどのように把握し、どのように対応するか検討が必要。(助手)
 - 学生寮がより充実されることを望みます。(助手)

- 宿舍紹介は民間業者が行えばよいことである。学生寮の現況は、一部の寮では、京大の学生ではない者が住んでいると聞くし、政治活動の場になっていることもある。自治の名目で治外法権化して、大学が実体を把握していないのではないか。新入生の大半は怖がって入寮したがらない実状もあり、金を出して適切に運営しない大学がおかしい。(助手)
- 存在が知られていない面もあり、広報活動を行うべき。(助手)
- 外国人留学生に対して恥ずかしくない学生寮を整備すべきだと思います。(助手)
- これらの情報は大学当局と1対1。1対多のような形で直接対応すべき点も多いと思われる。各研究室で取りまとめてというパッケージ的な事務を減らす方がよい。(助手)
- 精神の健康については、ケアが不十分かもしれない。(助手)
- これも「入り口」が Intimate ではないように思える。プライバシーを考慮した上で、より open な窓口の設置を考えてみては？(助手)
- 宿舍紹介、学生寮などはあまり支援されているとは思えない。特に学生寮はほとんどなく、困難な問題も多く含んでいるが、これに対する取組みも行われていない気がする。(助手)
- 健康診断時、長い待ち行列ができない工夫が望ましい。(助手)
- 学生に対する心のカウンセリングを充実する必要がある。学生に信頼される組織の確立。(事務(技術)職員)
- 自主管理的な学生寮を、本来の責任ある管理体制の下に転換し、管理の外部委託化を図る。(事務(技術)職員)
- 健康診断(定期)を受診しなかった(できなかった)者は、(事務的)手続きなしで、無条件に受診できるようにすべきである。欠席届けを出していない者はどうすればよいのか。(事務(技術)職員)
- やはり支援体制が不足しているのでは。(事務(技術)職員)
- 吉田寮や熊野寮を建て替えて、現代の若者が利用しなくなるような学生寮にすること。(事務(技術)職員)
- 東京大学が三鷹国際学寮を全学挙げて整備しているとき、本学吉田、熊野の現状はあまりにも情けない。早急に基本構想を策定し、対処すべきものと思料する。(事務(技術)職員)
- 保健管理センターを美しく整備し、利用しやすくする。学生寮は今の状況では不要。(事務(技術)職員)
- 学生への周知が十分でない。広報を充実させる必要がある。(事務(技術)職員)
- 宿舍紹介は、業者に委託する。(事務(技術)職員)
- このところの経済状況が反映して、学生の生活状況は厳しさを増している。経済的な困窮が、健康問題にも影響する可能性は否定できない。このことから、学生の健康管理は厚生関係業務でも第一義的なものとして位置付けることが必要である。感染症一般については集団生活を行っている学校生活においては注意が必要な事項である。特に、結核については旧厚生省が「緊急事態宣言」を発しているが、こうした状況が学生はもとより、大学に勤務している教職員に徹底されておらず、この問題に対する意識はほとんどなく、あっても非常に希薄なものである。また、社会的な問題として、エイズの問題を学生から見て「しつこい」くらいに啓発する必要がある。性風俗の変化やマスコミも影響で、表面的には変化がないように見えて、その実、学生の生活には大きな変化が起こっていることが予想され、それに対応する健康教育の重要度が増大していると考えられる。また、様々な要因から精神的な問題を抱えている学生が増加していることは、統計からも明らかであり、入学時の初志をいかに叶えるかを、第一義的に検討できる体制を構築すべきである。しかし、実際に「メンタル」な部分は、大規模大学であることから、これまで「おざなり」にされてきた嫌いがある。しかし、注意深く観察すれば入学時の希望に満ちた精神状態から変化する過程を見て取れるはずである。その徴候は、新入生ガイダンスや全学共通科目のクラス指定科目に欠席する、分属決定の説明会に参加しない、履修届を提出しない、など事務レベルでもチェックは可能である。もちろん、こうした状況把握の第一歩は授業担当教官であり、学部や学科においてはクラス担当教官制度を設けられていることもある。この制度を積極的に生かす工夫が求められている。大学生の教育活動は、社会的にも大いに期待されている訳で、社会人として送り出すことが大学の社会的使命であることに鑑み、学部・研究科の枠だけではない対応が必要ではないかと思量する。(事務(技術)職員)
- 現状維持。(事務(技術)職員)
- 様々な場所や機会を拡大することがカウンセリングには必要ではないか。(事務(技術)職員)
- 現状と問題点不明。(事務(技術)職員)
- 学生寮が非常に少ない。(事務(技術)職員)
- 学生寮の不足や管理対策について考えてほしい。(事務(技術)職員)
- 健康管理の関係者は学生に常に適切な助言等を心掛けること。(事務(技術)職員)
- 入り口としてのインターネットを利用した悩み相談をやってはどうか。ただし、最終的には面談をしないとダメだとは思いますが。(事務(技術)職員)
- ただし、学生寮などの生活支援は十分でない。マンション形式でPFIで建設し、管理運営も外部委託すればよい。(事務(技術)職員)
- 健康管理するための施設、設備をもっと充実すべきである。(事務(技術)職員)
- 吉田寮の建替えが必要。(事務(技術)職員)
- 寮の建物の整備や運営の見直しを早急に行うべきである。(事務(技術)職員)
- 宿舍紹介は、扱っている物件が必ずしも学生のニーズに合致していないので、民間(生協、内外センター等)に任せるのがよい。学生寮は、施設環境の整備が急務である。収容定員も増加する必要がある。したがって、この2件については評価は落ちる。(事務(技術)職員)
- 学生寮の整備が必要(木造であり築後相当な年数が経過しているので、防火対策も含め新規格差の建設が必要と思われる)。(事務(技術)職員)
- 学寮(日本人、留学生用の)絶対的に不足。

③ 各種奨学金、授業料・入学料免除などの経済支援



【自由記述】 今後の対応について

- ◆(特に学部生は)基準が親の収入に偏りすぎているが、もっと学生本人の成績、収入で判断すべきだと思う。(総人,H11 学部入学,女)
- ◆現状で問題ない。(総人,H14 学部入学,男)
- ◆全体に不況だということも関係しているが、経済に困っている人間にとって最近の対応は「勉強はお金持ちがするものだ」と言われているに等しいような感さえる。これでも評価は甘い。(総人,H11 学部入学,男)
- ◆もしできるのであれば、奨学生の呼び出しがある場合等、授業の休講、教室変更が出る掲示板にも呼び出しがある旨掲示されれば便利だと思う。(総人,H13 学部入学,男)
- ◆利用したことがないから何とも言えない。(総人,H12 学部入学,男)
- ◆手続きがらでもきちんと連絡をくれるし、様々な情報を分かりやすく掲示しているので非常によいと思う。(総人,H12 学部入学,女)
- ◆受けたことがないので評価できない。(文,H12 学部入学,男)
- ◆利用経験なし。(文,H11 学部入学,男)
- ◆せめて入学金はなしにしてほしい。(文,H14 学部入学,男)
- ◆もっと分かりやすくしてほしい。(文,H14 学部入学,女)
- ◆得られる人と得られなかった人の差が大きすぎるのではないかと。もう少し選択の幅を増やした方がよいと思う。金額を半分にして人数を倍にする枠を設けるなど。(文,H13 修士入学,男)
- ◆親の収入によって限られてしまう奨学金がほとんどで、もう少し借りた人が借りられるような奨学金制度があったらよい。(文,H13 学部入学,女)
- ◆もっと増やしてほしい。(文,H13 修士入学,男)
- ◆奨学金の種類がもっと多くあればよいと思う。(文,H13 修士入学,男)
- ◆奨学金の種類は増えることにこしたことはない。あともう少し奨学金が身近になる工夫がほしい(一覧にしてパンフを配る等)。手続きも大変なので、もらえる人ともらえない人の目安が申し込む前から分かりやすくなっているとよい。(文,H12 学部入学,女)
- ◆授業料免除について:今年実家移転に伴い、多額の収入、支出がありました。そのため免除の資格から外れてしまったようです。これはとても苦しかったです。何とかしてほしい。(文,H11 学部入学,男)
- ◆受けたことはないが、十分だと思う。(文,H11 学部入学,男)
- ◆現状のままでよいと思うが、採用人数がもっと増えればよいと思う。(文,H14 修士入学,男)
- ◆授業料免除の査定の内容が不透明。(教,H14 学部入学,女)
- ◆留学や各種インターンなどの積極的支援や、京大独自のイベント(関西の起点となるよう)などあれば嬉しい。(教,H11 学部入学,女)
- ◆厚生課窓口での奨学金対応の時間を午前にも拡張していただくと有り難い。(教,H12 学部入学,男)
- ◆財政的に厳しくなっているので、経済支援の拡大は難しいと思いますが、例えば外部の財団などからの奨学金についてはホームページ上でも情報を提供するなどして、アクセスしやすいようにしていただくと大変助かります。(教,H14 修士入学,男)
- ◆額が少ない。(法,H13 学部入学,男)
- ◆昨年度の収入で基準を設けるのをやめてほしい。例えば去年などで収入が減少したときは考慮に入れてほしい。(法,H14 修士入学,女)
- ◆もう少し広く奨学金や授業料の減免を認めてほしい。(法,H13 学部入学,男)
- ◆奨学金や授業料免除の申請の際に、昨年度の収入を基準としているので、今年度の経済状況が(特に定年退職などの事情)が反映されていない。(法,H14 修士入学,男)
- ◆努力をしている人を評価するシステムに変えていけばよいと思う。(法,H14 修士入学,男)

- ◆もっと奨学金の種類を増やしてほしい。(法,H14 学部入学,女)
- ◆実施はされているが、受給者の数が少ない。(法,H13 学部入学,男)
- ◆やむを得ないのですが、手続きが難しいので、もう少し申請しやすくしてほしいです。(法,H12 学部入学,女)
- ◆奨学金関連の掲示が学生部に固まっており、各学部では情報を得にくい(あることにはあるが、たくさんの文書の中に埋もれており、探し出すのが難しい)。(法,H11 学部入学,男)
- ◆財政の範囲内でより充実させてほしい。(法,H12 学部入学,男)
- ◆財政事情と関連してくるが、拡大されることが望ましい。(法,H11 学部入学,男)
- ◆第一志望の奨学金に落ちて、第二志望のものをもらいました。可能ならば、可否の基準を公開してほしいです。(法,H13 修士入学,男)
- ◆特に問題はないと思います。ただ大学(特に法学部)の成績評価が厳しいことは、民間の奨学金受給にとって大きな障害になっています。(法,H13 修士入学,男)
- ◆取った成績によって、免除額が決まるシステムにすればよい。経済支援はもっと充実させるべき。(経,H13 修士入学,男)
- ◆去年は全額免除だったのに、今年の前期は半額免除だった。もっと全額免除枠を広げてほしい。(経,H13 学部入学,男)
- ◆査定が曖昧な部分が大い。家庭の収入を考慮しすぎていないか。個人の生活状況をもっと把握する必要はないか。限られた予算があるとしても、検討を進め、人数を増やすことはできないか。(経,H13 学部入学,男)
- ◆年間予定みたいなのを貼り出してほしい。(経,H12 学部入学,男)
- ◆制度としては今後も残していくべきだと思う。(経,H12 学部入学,男)
- ◆奨学金を増やしてほしいです(給与の)。不景気なのでうちの父もリストラ経験者です。(理,H13 学部入学,男)
- ◆採用枠が狭すぎる。評価が画一的である。(理,H13 修士入学,男)
- ◆親の収入で判断されるのが辛い。25才にもなって親の援助で学業したくないので、自ら働いて学費・生活費を払っているが、親の収入がそこそこあるために免除されない。苦学の精神を反故にされている。(理,H13 修士入学,男)
- ◆もう少し積極的に増やしてほしい(不況なのは分かるが...)。(理,H13 学部入学,男)
- ◆授業料、入学金免除の基準が厳しすぎる。成績がよければ、免除してもらえるようにしてほしい。(理,H12 学部入学,男)
- ◆国に決めることだからどうしようもないかも知れないが、国立大学の授業料はもっと下げるべき。(理,H13 修士入学,男)
- ◆そもそも学生は、納得できる合理的な額の授業料を払っていると思っていない。誰もが免除を望むほど高い。学生が持つべき経済観を具体的に提示してほしい。(理,H14 修士入学,男)
- ◆もう少し採用人数を拡充してほしい(奨学金・授免とも)。(理,H14 修士入学,男)
- ◆授業料免除は、普通の収入の人は受けられない。大学院などは親の負担になるので、大学院の授業料の免除の対象を広げてほしい。(理,H13 修士入学,男)
- ◆今景気が悪く、学生の扶養者の収入が突然なくなってしまうこともこれから多くなっていくと考えられる。細かい事情はよく分からないが、これまでより授業料免除の基準を低く、また授業料免除等の保留を短くして早く結果を出すようにすべきだと思う。(理,H14 修士入学,男)
- ◆掲示がよくされているのでよいと思います。(理,H14 修士入学,女)
- ◆利用していないのでよく分かりません。(理,H14 修士入学,男)
- ◆これについては十分情報が伝わっていると思います。(理,H14 修士入学,男)
- ◆受けたことがないので分かりませんが、大事なシステムだと思います。(医,H11 学部入学,男)
- ◆受けたことがない。(医,H10 学部入学,男)
- ◆情報が回ってこない。(医,H10 学部入学,男)
- ◆もっと大々的に全学生に知らせてほしい。掲示板に小さなお知らせの紙を貼るだけではどうかと思う。(医,H14 学部入学,男)
- ◆もっと対象者を増やすべき。(医,H11 学部入学,女)
- ◆情報が伝わっていない。HP、ML、掲示板などの活用。(医,H9 学部入学,男)
- ◆あまり知りません。もっと広報に力を入れてもよいと思う。(医,H14 学部入学,女)
- ◆掲示があるのは知っているが、関わったことがないのでよく分からない。(医,H9 学部入学,男)
- ◆授業料、入学金免除の申請手続きがもう少し簡便になるとよいと思います(マークシート化を更に進めるなど)。(医,H14 修士入学,男)
- ◆見やすい工夫をしていただければ、どのような種類のものがあるのか一覧作成など。(医,H14 修士入学,女)
- ◆よく知りません。(医,H10 学部入学,男)
- ◆このままでいいです。(医,H14 学部入学,男)
- ◆借金などのことが考慮されていないので、その点も評価に加えてほしい。(薬,H12 学部入学,男)
- ◆授業料免除などを受けた者に対しては、その後の成績に対しても評価を行い、芳しくない場合はそれなりの対処を取るなど、その施行に対して厳重に臨むべきだと思う(再評価の必要性を求める)。(薬,H12 学部入学,男)
- ◆授業料・入学金免除の基準を公開してほしい。(薬,H11 学部入学,女)
- ◆更新時の案内を各学部にも貼り出してもらわないと気付かない恐れがある。(薬,H13 学部入学,女)
- ◆私自身、奨学金を受けているが、奨学金の案内や資格確認などの情報に関しては、大きく目立つように掲示されているし、よいと思う。(薬,H12 学部入学,女)
- ◆国立大学であり、十分な制度があると思う。(薬,H12 学部入学,男)
- ◆結果の是非がもう少し早く分かると有り難いです。(薬,H11 学部入学,女)
- ◆ちゃんと学生のことを考えてくれると思う。(薬,H11 学部入学,女)
- ◆受けたことがないので分かりません。(工,H14 学部入学,男)
- ◆受けたことはありません。(工,H14 修士入学,男)
- ◆不必要な人にお金をあげて、本当に必要な人に支援されていない。本当にちゃんと審査してますか??(工,H11 学部入学,男)
- ◆無利子の奨学金の対象者を増やしてもらいたい。(工,H11 学部入学,男)
- ◆授業料を安くしてほしい。(工,H11 学部入学,男)
- ◆大学院の奨学金数が少なすぎる。(工,H13 修士入学,男)
- ◆どんなものがあるか一覧があればいいかも。アメリカのようにもっと充実してほしいが、日本では普通かも。(工,H14 学部入学,男)
- ◆授業料免除の規定(審査?)が厳しすぎる。(工,H12 学部入学,男)
- ◆以前は授業料免除など学生を支援する対応がなされていたが、予算などの影響か、その支援を受けられないようになっている。以前のレベルに戻してほしい。(工,H11 学部入学,男)
- ◆枠を広げて下さい。(工,H14 修士入学,女)
- ◆手続きが大変なので、改善してほしい。(工,H14 修士入学,女)
- ◆入学金免除についての手続きがよく分からないため、受け逃しました。奨学金関係はもっと派手に知らせてほしい。(工,H14 修士入学,男)
- ◆無償の奨学金を設定してほしい。(工,H14 修士入学,男)

- ◆ 結構審査が厳しい。(工,H14 修士入学,男)
- ◆ 成績などで授業料、入学料免除などのシステムがあってもよいと思う。(工,H13 修士入学,男)
- ◆ 近年、授業料、入学料免除の基準が以前より厳しくなっており(財政難のため仕方ないのかもしれないが)、優秀な学生をもう少し支援する制度があってもいいと思う。(工,H13 修士入学,男)
- ◆ 受けたことがないので分かりません。(工,男)
- ◆ 無利子貸与の奨学金を増やしてほしい。(工,H12 学部入学,男)
- ◆ 奨学金の説明会等の情報が、十分に行き渡りにくい。WEB にアップするなどしてはどうか。(工,H12 学部入学,男)
- ◆ 長期休暇中に願書が公布される場合が多いが、取りに行けない学生がいると思います。(工,H12 学部入学,男)
- ◆ 現在はちょっと少ないから、今後はもっと増やしてほしい。(工,H12 学部入学,男)
- ◆ 査定基準をもっと引き下げてほしい。(工,H11 学部入学,男)
- ◆ 受けたことがないので分からない。(工,H11 学部入学,男)
- ◆ これは受けたことがないので、分かりません。(工,H11 学部入学,男)
- ◆ 各種奨学金の情報が分かりにくい。(工,H11 学部入学,男)
- ◆ 利用したことがないので分からない。(工,H11 学部入学,男)
- ◆ この支援がどうやったら受けられるのかをもう少し詳しい情報を与えてくれたらいいと思います。(工,H11 学部入学,男)
- ◆ 使用したことがありません。(工,H14 修士入学,男)
- ◆ 手続きをもう少し簡略化してほしい。(工,H14 修士入学,男)
- ◆ 掲示板に紙を貼る以外にも、もう少し目立つ紹介方法を考えてほしい。(工,H14 修士入学,男)
- ◆ 受けたことがなく、よく知らないため、何とも言えない。(工,H13 修士入学,男)
- ◆ ほとんど利用したことがないので分かりません。(工,H13 修士入学,男)
- ◆ 奨学金がもらえるか、もらえないのかの判断基準が明確にされていない。(工,H13 修士入学,男)
- ◆ 海外留学などの支援をしてほしい。(工,男)
- ◆ 奨学金(無利子)を増やしてほしい。(工,H13 学部入学,男)
- ◆ 利用したことがないので分からないですが、もしストラなどに親があったときに、とても頼りになるものであり、もっとサービスを強化してほしい。(工,H13 学部入学,男)
- ◆ 難を言えば、入学前に免除があることを知らなかったので 1 回の前期は出願できなかった。入学する学生が授業料、入学料の免除が行われていることをもっと知れるようにしてほしい。(工,H12 学部入学,男)
- ◆ 今後もこのままでいいと思います。(工,H12 学部入学,男)
- ◆ 難しいところかもしれませんが、経済支援対象者がもう少し増えれば。(工,H12 学部入学,男)
- ◆ 聞くところによると、友達は助かっているらしい。(工,H12 学部入学,男)
- ◆ 授業料免除の申請は今まで年に 2 回やってきたが、年に 1 回にしてほしい。教官のサインなどがあるので相当面倒くさい。奨学金の種類をもっと増やしてほしい。もらえない人がたくさんいる。そして、金額にあまり差が出ないようにしてほしい。4 年間毎月 15 万ももらっている人もいるし、1 円ももらえない人もいる。これが悪いと思う。(工,H12 学部入学,男)
- ◆ 現状の維持でよいと思う。(工,H11 学部入学,男)
- ◆ 個人的には受けたことはないが、細かい内容をもう少し初めから公開してほしい。(工,H11 学部入学,男)
- ◆ 桂に行く人は、出費がかさむため、設備が整うまでは授業料免除などの措置をとってほしい。来年以降、学部まで工学部だけが桂に移転したくないために違う学部を受けるという人が増えるのでは…。(工,H10 学部入学,男)
- ◆ 免除ではなく、無利子貸付の方が適切ではないか。(工,H14 修士入学,男)
- ◆ とても学生のためになるサービスだと思う。(工,H14 修士入学,男)
- ◆ 現状で問題ないのでは。(工,H14 修士入学,男)
- ◆ 特に問題ないと思う。(工,H13 修士入学,男)
- ◆ 少しでも枠が広くなれば良いと思う。(工,H13 修士入学,男)
- ◆ 今後もこのままでよい。(工,H12 学部入学,男)
- ◆ 現状のままでいいと思います。(工,H12 学部入学,男)
- ◆ 多くの人が奨学金制度を利用できるようになっていて、研究に没頭できるようになっていて、経済支援はしっかりとしていると聞かれます。(工,H14 修士入学,男)
- ◆ 授業料は毎回全額免除になっていました。大変助かりました。これからもこれぐらいのレートを保っていただければ学生は助かると思います。(工,H13 修士入学,男)
- ◆ 奨学金を使って遊び歩いている人間に対して、支援を中止してほしい。(農,H13 修士入学,女)
- ◆ もう少し対象者を増やしてほしいし、無返還のも増やしてほしい。例えば成績優秀者には与えるようにすればもっとやる気を出す人も増えると思う(収入制限なく)。(農,H14 学部入学,男)
- ◆ 日付が過ぎていても、掲示板には貼ったままになっていることがある。(農,H12 学部入学,女)
- ◆ もっと大々的に PR すべき。(農,H11 学部入学,女)
- ◆ 事務上の手続きの日程を前期の正規課程中(つまり、後期授業料免除については、前期の正規課程中、前期については後期)事務掲示板に公表していただきたい。(農,H13 修士入学,男)
- ◆ 親の収入状況により支援の可否が決まるのではなく、成績意欲によって決めてほしいです。(農,H13 修士入学,男)
- ◆ 無利子の奨学金の枠を増やしてもらいたい。(農,H13 修士入学,男)
- ◆ 政府が奨学金の減額を表明しているが、京大がその風潮にのることはあってはならないと感じる。(農,H13 学部入学,男)
- ◆ あるのは知っているが、よく分からない。もっと分かるようにしてもらいたい。(農,H12 学部入学,男)
- ◆ 利用してないので何も言えない。(農,H12 学部入学,男)
- ◆ 枠を増やしてもらえたらそれだけ有り難い。(農,H11 学部入学,男)
- ◆ もう少し積極的に取り入れてほしい。(農,H13 修士入学)
- ◆ 現状で特に不満はありません。(農,H13 学部入学,男)
- ◆ 支援を受けていないが、ほぼ適切ではないか。このまま続けていってほしい。(農,H12 学部入学,男)
- ◆ 今までどおり、丁寧に。(農,H11 学部入学,男)
- ◆ よく知らない。(農,H11 学部入学,女)
- ◆ 非常に助かっているので、今後も続けてほしい。(農,H14 修士入学,女)
- ◆ 事務の方の対応が人によって親切・不親切があるように思うので、事務の方にもっと学生にやさしく教えるよう指導してほしい。情報自体はちゃんとあるので、別にこのままでいいと思う。(農,H14 修士入学,女)
- ◆ 十分。(農,H14 修士入学,男)
- ◆ 今後も経済的に厳しい学生を支援し続けてもらいたい。(農,H13 修士入学,男)
- ◆ 免除の基準を公開してもらいたい。全体の大まかな基準でも個々の判断基準でもいいので。同じ収入でも免除されたり、されなかったりと、基準が分からない。本部の経理に行ってもまったく教えてもらえない。(人環,H13 修士入学,男)
- ◆ 奨学金は文系の学科に所属している学生が受けられるものが少ないので、あまり助けにならない。免除に関しては免除になる人の枠をもう少し広げてほしい。(人環,H14 修士入学,女)
- ◆ フルブライトなどもっと情報を示してほしい。(エネ科,H14 修士入学,男)
- ◆ 奨学金には非常にお世話になっている。有り難い限り。ただ育英会を除く奨学金はハードルが高く、また育英会の奨学金が

- 欲しくてももらえない人もいる。提供する額を下げてでも、多くの人を採用できませんか?(無理ですかね、やっぱり)(エネ科,H14 修士入学,男)
- ◆知名度を上げてほしい。知らない人もいると思う。(エネ科,H13 修士入学,男)
 - ◆これらの手続きは必要な書類が何で、それをそろえるためにどうすればよいのかで大いに悩ませるものであった。制度そのものを変えられなくとも、その類の案内があると助かったと思う。(エネ科,H14 修士入学,男)
 - ◆多いことにこしたことはない。(エネ科,H14 修士入学,男)
 - ◆問い合わせに対して丁寧に受け答えしていただいております。(エネ科,H14 修士入学,男)
- ◆応募できる者が少なくなる。特に文系院生向け。授業料免除も出なさすぎる。広告の仕方もネットで一覧できるようにもっと整備した方がよいと思う。(ア・ア,H13 博士入学,男)
- ◆博士課程での授業料は大きな負担。もっと引き下げるべき。また、院生が専門技術を生かして収入を得るための支援を何かできないだろうか?(情報,H13 修士入学,男)
 - ◆欧州大学レベルにサポートがあると嬉しい。(情報,H13 修士入学,女)
 - ◆現在の育英会の掲示板みたいに、何枚もばらばらの内容を並べられると非常に分かりにくい。もっと分かりやすくなるようにまとめることが必要だと思います。(情報,H14 修士入学,男)
 - ◆満足してます。(情報,H14 修士入学,男)
 - ◆現状維持。(情報,H14 修士入学,男)
 - ◆徐々に免除の敷居が高くなってきていると感じています。(情報,H14 修士入学,男)
- ◆大学だけの判断では行えないかもしれないが、大学院生の授業料、入学料免除者を増やす。(生命,H13 修士入学,男)
- 今後授業料も上がることだし、何とか組織化できないか。(評議員)
 - 全体に額が減ってきているのは残念。法人化とともに、抜本的対策が必要。(評議員)
 - 優れた学習成績を示した者への奨学金の充実。(評議員)
 - 選抜方法等の運用面に不合理な要素が認められる。改善の余地あり。(評議員)
 - 有るにこした方がよいが、昔(30年前)程、どうしてもという程でもないと思う(我々の学生のときと比べてみて)。(評議員)
 - お金の相談。(評議員)
 - 主として経済的理由を考慮するものと、主として成績優秀を考慮するものと両面必要。(評議員)
 - 大学院生の高齢化(入学生の多様化)が始まっているので、年齢制限を設けない研究奨学金などが必要。(評議員)
 - 日本育英会の廃止後の状況を注視し、必要に応じ対策を取るべきである。(評議員)
 - 現状でよい。学業(単に成績だけでなく)優秀者に対する scholarship もあってよい。(評議員)
 - 留学生対応が大変難しい。指導教官の頭痛となっている。(評議員)
 - 国への要望が必要。(評議員)
- 日本育英会の奨学金は返済しなければならず、先進国として大いに問題がある。優秀な学生に給与とすべきである。大学として文科省等へ働きかけるべきである。授業料・入学料免除はまずまず妥当と考えます。(教授)
 - 育英会の奨学金も有利子化、返済条件の悪化の傾向にあります。京大独自の奨学金を検討すべきでは。(教授)
 - 希望者全員に貸付制度を京大自身でつくるべき。(教授)
 - 特に院生の奨学金は多すぎて、遊びに使っているのが目に付く。一方、留学生で苦学している者も多い。(教授)
 - 各種奨学金の輪転をもっと促進する。(教授)
 - これからますます経済的不平等が拡大すると思われる。優れた学生が経済的な不安を持つことなく勉学・研究に励むことができるような体制が不可欠だと思う。(教授)
 - 奨学金(特に大学院)での充実を望む。(教授)
 - これはまったく不十分だと思う。しかし財政的に今後ますます厳しくなりそうかどうか分らない。(教授)
 - 海外へ留学したい、もしくはする学生に対して、情報提供があまりに少ない。(教授)
 - 競争原理をもっと導入すべきであろう。(教授)
 - 京都大学としての奨学金制度(特に博士後期課程学生)を充実する必要がある。(教授)
 - 「本学が…」と上記設問の中にあるが、本学の主体で、これらの支援が行われている状況でないのであり、政治の問題(文部行政)であって、国が考えるべきことである。(教授)
 - 絶対量が不足しているので、やむを得ないが、奨学金の成績別、運動能力別、支給制度を考慮してはどうか。(教授)
 - 景気の悪化のなかで、経済的に困っている学生の比率は大きくなっている。免除制度の周知や留学生に比べ著しく見劣りする日本人学生への奨学金支給等への取組みが必要である。(教授)
 - 博士課程の学生には、給料(研究補助費)を支払うべきである。(教授)
 - 採用の拡大の努力。(教授)
 - すべて質量ともに格段に拡充すべきである。TA、RAをより充実させるのも一つの手段である。(教授)
 - 我が国全体の支援システムが貧弱のように思われる。国に働きかける。企業等からの支援を計る。(教授)
 - 特に優秀な学生、博士の学生への奨学金、今は悪平等。大学として一丸となり要求すべき。留学生に厚遇すぎて、このままでは日本は駄目になる。(教授)
 - 不十分と思う。特に留学生への経済支援を。(教授)
 - 少なくとも恩恵を被る人数は十分とは言えない。全体の枠を質、量両面から増やす必要がある。免除について、煩雑になると思うが、全額、半額だけでなく、10%さきみで希望を書かせるなどできないか。(教授)
 - 低所得者子弟が入学・勉強できる京大を目指すべきである。(教授)
 - 貧しい学生への支援を強化すべき。(教授)
 - 免除のハードルが高すぎる。もっと支援してほしい。(教授)
 - より充実する必要がある。(教授)
 - 博士課程学生への奨学金に大学全体として取り組んでほしい。(教授)
 - 授業料、入学料免除は法人化後の自由度が増えれば、もっと徹底して「経済的に苦しい学生への免除」を行うべき。審査の難しさはある。京大としても外部資金の一部を使って、奨学金制度を考えるべき。(教授)
 - 採用の可否理由を本人の求めがあれば、公開する必要があると思う。(教授)
 - 免除人数枠の拡大。(教授)
 - 日本経済が不況に陥って以来、経済問題で相談に来る学生が増えている。対応が必要。(教授)
 - 親の収入の基準を下げ、希望者ができるだけ多くもらえるようにする働きかけが必要。(教授)
 - 奨学金の充実。(教授)
 - 社会人院生に対して考慮必要。(教授)
 - 経済支援の原資の発掘に努める。(教授)
 - できれば拡大する。(教授)
 - 絶対的な採用率の低さが問題である。採用枠の拡大が、課題である。独法化に伴って大学独自の支援体制(OB、同窓会等の資金導入)。(教授)

- 授業料免除の対象者の数を増やしてほしい。(教授)
 - 最近少し不安を感じる。(教授)
 - 本来ならば、大学院生の授業料は免除されるべきと考えるが、京大のみで、また現段階で実現できるものではない。(教授)
 - 就職後返却でもよいから、もっと多くの奨学金を。(教授)
 - 各種奨学金の育英会以外のものは少ない。(教授)
 - 拡充にこしたことはないが、今の努力も多くすべきだと思う。(教授)
 - 学生について時々多少の勤勉度チェックをする必要がある。(教授)
 - 更に充実する。(教授)
 - 国の支援の後退に対して、支援を促進する方策を検討することが必要。(教授)
 - 大学院生の場合、学術振興会のDC学振採用者は親と別会計ということで授業料が免除されているようであるが、真に困っている学生の経済支援という立場から再検討すべきではないだろうか。(教授)
 - 博士課程進学を推進しながら、全員に育英会が当たらない。→全員(希望者)に第一種が行き渡るように。(教授)
 - 留学生にもっと手厚く、特に私費で中国から来ている留学生は、かなり苦勞している(よく勉強もしている)。(教授)
 - 外国人留学生へのサービス。(教授)
 - 外国人私費留学生支援をより充実させる必要がある。(教授)
 - 私費留学生に対する支援を考えるべきである。(教授)
-
- 絶対量を増やす。(助教授)
 - 学部時代はともかく、大学院進学者の経済状態は悪い。実情を正確に把握し、適切な対応を。(助教授)
 - 京大独自の奨学金制度の設置(財源確保が難しいと思う)。(助教授)
 - 経済の悪化に鑑み、拡大すべき。(助教授)
 - 特に院生に対して返還義務のない奨学金が必要。(助教授)
 - 私学と同額の経費を負担できない優秀な学生にもっと奨学金が支給できるようにできればよい。(助教授)
 - 経済不況の折、突然の親のリストラなどで窮地になる学生もあると思われる。随時、受け付けて登録させておき、募集等の折にきめ細かく連絡してあげるのがよろしいのでは。(助教授)
 - 大学院博士課程学生への経済支援を欧米並みにするべき。親、アルバイトに頼らず、最低限の生活を保障する。(助教授)
 - 更に多くの方策を用意する必要あり。(助教授)
 - TAをはじめとして学生にできる大学の業務は、学生アルバイト化して経済支援の一環とする。(助教授)
 - 奨学金の充実。優秀学生(例えば上位5%)への授業料免除が必要。(助教授)
 - 我々が学生の時代に比べて、奨学金(特に日本育英会)が取りにくくなっている。この点につき、後援会、そのほかによる更なる援助を望む。(助教授)
 - 成績優秀な院生への十分な経済援助。(助教授)
 - 最終的には文部科学省の判断によるので、仕方がないとは言え、授業、入学料の免除ができるだけ認められるように、粘り強く働きかけるべきである。(助教授)
 - 学生への経済支援、奨学金はあらゆる手段を講じるべき。(助教授)
 - 特に院生の経済支援は必要だと思われませんが、財源も限られているので難しいでしょう。(助教授)
 - 育英会の状況が厳しくなって、これからより多くの企業等の奨学金が増えればよいと思う。(助教授)
 - 無知ですみません。(助教授)
 - できるだけ多くの学生に奨学金が支給できるようにしてほしい。(助教授)
 - 経済環境に合わせた対応が望まれる。(助教授)
 - 将来大学の基金による奨学生制度ができればよい。(助教授)
 - 現状でよいように思います。(助教授)
-
- 学生の海外留学推進のための大学からの奨学金、助成金が乏しすぎる。(講師)
 - 充実を望みます。(講師)
 - 独立法人化に向けて、少額でも大学独自のものがあってもよいのではないかと。(講師)
 - TA、RA、ポスドクなどのシステムをもっと充実してほしい。現在は金額が小さい。(講師)
-
- 特に博士課程の学生に対しては、もっと経済支援を行うべき。アメリカなら普通は給料がもらえる。(助手)
 - (授業料が高いのだから)もっともっと支援すべき。(助手)
 - 特に大学院生に対しては、まったく不十分。人数、金額とも大幅に増やすべき。(助手)
 - 経済的に本当に苦しい学生は少なくなってきたが、親からの仕送りなしで自立しようとする学生は皆苦しいのは当然である。ただし、大学から教育・サービスを受ける対価として、大学に入学料、授業料を払う姿勢は大切なので、大学が免除を行うのではなく、同窓会、京大後援会が基金を設立し、奨学金、授業料、入学金の貸与を行うべきである。大学が直接免除を行うのは不適切である。(助手)
 - 決定を早く。(助手)
 - 成績だけで決定するのはどうか。親の年収などで本当に困っている人もいる(自営業者など、一部不適切なことがあるのは知っているが)。本人が、どれくらいの家賃のマンションに住んでいるかなど、調べることで適切に処理できると思う。(助手)
 - 窓口での対応に一貫した基準がないように見受けられる。担当者あるいは、時々によって対応が変わるとというのが解せない。学生にとっては死活に関わる問題なので、積極的かつ親身になった対応が求められる。(助手)
 - 大学院での奨学金の配布が、必ずしも本当に必要な人へ行われていない。要改善。(助手)
 - 大学院学生の経済的支援(特にDC)。(助手)
 - 配分が適正でない。審査を厳密にして、本当に困っている人が、取得しやすいようにしてほしい。(助手)
 - 奨学金支給枠の拡大。(助手)
 - 財源から難しいのだけれど、本当に困っている学生をすべて支援できておらず、外部資金の更なる積極的な利用が必要。(助手)
 - 修士、博士課程の学生への奨学金を増やす。(助手)
 - 家計支援者所得によって対応に差をつけるのは、学生を「独立した個人」としてみなしていないので、あまり適切とは思えない。希望者全員に有利子(低金利)奨学金対応(額はかなり多めに)で対応するのがよいと思う。(助手)
 - どこに情報があるのか分かりにくい。Website等でもっと情報を提供すべき。(助手)
 - 情報の一元化、データベース化、電子化が必要(各種奨学金に関して)。(助手)
 - 授業料等の免除自体原則廃止すべき。有償奨学金の拡充で対応する。不公平感をなくす方が、人間関係もよくなり、社会への貢献を図れる。(助手)
 - 授業料・入学料の減額、免除の拡大。(助手)
 - 奨学金の充実。(助手)
 - 経済支援規模が縮小されないように頑張って下さい。(助手)
 - 奨学金が経済状態ではなく、学業成績に依存しているので、本当に必要な学生に行き届いているか疑問。(助手)
 - 大学だけの問題ではないが、博士課程の学生に対する経済的援助(奨学金)などはもっと必要。(助手)
 - 経済状況の改善が当面望めない社会情勢のなかで、経済的障害で十分な能力と興味を持つ学生が勉学をすことのないように対応していただきたい。(助手)

- 対象者の選抜が適切であるかについて、少し疑問があります。本当に必要とする者に支援ができてきているシステムであるのか？(助手)
- 大学院生、特に博士課程の学生はアルバイト、仕送りなしでも生活できるくらいのサポートをすべき。(助手)
- 特に大学院生の奨学金がもう少し充実すればいいのですが。(助手)
- 今後、日本育英会の免除職がなくなると聞いている。安心して博士課程を修了して、大学の教官に就職できるという代替措置が必要と思う。今のままでは、大学の教官という職業に魅力がなくなってしまう。金銭的メリットは最低限必要では？(助手)
- 学生向けの具体的情報をウェブページから取得できるようにすべき。(助手)
- これも「入り口」に問題があるように思える。統一した案内窓口、「ここへ来れば、どこに行けばいいのかわかる」みたいなものが必要では。(助手)
- できる限りの支援をお願いします。(助手)
- 本当に経済支援が必要な人に与えるように！今の学生は賢い者が多い。(助手)
- 院生に対しては、ティーチングアシスタント制度を積極的に活用することで経済援助をするとよいと思われる。(助手)
- Webページ等でもっと情報を開示するといい。(助手)
- 学業優秀な生徒には授業料免除など、更に増加してもらいたい。(助手)
- 授業料、入学料免除は非常によく機能していると思われる。寮の設備などによる異なる形の経済支援を充実させることがよいと思われる。(助手)
- 選考基準を明確化してはどうか？(不明な点があるように思われます)(助手)
- 本来的に奨学金は給与が原則であると考えているが、現在は貸与が原則となっている。しかも利子付きの「21世紀希望プラン」が大幅に増加している。また、学部卒については免除職の設定も廃止され、更には大学院修了者についても、成績が優秀な者についてのみ返還免除を行うとの議論が開始されていると聞く。こうした状況に鑑み、経済状況の厳しいものについては、なかなか困難ではあるが、「京都大学」固有の奨学金を設立することは考えられないか。給付型の奨学金が制度的に困難であれば、入学料・授業料免除や減額などの制度の充実が必要ではないか。(事務(技術)職員)
- 免除より、各種奨学金(貸与、ローン等)を拡充(種類、金額)する。(事務(技術)職員)
- 各学部で受付書類点検・審査すべきである。そのためには人員の配置などが必要となる。(事務(技術)職員)
- 大学独自の奨学金の充実が必要である。(事務(技術)職員)
- 支援は多いほどよいが、財政面でそれほど期待できないのでは。(事務(技術)職員)
- もっときめ細かな経済支援が必要。(事務(技術)職員)
- 基準を学生にオープンにし、不公平感をなくす必要がある。(事務(技術)職員)
- 現状の経済状態重視の判定方法では、どうしても不公平感が生じる。一定の基準を満たしている者については、学力で順位付けを行った方がよいのではないか。(事務(技術)職員)
- これらについては発足時と時代的な背景も変わり、国民の生活レベルも向上した現在、基準等を見直す必要がある。(事務(技術)職員)
- 今の経済情勢を考えると、生活困難者が多いので、予算を増やし免除者をもっと救済すべきである。(事務(技術)職員)
- 大学独自の奨学金財団の設立。(事務(技術)職員)
- 現状維持。(事務(技術)職員)
- 現状と問題点不明。(事務(技術)職員)
- 大学独自の奨学金制度など必要と思う。(事務(技術)職員)
- 奨学金制度の一層の充実を。(事務(技術)職員)
- 授業料免除が年々減額していることに鑑み、各種奨学金を含め、産学連携において企業、地方公共団体等から優秀な学生のために外部資金を導入することはいかがでしょうか。(事務(技術)職員)
- 授業料免除、入学料免除などの予算枠を増やすことが第一だと思う。(事務(技術)職員)
- 成績優秀者には、奨学金を増額し、返却の必要のないものを増やす。(事務(技術)職員)
- 奨学金の推薦順位について、各局・学科(専攻)ごとに枠を持っているらしく、大学全体としてみれば、公平な順位付けとなっているか疑問。大学全体として順位付けすべき。(事務(技術)職員)
- 今のままでよいと思う。(事務(技術)職員)
- 必要としている学生に十分行き渡ってはいないと思われる。日本育英会の動向も不透明であり、何らかの制度の創設が望まれる。(事務(技術)職員)
- 特に留学生対応が重要。奨学金は希望する学生には貸与などできるように願いたい。(事務(技術)職員)
- 優秀な留学生には奨学金を出す(政府留学生の年限を越えた等々)。

④ 進路相談、就職相談などの進路支援



【自由記述】 今後の対応について

- ◆就職ガイダンスの時期を早める(可能ならば)。(総人,H12学部入学,男)
- ◆総人にあるような進路相談室を全学に広げる。文学部などは不親切で有名である。(総人,男)
- ◆利用したことがないが、掲示はよく見かけるので将来利用したいと思う。(総人,H13学部入学,男)
- ◆利用したことがないから何とも言えない。(総人,H12学部入学,男)
- ◆利用していないが、今後就職活動の際には、是非利用したいので、充実させてほしい。(総人,H11学部入学,女)
- ◆ほかの学部は知らないが、総人には進路指導室もあり、大学にしては面倒見がよい。(総人,H11学部入学,女)
- ◆利用したことがないので、何とも言えない。(総人,H14学部入学,男)
- ◆相談に行けない雰囲気を感じる。(総人,H12学部入学,女)
- ◆総人では力を入れてもらっているが、ほかにも同様にやるか、何かすべき。(総人,H11学部入学,女)
- ◆あまり使わない。(総人,H11学部入学,男)
- ◆国家試験関係の情報の充実を図ってほしい。(総人,H11学部入学,男)
- ◆利用したことないです。けど京大就職率悪いみたいなので、充実させてほしいです。(総人,H13学部入学,女)
- ◆どの専攻に行ったら人はどんな就職をしているのかとか教えてほしい。分属直前にそういったことのガイダンスをしてほしい。また、卒論発表を分属直前の1回生(総人では)にもっと広く公開、宣伝したらよいと思う。(総人,H13学部入学,女)
- ◆大学院情報は過去問なども含め、もっと充実させてほしい。(総人,H11学部入学,男)
- ◆最近就職センターのようなものができて頑張っていると思う。(文,H12学部入学,女)
- ◆現状のままでよいと思う。(文,H13修士入学,男)
- ◆総人で行われた就職説明会はとても参考になった。(文,H11学部入学,男)
- ◆総合人間学部のみが就職支援に力を入れているという印象を受ける。もっと全学を上げて行うべき。(文,H11学部入学,男)
- ◆各学部の就職状況に合わせて適切な指導ができるよう、各学部に専門の部署を置いてほしい。(文,H12学部入学,女)
- ◆就職については、以前よりもよくなっていると思う。この調子で続けてほしい。ただもっとアナウンスを強く、広く、もっと気軽に訪れられる常設的な進路相談(主に学習、学問)の場(教官とつながりをもったもの)の設置。(文,H12学部入学,男)
- ◆広報活動を充実させるべき。(文,H11学部入学,男)
- ◆掲示だけでなく、直接本人に情報を伝えるなどしてこのようなサービスの認知をもっと深めてほしい。(文,H14修士入学,男)
- ◆私は他大学出身者だが、この大学のどこに就職情報を集める場所があるのか知らない。(文,H13修士入学,男)
- ◆ほかの大学では専門の窓口があるので、もっと気軽に入れるような設備と人員を備えてほしい。(文,H13修士入学,男)
- ◆他大学などに比べて遅れていると思う。資料の閲覧などもできないし、説明会、講習会が少ない。(文,H12学部入学,男)
- ◆就職に関する窓口を設ける。(文,H11学部入学,男)
- ◆職員の方が企業についてよく調べていて、ちゃんとしたつながりを持っているということを外にアピールした方がよい。ハローワークとあまり変わらない気がする。(文,H11学部入学,男)
- ◆就職活動中、私学の人達に比べて不利だと感じた(他大学ではもっと就活関係の訓練を受けているため、例えば面接の練習や自己PRの方法等)。今までは“学歴社会”であったために“京大”がそうしたトレーニング不足を補って余りあるくらいだったかも知れないが、これからは違う。(文,H11学部入学,女)
- ◆利用したことがない。(文,H14学部入学,女)
- ◆適切な窓口がない。(教,H14学部入学,女)
- ◆私の所属する学部では、そもそものスタッフが進路支援を行っているかが不明瞭。学生とスタッフの距離を縮める方法がないので、余計相談しにくい。(教,H12学部入学,男)
- ◆就職についてはまったく学生が独自に行っている感を、他大学と比べると強く受ける。個別企業への、特に文系学生への後押しをもう少しやってもらってもいいのでは？(教,H11学部入学,女)
- ◆現状でよい。(法,H11学部入学,男)

- ◆他校に比較してこの点が特に異なっている。より支援した方がよい。(法,H12学部入学,男)
- ◆ガイダンスだけでなく、個別の相談機会が提供できればなおよいと思う。(法,H14修士入学,男)
- ◆先輩方の就職活動の体験談や、企業の情報をもっと入手しやすくしてほしい。公務員試験の情報も法学部なのに少ないので、セミナーなどの形で提供してほしい。(法,H12学部入学,女)
- ◆カタログは置いてありますが、それ以外は特別なことはしていないと思います。(法,H13修士入学,男)
- ◆就職のための窓口、課を事務室に設置するのがよいと思います。「就職」は大学の核だと思います。(法,H13修士入学,男)
- ◆進路相談などあるのか？放ったらかしと違うのか。あるとしても存在を知らせないと。(法,H13学部入学,男)
- ◆就職相談への対応がなさすぎる。学生の主体性が要求されるのは当然であるが、だからといって学生サービスの必要がないわけではない。特に1,2回生向けのガイダンスを行い、研究生活、労働へのイメージを具体的なものにすべきである(それが固められず、今でも困惑している人が多くいる)。(法,H11学部入学,男)
- ◆私大と比べたらまったく機能していないと思います。機能していても、就職できてしまうところが京大のすごいところではありますが、あったらあったで便利でよいと思います。(法,H10学部入学,男)
- ◆元来、進路について、学校は関与しない形であったが、それでいいように思う。学生が自らで進路の選択を行うのであるから、大学側が度を超えて関わる必要はないはず。ただし、現状の説明会等の必要性は大きく、その内容の充実が求められよう。(経,H13学部入学,男)
- ◆1回や2回からも気軽にキャリアプランニングのビジョンを描けるようにしてほしい。(経,H12学部入学,男)
- ◆京大ということで、これまであまり重点が置かれてこなかったということも聞いています。学生のニーズはだんだん高まっていると思うので、更なる充実を望みます。(経,H12学部入学,男)
- ◆利用したことがないので分かりません。今まであったことを知らなかった。(経,H12学部入学,男)
- ◆就職ガイダンスの曜日が固定されているようですが、同じ授業を何度も欠席することになるので、曜日の設定を変えてほしい。また、もっと就職案内がほしい(公務員だけではなく、一般企業も)。(経,H12学部入学,女)
- ◆改善する必要なし。京大は恵まれている方だし、学生は自分の道は自分の力で切り開くべきだ。(経,H13修士入学,男)
- ◆最近になって、就職ガイダンスを始めたことが非常に評価できると思う。これらを何回か、業種、職種別などに分け、一度に多人数のガイダンスだけではなく、もう少し少人数でのガイダンスがあれば更によいと思う。(理,H14修士入学,男)
- ◆積極的な支援をされており、感謝しています。(理,H14修士入学,男)
- ◆受けたことがないので分かりません。(理,H14修士入学,女)
- ◆全国的に先行きが暗い今、1,2回の早い段階から情報を提示して考える時間を増やしてほしい。(理,H14修士入学,男)
- ◆利用していないのでよく分からないが、就職相談は他大学に比べれば弱いと思う(聞いた話では)。それはそれで自主性があってよいと思うけど。(理,H14修士入学,男)
- ◆受けたことがないので分からない。(理,H13修士入学,男)
- ◆理学部では、そんなサービスを利用したという話を聞いたことがないが、雑誌やインターネットで自分で情報収集しようと思えばできるのだから必要だとも思わない。大学としての特色を生かせるようなサービスが提供してもらえれば助かる。専門的知識やコネを持つカウンセラーなど。(理,H13修士入学,男)
- ◆理学部に限った話かもしれませんが、就職に関する情報の開示が不十分だと思います。(理,H11学部入学,男)
- ◆進路相談・就職相談とも、個別に対応する窓口が貧弱ではないか。大部屋でのガイダンスを通知するだけで、あとは何もしていないように見える。(理,H14修士入学,男)
- ◆あまり情報が流れてこなかったのが、宣伝をもう少し徹底してほしい。(理,H13修士入学,男)
- ◆まず存在自体を知りませんでした。(理,H13学部入学,男)
- ◆よく知りません。(医,H10学部入学,男)
- ◆私はまだ受けたことがないので、よく分かりません。(医,H14学部入学,男)
- ◆関わったことがないので不明。(医,H9学部入学,男)
- ◆このような支援があることを知らなかったのが、実績などをもっと知らせたらよいと思います。(医,H14修士入学,女)
- ◆きちんとした資料やガイダンスがほしい。(医,H11学部入学,男)
- ◆受けたことがありませんが、多分このようなことは、ある程度人間関係のできあがった人に相談するので、個人的に探すのではないのでしょうか。(医,H11学部入学,男)
- ◆受けたことがない。(医,H10学部入学,男)
- ◆利用したことがないので何も分からない。(薬,H12学部入学,男)
- ◆どちらも利用したことがないから分からないけど、就職についてはもう少しガイダンスなどがあってもいいと思う。(薬,H11学部入学,女)
- ◆進路支援を受けたことがないので分からない。(薬,H11学部入学,女)
- ◆今3回生の後期で、そろそろ進路について真剣に考える時期にきているが、情報がほとんどない。理系で院に進む人が多いからだろうが、もっと教授や先輩などと話をする機会があれば…と思う。(薬,H12学部入学,女)
- ◆気軽に相談できるようにしてほしい。PRをもう少ししたらいいと思います。(薬,H12学部入学,女)
- ◆この大学はそういう支援が少ないと有名なので、もっと支援に力を入れるべきだ。(薬,H12学部入学,男)
- ◆どこに行けばそのような相談を受けられるのか分からないため、自分が進路を決めるときに困りました。(薬,H11学部入学,女)
- ◆利用しておりません。(薬,H14学部入学,女)
- ◆受けたことがまだないので、よく分かりませんが、いいという噂は聞きます。(工,H12学部入学,男)
- ◆とてもお世話になった(就職相談)。(工,H11学部入学,男)
- ◆私は相談したことがないのですが、京都会館などで就職セミナーが行われているようで、進路支援はしっかりとしていると思われる。(工,H14修士入学,男)
- ◆力になっていただきました。(工,H13修士入学,男)
- ◆もっと気軽に行けるようにしてほしい。(工,H13学部入学,男)
- ◆アドバイザー制度はとてよいと思います。(工,H12学部入学,男)
- ◆友人などの様子を見ています就職相談等しっかりされているようなので、このままでいいと思う。(工,H11学部入学,男)
- ◆まだ受けていないので分からない。(工,H14修士入学,女)
- ◆相談したことがないのでよく分からない。(工,H12学部入学,男)
- ◆自分が進路相談や就職相談を利用したことがないのでよく分かりません。(工,H12学部入学,男)
- ◆就職は全員が必ず経験することなので、もっと大々的に行ってもいいと思います。(工,H12学部入学,男)
- ◆相談しに行きやすい窓口をつくらたいと思う。(工,H12学部入学,男)
- ◆まだ分からない(工,H12学部入学,男)
- ◆学部・学科を越えて、全学として就職相談してほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆受けたことがないので分からない。(工,H11学部入学,男)
- ◆より細かい情報を提供してもらえると助かる。(工,H11学部入学,男)
- ◆受けたことがないので分かりません。(工,H11学部入学,男)
- ◆このままでいいと思います。(工,H11学部入学,男)

- ◆利用したことがありません。(工,H14修士入学,男)
- ◆相談したことがないので分からない。(工,H14修士入学,男)
- ◆それなりに行われているのでいいと思う。(工,H14修士入学,男)
- ◆相談できることすら知らない。(工,H14修士入学,男)
- ◆よく分からない。(工,H13修士入学,男)
- ◆ほとんど利用したことがないので分かりません。(工,H13修士入学,男)
- ◆利用したことがないので何とも言えない。学部がしてくれるので不要かも。(工,H13修士入学,男)
- ◆(相談は)利用しなかったのであまり評価できない。就職説明会はこのままでよいと思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆現状でよいと思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆学校推薦は推薦状を出してくればよい(個人的には学校推薦は廃止した方がいいと思う)。自由応募に関しては一人一人なんだから個人でやればよいこと。大学が面倒見る必要はない。(工,H13修士入学,男)
- ◆京都大学の学生は、就職活動を始めるのが遅い傾向にあるので、就職ガイダンス等をより早い時期に行ったほうがよいと思います。(工,H13修士入学,男)
- ◆ほかの大学みたいにもう少し就職の面倒をみてほしい。(工,男)
- ◆もっとたくさん就職相談などをしてほしい。(工,H12学部入学,女)
- ◆こういうものがあればいいなと思っていたのだが、既にあることを今知った。もっと目立たせてほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆できれば、教官のひととの個人面談ような形のものがある方が自分の進路などを話せると思う(2、3分程度でもよいので)。自分から教官のところに行きづらい雰囲気がある。(工,H12学部入学,男)
- ◆まだ相談のつてもらったことはない。どこに就職相談の窓口があるのだろうか。(工,H10学部入学,男)
- ◆あるのかもどうもよく分からない。しっかり宣伝してほしい。(工,H14修士入学,女)
- ◆就職相談の機会を増やしてほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆もっと情報を開示してほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆ほかにくらべてかなり劣ると思う。でも必要ないと言えは必要ないかも。(工,H13修士入学,男)
- ◆就職説明会は一度行きましたが、あつてないようなものでした。(工,H14修士入学,男)
- ◆学科の就職担当がいい加減だったので、掲示、対応など見直してもらいたい。(工,H13修士入学,男)
- ◆受けていないので不明。(工,H14学部入学,男)
- ◆受けたことがないので分かりません。(工,H14学部入学,男)
- ◆これから相談することになると思うので、期待しています。(工,H12学部入学,男)
- ◆あまり利用していないので分かりません。(工,H12学部入学,女)
- ◆利用したことがない。(工,H11学部入学,男)
- ◆受けたことありません。(工,H14修士入学,男)
- ◆十分。(農,H14修士入学,男)
- ◆十分してもらえました。研究室の先輩等が説明して下さり、大変参考になったので、続けてほしいと思います。(農,H13修士入学,男)
- ◆リクルートの方の講演など、多数聞いてアドバイスをもらいたい。(農,H14修士入学,女)
- ◆まだ2回生なので分からない。(農,H14学部入学,男)
- ◆利用したことがないので分からない。(農,H14学部入学,男)
- ◆今までこのような相談をした経験がないので、何とも言えないが、学生の needs にいつでも応えられるものにすべきだと思う。(農,H13学部入学,男)
- ◆このサービスの存在を今回初めて知った。もっと広く宣伝するべきだと思う。(農,H13学部入学,男)
- ◆就職相談は、掲示をみると色々貼ってある。進路相談はもっと各学生に情報を与えてほしいと思う。(農,H12学部入学,男)
- ◆利用してないので何も言えない。(農,H12学部入学,男)
- ◆まだ利用していないので分からない。(農,H12学部入学,男)
- ◆私学などのサービスよりもずいぶん遅れている。(農,H13修士入学)
- ◆農学部は力を入れていない気がする。(農,H11学部入学,男)
- ◆他大学と比較して充実していないと思うので、もっとたくさん情報を提供してほしいし、オープンな雰囲気してほしい。(農,H14修士入学,女)
- ◆就職のためのセミナーが少ない。証明写真の撮影会など他大学ではあるらしい。(農,H12学部入学,女)
- ◆大々的にPRすべき。(農,H11学部入学,女)
- ◆全体会をやるべきである。説明会不足。(農,H11学部入学,男)
- ◆存在をアピールしてほしい。売っていない冊子をもらいに行ったら、もうないと言われた。もっと力を入れてほしい。(農,H11学部入学,女)
- ◆進路相談窓口を知らない。(農,H11学部入学,女)
- ◆あるんですか。(農,H11学部入学,男)
- ◆使ったことがない。(農,H11学部入学,男)
- ◆就職に関しては、せめて学推がどうなっているのかくらいははっきりしてほしい(掲示するか)。(人環,H13修士入学,男)
- ◆自分が利用していなかっただけでもかもしれませんが、もっと密に情報が入手できるようにメールやHPを利用してほしかったです。(エネ科,H13修士入学,男)
- ◆よい。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆まだ受けたことがないので分かりません。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆正直、就職活動をいざ始めようとするとき、まず何から手を付けたらいいのか迷うが、より所がすぐに見つからず苦労しそうな気がする。「困ったらとりあえずココに行けば」という場所をつくってほしい。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆就職課などを事務室に設けるべきだと思います。(エネ科,H13修士入学,男)
- ◆あるということはほとんど知らなかった。就職相談も同窓会、生協がやっているのでは？(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆このようなものはほとんど支援されていない。不況により、京大生も就職が困難であるからもう少し充実させてほしい。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆分からない。(ア・ア,H14博士入学,男)
- ◆担当者の力量に任されるのみのような印象があるのですが(担当者が協力的だと、アドバイスを多くもらえるということ)。(情報,H13修士入学,女)
- ◆利用したことはありません。(情報,H14修士入学,男)
- ◆まだ受けていないので分からない。(情報,H14修士入学,男)
- ◆学科、研究室の教官にはアドバイスをいただけるが、いわゆる就職課に相当するところがあってもよいのでは。(情報,H14修士入学,男)
- ◆進路支援といって現在何が行われているのか知らない。(情報,H13修士入学,男)

- ◆大学院生にも就職ガイダンスを開いてほしい。就職相談窓口を増やしてほしい。(生命,H14修士入学,女)
- ◆特に就職については、教官に世話をする意思がまったく見られない。(H14修士入学,男)
- 京都大学は本来不要であるが(自分で探せる能力がある)、最近の学生には不安があり、対応が必要か。(評議員)
- 事務体制の整備が必要。(評議員)
- 京大は私大などに比べてこうした支援の点では遅れている。(評議員)
- 全学説明会などの機会を増やす。(評議員)
- 3年生夏の時点で、官庁・企業のOBを招いて就職説明会を。(評議員)
- より充実する必要がある。(評議員)
- 窓口程度でよい。(評議員)
- 学生自身が対処している面が強いの、どのような対応ができる(可能)のかどうか。(評議員)
- チューター制の導入。(評議員)
- 全学レベル、部局レベル、専攻レベルによって取組み内容が著しく異なるのではないかと。(評議員)
- 情報提供の推進。(評議員)
- 将来、父兄に対して就職の情報を流す必要がある。(評議員)
- オフィスアワーを設定し、充実を図る。(評議員)
- 今のままでよい。(評議員)
- 学部によって事情が違うので何とも言えないが、ほかの私立大学のようにもう少し進路支援してもいいと思う。(教授)
- 医学部ではあまり重要でない。他学部の事情は分からない。(教授)
- 理学部において特に顕著である(ほとんど何もしていない!)(教授)
- 理学部は従来ほとんど対応していないと思われる。全体的な組織づくりが必要か?(教授)
- 不要。(教授)
- 低学年にはあまり意味がない。我々の研究室では適切に行われている。(教授)
- 早い段階から、進路の決定を促し、自覚を持たせることが必要。(教授)
- 教育の充実が先かもしれない。(教授)
- OBからの情報提供とそれへのアクセスをより容易に。(教授)
- 私立大学と比較すると差が大きい。(教授)
- 担当教官により対応の度合いが大きく異なる。当教室では主任が対応しているが、より専門的に対応する事務官が必要です。(教授)
- より社会との接点を持てる機会を増やす。様々な講演会などで。(教授)
- 工学部系では教官が、就職相談など行っているが、全学的に窓口を一本化(就職課など)した方がよい。(教授)
- ほとんど行われていないが、今後もこの種の支援が必要かどうか検討の必要あり。(教授)
- 全学的な対応が必要である。(教授)
- 独法化の暁には、私学並みとはいかぬまでも、今少し拡充の要あり。(教授)
- 将来は拡充が必要かもしれない。(教授)
- 教官が学生の個々の相談にのる、という現状でよいと思う。(教授)
- もう少し、きめ細かに。(教授)
- 就職相談の充実。(教授)
- 先輩・卒業生と接する機会が必要。(教授)
- 学部学生が今後の進路の相談等気軽に教官と相談に行きやすい制度をつくり上げること検討してはどうだろうか。(教授)
- 学科長、専攻長が経験に基づいてやっているが、専門のスタッフを置いて教授を雑用から解放した方がよい。(教授)
- 研究室配属後は問題がない。研究室配属以前の学生に対するガイダンスが必要であるが、それが十分かどうか分からない。(教授)
- ゼミの教官が現在はこれらの支援を行っているが、教官によってばらつきがあるので、システムの整備が必要。(教授)
- 現在理学部では、研究室、あるいは専攻の教官がこのようなことをやっています。大学として本当にできるのでしょうか。(教授)
- 総人以外の部局はより積極的な進路支援が望まれよう。従来のような放任主義では、今や無理であろう。(教授)
- やりたいことを見つけるためのアドバイスが進路・就職相談では重要。(教授)
- 学科、専攻等の努力に期する。(教授)
- 一部私学で実を挙げている同窓会組織の活用、連携を期待する。(教授)
- 他大学の就職相談窓口なども参考にして、日常的に学生が相談できるようになることが望ましい。(教授)
- 専門員によるカウンセリングがあればよいと思うが、実状をよく知らない。(教授)
- 研究室の指導教官が積極的に行うべき問題である。一般的な情報はインターネットでも得られる時代であるから。(教授)
- 少数グループの指導制の導入。(教授)
- 先輩を講師と呼ぶ。(教授)
- 特に1~2回生段階での学習相談に力を入れる。(教授)
- 実状をよく存じませんが、私学のような奮闘努力まで真似すべきかどうか?(教授)
- 教官への負担が大きいです。減らす方向で検討してほしいものだ。(教授)
- 総合人間学部は、新しい学部で就職相談には力を入れていると思う。(教授)
- 工学部、工学研究科では、問題なく行われている。(教授)
- 学部・研究科によって事柄が大きく異なる。一部の学部(研究科)では組織的な対応が望まれる。(教授)
- 工学系ではかなり丁寧な指導をしている。むしろ、学生の自由意思を無理に変えさせる恐れもあり、注意が必要。文化系学部や理学部では、まったく学生の自由に任せているが、京大の場合はおおむねこれでよいと思う。ただし、過年度学生は、企業の対応も厳しいので、アドバイスをすることも必要だと思う。(教授)
- 企業でのインターンシップを取り入れてはどうか。(教授)
- あまり教員に負担がかからないような、「委員会制度」ないし専門職員の配置。(教授)
- 当専攻では、一人一人完全に間に入って就職を世話(現状で十二分と考えている)。(教授)
- 研究科、学部によって対応が異なっているので、この評価点は私の所属する専攻内での判断であることを加えておく。(教授)
- 必要に応じて、個別指導を丁寧に行っている。(教授)
- 個人としては、十分すぎるほどしている(学生はそれに感謝していない)。(教授)
- 現状をよく知らないで分かりません。(助教)
- 実状を知りません。すみません。(助教)
- 従来のように、京大卒の肩書きだけで、就職することができなくなってきている。また、一度職を辞して、社会人大学院卒で勉強する学生も多くなっている。大学として望まれる学生と提供できる学生の需給マッチングに取り組まないと「大学院は出たけれど」的な高学歴失業者問題を抱え込むことになるだろう。(助教)
- 常設の相談窓口を設けるべき。配属研究室によって、就職の有利・不利がないよう学部で一括して取り扱う。(助教)

- インターンシップ等の多様化。(助教)
 - 系として組織立って対応する必要がある。(助教)
 - 大学院生に対する就職活動支援に力を入れる。(助教)
 - 相談窓口をつくるなどという形式より、気軽に教員に相談できる雰囲気、日常的な付き合いをつくり上げる工夫が必要か。(助教)
 - 実態不明。(助教)
 - 巨大な大学なので、個々の部署で行うしかない。今のままで多分MAXだと思う。(助教)
 - 最近、あまり意味がなくなっている。(助教)
 - 私個人としては、最善を尽くしているつもりだが、ほかの研究室や学部等の状況が分からないので、今後の対応も不明。(助教)
 - 大学院への進学指導がいたって不備。非適格者が多数進学している。強化必要。(助教)
 - 現状でよい。(助教)
 - もう少し細やかに。(助教)
 - 各指導教官の資質に依存している部分が多すぎる。(助教)
 - ・どのくらいの利用があるのか？不明である。・進路相談、就職相談はかなり学生個人の問題であり、難しい問題であるが、一現状では、理系では指導教官が行ったりもしていると思うので、そのあたりとの兼ね合いをどうしていくのが課題か???(助教)
 - 企業からオファーが来れば、その情報を学生に与えることが基本で、後は学生自身の判断だと思う。企業からの就職口を集めることは(より多く)必要、またはできればよい。(助教)
 - もう少し力を入れてもよいと思う。or 入れるべき。(助教)
 - 対応窓口の整備必要？(助教)
 - 学科個別でのより充実した支援。(助教)
 - 現状でよいように思います。(助教)
- キャリア・サポート・センターに教官スタッフを置き、周知させ、拡大する必要があるのでは？(講師)
 - キャリアサポートセンターができて、学生にとっては便利になったのではないのでしょうか。(講師)
- どの程度の活動がされているのか知らないで、評価できません。(助手)
 - 特に学部生相手の相談窓口を設置すべき。(助手)
 - 大学院後(特に博士)の進路の提供。(助手)
 - ガイダンスの数を多くする。(助手)
 - 専門的知識を持ったスタッフを大増員すべき。大学の使命は人材の育成にあり。おざりな業務ではダメ。新分野開拓の一翼もなす。(助手)
 - 講座主任の教授に対する負担が軽減されるとよい。(助手)
 - 相談を受ける側が、十分な訓練を受けているのか？(助手)
 - 特に修士の学生の就職への対応が遅い。(助手)
 - 部局によっては濃淡があるのでは？(助手)
 - 教官個人の努力によるところが非常に大きい。京大内で地元企業を中心にして就職セミナーを開いてはどうか。(助手)
 - 実質、各専攻(学科)の研究室レベルで対応しているように思える(理系)。(助手)
 - 学部間、学科間、研究室間で格差があるような気がします。各学部毎の「就職課」もしくは相談窓口の専任職員が必要と思います。(助手)
 - 理科系の院生にとっても就職状況は以前と比べ、ずいぶん変化しているように思われるが、年輩の教授層には、そのような意識がなすすぎるように感じる。(助手)
 - 同じ専攻内での競合した場合のルール(推薦など)を徹底してほしい。(助手)
 - 明確な対外窓口が必要。今は専攻単位(?)となっている。(助手)
 - 大学院入試の際の成績のみで、講座配属が決定される場合、希望の進路と進めない可能性が多い。カンニングが多く非常に問題である。(助手)
 - 実状をよく知らないが、京大だから、希望する職種、会社に入れるという時代でもないで、進路支援は充実させるべき。(助手)
 - 現状を知らないで、分からないが、利用しやすい態勢を整えるべき。(助手)
 - 学生の自主性を尊重するのが本学の方針と考えているので、現状のままでも構わない。(助手)
 - 学部によって違いがあるように感じられます。今の世の中の状況からこれについては、もっと充実した方がよいと感じます。(助手)
 - まず最初に学生がこの手の支援を受けたいと思ったときに、どこへ行けばよいか知っている状態にすることが大事だと思う。(助手)
 - 1、2年生時より目的意識を高める。(助手)
 - 全学としてまったく無責任な体制だと思われるが、私の所属する部局(専攻)単位ではきちんと運営されている、と思う。これを全学的に行うべきかどうかは判断する材料を持ち合わせていない。(助手)
 - 学部によって異なっていると思う。院生には各研究室宛へメール等が来ているので、具体的に相談できると思うが、どれほど行われているか私は知らない。(助手)
 - 教官側がもう少し学生の立場、希望等を理解してやるようになってほしい。(助手)
- 就職相談は、専従の組織(就職部長など)を設置し、支援体制を充実する。(事務(技術)職員)
 - 熱心な教官もいるが、そのほかの教職員はダメ。(事務(技術)職員)
 - サポートセンターがあるようだが、学生に聞くとも何も得るものがない、総人みたいなことはしないのか、という声がある。全学のセンターならもっと大々的に宣伝し、活用されるような努力をすべきである。(事務(技術)職員)
 - 部局によって温度差があるが、特に文系は不足しているのではないか。(事務(技術)職員)
 - 現在のスタッフや体制では十分とは言えないのでは。(事務(技術)職員)
 - 学部での対応に温度差が大きい。学生部のなかでの取組みも端緒についたばかりであり、スタッフも十分でない。教員も含めたスタッフを充実して対応すべきと思われる。(事務(技術)職員)
 - 各学部では、あまり就職相談等は行われていない。(事務(技術)職員)
 - 学生の進路などについては、不十分ながら、情報提供のみであり、今後は学生の相談を受け、適切な助言を行う体制を築く必要がある。(事務(技術)職員)
 - 大学としてのサポートがなされていない。出口が見えるようにサポートする必要がある。経験豊かな人材の配置と業者任せのサポートでは学生は満足していないし、教官、学生を含んでのWGで企画をすべきだと思います。全学学生が総人のガイダンスに頼っているのではないのでしょうか。(事務(技術)職員)
 - まだ十分とは言えないので、より一層の充実を図る必要がある。(事務(技術)職員)
 - 法人化を控え、更に強化しなければ学生の評価が落ちる。(事務(技術)職員)
 - 就職、進路相談は回生毎に全学的なガイダンスを多面的に実施すべきではないか。その際、卒業生の経験を話させるのがよいと思う。(事務(技術)職員)
 - これまで、学部・研究科によっては就職担当の教官や事務官を配置している場合もあるが、いわば「放ったらかし」であり、京都

大学はほかの大学等と比較して綿密な指導は欠けていたと思われる。しかし、総合人間学部発足時に専門職員を配置し、就職指導を行ってきた実績もあり、更にはキャリアサポートセンターの設置や就職ガイダンスの実施など徐々に体制を整えつつあると言えるのではないだろうか。ただ、学部レベルではまだまだであるというのが現状である。今後はより一層キャリアサポートセンターを、文字通り就職支援の中心組織として機能させることが必要であり、そのためにはスタッフの充実も図らなければならない。(事務(技術)職員)

- 相談体制の充実。(事務(技術)職員)
- 今のままでよいと思う。(事務(技術)職員)
- 他大学のように教官・事務職員も含めた窓口をつくる。(事務(技術)職員)
- 現状維持。(事務(技術)職員)
- 現状と問題点不明。(事務(技術)職員)
- 入学させることはさせても、卒業時の特に就職について決定するまでのフォローができていない(ある学部ではされていると思うが)。私立大学に学生を取られる心配あり。(事務(技術)職員)
- 就職相談体制を充実させて、企業からの求人数を増やすなど、大学を社会に売り込むべきである。(事務(技術)職員)
- 部局によっては、指導教官等がかなりコントロール(縛りをかけている)しているところがあり、学生の意見が十分に反映されているか不明。必要以上の圧力がかからないようにできないか。(事務(技術)職員)
- 学生OBの社会人を積極的に活用すべきである。(事務(技術)職員)
- 学生からの各種相談について、学生センターを設置し、そのなかに「何でも相談室」を設置してはいかがでしょうか。メンタルヘルス面も含めた初期対応が必要と思います。(事務(技術)職員)

⑤ 課外活動、体育施設、課外教養行事などの課外活動支援



【自由記述】今後の対応について

- ◆サークルに対する支援が事実上何もない。「公認」という格が何のために存在しているのか不明。(総人,H12学部入学,男)
- ◆サークルに予算とかもらえたら有り難いです。これもっとPRすべきです。(総人,H13学部入学,女)
- ◆西部サークル棟の建て替えについて、現在各サークルに口頭で与えられている保証を文書で提出してほしい。・灯油配給の期間延長。(総人,男)
- ◆よく分からない。(総人,H14学部入学,男)
- ◆やっていることを知らなかった。(総人,H13学部入学,女)
- ◆グラウンドなど運動設備が手狭。部活やサークル以外で使えることが少ない。(総人,H12学部入学,男)
- ◆どんなことをやっているのか知りません。(総人,H12学部入学,女)
- ◆サークルが使う施設はもっと充実させてほしい。(総人,H11学部入学,男)
- ◆体育館をいつも使っているが、時々床が滑りやすくて危険なので、モップを常にきれいにし、掃除機を導入するなどしてほしい。(総人,H11学部入学,女)
- ◆設備が古い。トレーニングルームなど。(総人,H11学部入学,男)
- ◆プール開放や能・音楽鑑賞など、とてもいいことだと思う。もう少し回数を増やしてくれるともっといい。(総人,H11学部入学,女)
- ◆これからも支援してほしいです。(総人,H13学部入学,男)
- ◆利用したことはないが、利用してみたい。(総人,H12学部入学,男)
- ◆支援してもらったことがないので、よく分かりません。(総人,H11学部入学,男)
- ◆利用経験なし。(文,H11学部入学,男)
- ◆グラウンドが狭くサークルが溢れている。もう一つグラウンドがほしい。(文,H12学部入学,男)
- ◆サークルにも吉田グラウンドの門戸を開いて下さい。(文,H11学部入学,男)
- ◆体育会入会費高すぎる。(文,H14学部入学,女)
- ◆サークルや部活に入っていない人も参加できるような催しがあるといい。(文,H12学部入学,女)
- ◆内部団体の保護育成を最優先にしてはどうか。例えば今能楽部では能一番出すのに30万ほどの金銭が必要となっている。(文,H11学部入学,男)
- ◆創立記念コンサート、能楽鑑賞会はよいと思う。ただ、無料であるというのは、良い面もあり悪い面もある。悪い面というのは、あまりやる気のない観客のために奏者が力を発揮しきれないこともあったように感じた。また、そういう面からも、出演者の吟味には注意を払う必要があるかと思う。(文,H11学部入学,女)
- ◆別に大学が積極的にやることではないと思う。(文,H13修士入学,男)
- ◆BOX棟が自由に使用できる現状はそのままでもいいが、もう少し衛生的になってほしい。体育館シャワーのシャワーカーテンを早く付ける。(文,H12学部入学,男)
- ◆学生集会所のトイレはとても女の子が使えるようなものではなく、大変不便です(現在はコンビニなどを使っているので余裕があったらトイレだけでも直してほしい)。新たに西部講堂の辺りにサークル施設をつくるのなら24時間使用可能にしてほしい。(文,H12学部入学,女)
- ◆現状のままでもいいと思う。(文,H14修士入学,男)
- ◆以前、課外活動を行っていた際(体育会所属の団体)非常に便利な施設を使用することができ、感謝している。(文,H13修士入学,男)
- ◆大学の講義室利用(空き時間に)があまりにも不適切。学生の自由な活動はフリースペースから生まれるものであり、広く教室を開放すべき。また大学の宿泊施設などがほほにないに等しいのも問題。(教,H11学部入学,女)
- ◆サークルへの補助(施設や資金面)がもっとあるべきと思う。(教,H12学部入学,女)
- ◆体育施設は、体育会に所属している人以外にとって利用しづらい雰囲気がありますので、例えば曜日を決めて一般の学生が利用できる日などをつくってくださると有り難いです。(教,H14修士入学,男)
- ◆かなり頑張っていると思う。(教,H14学部入学,女)

- ◆これも無名。(法,H13学部入学,男)
- ◆認知度を上げる。(法,H12学部入学,女)
- ◆そういった支援があるということは知っているが、利用したことはない。PR不足か、または体育会など特定の団体に利用されているのではと思う。いずれにしろ、情報が無いというのが最大の欠点であり、今後力を入れていくのならば、情報の適切な提供を行うべき。(法,H11学部入学,男)
- ◆体育会やサークルの使用を分けて普通の学生が使用できる時間、場所を確保してほしい。(法,H14修士入学,男)
- ◆もっと簡素化してもよい。(法,H12学部入学,男)
- ◆課外教養行事に学校側が積極的に首を突っ込む必要はないと思います。体育館改築してほしかったです。地下のトレーニングルームと道場は人数の割に狭く感じました。もっとスペースがほしかったです(少林寺拳法部だった)。(法,H10学部入学,男)
- ◆博物館など充実していると思います。これからも学生の興味をそそる施設を期待します。(法,H12学部入学,女)
- ◆現状でよい。(法,H11学部入学,男)
- ◆課外教養行事がすごくいいです。可能ならば回数を増やして下さい。(法,H13修士入学,男)

- ◆明らかに学生を管理しようとする方向へ進めようとしている感がある。学校側、学生(団体)側の言い分をあらゆる段階でもっとフェアに話し合える場を持ってないか。また学生への支援が脆弱だ。西部講堂の運営は学生側の自由の権限を尊重した上で議論していくべき。(経,H13学部入学,男)
- ◆グラウンドや球技場を増やしてほしい。京大生の体力は下落する一方である。(経,H13修士入学,男)
- ◆例えば午後6時から自主ゼミを始めたとしても9時に出なければならぬのでは、3時間しか議論できません。せめて11時くらいまで、あるいは休日も開けてほしい。(経,H12学部入学,男)
- ◆七大戦の時期に試験が重なって大変だった。(経,H13修士入学,男)
- ◆もっとアナウンスがあってもよいと思う。(経,H13学部入学,男)
- ◆施設は多ければ多いほどよい。(経,H12学部入学,男)
- ◆より利用を促すような掲示や宣伝があると利用者側としても助かる。(経,H12学部入学,男)
- ◆サークルで体育館を使いますが、時間帯(12:00~15:00)が悪く、なかなか参加できません。もう少し改善されませんか?部との兼ね合いが難しいと思いますが。(経,H12学部入学,女)

- ◆空間的な問題が多い。グラウンドや建物がまったく不足している。教養行事は、もう少し多く企画してもよいかも(できれば休日開催で)。(理,H14修士入学,男)
- ◆体育施設や課外教養行事などのサービスがあるのは満足であるが、課外活動について、サークル棟の立地の違いで学生部管轄や総入管轄と区別されるのはどうかと思う。どちらも同じ京大の敷地内にあるのだから、管轄は一緒してほしい(せつかく両方ともメールボックスが本部にあり、一般教養も4年間通して受けられるようになったのだから)。(理,H14修士入学,男)
- ◆せつかくの施設なのでもっと自由に使えるように開放すべき。(理,H13修士入学,男)
- ◆普通の体育館だと思います。(理,H13学部入学,男)
- ◆特に分からない。(理,H14修士入学,男)
- ◆屋内プールをつくってほしい。夏しか泳げないのはつまらない。(理,H13修士入学,男)
- ◆サークルのボックスの提供については、京大はあれでもかなり恵まれている方だと聞くが、破損箇所の修繕なども大学の方でやってもらえれば有り難いと思う。実情では、穴の開いた天井などがそのままになっていたりする。使用者側の責任も問うようにして、使い方の悪い団体には場所の提供をしないでほしい。(理,H13修士入学,男)
- ◆教育実習の際にはお世話になりました。(理,H14修士入学,女)
- ◆課外活動はどのようなものがあり、どのような支援をしているか分からないので、アピールした方がよい(僕が知らないだけかも)。(理,H14修士入学,男)
- ◆体育会での活動に関して長年お世話になりました。これからもよろしくお願いします。(理,H14修士入学,男)

- ◆体育館がもっと使えるように。24時間OPEN。(医,H10学部入学,男)
- ◆利用したことがないので分かりません。(医,H14修士入学,女)
- ◆体育施設はもう少し充実を図るべき。また使用条件等も明確に知らされていないのは問題。(医,H14学部入学,男)
- ◆体育施設があまり充実していないと思います。(医,H11学部入学,男)
- ◆医学部クラブに対する便宜を図ってほしい。筋トレルームの充実を図ってほしい。(医,H10学部入学,男)
- ◆物品の購入、修理できない物の再購入に関して前向きに検討していただきたい。(医,H12学部入学,男)
- ◆各体育会クラブへの助成等の会計をきちんとするべき。(医,H11学部入学,男)
- ◆よく知りません。(医,H10学部入学,男)
- ◆音楽鑑賞などの行事があるのはいいことだと思います。(医,H14修士入学,男)
- ◆このままでいいです。(医,H14学部入学,男)

- ◆利用しておりません。(薬,H14学部入学,女)
- ◆情報をもっと全員に行き届くようにすべきだ。(薬,H12学部入学,男)
- ◆このような活動支援があることをもっと宣伝するべき。私自身知らなかった。(薬,H12学部入学,女)
- ◆課外教養行事と言われて思いつくものがない。何をしているのかももっと宣伝してもよいのでは?(薬,H11学部入学,女)
- ◆本学出身の著名人等の講演の機会を増やしてほしい。(薬,H13学部入学,女)
- ◆設備はよいと思う。ただもう少し体育館の空調が効けば…。(薬,H12学部入学,男)
- ◆課外教養行事がもっと増えると嬉しいです。(薬,H11学部入学,女)

- ◆実体を知りません。(工,H14学部入学,男)
- ◆関わったことはありません。(工,H12学部入学,男)
- ◆利用したことがない。(工,H11学部入学,男)
- ◆受けたことはありません。(工,H14修士入学,男)
- ◆既存の体育施設を取り壊し、新たな校舎を設置することをやめるべき。(工,H11学部入学,男)
- ◆東大を見に行ったのだが、体育施設は素晴らしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆他大学(東大や私大)のように、著名人の講演会をもっと開いてほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆情報があまり入ってこない。もっと宣伝してほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆あまり接することがないので、よく分からない。(工,H14修士入学,男)
- ◆例えばグラウンドなどももう少しサークルにも分けてほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆そのような活動をしていること自体、認知していませんでした。体育施設などは、誰がいつどうやって利用するのも知りません。(工,H13修士入学,男)
- ◆音楽会など、開始時間がもう少し遅ければと思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆室内プールがほしい。(工,H13学部入学,男)
- ◆してこたことはないでしょう。(工,H13学部入学,男)
- ◆体育会に所属しないサークルにも(野球等)Boxを設置してほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆体育施設についてなのですが、もっと利用しやすい環境をつくってほしいです。(工,H12学部入学,男)
- ◆もっと情報を公開してみんなの注目を引けば、もっと目の目を見れると思う。(工,H12学部入学,男)

- ◆もっと充実させてほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆体育館の利用時間(土日祝)を延ばすとよい。体育関係の備品が十分でないので購入すべき。(工,H12学部入学,女)
- ◆どうでもいいです。(工,H12学部入学,男)
- ◆受けたことがないので分からない。(工,H11学部入学,男)
- ◆体育施設などを、気軽に使えるようにしてほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆ウィンドサーフィン部に所属していましたが、この部は車なしに成り立たないので、最低2〜3台の専用駐車スペースを確保してもらいたい。海の家は大変よいです。(工,H11学部入学,男)
- ◆体育会が身近でない気がする。(工,H11学部入学,男)
- ◆音楽会はよかったです。学生支援として必ずしも必要かは疑問だけれど。(工,H11学部入学,男)
- ◆携わったことがないので分かりません。(工,H11学部入学,男)
- ◆このままでいいと思います。(工,H11学部入学,男)
- ◆体育施設以外のサービスはあることすら知りませんでした。(工,H14修士入学,男)
- ◆あまり利用したことがない。(工,H14修士入学,男)
- ◆体育会系クラブが優先して利用しているので、それ以外の学生にとってはあまりメリットがないと思われる。(工,H13修士入学,男)
- ◆体育館でバドミントンをする際、道具の貸出しもでき、コートも借りることができ、タダでそのような施設を利用できるのは有意義と感じました。(工,H13修士入学,男)
- ◆使ったことないです。あまり大々的にアナウンスされていない気がしますが。誰かが利用しているならともかく、ほとんど参加者がいないようなら必要ないと思います。(工,H13修士入学,男)
- ◆グラウンドなど学生が使える施設や日時を貼り出すなどしてほしい。プールについてはなされているように思うが、ほかはそうでもなさそうなので。(工,H12学部入学,男)
- ◆シャワールームに衝立(カーテン)を付けて下さい。(工,H14修士入学,男)
- ◆フットサルなどのスポーツ大会をもっと開催してほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆プール、体育館等の使用ができるが、もっと使用できる時間帯等が分かりやすい方がいい。(工,H13修士入学,男)
- ◆あまり利用しないので分からない。(工,H13修士入学,男)
- ◆現状のままでよいのでは。(工,H13修士入学,男)
- ◆スポーツ大会などが開催されているのがいい。普通に楽しいです。(工,H12学部入学,男)
- ◆体育館の施設をもっと使わせてもらいたい。(工,H12学部入学,男)
- ◆体育施設など利用させてもらっており、満足です。(工,H11学部入学,男)
- ◆いいと思います。桂にもテニスコートをつくって下さい。スポーツもしないと研究だけでは人間腐っていくと思います。(工,H10学部入学,男)
- ◆これまでの支援体制を続けてほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆今のままでよいと思う。(工,H14修士入学,男)
- ◆課外活動にお金を使うなら、体育会の各クラブにもっと支援をするべき。どれも施設の老朽化で困っている。(農,H14学部入学,男)
- ◆サークル棟や部室等の施設整備をすべき。できれば建て替えてほしい。(農,H11学部入学,女)
- ◆空き教室などを、サークルやゼミなどで使ってもよいようにしたいと思う。勝手に使えそうな感じもありますが、戸締りの時間があつたりして、思う存分は難しい。(農,H12学部入学,男)
- ◆Boxをきれいこ。また京大公認でありながらBoxがないのは腹立たしい。共有のBoxをつくるなどという非現実的な案も論外だ。(農,H12学部入学,男)
- ◆もっと気軽に利用できるようにしてほしい。設備を拡張してほしい。(農,H12学部入学,男)
- ◆旧A号館のような所がなくなったのが残念。(農,H12学部入学,男)
- ◆実際にサービスを受けたことがないので何とも言えないが、第三者的に見ると、悪くはないと思う。(農,H13学部入学,男)
- ◆これもあんまりやったことがない。(農,H11学部入学,男)
- ◆存在をアピールしてほしい。(農,H11学部入学,女)
- ◆運動部にお金下さい。(農,H11学部入学,男)
- ◆体育会員以外の人にも、用具の貸出しをしてほしい。(農,H14修士入学,女)
- ◆別にこのままでよい。(農,H14修士入学,女)
- ◆体育会活動の積極的な資金援助。私学と大きな差がある。(農,H13修士入学)
- ◆体育会以外にももっと開放してもらいたい。(農,H13修士入学,男)
- ◆体育会に所属していましたが、予算がいつも足りず大変でしたので、補助金がもう少し頂ければよかったです。(農,H13修士入学,男)
- ◆おおむね良好では？ただもう少し気軽に簡単に行けるよう分かりやすく公開して、広報してほしい。(農,H14学部入学,男)
- ◆大学側のできる範囲で最大限の支援を行ってほしい。(農,H13学部入学,男)
- ◆北部グラウンドでサークルのマナーが悪いので、なんとかしてほしい。(農,H12学部入学,男)
- ◆便利だが、もう少し気兼ねなく利用できるように。(農,H11学部入学,男)
- ◆十分。(農,H14修士入学,男)
- ◆存在がほとんど知らされていない。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆大学院に入って初めてインターン等、課外活動に触れることが多くなった。学部生のときにも知って利用できればと思う。学部生対象をもっと増やしませんか？(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆課外活動はもっと種類を増やした方が参加する意欲のある学生の期待を裏切らなくてよいかと思う。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆今まで通りよい。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆温水シャワーやトレーニングルームが使えるのはうれしいが、もう少し、豪華な追加施設が付くとうれしい。(ア・ア,H13博士入学,男)
- ◆もっと、音楽会をたくさんやるべきである。(情報,H13修士入学,男)
- ◆特に必要としない。(情報,H14修士入学,男)
- ◆特に利用したことがありませんので、コメントし難いのですが、課外教養行事(演習林に行くとか、コンサートですよね)などは、もっと活発にしてもいいと思います。(情報,H13修士入学,女)
- ◆BOX等を24時間使えなくする動きがあるが、24時間使用可能状態を続けてほしい。(情報,H13修士入学,男)
- ◆いいと思います。(情報,H14修士入学,男)
- ◆満足しています。(情報,H14修士入学,男)
- ◆ボランティアのような課外活動の宣伝を大きくすればよいと思う。課外教養行事の宣伝も大きくしてほしい。(生命,H14修士入学,女)
- ◆PRがやや少ない気がする。積極的に使用してもらいたいならば、もっと学生に知らせるべき。そうでないと、維持費がかかるだけになりそうな気がする。(生命,H13修士入学,男)

◆すべての公認団体(サークル)に部室を。(H14修士入学,男)

- 文化系クラブの活動状況(物理環境)は、世界で最悪。立派な部屋をつくらないと恥ずかしい。(評議員)
 - 体育施設などが女子学生に十分対応できる施設となっていない。音響を発生する課外活動が研究教育棟に隣接し、騒音の原因となっている所がある。十分な防音施設が必要。(評議員)
 - 大学の資金の問題で、「独法化」後、どれだけの資金的ゆとりが余るのであろうか。(評議員)
 - 部活への経済的援助を増やす。(評議員)
 - 西部構内のクラブボックス再建。(評議員)
 - 一般の学生が気楽に利用できるよう施設を買拡充する必要がある。(評議員)
 - これに関する広報が不足。(評議員)
 - 正規授業との役割分担を検討すべき。(評議員)
 - 部屋等の整備が進んでおらず、改善の余地あり。(評議員)
 - 人的、経済的援助を増やす。(評議員)
-
- 学生が課外活動に教室を使用するのは、学生・院生・教職員、すべてにとって不幸である。(教授)
 - 最も遅れている点。何が遅れているか分からない人たちの集まりがサービス部門かと思っている。この点を十分に考慮して、ビジョンを出してもらいたい。(教授)
 - 学生の課外活動のための施設が絶対的に不足している。(教授)
 - 施設の老朽化が著しい。(教授)
 - 課外活動という言い方がよくない。大学は全人教育の場で、部やサークルの活動は社会生活を行う基本をつくるもので、勉学と同じくらいの重みを持つ。最近の学生の倫理観欠如は、この全人教育のなさにあると感じる。(教授)
 - 施設が貧弱。回数が少ない。(教授)
 - 学外者を集めて、営利をしているグループなどがある。(教授)
 - 施設はあまりよくない。(教授)
 - 体育施設などが不十分。(教授)
 - 体育施設が貧弱であるから、より充実させる。(教授)
 - 老朽化した建物の改築が急務。更に施設の増築が必要。(教授)
 - 体育施設はひどい。改良すべきである。また課外活動は6時以降になり、それから開放。カリキュラム上なんとかならないのか。本当に課外活動を支援するのなら、例えば体育会で1年間励んできたという部長(教授)の証明があれば、2単位を与えるなどの策を講じてはどうか、と思います。(教授)
 - 施設整備が非常に貧弱である。(教授)
 - 学生に任ずるのがよい。(教授)
 - 大学教育の一環として、クラブ活動を位置付けることが重要である。自己を鍛え集団としての行動形式を身に付けるための貴重な機会である。(教授)
 - 施設を質量ともに増やす。(教授)
 - 音楽練習場等課外活動の施設が不足。課外活動のなかで企画されるイベント、プロジェクト、集会、発表会等のなかから特徴のあるものを選んで予算的な補助を行う。本物の芸術を知らせるため、討論の経験をさせるための催しを開く。(教授)
 - 外見だけの判断であるが、施設・備品など貧相ではないか。(教授)
 - 100年記念のハコ物づくりに改善を盛り込むべき。今のやかましい「言葉」などについて、学生と話し合っただけ対応が必要。(教授)
 - 大学施設としての映画館、音楽ホールがほしい。(教授)
 - 教官からの募金を集めて回らないでいいような経済的サポートが望ましい。(教授)
 - 現状のままでよいと思う。(教授)
 - 大学は学びの場なので、サークル等に必要以上の援助をする必要はない。(教授)
 - 気軽に使える体育施設の充実を望む。(教授)
 - 現状をよく知らないのですが、情性に陥らないよう注意すべきだ。(教授)
 - この方面ばかり支援すると、本来何のために大学へ来ているのか、体育系の活動のためか、という疑問も生じるので、ほどほどでよいと思う。(教授)
 - クラブ、サークルに所属していない学生にも、スポーツできるような施設 or システムを考えていくことが望ましい。(教授)
 - 体育施設の充実を図る。(教授)
 - 外部機関と協力した活動が必要と考える。安全面(責任)等の問題もあるが、社会人としての教養には学校外の経験も必要。(教授)
 - もっとボランティア活動を盛んにするようシステムを整備すべきである。(教授)
 - インターバシッパの整備が必要。(教授)
 - 体育施設を充実させるべきである。また、教職員も自由に使える施設がキャンパス内にはあるべきだ。(教授)
 - 体育会への学生部の支援が必要。(教授)
 - 場所が十分でない。(教授)
 - 学外活動の実施(スキー、登山、サイクリングetc.)の充実(学内ボランティア、体育系クラブによる支援を導入)。(教授)
 - 教養講座等充実しつつあるように思うが、体育施設(クラブ等に所属しない学生に対する)は不十分。(教授)
 - 施設・設備が不足。(教授)
 - 施設が貧弱すぎる。(教授)
 - クラブに入らなくても、自由なテーマで短期の課外活動があるとよい。例えば3ヶ月コースの茶道、3ヶ月コースのサッカーとか。(教授)
 - 予算も限られているし、こんなものではないのか。クラブ・サークルの財政的支援をする場合は、定期的な活動内容のチェックが必要。(教授)
 - 現状程度にとどめる方が、過保護にならなくてよい。(教授)
 - 様々の支援活動を行っているが、イベントなどの周知が不十分である。HPに掲載する場合に学部生は下宿等の外部からアクセスできるようにしないと情報が届かない。(教授)
 - 課外活動の有意義さを大学側からも学生にアピールしてはどうか。(教授)
 - 本来、大学がサービスするよりも学生が学外に求めるべきものとする。(教授)
-
- キャンパスにいないので実状を知りません。一般学生がテニスコートを利用することは現在可能でしょうか。(助教授)
 - 体育系科目が必修でなくなった現在、雨天体育館、プール(室内)が必要。(助教授)
 - 課外活動、特に体育施設に関しては、たった一つの体育館など、貧弱さは否めない。職員と学生が争ってしか利用できないのは淋しい。(助教授)
 - 宇治地区にも充実させるべき。(助教授)
 - 温水プール、ジムなどの開放とサポート。(助教授)
 - あまりしなくていい。(助教授)
 - もう少し活発にやってもいいかな、と思う。(助教授)
 - 支援があまり伝わってこない。広報手法の強化。(助教授)

- 実態不明。(助教授)
- 多様な要求があると予想されるので、一つ一つに対応はできないのが当然。これも現状のままがMAXだろう。(助教授)
- 設問2)で挙げた3項目は「学生支援・サービス」というよりは、学生の当然の権利のようなもので、行うのが当たり前だと思います。したがって評価点は付けにくいですが、とりあえず3(普通)としておきました。例えば宇治への連絡バスなど、もっと本数を増やすべきだと思います。(助教授)
- 事前のPRを充実させる。(助教授)
- セミナーハウスかカフェテラス、体育施設の充実。(助教授)
- 遠隔地施設の見学の機会をもっと増やすべきである。またその経費補助を行うべき。(助教授)
- 施設は十分でないように思う。(助教授)
- 情報を広く伝達する。(助教授)
- 現状でよいように思います。(助教授)
- サークル・クラブの部屋棟、バンドなどの練習用の防音空間、コンサートもできるようなホール(講堂)が必要。(講師)
- 財源の少ないなかで、体育施設などに資金を投入することは難しいと思われるが、課外活動も十分重要的な学生活動を考えるので、可能な限りの対応が望ましい。(講師)
- 実状をまったく知らないので、評価しようがない。(助手)
- グラウンドの利用状況の整備をしてほしい。夏休みでも昼休みと8時50分までは、学生及び職員が自由に使えるようにしてほしい。(助手)
- もっと事務官だけでなく、学生が積極的に利用できるようにするべき。(助手)
- 農学部グラウンド利用などが体育会にあまりにも優先させている。(助手)
- 各キャンパスにおいて、できるだけ均等に支援すべき。(助手)
- 一部の学生のみが利用しているにすぎず、特権化している。施設の利用を特に見直すべき。(助手)
- クラブのボックスなどがかなり減っていると思う。(助手)
- もう少し立派な施設があってもよいと思う。(助手)
- 不十分かと思える部分もありますが、教育などの本業を充実させるべきだと思いますので、現状でよいと思います。(助手)
- サークルBoxの新築、改築。(助手)
- 課外活動・課外教養行事として何が行われているのか不明。広報活動はちゃんと行っているのですか。(助手)
- 利用可能な施設の場所、時間などの明示。宇治、桂キャンパスにおける施設の充実が必要である。(助手)
- 体育施設:一部の人しか利用していないのでは?皆が利用しやすい環境をつくるべき。(助手)
- 学生が主体的に行動すればよいと思われるので、不要と考える。(助手)
- サービスとしての活動支援よりは、活動場所の提供など側面から支援に徹すべき。(助手)
- 支援はそれなりに行われていると思うが、レスポンスに時間がかかりすぎるのではないか。(助手)
- 西部構内のサークル棟は老朽化が激しい。また、各サークル部屋は大学が貸与しているのだから、もっと清潔にするよう指導すべき。(助手)
- 課外活動がどれほど行われているかは知らない。学生は勉学に励むのが本来の姿であり、大学が心中心である必要はないと思う。体育施設の紹介をもっと行い、一般の学生も利用できるように。(助手)
- 特に必要とは思わない。職員の保健、レクリエーションのために、室内プール、シャワールームなど設置してほしい。(助手)
- クラブ活動が十分に行えることは学生支援の重要な柱。十分な財政援助を。(助手)
- 夏期のプール開放など、学生が自主的にやっているものにもっと大学側のサポートがあつてよいと思う。(助手)
- 寄附などを募り、プレハブ棟の部屋などを恒久的な施設に変更する。(事務(技術)職員)
- クラブ等団体相手の対応しか見えない個々の学生に対するサービスが見えるようにしなければならない。(事務(技術)職員)
- 広い敷地があるので、もっと管理体制が必要ではないか。(事務(技術)職員)
- 大学の課外活動支援の基本理念に基づき、支援を具体的に実行する組織体制を確立することがまず大事である。(事務(技術)職員)
- 支援以前の問題としてインフラの脆弱さを危惧する。西部地区の再開発構想を策定し対処すべきものと料する。(事務(技術)職員)
- クラブボックスの設置(管理対策も含んで)。女子更衣室やシャワールームの完備(更衣する場がなく、トイレが屋外で行っているようですが...)。(事務(技術)職員)
- 西部構内の整備が必要。(事務(技術)職員)
- 課外活動支援については、予算面で引率者等に苦勞をかけない配慮が必要。(事務(技術)職員)
- とにかく京大は他大学に比べても体育施設が貧弱である。スペースの問題もあるが、もっと充実させるべきである。空きスペースの有効利用。(事務(技術)職員)
- 老朽施設の改築など。(事務(技術)職員)
- 課外活動の拠点となる学生会館を建設する。(事務(技術)職員)
- 現状維持。(事務(技術)職員)
- 課外活動施設の充実を図るべき。活動支援にも少し財政援助を。(事務(技術)職員)
- 現状と問題点不明。(事務(技術)職員)
- 課外活動施設の充実。(事務(技術)職員)
- 学生会館等、共有施設が必要と思われる。(事務(技術)職員)
- 実務に就いた経験がないため、詳細は不明であるが「公認クラブ」への援助を基本としつつも「同好会」等への配慮が必要な時期にきているのではないかと考える。体育施設については、他大学の状況等と比較して、学生数に対する設置状況は一般的に貧弱ではないか。課外教養活動(創立記念音楽会、能楽鑑賞)は京大独自の伝統を持った行事であり、開催の周知に工夫をする(学生新聞等での宣伝など)ことで、もっと参加者は増加するのではないかと、また、教職員への啓発も必要と考える。(事務(技術)職員)
- 今のままでよいと思う。(事務(技術)職員)
- 体育施設の計画的な整備が望まれる。(事務(技術)職員)
- 学生の自主管理を名目に適切な管理がまったく行われていない。(事務(技術)職員)
- 中途半端。

⑥ 駐車・駐輪場整備、学生会館などのキャンパス整備



【自由記述】 今後の対応について

- ◆駐輪場に自転車が入りきらない現場には問題があると思う。サークルBOXが絶対的に不足しており、学生会館の建設が急務。(総人,H12学部入学,男)
- ◆ミラー、構内案内図の増設。本部におけるゴミ箱、自販機の増設。(総人,男)
- ◆駐車スペースが足りていない。一段のラックは止められる台数を減らすだけ。ラックを付けるなら二段にするべき。(総人,H14学部入学,男)
- ◆駐輪状況、止められないわけではないが、見苦しい。学内のバイク走行を何とかしてほしい。ジャマ。危険なので。(総人,H13学部入学,女)
- ◆工事中であることもあり、通行に不便。(総人,H13学部入学,女)
- ◆駐車・駐輪場が狭い。(総人,H12学部入学,男)
- ◆ごちゃごちゃしてるので、もっとゆとりのあるキャンパスにしてほしい。(総人,H12学部入学,男)
- ◆駐輪場をもっと使いやすくしてほしい。生協などもっと使いやすくなるといい。(総人,H11学部入学,男)
- ◆ほかの大学と比べても、キャンパス整備はもっと行うべきだと思う(以前よりずっといいですが)。(総人,H11学部入学,女)
- ◆自転車を通る所と歩行者の通る所を区分すれば、もっと快適に移動できると思う。(総人,H13学部入学,男)
- ◆工事・敷地等の問題もあるでしょうが、吉田キャンパスの駐輪事情は再考すべしです。(総人,H11学部入学,男)
- ◆とてもいい。ただ、どこでどんな講演会をやっているなどの情報を一ヶ所に網羅してほしいと思った。(総人,H12学部入学,女)
- ◆駐輪場はまだしも、バイク・車のマナーが悪くて困ります。(総人,H11学部入学,女)
- ◆駐輪場を整理してくれるのは助かります。(総人,H11学部入学,女)
- ◆狭い。(文,H13学部入学,男)
- ◆駐輪場の自転車整理を行ってほしい。キャンパスの美化に力を入れてほしい。(文,H13学部入学,女)
- ◆駐輪場に屋根とこういう(絵付)ブロックがもっとあってほしい。(文,H14学部入学,女)
- ◆遅れている。対応が後手後手。キャンパス内の建物の配置や駐車・駐輪場の配置に無理がある。出来上りを想定しての計画だとは思えないのに、出来上がってから学生にマナーが悪いと責任転嫁するのはいかげんなものか？(文,H12学部入学,男)
- ◆工事多すぎ。講義の邪魔。歩行者ルートから外れた所に駐車場を設けるべき。工学部移転後にはこのことを考えてよいはず。(文,H12学部入学,男)
- ◆駐輪場の整備に更に力を入れるべきである。(文,H12学部入学,男)
- ◆放置自転車の処分。(文,H11学部入学,男)
- ◆駐輪用の緑の装置が設置されたために、面積当たりに置ける自転車の数が減り、結果的に至る所に自転車が溢れている。必要だったと思う。(文,H11学部入学,男)
- ◆もう既に道が狭くてどうしようもない状況なので、何か新しくつくってよくしていこうというのではなく、工夫で快適にしていく方向しかないだろう(具体的にでなくすみません)。正門の辺りをきれいにしたりとか、時計台改造などは本当に必要だったのか少し疑問に思われる。(文,H11学部入学,女)
- ◆構内が狭いので仕方がないが、駐輪場が狭い。(文,H11学部入学,男)
- ◆輪止めがむしろ邪魔だと思う。(文,H13修士入学,女)
- ◆駐輪指導をする。(文,H12学部入学,男)
- ◆構内の車輛規制は強化すべきだと思います。ただでさえ自転車が多いので、かなり危険な状態だと思います。(文,H11学部入学,男)
- ◆放置自転車の撤去などはたくさん行って、キャンパスの移動がスムーズに行えるようにする。駐車場の数が少なすぎるように思う。(文,H14修士入学,男)
- ◆文学部の駐輪場は整備されてよい。車は駐車も迷惑であるし、スピードも出し過ぎ。もっと制限すべき。(文,H13修士入学,男)
- ◆混んでいて止めにくい時があるので、どうかなるとよりよい。(文,H14学部入学,男)
- ◆ずっと置きっぱなしの自転車を処理してほしい。(文,H12学部入学,女)
- ◆悪い印象はありません。今のままでいいと思う。(文,H11学部入学,男)

- ◆ 附属図書館の駐輪場には整備が必要です。(文,H14修士入学,女)
- ◆ ただし、休憩の場になりそうな所が少ない。(文,H13修士入学,男)
- ◆ 駐輪場は使用する者のモラルの改善の方がまず必要に思われる。(文,H13修士入学,男)
- ◆ 自転車整理のおじさん達は毎日自転車を嫌な顔もせず並べてくれて非常に有り難いと思います。自転車が路上にぐちゃぐちゃに溢れているのは学生がもっとマナー向上すべき問題。(文,H12学部入学,女)

- ◆ 可能ならば駐輪専任のスタッフを配置し、キャンパス内に停まっている自転車をもう少し整理していただきたい。(教,H12学部入学,男)
- ◆ 現在でこそ時計台横に、池やベンチなどができたが、あのような学生が集う場所があまりにも少なく、失望する。京大の歴史から鑑みれば、あのようなスペースこそ大切なのではないか。(教,H11学部入学,女)
- ◆ 駐輪場が少なすぎ。(教,H14学部入学,女)
- ◆ これは土地の広さに限りがあるので、仕方がない部分もありますが、駐輪用ブロックの設置によって、かえって駐輪できる台数減り、不便になったように感じます。整然とはしていますが。(教,H14修士入学,男)

- ◆ 工事ばかり。不要な工事を避けるべき。(法,H13学部入学,男)
- ◆ 土地の問題もあるが、あまりにもひどい。自転車、バイクだけでも吸収しきれないのに、車も止まる。自転車が溢れて狭くなった道に車が通り、双方とも身動きがとれない。もう少しは計画的に車を通すべき。学生会館(ここでは学生が自由に利用できるスペース、例えばサークルの部屋など、ととる)は、絶対数が少ない上に、新規参入が難しい、共用スペースまでも特定のサークルに占有されがちなど、いまだ十分とは言えない。(法,H11学部入学,男)
- ◆ 駐輪場所をきちんと指定し、それ以外に止めている自転車を撤去する。学生が集まれるラウンジ・スペースが少ないので増やす(各棟に総合研究棟1Fみたいなものをつくる)。(法,H13修士入学,男)
- ◆ 自転車が道をふさいで通れないことがあるので、駐輪場の整備を進めてほしい。(法,H14学部入学,女)
- ◆ 自転車の数に対し、駐輪場が狭い。もっと広くすべき。(法,H14学部入学,女)
- ◆ 歩行者の安全のために道幅を広くしてほしい。(法,H13学部入学,男)
- ◆ 整備がされていない。(法,H13学部入学,男)
- ◆ 最近駐輪場が整備されたようだが、収容台数がスペースの割に少なくなったのかして、余計に自転車を止める場所に困るようになったし、駐輪スペースからはみ出す自転車が多くなっている。改善を求めたい。(法,H12学部入学,女)
- ◆ 自転車を固定するブロックが使いにくいので、使いやすいものにする。(法,H12学部入学,女)
- ◆ 定期的に放置と思われる自転車は撤去すべき。また必要数に応じた駐輪場も必要。車の進入は、交通を妨げることがある。(法,H11学部入学,男)
- ◆ 自転車が特に溢れているので、駐車場確保に努めてもらい、もっと移動しやすくしてほしい。(法,H11学部入学,男)
- ◆ 法経新館の入口前、駐輪禁止の前によく自転車が置いてあるため、入口まで遠回りしないと入れないのでなんとかしてほしいです。(法,H14修士入学,女)
- ◆ あの意味不明の緑色のオブジェを撤去して下さい。自転車を整理するつもりが、実際には容量を下げているのでは。本末転倒です。(法,H13修士入学,男)
- ◆ 自転車を止めるスペースが小さい。(法,H12学部入学,男)
- ◆ 人数の割に道が狭いです(吉田)。どうしようもないとは思いますが。(法,H10学部入学,男)
- ◆ 研究室移転に伴いスペースが狭くなったのはおかしいのではないかと。(法,H14修士入学,男)
- ◆ 現状でも行われているようだが、放置自転車の撤去はより頻繁にすべき。(法,H14修士入学,男)
- ◆ 駐輪の学生のマナーを徹底してほしい。(法,H12学部入学,女)

- ◆ 自転車の駐輪スペースが小さすぎる。(経,H13学部入学,男)
- ◆ 京大の現状はあまりにもひどすぎです。工学部が移動すれば、土地を確保できるのでしょうか?一刻も早く改善してもらいたいです。(経,H12学部入学,男)
- ◆ 車が構内に入るのは危ない。工事期間中で交通に支障が出すぎている。もっと考慮すべき。(経,H12学部入学,男)
- ◆ 春先のキャンパスは自転車だらけで、本当に気分が悪い。(経,H13修士入学,男)
- ◆ 1.現在のキャンパスは駐車、駐輪に対応していない。現在建築中の建物も対応は不十分である。2.キャンパスを大学側の勝手な構想で整備しても、学生側へのメリットが確保されることにはならないだろう。学生会館の内容についても、学生側の立場、意見を尊重した計画が望まれる。学生に喜ばれない大学側の諸活動は不信感を招くものであり、そのような場で学問は生まれにくい。(経,H13学部入学,男)
- ◆ 過剰なビラを規制してほしい。(経,H13学部入学,男)
- ◆ 景観が中途半端。(経,H12学部入学,男)
- ◆ 自転車の整備をしていただけるのは、非常に有り難いです。(経,H12学部入学,女)

- ◆ 特に理学部6号館周辺の駐輪所が整備不十分です。(理,H11学部入学,男)
- ◆ 駐輪場が狭いので広げてほしい。(理,H11学部入学,男)
- ◆ 京大本部キャンパスを2倍くらいにしてもよいのでは。遠隔地(桂など)に用地を増やしても根本的解決にならない。(理,H14修士入学,男)
- ◆ 自転車が溢れすぎている。駐輪場をもっと整備してほしい。(理,H13学部入学,男)
- ◆ もっと駐輪場を整備してほしい。最近特にひどい。(理,H13学部入学,男)
- ◆ どう見ても自転車が溢れてるし、車が邪魔です。(理,H13学部入学,男)
- ◆ 駐車場は切実に不足していると思います。(理,H12学部入学,男)
- ◆ 放置自転車の回収サイクルを短くする。(理,H12学部入学,男)
- ◆ 駐輪場の余裕がない。講義中、バイクを走らせるのを止めさせることを徹底してほしい。(理,H12学部入学,男)
- ◆ これから工学部の桂キャンパス移転で学内が広がるのだから、研究室のための建物だけでなく、駐輪場やサークル棟など学生のための設備も増やしてほしい。(理,H14修士入学,男)
- ◆ 建物ばかり増やす前に、駐車・駐輪スペースは確保すべき(地下とか)。セキュリティ対策より駐車取締りが大事なように見える。(理,H14修士入学,男)
- ◆ 大学内に学部生の居場所やロッカーがあるとよいと思う。(理,H14修士入学,男)
- ◆ 駐輪場は明らかに不足している。1階が丸ごと駐輪場になっている建物があってもいいのではないかと。(理,H13修士入学,男)
- ◆ 工事が終われば、だいぶ整備されると思いますが。(理,H13学部入学,男)
- ◆ 自転車が多いで仕方がないが、駐輪場はきちんと整備した方がよい。(理,H14修士入学,男)
- ◆ 車については、チェーンロック等で厳しく管理していただいているようですが、駐輪場の整備はもう少し必要かと思えます(駐輪OKか不可かの区別を分かりやすくするなど)。(理,H14修士入学,女)
- ◆ 近衛駐車場の様々な問題に対して多くの協力をいただきました。これからもよろしくお願いします。(理,H14修士入学,男)

- ◆ 駐輪場を適切につくってほしい。(医,H14学部入学,男)
- ◆ 今は工事中だから、ある意味仕方がないが、もともと自転車の総台数に対して駐輪スペースが少なすぎると思う。自転車整理のおじさん達の苦勞には感謝しますが。(医,H14学部入学,男)

- ◆ 駐車場をつくってもよいと思います。確かにキリがないでしょうが。(医,H11学部入学,男)
- ◆ 駐車場を利用できるように。(医,H10学部入学,男)
- ◆ 駐車場整備は必要。(医,男)
- ◆ 学生専用の駐車場がほしい。(特に医学部構内)需要はある程度あるが、まったく認められていないに等しい。(医,H11学部入学,女)
- ◆ バイク、原付は屋根がある方が雨ざらしにならなくてよい。(医,H10学部入学,男)
- ◆ 必要のない自転車は一定期間の猶予を見て捨てるべき(ルネの周りとか)。(医,H10学部入学,男)
- ◆ 駐輪場は必要。学生会館は不必要。車の入構はできる限り制限するべきだ。(医,H10学部入学,男)
- ◆ 駐輪場の整備をお願いします。(医,H9学部入学,男)
- ◆ どこに駐輪すればよいかなどが分かりにくい地区もありますが、規則が厳しくなりすぎるのもよくないと考えられるので、現状維持でよいと思います。(医,H14修士入学,男)
- ◆ このままでいいです。(医,H14学部入学,男)
- ◆ 薬学部の駐輪場やキャンパスをもっときれいにしてほしい。駐輪場には屋根がほしい。京都で必需品の自転車が雨に濡れてすぐ駄目になってしまう。(薬,H12学部入学,女)
- ◆ 図書館周辺をもう少し改善してほしい。(薬,H13学部入学,女)
- ◆ ずっと置いてある自転車等が邪魔である。(薬,H12学部入学,男)
- ◆ 駐車・駐輪場のスペースをもっと確保してほしい。(薬,H12学部入学,女)
- ◆ このようなスペースを設ける際は、入口に近いなどの利便性や屋根などの設備をつくるが必要ではないのだろうか。特に駐輪場。(薬,H12学部入学,男)
- ◆ キャンパスはきれいだが、自転車などは、まだまだ溢れている。(薬,H12学部入学,男)
- ◆ 中央図書館の駐輪スペースが狭い。(薬,H11学部入学,女)
- ◆ 十分な面積が取れず、仕方がないかもしれないが、雑然としすぎ。歩行者の通路の区別を付けるくらいはしてほしい。(薬,H14修士入学,女)
- ◆ 自転車や車の通行について、整備をしてもらわないと、歩行者が危険であるように思う。そもそもキャンパス内に建物が建ちすぎていて狭い。歩道の整備を望むところである。(薬,H12学部入学,男)
- ◆ 屋根のある駐輪場が薬学部にもほしいです。(薬,H11学部入学,女)
- ◆ 駐輪場のおっちゃんお疲れ様。感謝してます。キャンパスは止まっているチャリより走っているチャリがほんまに怖くて辛い。門のカーブミラー見てる人っているのかな…。(薬,H14学部入学,女)
- ◆ 新校舎なんかも徐々に建ちはじめてるし、まあいい方だと思う。私立の大学と違って国立なので、ある程度は仕方がないと思う。(薬,H11学部入学,女)
- ◆ まず、道が狭すぎます。これは仕方がないにしても、車を入れないとか何か対策を立ててください。(工,男)
- ◆ 駐車場はともかく、駐輪場をなんとかしてほしい。(工,男)
- ◆ 自転車の撤去を頻繁にしてください。(工,H14学部入学,男)
- ◆ カゴに枯葉が貯まっている自転車とかどうにか処理できないのですか？(工,H14学部入学,男)
- ◆ 工事をを行うのもよいが、そのために通れる道で自転車、車が詰まってしまうことをあらかじめ考えて工事をやるなりすべき。また、それに対する対処法も考えるべき。(工,H12学部入学,女)
- ◆ 駐輪場整備なのですが、通りにくくなるような所にも止めてあることがあるので、もっとスペースが必要であると思います。(工,H12学部入学,男)
- ◆ 駐車スペースの拡大。(工,H12学部入学,男)
- ◆ もっと整備されたよい環境にしてほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆ もはやどうしようもないと思うが、とにかく道が狭い。敷地に建物を建てすぎ、そしてゴチャゴチャしすぎて窮屈。今、工事しているところを全部広場にしてみたいくらいと思う。それより、全部壊して全体的な計画を立ててつくり直した方がいい。けど趣ある建物はずっと残してほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆ 狭い構内で致し方ないところもあると思うが、駐輪場の整備と車、バイクの走行に対する何らかの策は、早急に講じるべきである。危険極まりない。(工,H12学部入学,男)
- ◆ 所々にきちんとした駐輪場をつくる。(工,H12学部入学,男)
- ◆ 自転車がキャンパス内に氾濫していて見苦しいので、撤去作業などを厳しくする。また、道幅が狭い。(工,H12学部入学,男)
- ◆ 駐車・駐輪場が少ない。(工,H11学部入学,男)
- ◆ もっと広い駐輪場を整備してほしい。駐輪場のコンクリートブロックは邪魔なだけで意味がない。(工,H11学部入学,男)
- ◆ 図書館や4号館等の駐輪状況を改善してほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆ 駐車スペースをもっと確保してほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆ 吉田キャンパスは狭いから駐輪場が少ないのは分かりますが、不便です。(工,H11学部入学,男)
- ◆ 自転車が整理のためとは言え、まったく異なる所に移動されていて困ったことが1、2回ありました。桂キャンパスに(駐車場や)食堂がないのは少し困ります。(工,H11学部入学,男)
- ◆ 桂キャンパスの学生向け駐車場の確保。(工,H11学部入学,男)
- ◆ しっかりしてほしい。(工,H10学部入学,男)
- ◆ 狭いので仕方ないとは思いますが、自転車の置く場所がないというのは授業前に多分に鬱です。(工,H14修士入学,男)
- ◆ 使用されていない自転車を撤去してほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆ 特に駐車スペースが少なすぎるので、駐車場の整備をするべきだ。(工,H14修士入学,男)
- ◆ 駐車スペースをもっと拡大して、車が入構しやすい環境を整えてほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆ 必要以上の車やバイクが構内を走っていて、とても危ないの制限するか、歩道と車道の分離などの対策がほしい。(工,H13修士入学,男)
- ◆ 長期にわたる駐輪車は、撤去すべきであり、駐車車両をほぼなくすようにしてもらいたい。(工,H13修士入学,男)
- ◆ 抜本的に考えてほしい。車も自転車もマナーが悪い。駐車、駐輪のマナーだけでも周知してほしい。中央図書館前など多少改善していると思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆ 最悪。違法駐車(公道ならば)多いし、駐輪場も少ない。(本部構内の場合)昔はタイヤロックしている車も見ましたが、最近はずり気味で放置されている。早急に抜本的改革をお願いしたい。(工,H13修士入学,男)
- ◆ もう少し駐輪場を多くしてほしい。(工,H14学部入学,男)
- ◆ 駐輪場を増やしてほしい。(工,H13学部入学,男)
- ◆ 自転車の置く場所がなさすぎる。これはキャンパスが狭いからでは。(工,H13学部入学,男)
- ◆ 駐輪場の整備強化。(工,H13学部入学,男)
- ◆ バイク、自転車があまりにも多い。歩行者がとでも損していると思う。バイクは大きさを規制するべきだと思います。そのほか出町柳や四条河原町からバスを京大まで出してほしい。(工,H13学部入学,男)
- ◆ 本学に自転車が氾濫しているので、ほかに駐車スペースを設けるべきだと思う。(工,H12学部入学,男)
- ◆ 建物の前に自転車があって通りにくい。(工,H12学部入学,男)
- ◆ とにかく駐輪場が少ない。また、屋根もほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆ 工事ばかりで道が狭く、自転車やバイクが入り乱れて危険である。駐輪場が少なすぎる。(工,H12学部入学,男)
- ◆ 駐車場に関して。駐車スペースがすぐ一杯になる。とりえず増やしてほしい。(工,H12学部入学,男)

- ◆できれば車はまったく入れない(来客者も含めて)方がいいと思う。工事車両などは仕方ないですが、駐輪場が少ないのは仕方ないが、禁止されているバイク乗り入れが見かけたりするので、徹底すべき。(工,H12学部入学,男)
- ◆駐車・駐輪スペースはもっと必要。(工,H12学部入学,女)
- ◆休み時間などの混んでいるときには、車が入れないようにしてほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆駐輪場をもっと整備してほしいです。特に図書館前の緑石はなかった方がよかったです。(工,H11学部入学,男)
- ◆道が細く、入り組みすぎていると思われる。(工,H11学部入学,男)
- ◆駐輪場を増やした方がいいと思う。(工,H11学部入学,女)
- ◆駐車場は入り込んだところにあるべきではないし、道幅が狭いように思う。一方通行を徹底するなどとは少なくともしてほしいと思う。(工,H11学部入学,男)
- ◆もう少し駐車・駐輪スペースを広くする必要があると思う。(工,H11学部入学,男)
- ◆駐車スペースが足りない。(工,H11学部入学,男)
- ◆ブロックを置いたことで整然と並ぶようになったが、止められる数が減ったように感じる。特に工学部の辺りはひどいのでどうにかしてほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆自転車置場を整備してほしい。新校舎を建てるとき同時につくればよいと思う。(工,H11学部入学,男)
- ◆車輛の通行可能な所とそうでない所を分けるなど、車輛制限や駐輪用の整備。(工,H11学部入学,男)
- ◆使用したことがない。(工,H10学部入学,男)
- ◆車の入構をきちんと制限してほしい。(工,H10学部入学,男)
- ◆駐車場のスペースを増やしてほしいです。また駐輪場の緑の置石はいらないのではないのでしょうか。(工,H14修士入学,男)
- ◆駐車スペースを守らないバイク(特に原付)が少なからずいる。その騒音が迷惑。なんとか徹底できないものか？(工,H14修士入学,男)
- ◆駐車場を有料にしてほしい。そうすればほんとに必要な人しか車で来ないと思われる(現に他大学では実施していると聞いた)。(工,H14修士入学,男)
- ◆整備してほしいが、学生の数を考えたら現状のままで仕方ない。(工,H14修士入学,男)
- ◆緑の自転車立てるやつは要らないと思う。(工,H14修士入学,男)
- ◆バイクの駐輪場ができたが、原付が半数以上とまっとう、400cc等のバイクを置くスペースがない(北西門)。駐輪場を増やすか、原付を置かせないように徹するかしてほしい。(工,H13修士入学,男)
- ◆駐車スペースはもともと土地がないので仕方ないが、駐車場を整備するより学生のモラルを上げるのが重要。(工,H13修士入学,男)
- ◆前に比べたらだいぶよくなったと思いますが、更に改善していただきたいと思います。(工,H11学部入学,男)
- ◆工事が終わればもう少し駐車スペースを増やした方がいいと思います。(工,H11学部入学,男)
- ◆駐輪設備(中央食堂のもの)は必要性が分かりませんが、自転車置場の明示としては成功だと思われる。(工,H14修士入学,男)
- ◆見た目にきれいな環境にしてほしい。駐輪場をつくってほしい。(工,H13修士入学,男)
- ◆通路が狭いのは仕方がないにせよ、自動車が学内を通行できるように自動2輪、バイクの通行を許可しないのはおかしい。整備不良とかでうるさいバイクは別にせよ、普通のバイクの通行は徐行が徹底しているのならOKだと思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆体育館前の駐輪状況が悪く通りにくい。せめて正面入口前は駐輪禁止に。(工,H13修士入学,男)
- ◆最近では駐輪に関しては整備されていると思います。しかしながら、駐車に関しては、まだ無断で止めている人がいるようです。(工,H13修士入学,男)
- ◆駐輪場の整備がほとんどされていないように思えます。歩行者や車両の妨げになっているので、整備の強化が必要と考えます。(工,H13修士入学,男)
- ◆あればいいなあ。(工,H12学部入学,男)
- ◆自転車と並べて下さる人などが配置されていたり、今のままでいいと思う。(工,H11学部入学,男)
- ◆通行をスムーズにするために道路が広い方がいい。(工,H14修士入学,男)
- ◆駐輪場は整備されてきて、よいと思うが駐車場は少ないと思う。(工,H14修士入学,男)
- ◆昨年あたりに、駐輪整備を強化してキャンパスが少しは、きれいになり通やすくなってよいと思います。(工,H13修士入学,男)
- ◆学生自身が自転車の保管をきちんとすべきではあるが、この整備のおかげでうまくいっていると思います。(工,H12学部入学,男)
- ◆駐車場整備はキャンパスが手狭なため、また車が入ってくると危ない(邪魔、道が狭くなる)ので、必要な。車通勤を禁止すべき。駐輪場はもっと整備すべき。移動手段が自転車しかないのに、また自転車が溢れていて危険+放置自転車がもっと邪魔なので。学生会館は古すぎ。もう少し建物を減らし、緑を増やして余裕のあるキャンパスにしてほしいので、工学部移転を早くして、やってほしい。(農,H14学部入学,男)
- ◆圧倒的に場所が少ない。(農,H12学部入学,男)
- ◆自転車混雑がひどい。駐禁位置によく車が止めてある。附属図書館付近の自転車止めの設置はまったく理解できない。金のムダ。もっと安くできたと思うが…。(農,H12学部入学,男)
- ◆屋根付き駐輪場の整備を積極的に進めていただきたい。(農,H13修士入学,男)
- ◆駐輪場を増加してほしい。(農,H14学部入学,男)
- ◆駐車場を設けてほしい。(農,H13学部入学,男)
- ◆駐輪場の整備が明らかに遅れています。できれば屋根の付いた駐輪場を増やしてほしい。(農,H13学部入学,男)
- ◆雑然としている。ある意味どこにでも置ける雰囲気です。このままでもいいと思います。(農,H12学部入学,男)
- ◆もっと駐車・駐輪場をはっきりしてほしい。(農,H12学部入学,男)
- ◆駐車スペースがない。(農,H12学部入学,男)
- ◆自転車を止めるスペースが少ない。(農,H11学部入学,男)
- ◆もっと車で来る人を認めるべき。(農,H11学部入学,男)
- ◆駐輪場整備がほとんど行われていないので、多少力を入れるべき。(農,H14修士入学,男)
- ◆駐車に問題がありすぎる。駐輪も含めてもっと区画整備するべき。(農,H13修士入学,男)
- ◆農学部しか分かりませんが、明らかに自転車駐輪スペース<自転車台数だと思います。特に教室のある西側がひどく、屋間は通り抜けるのも困難です。解決策として、自転車駐輪スペースを確保する、教室を分散させる、自転車整備の人を雇う、などが考えられるのではないのでしょうか？(農,H13修士入学,女)
- ◆これも少し整備してくれたほうが動きやすいかも。(農,H11学部入学,男)
- ◆車を持っていないのでよく分からないが、北部キャンパスは今のままでよいと思う。学生会館はまったく知らない。(農,H11学部入学,女)
- ◆トイレの数をもっと増やしてほしい。(農,H14修士入学,女)
- ◆附属図書館前など特に何とかしてほしいです。(農,H14修士入学,男)
- ◆道路の幅を大きくもっと開放的にしてほしい。(農,H13修士入学,男)
- ◆A号館の工事で駐輪場が手狭になっている。時々バイク走行禁止の所をバイクが走っている。(農,H13学部入学,男)
- ◆狭くゆとりがない感じがしますが、土地上仕方がないと思います。(農,H13修士入学,男)
- ◆このままでいいと思います。ただ、持ち主がいるのか分からないような放置自転車などを撤去した方がいいと思います。(農,H13修士入学,男)
- ◆別にこのままでよいと思う。屋根付き駐輪場を増やす。(農,H14修士入学,女)

- ◆ 自転車止めるスペースではない所に止めてある自転車が、危険。(人環,H14修士入学,女)
- ◆ 構内に自転車が溢れていますが、駐輪場の整備より、学生のマナーに問題がある気がします。(人環,H13修士入学,男)
- ◆ 構内に乗り入れた車両の駐車状況の改善。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ 構内を自動車走っている(教官など)にもかかわらず、原付(学生)の入構が規制されているのははなはだ不快である。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ 駐車スペースでない場所に駐車したり、駐輪しているのが目立ち、研究室の装置の搬入が困難になっている場面をよく見ます。何よりもまず、駐車場問題に対応すべきだと思います。(エネ科,H13修士入学,男)
- ◆ 駐輪場が狭くて困ってます。駐車スペースもそんなにあるとは思えません。放置自転車などが多いのも原因の一つだとは思いますが、何とかできませんか？(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ 駐車スペースが少なく、車が路上に多く見られる。その割に無駄なスペースがある。(エネ科,H13修士入学,男)
- ◆ ほかの私立大に比べ敷地が狭い割には、京大の駐輪状況は必ずしも悪くないと思う。が、門付近に大規模な駐輪場を数カ所設けて、構内は歩くというスタイル(A大など)にすればもっと整然とするかもしれない。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ 図書館とルネの周辺をもっと力を入れてほしい。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ 放置自転車の撤去。(エネ科,H13修士入学,男)
- ◆ 駐輪場は大体足りていると思う。(ア・ア,H13博士入学,男)
- ◆ 駐車スペースをもっと増やす。(情報,H12学部入学,男)
- ◆ 駐輪場が不足しているのは明らか。禁止区域に駐輪せざるを得ない状況を改善すべき。(情報,H14修士入学,男)
- ◆ 非常に不十分。自転車の無灯、車との接触事故、道路がボコボコ、特に夜は非常に怖い。(情報,H13修士入学,女)
- ◆ 本部構内に、迎賓館や記念館等はまったくの不要である。代わりに校舎や駐輪場等、学生が直接利用できる施設を増設すべき。工学部の生徒転はなくても本部でのスペース確保にもっと真剣に取り組むべきであった。(情報,H13修士入学,男)
- ◆ もう少し充実してほしい。(情報,H14修士入学,男)
- ◆ 放置自転車をどんどん撤去するだけでずいぶん変わらなと思う。シールを配るなどすればよいか。(情報,H14修士入学,男)
- ◆ キャンパスの敷地が少ないので難しいと思うが、駐車場をもっとあるといいと思う。(情報,H13修士入学,男)
- ◆ 時々オートロックが開いていることがある。施錠の徹底が必要だと思われる。(情報,H13修士入学,男)
- ◆ バイクが走れない場所での取り締まりを徹底すべきだと思う。(情報,H14修士入学,男)
- ◆ 本部キャンパス内の車両入構禁止。(情報,H14修士入学,男)
- ◆ 実家から通学している学生にも駐車スペースがあればよい。研究のために交通手段のなくなる夜中に帰宅しなければならない学生には必要だと思う。(生命,H14修士入学,女)
- ◆ 立体駐車場の一つもあるとうれしいです。(生命,H14修士入学,男)
- ◆ 附属図書館前のように、ブロックを設けて、駐輪範囲を指定するのはいいと思いますが、前輪をのせるブロックは邪魔だと思います。(生命,H14修士入学,男)
- ◆ 変にデザインに凝った建物をつくって、死にスペースをつくるくらいなら、駐輪スペースを考えて建物を設計して。特にメディアセンターなど、あれはひどい。(H14修士入学,男)
- 極めて不備である。(評議員)
- 駐車、駐輪を有料にし、過剰な車両を排除。(評議員)
- 工学移転後のスペースを活用して(分け取りして、囲い込まずに)、公的空間として用意。(評議員)
- 基本的にはキャンパス内への車の乗り入れは禁止すべきである。バイクについて現在規制(本部構内)を行っているが、規制する以上徹底すべきであり、現状は嘆かわしい。廃棄、乗り捨て自転車はリサイクル化に努めるべきである。(評議員)
- ないに等しい。(評議員)
- 学生会館くらいはあってもよい。(評議員)
- 学生会館(西部)を検討すべき。駐車・駐輪問題と学生会館は別の問題。(評議員)
- 工学部の移転を機に、大幅に整備してほしい。(評議員)
- 構内でバイクを走らせない。(評議員)
- 構内にスピードブレーカーを設置すべし。(評議員)
- キャンパスが美しいと感じられるようにすべきである。(評議員)
- 本部は特にひどい。最貧国クラスの大学に見える。まずそう自覚することが大切。(評議員)
- 学生・職員自動車の乗り入れ制限を強化。駐輪場の整備とともに、定期的な放置自転車の排除を行う。(評議員)
- 駐車・駐輪場の整備状況は劣悪。本格的な学生会館(Student Union)の建設が望まれる。(評議員)
- 敷地利用の長期計画を立てる。(評議員)
- 安全なキャンパスライフのために早急に整備を図るべきである。(評議員)
- 学生に駐車場の必要はない。駐輪場の独立したspaceがほしい。少々乱雑に置いても他人に迷惑がかからないspace。(評議員)
- 学生が精神的にも静かに過ごすためのスペースがほしい。(評議員)
- もっと区画を明確にして、放任状態をやめるべきだ。(評議員)
- 生活の場の向上。(評議員)
- 駐輪場はまったく足りない。また学生会館については上記。キャンパスの人、車、自転車の完全分離を図るのが重要である。(教授)
- 構内への自動車、バイクの進入を全面禁止する。(教授)
- 駐輪場がほとんど管理されていない。古自転車の放置場所と化している所も多い。(教授)
- 計画、将来の対応を提案して下さい。吉田グラウンド地下、超近代的駐輪場。(教授)
- 駐車場は、駐車棟を建設するなど、もっと充実すべきである。(教授)
- 特に色々な建物が新たに建ち、キャンパスは狭くなった返し、授業に行くにも骨が折れるほどである。この解消を切に望む。(教授)
- キャンパスが汚い。車は原則としてキャンパスに入れてはいけない。(教授)
- 駐車・駐輪スペースがまったく不足しており、キャンパスの環境が非常に悪い。学生のためのスペースもほとんどない。(教授)
- 通勤・通学用の駐車を全面禁止にして、キャンパスを学生に任せるべきである。(教授)
- まったく同じと同じ。グラウンドを潰してでもつくる必要がある。学生の車の乗り入れ禁止。(教授)
- この件は問題外。問題にできる状況にない。キャンパスの狭さが問題である。(教授)
- 統制の取れた利用をどのように可能にしていかが検討していく必要がある。(教授)
- 本部構内は無政府状態のようです。(教授)
- スペースが絶対的に不足している。工学部跡に立体駐車(輪)場を設けることも検討すべき。(教授)
- 駐車場の有料化。外国人のお客さんを連れて行けるようなクラブ。(教授)

- 駐車・駐輪場は建設すべき。道の幅や景観を悪くしている。(教授)
 - 教官には車の通勤に制限があり、学生諸君には駐輪スペースが少なすぎる。農学部地下に大駐車場(有料)をつくり、自主財源にしては、あわせて、自転車・バイク盗の対策も必要。セキュリティ面から“開かれた大学”は幻想にすぎないのでは。(教授)
 - 最悪である。全学協調して問題に対処すべき。夜になると教官がフェンスを越えて退出する姿は恥ずかしい。(教授)
 - キャンパスに自転車が増え、周辺の公道も危険で子供や老人は歩けない街になっている。早急に自転車使用を規制すべきである。(教授)
 - 地下、屋上などに駐車場の建設を是非お願いしたい。外部の人間には有料としてもよい。(教授)
 - 構内が天安門広場並みになってきた。学生には一旦自転車を止めたら、大学内の移動は徒歩で行わせるべき。(教授)
 - 本来学生は車などで通学すべきではない。(教授)
 - 駐輪場は事実上無理であろうから、せめて駐輪場はもう少し整備してほしい。(教授)
 - 学生会館なども必要と思われるが、どう管理するかは難しい。(教授)
 - ひとつひとつ整備していくほかないでしょう。(教授)
 - 近年、工事があちこちで行われていて、混乱状態にあるが、落ち着いたら、駐車・駐輪を本格的に整える必要がある。留学生会館は緊急の課題だ。(教授)
 - 抜本的な整備が望まれる。(教授)
 - 当然、社会的常識ののって整備すべきである。(教授)
 - 駐車・駐輪場のスペースの確保(拡張)が必要。(教授)
 - 駐車場を独立的な場所につくり、構内には車を入れない。(教授)
 - 他大学並みに充実させる。(教授)
 - 絶対的に不足している状況を改善。(教授)
 - 学生が大学は生活の場という感覚を定着させるにもラウンジなどの充実が必要。(教授)
 - まったくなくていいと思う。西部構内をきちっと整備し、本部には自動車、自転車を禁止するというような、思い切ったことをやってみてほしい。(教授)
 - キャンパスの狭隘が原因であるが、学生会館などの整備がほしい。(教授)
 - 市場メカニズムを導入すべきである。(教授)
 - 学生が集まり、自由に討論ができるような場所が少ない(数、面積とも)。(教授)
 - 駐輪場整備とともに学生がキャンパス間を移らなくてもよいシステムを考えることが必要(教官が移動する等)。(教授)
 - 駐車スペースの確保。その上でのルールづくり。厳格運用。(教授)
 - 車の入構制限をするべき。ただでさえ狭いキャンパスが、車によってますます狭く感じられ、大学の雰囲気でない。駐車場を整備すると車で来る人が増えるだけなので、意味がない。最近置かれたコンクリートの駐輪ブロックは自転車の数が少ないと秩序づくりに役立つが、本学のように自転車の多いところで役立つのかどうか疑問。学生会館はあった方がよいが、管理が大変かも。(教授)
 - 駐輪場の整備はこれからも必要。(教授)
 - 全体にキャンパスが狭いことが問題になっている。(教授)
 - 特に自転車置き場の整備が必要。(教授)
 - スペースが少ない。(教授)
 - 場の整備以上に学生のマナー向上が火急の課題である。(教授)
 - 学生同士、教師と学生がいつでも話し合える場所が少ない気がする。(教授)
 - もっと広げるべき。学生会館をより広くモダンに、清潔に！(教授)
 - 学部に任せられているようだが、全学的長期的プランを作成する。(教授)
 - キャンパスの狭さに起因することであるが、現状はひどい。(教授)
 - 学生会館は必要である。駐車はともかく、駐車場の整備を行う必要がある。(教授)
 - できるだけ拡大する。(教授)
 - 現状では劣悪すぎる。もっと予算的措置を講じる必要がある。(教授)
 - 自動車通勤、通学のためのスペースの根本的対応策の検討。(教授)
 - 絶対的スペースの不足のためか、本部キャンパスは歩くのが難しい。(教授)
 - 人間と自転車、自動車の分離をして歩行者の安全を図るべき。できればA大のように、自動車入構禁止にすべき。学生会館などの課外活動用の場所を建設して、教室は本来教育、研究目的の使用に限定すべき(総合人間学部)。(教授)
 - 土地の狭さから、ないものねだりになりがちであるが、駐車・駐輪については立体場を建てられないか。医学部(?)のリッチさに比して他構内は見劣りするが、同等に整備できないものか。(教授)
 - 狭い空間が研究棟(機械のための)で占められている分、アメニティも並行して手当すべき。(教授)
 - 学生及び部外者の駐車は特別な理由がない限り、禁止すべき(これができないのが京大の問題点である)。オートバイ、自転車の駐輪場は、美観上の問題も考えて充実すべきである。(教授)
 - 極めて不十分、不徹底。(教授)
 - 駐車場・駐輪場などは独法化すれば、もっとやりやすくなるのでは？学生会館はないが、基本的にこうした施設が必要とされてきたかどうか要検討。(教授)
 - 駐車スペースを制限し、安全に歩くスペースを確保する。駐輪場は広くし、整理しやすくする。(教授)
 - 放置された自転車、車道に溢れた自転車は目に余る。(教授)
 - これはもう少し整備した方がよいだろう。(教授)
 - これらはまだまだ不足していると思う。(教授)
 - 学生ラウンジなどはもう少しあった方がよいと感じますが、学生のための駐車場は基本的には不悪だと思う。(教授)
 - 駐輪場整備を。(教授)
 - 車や自転車の増加に追いつかないまでも、この狭いスペースのなかでできる努力は行っている。車と人の分離を徹底する必要がある。(教授)
 - 本部構内の整備は不十分。桂キャンパスが完成する際に整備すべきである。(教授)
 - 十分とは言えない。(教授)
 - 西部生協ルネの周囲の駐輪場をより整備してほしい。(教授)
 - バイクと駐輪の場所を2階建てにするなどの工夫。(教授)
 - 大学構内については、現状のごとくガードマンを採用して悪質な駐車の取り締まりを望む。(教授)
-
- 立体駐車・駐車場をつくり、そこ以外に止めさせない。定期的に放置車を処分する。(助教授)
 - 計画的な整備が必要。(助教授)
 - 他大学並みに充実させるべき(助教授)
 - 場所を増やすべき(有料にしてでも)。(助教授)
 - 駐車場の増設。(助教授)
 - 学生のためのキャンパス整備は急務である。京大の現状は、国内の大学のなかでも最悪に近いと考える。車、自転車、歩道、どれをとっても危機的状況である。(助教授)
 - 特に駐車駐輪がひどい。専門の担当者を配置すべき。(助教授)
 - 駐車場(十分な容量のあるもの)を是非つくってほしい。駐輪については、今ブロックがつくられたが、かえってややこしくな

- た。自転車の整理をする人を増やす方がよい。(助教授)
- 屋根付き、立体型駐輪場は不可欠。(助教授)
 - 駐輪場整備を早急にすべき。駐車専用の建物を建て、路上はすべて駐禁とする。(助教授)
 - 車乗り入れ禁止措置。(助教授)
 - 駐輪場などの整備は急務と思う。(助教授)
 - 学内に入れる車を厳しく制限すべき原則として学生は乗り入れ禁止。学外に多少の学生専用駐輪場を設ける。(助教授)
 - 広い駐輪場の確保。(助教授)
 - 駐輪場の充実が必要。(助教授)
 - 学生会館の充実化。どこにあるのか知らない。(助教授)
 - 抜本的な対策(ex.民間注力?)の利用もが必要。(助教授)
 - 十分な面積の駐輪場が必要(現状はあまりにもひどい)。学生の厚生施設が外国に比べ貧弱(ほとんどない)。もっと数と面積を増やすべき。(助教授)
 - 学生のマイカー保有率が上昇する一方で、構内の駐車可能スペースは減少するばかりである。基本的に構内駐車禁止(業務車は除く)の方針を打ち出した方がよい。(助教授)
 - 駐輪施設のお粗末さは、論をまたない。(助教授)
 - 駐車、駐輪場の場所を台数に合わせて確保する。放置自転車の撤去の頻度を増やす。(助教授)
 - 駐輪場整備は、学内美観の上からも必須と思える。(助教授)
 - スペースが不足している。(助教授)
 - 場所があれば、充実させた方がよいが、吉田キャンパスでは不可能だと思う。(助教授)
 - とにかく場所がない。(助教授)
 - 特に本学(百万遍)の駐輪状態はひどい！例えば20年くらい前と比べて何故このように自転車が増えたのか？(助教授)
 - 車の入構制限。(助教授)
 - 早急に整備する必要あり。学生証の電子カード化で車の入構をコントロールする。(助教授)
 - 駐輪場不足を解消する(助教授)
 - あまりなくていい。(助教授)
 - 全キャンパスにわたる適正化(全体的に狭いが、部分的に利用しやすい場所が多いなど偏りがある)。(助教授)
 - 学生ラウンジ、屋外の休息所の設置。(助教授)
 - 整備状況は貧弱である。とにかく充実を！(助教授)
 - 駐車・駐輪場に関して整備が必要。(助教授)
 - 建物新築の際は、駐車、駐輪場を予想される利用学生数に合わせて面積を確保することを義務付ける。(助教授)
 - 充実させるべき。(助教授)
 - 機能的に使える駐車、駐輪場にすべき。(助教授)
 - 図書館は、24時間開館が望ましい。勉強部屋としての利用ができるようにしてほしいと思う。そのために、ある程度のqualificationを受けた学生には、出入り自由のカードを渡し、自動ロック式のドアに変えたいと思う。社会的マナーに乏しい学生からは利用カードを取り上げ昼間利用だけにする。(助教授)
 - 屋根付きの駐輪場を増やしてほしいですね。バイク・原付専用スペースもあるといいですが。(助教授)
 - 駐輪場は整備するべきであるが、その運用の問題もある。学生のマナーの問題もあるが…(助教授)
 - 駐車票、駐輪票等を発行する。(助教授)
 - 統一基準で根本的に整備を見直す。(助教授)
 - 駐車はハンディキャップの人などに集中し、あとはできるだけ制限。(助教授)
 - 吉田地区の駐輪場を更に整備してはいいかでしょう。(助教授)
- 有料化の代わりにきっちり面倒見る。(講師)
 - 広いスペースを取り、歩いて快いキャンパスの整備を進めたい。(講師)
 - 充実を望みます。(講師)
 - 駐輪場整備を。(講師)
 - 駐車場をもっと充実してほしい。特に宇治、桂キャンパス。(講師)
- 駐車・駐輪の整備をしてほしい。(助手)
 - 駐車、駐輪場の整備が無策すぎる。(助手)
 - ないに等しい。(助手)
 - 駐輪車場の工夫が必要。特に北部キャンパス。(助手)
 - 中途半端な駐車システムは止めてほしい。特に学生には有料でも駐車スペースが必要では。(助手)
 - 通路がなくなってしまうほどに自転車が無雑作に止められてしまう現状をなんとかしてほしい。また、雨天時に特に感じるが、水たまりがよくできています。これは早急に直してほしい。(助手)
 - 駐車場…つくれるものならつくってほしい。(助手)
 - 駐車・駐輪問題については、無秩序な状態が続いているので、早急に改善をお願いしたい。(助手)
 - 駐輪に関してはひどすぎます。(助手)
 - 車道と歩道を分離して、思索しながらでも安全に歩ける環境が望ましい。(助手)
 - 駐車場は不要。駐輪場を増やすべき。(助手)
 - 自動車の排除。(助手)
 - オープンスペースが少なく、学生の拠点が少ない。駐輪場を門付近に整備(地下スペースなどをつくらたい)して、基本的に自転車の学内乗り入れを制限し、公園的なスペースを充実させることが望ましい。(助手)
 - 学生会館はどこにあるのか知らない。駐車、駐輪場整備が必要。(助手)
 - 構内でどこも構わず駐輪してあるのをと、モラルもないに等しい。まず、駐輪場を整備すべきである。自転車通学は経済的に自立していない学生が行うべきものではない。また京大周辺の駐車場(月極:民間)が高いので、大学の駐車場が自家用車の車庫代わりになると予想されるので、必要ない。(助手)
 - 駐輪場については、とりわけ吉田キャンパスにおいては、恒常的に問題であり、立体駐車場/駐輪場etc.の対策をしていただきたい。(助手)
 - キャンパス、スペースとの兼ね合いもあるが、駐車、駐輪場をより整備すべき。特に車の入構規制。(助手)
 - 駐輪場の充実を！ビルの初期の建設段階から。(助手)
 - 学生会館、ホールなどの施設整備には力を入れてほしい。(助手)
 - 駐車場整備と歩行者が安心して歩ける道の整備。(助手)
 - 自転車の量が多いことが分かっているのですから、もっと駐輪スペースを整備していただきたいです。駐車スペースが自転車で占拠されている状況をよく目にします。(助手)
 - 自転車はやはり乱雑に置かれていて、見た目が悪い。(助手)
 - 学外者との区別を明確にできるシール等の発行をもっとスムーズに。年何回か受け付けてもよいのでは？そもそも情報がなく、今の制度自体不明です。(助手)
 - 周辺の通行のしやすさを他機関(市など)と協議してほしい。(助手)
 - 車より自転車が公害となっている。駐輪場をもっと便のよい所に移動すべき。(助手)

- 駐車スペースはともかく、駐輪スペースは整備して。(助手)
 - 歩車分離、駐車・駐輪の整備は特にお願いしたい。物品の搬入・搬出等支障が出そうである。(助手)
 - 二輪車の駐輪スペースはもっと充実すべきです。ただし、自動車入構の制限緩和はまったく必要なし。(助手)
 - 特にこれらの項目に関しては、更なる整備を期待します。(助手)
 - 不法なものは、厳しく取り締まってほしい。(助手)
 - 駐輪場の整備と、車の入構制限。(助手)
 - 十分な駐輪場の確保。(助手)
 - 最近、駐車、駐輪場の整備がなされていないようだが、バイクが乗り入れ禁止区域よりも中で止めてあることがあり、大変危険に感じるので、取り締まりを強化すべきであると思う。(助手)
 - キャンパスが狭いので、これ以上整備は難しいと思う。工学部移転後に期待。(助手)
 - 駐車場所より、駐輪場の整備を優先すべき。(助手)
 - 駐車・駐輪場ともに不足している。改善の努力は感じられる。(助手)
 - 力を入れてやっていただきたい。(助手)
 - マナーに頼るのではなく、規則として守らせる。(助手)
 - 駐輪については、かなり改善してきた。(助手)
 - よくするにこしたことはない。(助手)
 - 予算的に不可能か。(助手)
 - 本部(吉田)構内は狭く整備しなければならないが、私達の宇治キャンパスはまだ広く、十分行われている。(助手)
- “学生の自主性尊重”を隠れ蓑に酸欠状態。(事務(技術)職員)
 - 駐車スペースは、規制すればよいが、特に駐輪場の整備をキャンパス整備の最重要課題にしてほしい。(事務(技術)職員)
 - 構内に溢れる自転車、バイクなどは事故の危険性が高いため、早急な改善が必要。地下駐車場・駐輪場の検討を。(事務(技術)職員)
 - 学生との話し合いが前提となるが、個別的な整備でなく、全学的観点からの整備が必要。(事務(技術)職員)
 - 特に駐車場について、有料化を図るとともに西部構内に一大駐車場をPFIで建設すべき。(事務(技術)職員)
 - 立体や地下駐車を整備し、駐車料金で運営(利用者から料金を徴収する)。キャンパス内にはゆとりと空間が必要。(事務(技術)職員)
 - ガードマンによる整理が必要。(事務(技術)職員)
 - 本部構内は、車の入構を禁止し、各門にバイクの置場、各建物に自転車置場をつくる。(事務(技術)職員)
 - 車輦のキャンパス乗入れは、身障者、病人、公用車、タクシー以外は進入禁止とする(有料化の導入及び遮断機の設置)。(事務(技術)職員)
 - 構内自転車乗入れルールの確立(学生・職員ともにモラルUP対策を)。(事務(技術)職員)
 - 入出台数をチェックして無制限に入構させないようにする。学内の要所にサインを出し、建物の外施設案内をする。(事務(技術)職員)
 - 入構規制を強化(自転車、バイクが多すぎる)。校舎移動にも少し配慮を(移動に要する時間を考慮したカリキュラムなど)。(事務(技術)職員)
 - 駐車場のスペースを削り、駐輪場の整備が望まれる。特に図書館の周辺の駐車スペースが目立つ。利用者のための駐輪スペースとしたい。(事務(技術)職員)
 - 学生のくつろげる施設が不十分。(事務(技術)職員)
 - 本部構内のキャンパス整備は、今始まったところであり、今後も学生のキャンパスライフを豊かにするという視点で、キャンパス整備に力を注ぐべきだ。西部構内の有効活用を早急に進めるべきである。(事務(技術)職員)
 - 公共交通機関の発達した京都市に依存する本学は、基本的に教職員・学生の自家用車による通勤・通学は認めるべきではなく、止むを得ない者(身体障害者・公共交通機関のない地域の者等)に限定すべきであり、その結果生まれる、空間に駐車場を設けるべきである。(事務(技術)職員)
 - 入構制限(医のように)に台数も少なく、駐車できるスペースに駐車できるように。学生会館の建設はできるだけ早くに実現を。構内の照明については、改善されつつあると思う。歩道と車道の区別をはっきりと。(事務(技術)職員)
 - 不法駐車(輪)が多い。西部構内を有料の駐車場とする。(事務(技術)職員)
 - 駐車スペースが少ない。学生が授業の合間に憩う場所がない。学生会館があればよいです。(事務(技術)職員)
 - 食堂、学生会館などキャンパス内で学生が使用できる施設が少ない。図書館での仮眠、屋外での食事などが見受けられる。学生用施設の増築が必要である。(事務(技術)職員)
 - キャンパス整備の問題は、日常的な利用者である学生や教職員はもとより、外部からの訪問者への対応が大きな問題となる。例えば、今夏開催された「京都大学オープンキャンパス」でも、学生部や関係各学部等の努力にも関わらず、参加者からは「場所が分かりにくかった」、「もっと分かりやすいチラシがほしいかった」、「場所が分からず、開始に間に合わなかった」などの意見が寄せられている。学生や職員であっても、日常親しんでいるキャンパス以外の状況はほとんど分からないのが現状であり、教室や事務室にたどり着くことは一定の困難を伴う。まして外部からの訪問者は構内にある学部・研究所・センターの所在も曖昧であり、広大な敷地に戸惑うことが多々ある。案内板も入口に大きなものが設置されているとは言え(しかも案内図はどの方向に設置されているか「北が上」の案内図ばかりである)、一旦構内に入ってしまうと、目の前の建物に視界を遮られ、自らの位置関係が分からなくなる状態になってしまうことも少なくない。学会開催や講演会、説明会など、これまで以上に学外者の大学利用が進むことが予想されることから、全学統一の案内板(各構内入口には進行方向が上の地図を備える)を一斉に設置することが必要であり、このことにより大学内の雰囲気が一挙に変わるきっかけになるのではないかと。キャンパスの所在地の条件により、特に「吉田地区」においては公共交通機関の利用をこれまで以上にアピールすべきである。また、障害を持った学生・職員の駐車場を、これまで以上に建物に近い場所に、もっと目立つように設置すべきである。また、スロープなどの設備についても、まだまだ不足しており、予算の関係もあるができるだけ早期にすべての建物にスロープなど、必要な設備を備えるべきである。自転車については、京都という特性から利用者が大変多く、ほかの大学に比べて台数も多い。現在は事実上「野放し」であり、駐輪場(屋根の付いたものが望ましい)の設置は「各学部等に任されている」状況である。少なくとも、構内毎にランドデザインのために「駐輪場」をどのように設置するかを検討すべきである。なお、放置自転車への対策も「全学一斉」とはならず、必要な場合には「外部業者の導入も検討」し、一斉に行うことが必要ではないだろうか。京都大学の規模であれば、「学生会館」(少なくとも1000席くらいを有するホール)や現在、生協会館でサービスを行っている「書籍」「購買」「食堂」「喫茶」や構内でサービスされている「理容(美容)」など、総合的な建物があってもよいのではないかと。工学部移転に伴う跡地利用の検討に、「学生会館」が含まれるべきである。(事務(技術)職員)
 - 学内が自転車で溢れている。大変防犯上も危険である。駐輪場の整備が最重要課題である。できるだけ学生が移動を少なくすむような講義室の集中化が望まれる。(事務(技術)職員)
 - 建物内外における憩いの場の確保。(事務(技術)職員)
 - 歩行者にとって自転車が凶器になる可能性があるため、学生に対して交通指導などの啓発を行う必要がある。(事務(技術)職員)
 - 今後も放置自転車の整備を。(事務(技術)職員)
 - かなり整備が進んできていると思うが、更に押し進めるべき。(事務(技術)職員)
 - 厚生施設の充実。(事務(技術)職員)
- グループ学習のための小規模のセミナー室の数を増やす。

- 本学の駐車場整備、それに関連して入構規制は極めてひどい。これは教官側にも問題があり、「自分だけは例外」という奇妙な意識を捨てさなければならない。

⑦ セクハラ対策や構内警備などのセキュリティ対策



【自由記述】今後の対応について

- ◆学校が24時間開放されているのは有り難い。これが大学生らしさをわずかにも残すことにつながるのでは。あとセクハラ先生(気軽に声をかけすぎです)撲滅のための講習会でも行ったらどうでしょう。(総人,H13学部入学,女)
- ◆夜中一人で歩けない。事件は起こさないでほしい。(総人,H13学部入学,女)
- ◆トイレなど、警備すべきところはすべきだが、学生の活動の制限になるようなのはいらない。E号館やらも、勉強する建物、文化活動をする建物などに分けて、夜中の有効活用をさせてほしい。(総人,H12学部入学,女)
- ◆セキュリティは低いと思う。(総人,H11学部入学,男)
- ◆A号館に暗証番号の鍵が付いたが、あまり意味をなしていないような…(総人,H11学部入学,女)
- ◆特に意識したことがないので、何とも言えない。(総人,H12学部入学,男)
- ◆時々夜変な人がいるので、もっと構内警備をしてほしい。また、オートロックのキーナンバーは定期的に変えたらどうか。セクハラ相談窓口はもっと気軽に相談できる雰囲気があるといい。ところで、セクハラ対策を構内警備と一緒にすること自体おかしと思う。これこそ意識の問題では？(総人,H11学部入学,女)
- ◆構内警備を強化するのは大学の雰囲気には合わないだろう。(総人,H14学部入学,男)
- ◆特に問題ないと思います。(総人,H13学部入学,男)
- ◆セキュリティ対策に関しては、ほぼ無防備のように感じますが、とって厳しく警備するのがいいとも言えません。僕自身に災いが振りかかる経験がないので、案外良好なのかもしれません。(総人,H11学部入学,男)
- ◆よく分からない。(文,H14学部入学,女)
- ◆夜中に変な人がよくうろついている。もっと警備を。(文,H13学部入学,男)
- ◆ほとんど無防備に近い状態だと思う。何から手を付けてよいか分からない。(文,H13修士入学,男)
- ◆夜構内の見回りを行うなど、安全対策に力を入れてほしい。(文,H13学部入学,女)
- ◆文学部の事件の後、社会学専攻の指導教官制がなくなったが、実際に学生が指導教官のいない状態で卒論を仕上げるのは難しい。もっと学生のサポート法を考えてほしい。(文,H12学部入学,女)
- ◆遅れている。実際セクハラも構内での恐喝事件も起きている。セクハラ委員会みたいなものがあるが、セクハラした教授が3ヶ月の停職で職場復帰できるのは恐れ入る。これこそ放縱な体質。京大は教職員に対して「自由」だったのだろうか？体裁を繕うためのだけの表面的な対応が多すぎる。日本で一番遅れているのでは？(文,H12学部入学,男)
- ◆セクハラ、アカハラは理系の方がもっとひどいと聞く。厳しいルールを設けるべき。歩行者ルートと自転車ルート、自動車ルートを分けてほしい。特に自動車はあまり構内に入り入れてほしくない。(文,H12学部入学,男)
- ◆文学部の東館のカメラ事件が怖い。地震に対する耐震性が心配です。(文,H12学部入学,女)
- ◆開放的な面が強いため、構内警備を強化して、構内の安全性確保に努めるべきである。(文,H12学部入学,男)
- ◆問題が起きているということは、改善の余地があるということでしょうか。(文,H11学部入学,男)
- ◆セクハラ対策は教授らと何度か会議を持ってほしい。女性側の教育も必要かも。ただ男性差別の風潮にならないように考える必要有。セキュリティはまだまだでしょう。扉とか(特に文系)ぼろぼろやし。(文,H11学部入学,男)
- ◆図書館閉館後の構内は怖い。総人図書館20:00附属21:00。特に総人キャンパス。(文,H11学部入学,男)
- ◆夜の大学ではいざというとき、どこを頼りにしていいかわかりにくい。もっと分かりやすくすると、警備の人の数をもっと増やしてほしい(夜落とし物を探しに行ったら、構内に犬に追いかけて怖い思いをしたことがあった)。(文,H12学部入学,女)
- ◆図書館前の自転車置き場にいる駐輪指導のおじさんの態度がでかいのが気になる。(文,H11学部入学,男)
- ◆セクハラ等の問題については、明るみになってからの対応が早いのでよいと思う。セキュリティについては不十分だ。しかし、例えば施錠のしすぎは学生の活動を妨げることもあると思うので、セキュリティ強化をするなら、慎重に考えてほしい。(文,H11学部入学,女)
- ◆大学である以上、個人の自由を制限するのは難しい。そのなかでよくやっていると思う。(文,H13修士入学,男)
- ◆現状のままでもよいと思う。(文,H14修士入学,男)
- ◆文学部の教官がどうなったのか分からないままなのが気になる。(教,H12学部入学,女)

- ◆ 教授室があまりにも密室なのでオフィスアワー利用の際もいつも不安を感じる。民間企業のオフィスのように、扉をすべてガラス張りにして、シャッターカーテンなどでプライベートは守り、生徒が来訪する際は、カーテンを上げるなどすることが一番のセクハラ対策だろう。(教,H11学部入学,女)
- ◆ あまり警備を増やしてもよくない。(教,H14学部入学,女)
- ◆ 特に問題ないと思います。(教,H14修士入学,男)
- ◆ 恐喝があったのに十分とは言えないだろう。(法,H13学部入学,男)
- ◆ 夜間、警備員さんの巡回してほしい。照明も少なく危険です。(法,H13修士入学,男)
- ◆ オートバイ入構禁止を監視している警備の人は座って見ているだけなので、何とかしてほしい。置いているだけ。(法,H12学部入学,男)
- ◆ 本学では、噂の域にとどまるのも含めて、非常に多くセクハラの話聞く。それに対して、学校当局が対策を強めているのは評価できる。より強化していくべきである。構内警備は行っているのだから、見たことがない。警備とは空気のようなもので、目にしないのは安全な証拠だと言えるかも知れないが、研究のため、昼夜問わず人が出入りする本学において、そういった警備を身近に感じえないのは不安でもある(ただ、学部の性質上、私は深夜まで大学にいないことがないため、警備を目にすることがないのかも知れない)。(法,H11学部入学,男)
- ◆ あまりに自由に出入りできすぎだと思う。不審者への対応など強化すべきだと思う。(法,H11学部入学,男)
- ◆ 夜間のセキュリティが不十分だと思います。(法,H14修士入学,男)
- ◆ 学外者と思われる者に対する入構制限を強化すべき(警備員が見回り、声をかけるなど)。(法,H14修士入学,男)
- ◆ 夜間は少し暗いと思うので街灯などによって明るくしてほしい。(法,H13学部入学,男)
- ◆ 院の研究室を訪れる際にドアがロックされて困ったことがある。(法,H12学部入学,男)
- ◆ セクハラした教員が再び職場に復帰することはやめてほしい。(法,H11学部入学,男)
- ◆ 夜、北部に高校生が群がって、喫煙したりしています。ごくたまにですが。(法,H10学部入学,男)
- ◆ しょうもない事件が多すぎます。(法,H13修士入学,男)
- ◆ 知りません。そんな行為をする奴は、クビにしてくれ。(経,H12学部入学,男)
- ◆ 夜学内に残り、研究やサークル活動をしている者もいるので、規則等で縛ることはないが、シンナー吸引者くらいは取り締まるべき。(経,H13修士入学,男)
- ◆ システムを更に明確化する必要と更なる認知の徹底を目指してほしい。処罰の厳重性とその明確性を求める。(経,H13学部入学,男)
- ◆ セクハラ対策と構内警備は本来次元の違う話だと思いますが、教室にカメラがあるのはいいことだとは思いません。(経,H12学部入学,男)
- ◆ 特に何があった訳ではありませんが、日没後構内がとても暗いので怖いです。セキュリティもできているとは思えません。(経,H12学部入学,女)
- ◆ 学内に誰でも入れる環境をつくるのはよいが、かと言って学外者が闊歩する環境はよろしくない(犬の散歩、高校生のスケボー、暴走族など)。何かしらの対策を考える必要があるのでは。(理,H14修士入学,男)
- ◆ 構内警備など、あってないようなもの。夜間の構内の治安は悪化するばかり。明らかに本学学生ではない者の構内への立ち入りを制限、もしくは改善すべきである。または民間の警備会社に委託すべきである。(理,H13修士入学,男)
- ◆ 意識改革を進めていくべき。(理,H13学部入学,男)
- ◆ 文学部。(理,H13学部入学,男)
- ◆ 何を何から守っているのか、コンセプトが見えない。セキュリティのために各人の自由がどこまで制限されるのか明確でない。(理,H14修士入学,男)
- ◆ 中央構内でのバイクが乗れないのは、何か問題があったからだろうか。車と自転車だけがよいのは意味がないように思える。(理,H13修士入学,男)
- ◆ あまりに錠錠などをガチガチにしようとするので、適度に。(理,H12学部入学,男)
- ◆ 構内でバイクがかなりの速度で走っていることがあるので警備か制限か、道路の区分け等で対策していただきたいです。(理,H14修士入学,女)
- ◆ 近年対策が進んでいるように思います。できれば、構内の差別的な落書きについて検討願います。(理,H14修士入学,男)
- ◆ 構内で前に恐喝事件が起こったことを聞いている。学内は警察が簡単に入れないが、構内警備等でそのような構内での犯罪に厳しく対処してほしい。(理,H14修士入学,男)
- ◆ 警備などは重要であるが、これを徹底する代わりに学生の行動が制限されるのでは本末転倒。学生証をIDカード代わりにすることで、本学の学生は自由に構内を往き来できるようにしてほしい。(理,H13修士入学,男)
- ◆ 理学部6号館の監視カメラについては批判の声も大きい。車や自転車など何度も盗難に遭った私としては、積極的に評価している。不特定多数の人間が出入りする所には必ず犯罪者も来るのだという事実を周知させた上で、どのように防犯に生かされているのかを十分に説明して設置するのであれば、反対するのはやましい人達だけだ。(理,H13修士入学,男)
- ◆ よく分からないが、セクハラ対策の紙などは見たことあるので、アピールはできると思う。(理,H14修士入学,男)
- ◆ 何をしてるか知らない。(医,H10学部入学,男)
- ◆ 構内での盗難が増えている。(医,男)
- ◆ セキュリティーをもっと高めてほしい。(医,H12学部入学,女)
- ◆ きちんとした対応が望まれる。セミナーなどセクハラ対策するべき。(医,H11学部入学,男)
- ◆ 学内で自転車を取られることが多いです。(医,H10学部入学,男)
- ◆ 警備は甘く感じるが、活動を制限するのではなく、活動したい人が責任を取るといった形のものにしてほしい。(医,H9学部入学,男)
- ◆ そもそもどのようなセキュリティ対策が行われているのか、理解できていません。まず、情報を受け取りやすくすることが重要だと思います。(医,H14修士入学,男)
- ◆ 個人の意識次第。(医,H14学部入学,男)
- ◆ 構内警備はそれほど強化しないでほしい。学風を守るためにも、強固過ぎる警備機構は欲さない。(医,H14学部入学,男)
- ◆ 北門をわずかに開けることは、かなり有り難いことでした。(医,H11学部入学,男)
- ◆ そんなに必要かな？(医,H10学部入学,男)
- ◆ このままでいいです。(医,H14学部入学,男)
- ◆ セキュリティーは非常に甘いように思われる。大学関係者でなくとも自由に入ることのできる現状には、問題が大きい。不便になるかも知れないが、出入り口を制限するなどの方法を用いてセキュリティを万全にすることを望む。(薬,H12学部入学,男)
- ◆ セクハラは女性(被害者)側から訴えにくい。モラルの向上に力を入れてほしい。(薬,H12学部入学,女)
- ◆ 特に学部で警備している人を見たことがないので、もっと目立つようにすべきだ。(薬,H12学部入学,男)
- ◆ セクハラ対策が行われていること自体知らなかった。(薬,H11学部入学,女)
- ◆ 警備については相当無防備だと思います。(薬,H14修士入学,女)
- ◆ 「何か」が起こったら怖いですね。でも「何か」が起こるまで「何も」なされないのが国立だと思っています。(薬,H14学部入学,女)
- ◆ PM6:00にドアに鍵がかかるのは不便である。3回生だが、サークル活動や勉強などで遅くまで残っていることはあるし、3回生以

- ◆上にカードキーを持たせてほしい。(薬,H12学部入学,女)
- ◆何をしているのかよく分からない。(薬,H12学部入学,男)
- ◆よく分からないが、最近厳しくなっているらしいですね。(薬,H12学部入学,男)
- ◆夜間の戸締まりなどは十分だと思います。セクハラ対策は見たことないので分からないけど。(薬,H11学部入学,女)
- ◆特に不都合を感じたことはないです。(薬,H11学部入学,女)
- ◆そのような対策があったことは初耳だったので、よく分からないです。(工,H12学部入学,男)
- ◆屋上に行きたい。(工,H14学部入学,男)
- ◆実験中にプライベートな質問をしてくる教官がいる。(工,H11学部入学,男)
- ◆文学部の女子トイレでカメラが見つかるなんて問題外。改善を求めたい。(工,H10学部入学,男)
- ◆夜間の構内に部外者をむやみに入れることに問題あり。(工,H14修士入学,男)
- ◆盗難を防ぐために、夜間と休日の警備を十分にしてほしい。本部キャンパスの北側の門を夜も開けてほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆教官のセクハラに泣き寝入りしている女性の秘書は数多くいる。人権を守るためにも、学内にある程度権限を持った行動する機関を設置すべき。(工,H13修士入学,男)
- ◆セキュリティに関しては、目も当てられません。何とかして下さい。(工,男)
- ◆私は特にはないですが、文学部のセクハラについての対応があれでよかったのか疑問が残ります。(工,H12学部入学,女)
- ◆対策を強化すべきだと思う。(工,H12学部入学,男)
- ◆教授のセクハラ事件や文学部館内トイレの盗撮事件などセキュリティは甘いと思う。安心して学生が生活できるように対策してほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆定期的に研究室やゼミにいる学生に第三者がアンケートを取るなどして、セクハラの有無を確認できるようにする。(工,H12学部入学,男)
- ◆夜中でも非関係者が入ろうと思えば構内に入れてしまう。施錠をしっかり。(工,H12学部入学,男)
- ◆休日、夜間はロックされていてサークルなどで活動しているとトイレに入れなかったりすることがある。できればトイレ棟などをつくるなり、トイレのみ入れるようにするなりしてほしい。(工,H12学部入学,男)
- ◆誰でも建物の中に入れるような雰囲気はなんとかした方がいいと思う。(工,H11学部入学,男)
- ◆校舎にはせめて6時まで入れるようにしてほしい。5時は早すぎる。(工,H11学部入学,男)
- ◆どのような対策がなされているのかわかりません。(工,H14修士入学,男)
- ◆夜間の非常事態時(水漏れ)対応が遅かった。火災報知機とは別に電話以外に非常時のボタンの設置が必要？(水漏れ、異臭等火災以外の事態時のために)(工,H14修士入学,男)
- ◆夜、や一人で歩くのが怖い場所がある。(工,男)
- ◆防げるのか防げないのか実力が分かりません。(工,H14学部入学,男)
- ◆いいと思う。(工,H12学部入学,男)
- ◆24時間、どこからでも学内に入ってこれるので、いっそのこと裏門も開けておいてほしい。自転車移動しにくい。(工,H11学部入学,男)
- ◆現状の維持でよいと思う。(工,H11学部入学,男)
- ◆部外者が入ってしまう、というのは少々心配だ。(工,H11学部入学,女)
- ◆身近なことではなく、あまりよく分からない。でも、大きな問題はないと思う。(工,H11学部入学,男)
- ◆セキュリティを感じる局面に立ち会ってないので、分かりません。(工,H11学部入学,男)
- ◆バイクの進入禁止を徹底してほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆このままでいいと思います。(工,H11学部入学,男)
- ◆私は工学研究科に通っているのですが、午後9時になると北門が閉まってしまう。遅くまで研究をやっている人も多いと思うので、警備を付けて、北門を開放してほしいと思います。(工,H14修士入学,男)
- ◆研究室で建物のセキュリティ対策はしっかりできていると思う。(工,H14修士入学,男)
- ◆特に問題なし。(工,H14修士入学,男)
- ◆物理 I はそこそこいいが、よく盗難があると聞く。(工,H14修士入学,男)
- ◆分からない。(工,H13修士入学,男)
- ◆セクハラ対策については、冊子を配布しているのしか知りません。警備はもう少し強化した方がいいのではないのでしょうか？化学系などでは危険な薬品も使っていることですし。(工,H13修士入学,男)
- ◆夜は暗証番号のロックがかけられているが、出入りする人がいれば学部の人でも簡単にに入れてしまうのはまずいと思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆中央キャンパスが夜間正門しか開いていないのは不便。結果的に柵の乗り越えが横行しているので、セキュリティということの意味がないのでは？(工,H13修士入学,男)
- ◆現状でよいと思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆研究室によって、セキュリティ対策がまちまちで、統一されていない気がします。構内警備も強化すべきだと考えます。(工,H13修士入学,男)
- ◆特に不自由はないが、何度も泥棒や盗撮者の侵入を許す現状は問題があるだろう。工学部3号館北東の電子錠はいつになったら直るのだろうか。あれでは入り放題だ。(工,H13修士入学,男)
- ◆してこたことはないと思います。(工,H13学部入学,男)
- ◆適切だと思う。(工,H12学部入学,男)
- ◆特に問題はないと思う。(工,H14修士入学,男)
- ◆今のままでよいと思う。(工,H14修士入学,男)
- ◆各建物の部局が警備を個々に徹底しているのなら、それでOK。(工,H13修士入学,男)
- ◆いまだセクハラを受けてないってことは、いいってことじゃないでしょうか。(工,H12学部入学,男)
- ◆現在のままでいい。(工,H12学部入学,男)
- ◆知りません。(農,H11学部入学,男)
- ◆24時間開けっ放しの北門や、閉まっても出入り自由な門にセキュリティは期待できない。教授がセクハラしてもクビにならず停職にしかならないような大学がセクハラ対策をしているとも思えない。(農,H12学部入学,男)
- ◆夜間においては構内は非常に危険の感を感じる。もう少し構内警備を強化していただきたい。(農,H13修士入学,男)
- ◆差別著書への対処があまりにもいい加減である。貼り紙一枚だけ出しても、改善はなされないのではないかと。目に見える対応を望む。(農,H13学部入学,男)
- ◆セキュリティなどザルである。(農,H12学部入学,男)
- ◆文学部でカメラが見つかったとニュースを見た。その後どのような対処をしたのかわからない。(農,H11学部入学,女)
- ◆建物内に誰でも入り放題なので、不審な人をたまに見かけます。教室以外の部屋は関係者以外入れないようにするなどの手を打った方がいいのではないのでしょうか。入れなくするか、IDを付けるなど。(農,H13修士入学,女)
- ◆構内(校舎)は警備が必要な時間が一番警備が充実していない。(農,H13修士入学,女)
- ◆よく分からない。(農,H14学部入学,男)
- ◆改善すべき点はないとは思わないが、学校の規模を考えるとこの程度でいいとも考えられる。特にセキュリティに関しては、強化のしようがないのではないかと。(農,H13学部入学,男)

- ◆私の身の回りでは、特に問題ないと思います。(農,H12学部入学,男)
- ◆あまり関わっていないので分からない。(農,H11学部入学,男)
- ◆夜の構内が暗すぎる。(農,H14修士入学,女)
- ◆巡回をもう少し増やしてほしい。夜の構内が暗い。街燈を増やしてほしい。(農,H13修士入学)
- ◆セクハラ被害は非常に多いと思われる。もっと気軽に相談できる環境づくりを心掛けてもらいたい。(農,H13修士入学,男)
- ◆どのような現状であるのか分かりません。(農,H13修士入学,男)
- ◆そんなものでいいでしょう。セクハラ対策が少し足りない気はする。(農,H14学部入学,男)
- ◆いざというとき、助けてくれる窓口はしっかり開いてほしい。(農,H14修士入学,女)
- ◆大学側というよりは、研究室単位での見直しが必要。(農,H14修士入学,男)
- ◆ポスター等で呼びかけているのを見ますが、実際は軽いセクハラはよくあると思います。教員会等で注意を促し、意識を高める必要があると思います。(農,H13修士入学,男)
- ◆夜間に大学関係者以外の人間が入り出しているように見え、学生に対し恐怖感を与えているように思えます。夜間の人の出入りをチェックすればどうでしょう。(エネ科,H13修士入学,男)
- ◆警察が簡単に大学構内に立ち入ることができない割には安全性は高いと思う。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆厳しくすべき。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆キー番号式のロックをよく見かけますが、よく押される数字は文字が消えかかっている、番号が大まかに分かることもあります。また昼間は人が入り放題です。危険だと思います。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆オープンなキャンパスだから好きだが、盗難や変質者等に少し不用心かもしれない。(ア・ア,H13博士入学,男)
- ◆学庁構内でよく原付の部品とかが盗まれているし、夜中中高生がたむろしているのでもちゃんと見回るか、入らないようにしてほしい。(情報,H14修士入学,男)
- ◆盗難が多発しているようなので、改善の余地あり。(情報,H14修士入学,男)
- ◆門のセキュリティ(番号)が、すぐに推測できるところがある。正門だけでなく、今出川の門も24時間開放してほしい。結局皆柵を乗り越えているのだから。(情報,H14修士入学,男)
- ◆夜間キャンパスに残ることも多く、不安に思われることが多い。ある程度照明をもう少し明るくするなど考えられないのか。(情報,H13修士入学,女)
- ◆駐輪場に止めている自転車のタイヤが誰かにパンクさせられていることが時々あるので、警戒してほしい。(情報,H14修士入学,男)
- ◆構内警備も大事だが、9時以降正門以外から出られないのはかなり不便である。夜中も北側から出られるようにはできないだろうか？(守衛さんを残すなどして)(情報,H13修士入学,男)
- ◆いいと思います。(情報,H14修士入学,男)
- ◆農学部棟の警備員の数を増やしてほしい。夜の構内を安全に歩けるようにしてほしい。(生命,H14修士入学,女)
- ◆夜間、不良少年が構内にたむろしていて危険。見回りを増やしていただきたいです。(生命,H14修士入学,男)
- ◆セクハラについては分かりません。警備はあんまり厳重なものも息苦しいので、こんなもんだ。(H14修士入学,男)
- 自治をいうなら、ユニバーシティ・ポリスは必要。(評議員)
- 深夜のキャンパスの安全確保は、緊急に要請されている。(評議員)
- セクハラ対策と構内警備は、必ずしも関連しない。(評議員)
- 大学警察システムを導入する。(評議員)
- 警備保障会社を導入し、夜間の安全を守る。(評議員)
- 大学に警察官が入れないところから問題。それでいて構内警備は大変手薄。セクハラ対策は事実上ないも同然。これを改善しないと。(評議員)
- セクハラとともにアカデミックハラスメント(職員のみでなく、人権擁護に対する対策が必要)。(評議員)
- 真剣な取組みが必要。セクハラ・アカハラ問題については、学内の啓発活動を更に充実すべきである。(評議員)
- 構内の照明を整備する必要がある。(評議員)
- 制度、システムを見える形にする。(評議員)
- 今のところ大きな不安はないが、今後課題。(評議員)
- 警備を厳しく、セキュリティを上げる必要あり。(評議員)
- 夜間のセキュリティ対策はよくなったが、そのシステムには改良の余地がありそう。(評議員)
- 民間警備への委託など。(評議員)
- もう少し力を入れた方がよい。(評議員)
- まだ十分とは言えないが、各部署でこの問題に対する取組みを高めるよう努力するほかない。(評議員)
- 少数の〇〇な人をなくすことだが、有効な方法を思いつかない。(評議員)
- これでよい。(評議員)
- 「落書き」については、このままでは能無し呼ばわりされかねないので、ハイテクやITが動員できないものか。(教授)
- 台風などの授業や試験の対策、取り決め(マニュアル)などが皆無。あらゆるセキュリティの対策が急務だ。(教授)
- 特に学生の課外活動の場となる総人のA号館は、学生以外の者も混じって、夜騒がしい。この解消は、必須である。(教授)
- 欧米のようにUniversity Policeを導入してもよい。(教授)
- 柵を乗り越えさせる警備体制(夜9時以後の裏門の閉鎖等)は、学生にルール無視(軽犯罪的行為)の風潮を植え付けている。(教授)
- セクハラ対策は部局レベルで対処せず、全学レベルで対処すべき。こういう問題に対しては、「部局の自治」を強調するのはおかしい。個人的には文学部の先日来の問題に対する対処には不満。シンナーの吸引者が入り込んだり、盗難が頻発する状況では、構内警備をもっと本格的に行うべき。大学はこういう面への支出を節約すべきでない。(教授)
- 盗難、恐喝事件がなくなっていないので、結果として不適切である。門へのガードマンの配置やオートロックの使用、防犯カメラの配置等できる対策は多い。(教授)
- 構内での恐喝事件などを見ると、もっと明るくすること、閉鎖性をなくすことなどが望まれる。(教授)
- 各通用門(東北、北etc.)の通行を規制してほしい。(教授)
- University Policeの強化(教授)
- 構内での盗難防止を徹底すべきである(e.g.コンピュータ等から小は傘まで)。(教授)
- 絶えず不十分と考えている必要がある。(教授)
- 夜間でも安心して勉強、研究できる環境づくりを。(教授)
- 構内警備(夜間)に不安がある。(教授)
- 夜間の安全対策を考えておく必要がある。図書館、研究室の遅くまでの開館に備えて。(教授)
- セクハラや差別事件など、あまりに多く起こりすぎており、セキュリティ不足を感じるから、もっとセキュリティを！(教授)

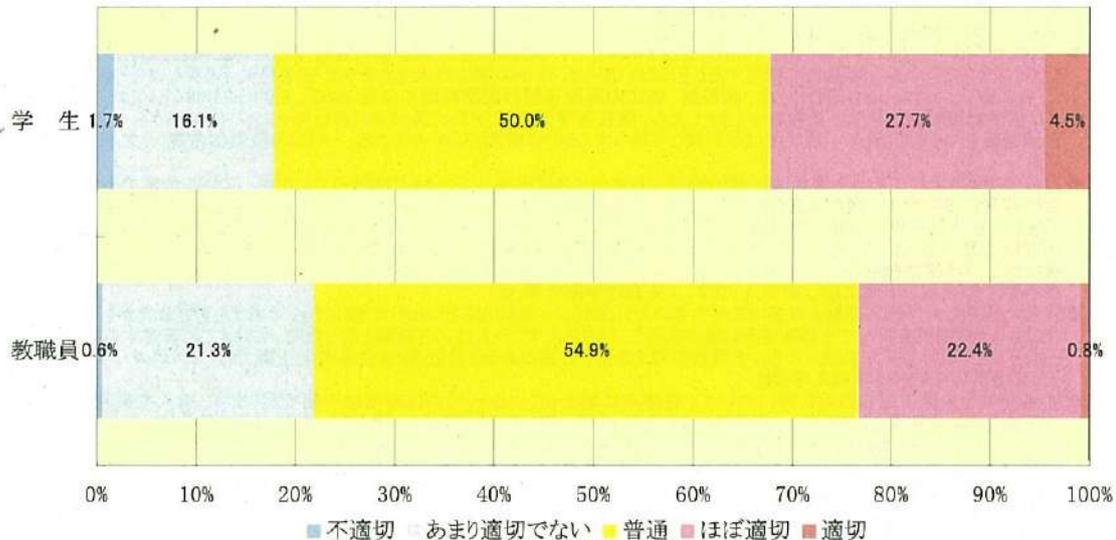
- 全学的な対処の機能を整備することが必要。(教授)
 - 構内で強盗に遭うなど、なってない。学生に入学時に“大学は物騒”という、注意を呼びかける以外、よい方法はないと思う。(教授)
 - 夜のキャンパスは不気味であり、夜遅くまで研究室にいることに不安を感じる。構成員の意識も低い(鍵の管理等)。(教授)
 - 実質的な「警備員」を配置してほしい。特に夜の安全性には問題点が多い。警備保障会社と契約すべきである。(教授)
 - 現状はひどく貧乏である。(教授)
 - 構内警備については、予算をつける必要があるのでは。(教授)
 - 外国大学のようなキャンパスポリス。(教授)
 - ここ数年来、差別落書が目に見える。京大全体としてこれほど嘆かわしいことはない。学生のモラルの低下にあると思うが、こればかりは手の施しようがないのではないか。(教授)
 - 防災対策などが徹底されていない。(教授)
 - セクハラが何であるかと、学生、教師でも十分に理解できている。(教授)
 - ②と同様にキメの細かい支援体制をつくること。(教授)
 - 構内警備は充実すべきである。(教授)
 - セキュリティー対策は念を要する。(教授)
 - キャンパス内で強盗や暴力事件が発生しているので、警備保障会社等に管理を委託するようにはいかか。(教授)
 - 夜間の構内警備に老人ではなく、もっと若い強そうな人を配置すべきである。(教授)
 - 現在のように、学生の課外活動と教官の教育・研究活動と分離していないと、セキュリティーも心配である(総合人間学部)。(教授)
 - 少し経費が高くても信頼できるガードマンを雇うべき。特に夏休み期間中の中高生による構内でのシンナー遊びも取り締まれないのは問題である。(教授)
 - 夜間の照明パトロールなど整備すべき。(教授)
 - 具体的対策を考える必要。セクハラ窓口の配置が十分かどうか要検討。(教授)
 - 非常に重要。ガードマンを配置してほしい。(教授)
 - キッチンとした対応、流れが学生や職員の目に分かりやすくする必要がある。(教授)
 - セクハラはそれなりの対策が立てられていると思う。しかし、構内のそのほかの警備は十分とは言えない。(教授)
 - セキュリティーは不十分。(教授)
 - 昔に比べればだいぶよくなっている。継続したい。(教授)
 - 私自身は構内で危険を感じたことはありませんが、重要なことなので、構内警備はより充実してほしい。(教授)
 - トイレなど清潔にする。(教授)
 - 柱キャンパスは公道がキャンパス内を走っている(?)ので、交通事故の対策が必要。(教授)
 - 構内の照明(外燈)が暗い。(教授)
 - 夏季に学外者が構内でうろついている。シンナー吸引者等の取り締まり強化が必要。(教授)
 - 各研究所にセクハラ委員はいるが、それ以外の専門のカウンセラーについては、窓口などが分かりにくい。(教授)
 - 盗難が増加しているようなのでセキュリティーをできるだけ上げる。(教授)
 - 構内警備は専ら駐車関係に専念している感がある。もっときめ細かい警備(私学並)が必要。セクハラ対策はもっと意識向上キャンペーンを充実する。(教授)
 - 建物管理と夜間出入りの対応策を検討。(教授)
 - セキュリティーの重要性について、更に宣伝を徹底してほしい。(教授)
 - 構内を開放し、公共の場として管理すればよい。監視カメラなどのシステムも必要。(教授)
 - 一方で行き過ぎに注意が必要か。(教授)
 - 形式的で機能していない。(教授)
 - 比較的良好にやっていると思う。(教授)
 - 必要な対策は行われているように思う。しかし、情報公開になっていない点がある。プライバシーは守らなければいけないが、情報を公開し、注意を呼びかけることも必要。(教授)
 - 建物が増設の度に、有機的に連携して建てられていないため、セキュリティーの死角がいたる所にある。それにしても対策はよく探られていると考える。(教授)
-
- 構内設備にもう少し力を入れるべき。夜間も出入りが自由というのは、学生にとっても大きな危険を及ぼしかねない。現実に京大周辺で引ったくり、恐喝などが起きているので、夜間の警備はもう少し厳重にする必要がある。(助教授)
 - 全学的に夜間見回りシステムを構築。(助教授)
 - 北部構内の夜間の定期的な見回りを実施する。(助教授)
 - セキュリティーは他大学に比べて甘い。犯罪の発生も有り得る。(助教授)
 - 特に構内警備には力を入れてほしい。自治会との対応から「警察が入れない」状況には、個人的には不安を持っている。(助教授)
 - 各部局の窓口とカウンセリングセンターのみならず、法律的な側面も含めてバックアップできるような体制づくりが必要だと思う。(助教授)
 - 強化すべき。(助教授)
 - 盗難:あまりにも無防備。(助教授)
 - 自治会との交渉が難しいですが、夜間のセキュリティーにかなり問題があると思います。夜間のみの監視カメラが付けられないでしょうか。(助教授)
 - 盗難事件が多発しており学生証、職員証のIDカードで入口をロックすべきです。(助教授)
 - 関係者以外が簡単に入れる点は問題にもなる。よい点もあるが。(助教授)
 - セクハラ同様アカデミックハラスメントへの対応も必要。健康診断と同様くらいに全員の検診を一度やった方がよいのでは? (バカバカしいかもしれないが、案外セクハラ、アカハラもどきは多い) (助教授)
 - カードまたは暗証番号によるキーロックシステムの全面導入。(助教授)
 - 京都大学として(学部内ではなく)きちんとした体制を整えるべき。特にアカハラ対策に関して。(助教授)
 - 実態不明。(助教授)
 - セクハラだけでなく、アカハラや職権乱用等が生じないよう、各構成員の自覚が必要。(助教授)
 - 構内警備はもっと強化すべき。極めて危険な状況。(助教授)
 - 日本ではこんなものであろう。(助教授)
 - 暗い場所に電灯を付ける。(助教授)
 - 夜間の警備を充実させる。(助教授)
 - ①被害者にカウンセリング等の対策が周知されているでしょうか。②セクハラ冤罪対策はどうなっていますか。(これも私が知らないだけ?) (助教授)
 - 鍵のかかる個人ロッカーの貸出しとトイレの改装をすればいいと思う。(助教授)
 - 総合人間学部でのセクハラ対策、不足。怪しい人物は氏名公表すべし。(助教授)
 - 夜間のセキュリティーをもう少し強化してはいかかでしょう。(助教授)
 - 最近は、ややよく流行っているのでは?と思う。(助教授)

- ドアのカードキー、暗証キー化。(講師)
- 自由で開放的な本学の雰囲気大切にしながらセキュリティを向上させていくのは難しいことだが、是非御検討下さい。(講師)
- 夜間の警備体制の強化とともに、内部から外部へ出る方策を考えるべき(夜間、閉門後に塀を乗り越えて学生が帰宅するのは危険。外部からの侵入を止めること、内部から外部へ出られるようにすることは、本来別のはず)。(講師)
- 夜間建物への進入のセキュリティ対策が必要。(講師)
- 各ビルディングのセキュリティ対策は強化せざるを得なくなると思われる。(講師)
- 特に構内警備はないに等しい。(助手)
- 盗難や学生の安全が脅かされるケースが度々ある。特に深夜。(助手)
- 犯罪が起こるべくして起きているようだ。少し無防備すぎるように思う。もう少し厳しい警備が必要。(助手)
- 夜間遅くまで大学院生や4回生が実験や研究を行っていることを考えると、照明は明らかに足りない。また、女性用の便所をしっかりと整備すべきだと思う。(助手)
- 警備所に人がいるのを見たことがありません(丸太町病院西側地区)。(助手)
- 対応が遅い(特にセクハラ・差別)。警告の後のフォローが甘い。(助手)
- すべての建物をIDカードにより出入制限する。(助手)
- 盗難、ネットワークセキュリティ対策が必要。(助手)
- ないに等しい。(助手)
- セクハラ問題は表に出ているもの以上に数多くあるはず。カウンセリングを充実させるとともに、教官の権限に左右されない学生の自由な組織移動や学位、博士号の申請の仕組みを確立してやる必要がある。(助手)
- 盗難対策を学内でもっと考えていかないといけないと思います。(助手)
- 吉田キャンパスにおいては、各種政治団体による勧誘が昼間より行われており、かつ夜間においては不審者(大人、バイク暴走等)の往来が多い。全面的な警備が必要かと思われる。(助手)
- 深夜のキャンパスのセキュリティ確保を一層充実させるべき。(助手)
- 構内警備や駐車駐輪の取り締まりについては、業者任せにしている部分が大きくないか。業者によって対応がまちまちで、かえって困惑する。経費削減によって、警備等の実質が失われている面を注視すべき。(助手)
- セキュリティ対策の運用が甘いと思われる。(助手)
- セクハラ問題はもっと処分を厳しくしてほしいです。大学のセクハラがとても目立つものである。盗難もよくあるので、もっと厳重な対策をしていただきたい。(助手)
- 学内に不審者(シンナー少年etc.)が多い。夏の夜、女子学生を一人で帰らせるのに不安を感じる。警備員を増やして不審者を一掃すべき。特に京大構内に逃げ込めば警察にも追いかけてられない、という状況を改善すべきだ。(助手)
- 構内警備は外からの危険を防止する役割もあるはずだが、内部に対する規制ばかりを行っている印象を受ける。誰のための警備なのか？(助手)
- 夜間の巡回警備の強化。(助手)
- 違法駐車車両は強く取り締まってよい。(助手)
- 特に夜間、事件が起こるのは問題である。(助手)
- IDカード。(助手)
- 夜間の構内照明について、犯罪(盗難、強盗)を抑止する観点から、整備を進めていただきたい。(助手)
- 警備員による夜間IDチェックを行うべき。(助手)
- セクハラについては、教員、院生ともに意識が高いとは思われないので、講習会などを開いて全員が(男女問わず)学習していくべきであると思う。(助手)
- 更に予算配分すべきである。(助手)
- 構内警備の強化が必要。(助手)
- セクハラ問題を担当する専門のセクションをつくる。建物のロックを確実にする。トイレに非常ボタンを付ける。(助手)
- アカハラ、セクハラは教官の序列が強すぎるために起こる。大学でも会社でも権力者に対する監査機構は必要である。構内での盗難、暴力は警察へ通報、届けを出すべき。一般社会のなかの京大である。(助手)
- 外部者が十分進入し得る状態であると思われる。警備会社との連携を進めるべき。(助手)
- セクハラ、構内警備ともに、時代の流れのなかで重要となってくる。(助手)
- 夜でも研究等の理由で、構内にいる学生は多いので、時間外でも構内警備に力を入れていただければ有り難い。(助手)
- 何とかしましょう。(助手)
- 起こさせないような雰囲気づくりが必要である。(助手)
- 夜に暗くなる地域をなくし、安全性の向上を望みたい。(助手)
- 夜間のキャンパス内の治安は残念ながら、あまり良好でないと思います。実験等で夜遅くなる学生もおりますので、夜間の構内警備はもう少し強化するのが、望ましいと考えます。(助手)
- お金ができれば、適切なセキュリティ強化をお願いします(不便にならないように)。(助手)
- セクハラ対策は女性の相談員を決めて、現在よく行われていると思う。構内警備などのセキュリティ対策は建物の外、中庭等にも非常ベル等設置して危険を他人に知らせるようすべき。(助手)
- 個々人が他人の気持ちになり、行動できれば特に対策等必要でなくなるのではないのでしょうか。(事務(技術)職員)
- 特に留学生が多くなり、対処に困っていることもあり、専門家の配置等が必要ではないか。(事務(技術)職員)
- 構内警備はやってないのと同じ。ガードマンの雇用、出入り口の24時間管理の徹底。(事務(技術)職員)
- 北部キャンパスや総合人間構内、果てには本部構内で「恐喝」や「ひったくり」が発生するなど、これまではなかった種類の犯罪が発生しており、時代の流れに沿った警備体制が必要な時期にきているのではないか。また、コンピュータなどの盗難も最近が目立っており、大学の防犯意識の甘さにつけ込まれた事件であると言える。こうした状況に対応する具体策については、教職員、学生等の意見も十分に把握し、実現を図るべきである。セクシュアル・ハラスメント対策については、機関毎に相談員が設けられている。しかし、実際に仄聞している事例は、しばしばその学部等で発生しており、当事者が内部同士である場合、相談しにくい、効果が期待できないなどが予想されるため、現在の体制とは異なるもう一つの情報が円滑に流れる仕組みを構築する必要があるのではないかと思う。大学内には、例えば庶務系であれば職員の、教務系であれば学生の、病院であれば患者のプライバシーが大量に保管されている。近年は書類によるものだけでなく、記憶媒体による情報管理が進んでいる。現在、コンピュータを使用した情報処理は事務組織のあらゆる局面に使用されており、たとえ紙媒体による情報管理が万全であっても、特にコンピュータウイルスへの対応が不十分な場合、致命的な状況につながりかねない。このような事態に陥らないために、今すぐ実行できるセキュリティを実行する必要があると考える。(事務(技術)職員)
- 事故発生後は手遅れのため、巡回の強化、すべての出入り口に監視カメラ(24時間)を設置する。(事務(技術)職員)
- トイレの落書き対策。構内警備(スクールポリスの設置)。(事務(技術)職員)
- 教官の世間知らずのなせるワザか？(事務(技術)職員)
- 照明を再チェックして、暗い部分をなくする。研究等で残留する場合は、一定時刻以降は届け出るようにして、不法侵入者との区別がつくようにして、警備より退出させる。(事務(技術)職員)
- 部局の相談窓口は女性を主に配置すべき。構内パトロールを強化。(事務(技術)職員)
- 夜間であっても学生が被害を受けないようなセキュリティ対策の改善を望む。(事務(技術)職員)
- 人権思想をより高めていく必要があると思う。なお、構内の整備を含めて、安全性の確保が必要。(事務(技術)職員)

- 女子学生の増加が見込まれていることから、セキュリティー対策は重要であり、構内の安全を確保するため、ガードマンによる警備・巡回が必要。(事務(技術)職員)
- 大学の自治は教育・研究における自治であり、教職員・学生の生命、財産に危害が及ぼうとするときは、被害者の要請による警察官の立ち入りを認めるべきである(評議会における事後承認)。将来的には学生カードを磁気化し、学籍図書、生協、入退室等すべてのサービス提供を受けられるものとするべきである。(事務(技術)職員)
- セクハラ対策はもっと窓口の存在を知らせることをし、相談しやすくすることが大切。(事務(技術)職員)
- 職員での対応には限界があり、委託するなど専門家での対応が必要。(事務(技術)職員)
- 夜間警備員の構内巡回(自転車盗難も多い)。(事務(技術)職員)
- 学内は無法地帯である。警察も入れないのでガードマンを雇うなどして構内巡回(特に夜間)を推進し、防犯に力を注ぐべきである。(事務(技術)職員)
- 今のままでよいと思う。(事務(技術)職員)
- 夜間は警備員による巡回をこまめに行うべきである。(事務(技術)職員)

- ほとんど無法地帯といってよい。
- 学内全体としてのシステム的なセキュリティーの整備が必要。

5段階評価による総合的判断とその他ご意見をお聞かせ下さい。



【自由記述】 その他ご意見

- ◆学生支援にあっている、ということに気がすらしませんでした。放任はよいのですが、学生がその気になったときにそれをサポートするくらいの整備はしてほしいです。進路、課外活動、留学、研修など学生のやる気をサポートする部門、しっかりしてほしいです。あと、各学部教務掛の人達、コフ過ぎます。何もしていないのに怒らないでほしいです。学校の職員の人達にもA大くらい、とまでは言いませんが、学生に手を貸してあげようという気持ちをちょっと持ってほしいです。もちろん協力的な方もたくさんいらっしゃいますが、学生自身に自立する心がなくなっているのもあるとは思いますが、どっちもどっちですね。(総人,H13学部入学,女)
- ◆全般的に学生のニーズに対応しきれていない形骸化したサービスが多いように感じる(例:バイト紹介、健康診断など)。サービスの提供を行うからには、質の追求を徹底してほしい。(総人,H12学部入学,男)
- ◆各教務窓口、特に〇〇〇掛の窓口の態度改善。・広報の徹底。「らいふすてーじ」その他の活用。・禁煙の徹底。(総人,男)
- ◆4年以内に退室が迫っている教官のリストを学内向けに作ってほしい。取りたい授業が突然消えたり、内容変更されても困る。・昼休みにも教務掛の窓口を使えるようにしてほしい。・「学生支援」にあたるかどうかは分からないが、スライドやプロジェクターによる授業は口頭授業以上にノートを取りにくい(書き写す前に画面が変わってしまうし、グラフなどの資料はとも写せない)ので、レジメの配布を義務付けるか、配付資料と口頭による授業かに切り換えてほしい。(総人,H14学部入学,男)
- ◆①留学生との交流、②ボランティア活動の紹介、③外国語学習の支援、に力を入れてほしいと思います。(総人,H13学部入学,女)
- ◆ただ建物が乱立するだけでなく、美しいキャンパスになるといいです。(総人,H11学部入学,男)
- ◆下宿やアルバイトの紹介などはなくても個人でなんとかなるが、キャンパス整備などはどうしようもない。大学にしかできないことを重点的にしてほしい。(総人,H11学部入学,女)
- ◆基本的には今のままで十分であると思うが、学生が何かをしたい際に、それに最低限応えてくれる程度のサービスを期待しています。学生の能力を最大限生かせるような、よりよい環境を整備していただければよいと思います。(総人,H11学部入学,男)
- ◆教務掛などは昼休み時間をずらすか、交替で休憩してもらえれば、学生としては大いに助かると思う。市役所や郵便局ではそうしているので、検討していただければと思います。また、〇〇〇掛でのレポート提出の際、糊やホッチキスを貸さないのには、何か理由があるのでしょうか？細かい事ですが、貸してもらえれば助かります。(総人,H13学部入学,男)
- ◆「学生支援・学生サービス」については、あまり意識したことはなかったが、特に不自由を感じたことはありません。(総人,H12学部入学,男)
- ◆学生が何を求めているのかは、本当に様々だし、時代によって変わるから、今何が一番力を注ぐべきかというのは難しいけど、やっているならそれが学生に伝わってないあまり意味がないと思う。学生の方が気付いて使っていくサービスだけに、もっと内容を知りたいと思ったし、知らせてくれるようなものもつくってほしいと思いました。あと、漠然とした「～したい」と思っても、具体的にないから、あまり聞きに行けない思いがある人が多いのではと思います(進路、留学等)。基本的なことを教えてくれる勉強会や、その紹介をしてもらいたいです。そして、もっと社会というか対外的な活動や組織と関係を持って、京大だからこの方面の情報だけ、というのではなく、いろんなつながりを持つようにできればいいのではと思います。例えば、NGO団体、ボランティア活動を紹介したり、社会と関係性のある文化活動を紹介したりすることとか。(総人,H12学部入学,女)
- ◆僕自身、学生支援・サービスといったものに頼るケースが経済事情に偏り、またそのほかのサービスを受けた経験はさほどありません。経済事情が苦しいながらも自分の手である程度の収入を獲得しながらも計画的に両立して大学に通う生徒の存在についてはもう少し考えてもらいたいです。気になるのは「ある程度」の収入を得ることで授業料を払わないといけない事情が発生するケースが増えることです(私もそうです)。こういう学生の「やる気」を削ぐようなことはやめていただきたい。あと一つ、本部キャンパスでのケースが多いのですが、京大生以外の学生さんが、大学院入学希望等で訪れる場合において迷われる場合があります。私達学生が案内して差し上げることもありますが、もう少し初めての人にも分かりやすい道標等を築いてあげた方がいいです。(総人,H11学部入学,男)
- ◆全体的には、様々な取組みがなされており、よいと思う。今後は更に進路相談、就職相談を1回生の時点から積極的に行う必要があると思う。1回生の時点では、学生は進路について深い考えを持っていないので、本学から深く関心を持たせるような機会をつくるのが求められる。「何となく院進学」という学生が多いのが問題だと思う。(総人,H11学部入学,男)

- ◆私は普通の学生生活を送っているつもりなので、この評価点は厳しめに付けた、というわけではない。厳粛に受け止めていただきたい。大学側はすべて何かが起こってからの対応であり、その対応も極めて表面的で中身が伴っていないと思う。小さなことだが重要な例をひとつ。学生に対する通知はすべて掲示によって行うといわれているが、その掲示板にはカバーがない。もし誰かが掲示を持ち去ったり、あるいは風で飛んでいったりしても学生側には分からない。そのようなことで連絡が来ていなくても学生が掲示をチェックしていないからという理由で片付けるのは大学側。他大学では当たり前のようにカバーがかけられている。小さな例だと書いたが、これがすべて物語っていないだろうか。要点はひとつ。学生の側に立ったサービスを。ご自分が学生になったつもりで考えていただきたい。このような調査を行った上で「何も」変わらない、というようなことがないように願っている。早急な対応に期待する。(文,H12学部入学,男)
- ◆卒業するということ以外でほとんど利用したことがない。というのは総合人間学部の窓口での対応に呆れ、ほとんど当てにしくなってきたからだ。今後も積極的に利用することはないだろう。ほかの学生の大半もそうだろうと思う。もう少しこやかな対応を願う。特に総人。今ももっと望むことは、図書館、特に附属図書館の開館時間の延長である。8:00~24:00くらいはやってほしい。また工学部移転後に新しい箱物をつくるとしたら、現在各学部には散らばっている本(吉田キャンパス内のみ)を一堂に集めた総合図書館をつくってほしい。現状では本を探して持ってくるのに時間がかかりすぎる。ATMの設置は常識。(文,H12学部入学,男)
- ◆7)の中で取り上げてあった項目は比較的現在でもサービスは充実しているものばかりでしたが、ほかに日常で不便だと思う機会は非常に多いです。例えば窓口の人の対応が悪く、要領を得なかったり、嫌な気分になったりする。窓口の閉まっている時間が短い。昼休みや帰りに開いていないため、授業をさぼらないと行けないことがある。図書館の開いている時間が短い。これも図書館で調べなければならないことがあるために授業を休まざるを得ない。→授業に出ないことを想定してそうされているようで嫌な感じ。休講情報をもっと分かりやすくしてほしい(HPで公開するなど)。全体的にもっと改良の余地があると思います。相手も学生でもう少し丁寧に接してほしいです。(文,H12学部入学,女)
- ◆社会の現実と大学側の認識との差はまだ大きいように思う。一昔前ならどうも「院に」という考えも許されたかもしれないが、今はもっと危機感を持って生活を送る必要がある。「とりえず」の人はいざ就職となった時、ものすごく苦労すると思う。セミナーなどしっかり行って、1回生のうちから現状を考えさせる必要があると思う。勉強会等大学主導で行ってほしい。大学の信頼も上がると思う。(文,H11学部入学,男)
- ◆教務掛や厚生課の窓口の対応等について、昼休みに閉まっているというのは非常に不便で困ります。総人や教育学部の窓口で不快な思いを何度もしましたし、周りの人にもそういう思いをしたことがあるという人もいます。よく分からないから聞いているのに、つっけんどんに言われたり、始めから学生の方に非があると決めてかかった対応をされたり、本当に気分が悪いです。学部や掛の人毎にそれぞれ差があると思いますが、改善を是非してほしいです。(文,H11学部入学,女)
- ◆「自由な学風」を謳っており、大学生を大人として扱っているのは十分承知ですが、特に入学当初の不慣れた時期の学生支援を充実する余地はあると思う。過剰なサービスは望んでいないので、学習、事務手続きに焦点を合わせた質の高いサービスを期待している。(文,H11学部入学,男)
- ◆お役所的すぎる。窓口や図書館の開いている時間が短く、職員も感じ悪い人が多い。昼休みに閉まってしまう健康相談所(?) (診察してくれる所)も、昼休みをずらすなどしてほしい。(文,H14学部入学,女)
- ◆各々の支援内容としては十分に評価できるものがあると思う。しかし、各学部の窓口で個別に対応しているサービスについては、多くの学生が不満を持っているのも事実である。学生が不満に思っているのは、事務員の方の対応の仕方である。サービスの質には問題なくても、対応次第では相手に不快感を与えてしまうものである。高質のサービスと同時に、精神的な満足も与えられるようなサービスを目指してほしいです。(文,H12学部入学,女)
- ◆不必要なスペースや不整合な設計が多いと思う。私は総人1号館のようにどンドン建て替えを進めていいと思う。(文,H12学部入学,男)
- ◆学生が不便なく学生生活を送れるようにするという点で、支援やサービスはある程度なされていて評価できると思うが、少し力を入れていかなければならない面や課題もあろう。履修等の質問や相談は窓口に行くと比較的親切に教えてくれるものの、その前にもう少し学生全体に対して分かりやすい説明の機会等が必要なのではないだろうか。学生自身に任せるとするのは構わないかもしれないが、最低限の勉学の方法や履修の仕方などのアドバイスを全体的に行う機会があってもよいのではないかと。構内のセキュリティレベルは様々な面で低いと感じることがある。オートバイの規制は安全確保になったと思うが、自動車の構内あまり制限がないのが不満に感じられる。業者等の自動車入構はやむを得ないが、それ以外の私用の入構は制限すべきではないか。駐輪場に入りきらない自転車とそこを通る自動車により、構内の交通は秩序を欠き、危険なときがある。(文,H12学部入学,男)
- ◆生協が行っている食堂や購買部については充実している。ほかの大学に引けを取らないのではないかと。各種証明書の発行は、学校としての義務というかすべき仕事であり、サービスとして誇るべきものではない。むしろコピーして印鑑を押すだけの紙切れ一枚に数日を要する現在のシステム、怠慢さを恥じるべきだ(自動発行機が導入されたとは言え、成績証明書は依然数日かかる。就活のときに苦労したのを覚えている)。(文,H11学部入学,男)
- ◆他大学がどのようなことを行っているのか分からないので、何とも言えないが、理系と文系で(特に文学部)学生の処遇に大きな差がある。文学部一部の学科?の学生に院生部屋etc.がなかったりして(もちろん個人の机などもない)、そういう点を何とかしてほしい。(文,H13修士入学,女)
- ◆アルバイト紹介を様々な業種に広げてほしい。(文,H14学部入学,男)
- ◆附属図書館だけでなく、ほかの学部の図書館も夜遅くまで使えるようにしてほしい。5限後の18時にはもう利用できないので不便なことが多い。教務窓口も同様に時間を延長してもらえると便利になると思う。(文,H14修士入学,男)
- ◆大学だから、図書館はどんなことがあっても充実すべきだと思う。あと、事務的なことは学生の時間を取らないスムーズな対応ができればよいのではないかと。(文,H13修士入学,男)
- ◆個人的には現状に満足している。ただ、厳しい経済状況のなか、学生支援・学生サービスの質が落ちないことだけを切に希望している。(文,H13修士入学,男)
- ◆自由という学風は素晴らしいことであるが、現在の京大はそれを最大限に生かしてきていないと思う。・セミナーハウス(映像機器の自由利用なども含めて)など、学生が仲間で集い議論する場があまりにも少ない(夜間も含めて)。・大学改革のなかでこのような自己評価プログラムがあるのだろうか、一番の大学改革への近道は、大学内で活動する主体がいかに生き生きと活動するようになるかということであるのだから、大学におけるマジョリティである学生が、何かをやるうと、頑張ろうとしているときにピンポイントでサポートできる大学サービスを実現してほしい。・大学の研究者が成し遂げた最先端技術を、大学内部にも今以上に還元していただきたい。(教,H11学部入学,女)
- ◆教務窓口の人や○○○受付の人の態度がでかくて、不愉快な思いをしたことが何度もある。サービス業なのだから、もっと適切な態度をとってほしい。とにかく不親切で仕方ない。(教,H14学部入学,女)
- ◆駐輪場整備や清掃の面は改善されてきたように思う。サービスのなかで、自分が知らないものいろいろあって、この調査ではじめて分かったものもあった。(教,H12学部入学,女)
- ◆細かい点で改善点はあるものの、全体的に質の高い学生支援が提供されていると思います。教育学部は少人数なので、学生と事務の方のコミュニケーションも取りやすいようです。今後も学生支援・学生サービスの向上に努めていただけますようお願いいたします。(教,H14修士入学,男)
- ◆何がサービスだ。不親切、不要、不愛想、サービスの要件は何一つ満たしていない。税金のムダ使いもいよいよ加減してほしい。くだらんサービスに金を使うなら、授業料を下げた方がよっぽど学生のことを考えていると思う。中途半端はいかん。こんな機会を設けることは評価できる。とにかくサービスをしていることをもっとアピールして、一人でも多くの学生に利用してもらいたいという姿勢がほしい。この機会に体質改善を望む。(法,H13学部入学,男)

- ◆身近なこととして、教室がいつも暑い。エアコンがあっても、運転していきなかつたりするので。環境を考慮するにしても、学生の環境をもっとよく考慮して下さい。(法,H12学部入学,男)
- ◆改善を促す意味を込めた「2」であり、最低限の取組みは行われていると思う。いくつか気になったことを書くと、図書館等の利用拡大に対する取組みが足りないのではないかと。(設問1)においても、それを求める項目がなかった(6に含まれるのかもかもしれないが、例示を見ると、空間的な整備について偏っており、特に時間的な整備を要する図書館・博物館・事務室などが想定しにくかった)。研究を中心とする本学にとって、図書館の利用時間に制限があるのは大きな問題である。夜間利用希望者もかなり多いように思うので、追加的な電気代、人件費といったデメリットよりも、利用拡大のメリットの方が大きいと思う。事務室については、せめて学生の昼休みと事務室の昼休みをずらしてほしい。もっとも気になったのが、桂キャンパスについて、何ら言及がなかったことである。当調査が「これまでの学生支援について」であることは確かであるが、(設問1)にも見られるように「今後の対応」という視点も含まれていると考えるならば、明らかに不当な扱いである。工学部生にとっては、死活問題である一方で、それに対する説明というものがほとんどなされていかなかったように思える。このような過去の取組みに対して自己評価する点は、非常に有意義なものと考えられるが、以上見てきたように、本学の将来計画といったものは学生や事務員などに対して、開かれていたものだとはいえない。こういった点を改善していくことが切に望まれる。最後に乱筆かつ脈絡のない文章で申し訳ありません。また事務の方々は大変忙しい日々でしょうが、これからも京都大学をよろしく願います。(法,H11学部入学,男)
- ◆教務掛の事務の時間を延長あるいは、変更してほしい。例えば事務と学生の昼休みの時間をずらすなどして利用しやすくしてほしい。(法,H13学部入学,男)
- ◆頑張っていると思うが、前述したように不備も多くある。(法,H13学部入学,男)
- ◆銀行・郵便局のATMがないのが、非常に不便です。また、図書館の閉館日が重なることが多く、非常に不便を感じています。休みの日をずらすなどの工夫を各図書館でしていただくことはできないでしょうか。学生が自由に使えるゼミ室や議論できるようなピロティのような施設が少ないように思われます。誰でも、いつでも自由に使用できるようなそういう施設がもっと増えてほしいと思います。(法,H12学部入学,女)
- ◆奨学金などの経済的支援は、現在の社会情勢にあつて、とても助かります。図書館の利用が終わる時間が早い日があったり、休日こそ図書館で勉強したいのに、閉まっていたりするので、もう少し開館、日にち、時間を増やしてほしいです。(法,H12学部入学,女)
- ◆学内便について。法学研究科では、専修と研究者コースとで研究室が属する建物が異なるのに、書類や葉書はすべて研究者コースの方に送られてくる。分別して下さい。(法,H14修士入学,女)
- ◆放任主義は結構なことだが、「少しやる気のある者」に対して、もう少し親切であつてよいと思う。教官が質問に答えて下さる時間を設けるなど。学内が手狭な状況は郊外への移転を促すべき。車は邪魔なので、外に駐車場をつくりましょう。でなければ土地の不経済利用です。そして事故が起こります。(法,H14修士入学,男)
- ◆一部の職員が悪すぎるのと、不合理な制度が多いことが不満です。例を挙げると、○○学部図書館職員の態度が悪すぎます。こちらが丁寧に話しかけても、なぜか常にけんか腰で対応されます。農学部と工学部の図書室が電子化されていません。本を借りる場合、法学部で書類を書いて、行った先で、また書類書いてそれからカード検索して、しかもそれで本が借りられるとは限りません。数十年前設備投資はしていないのでしょうか。大学院生同士で勉強会したいので、個室を借りようと思つたところ、借りられないような場所もありませんでした。法学部の事務の対応も悪い加減で、どの部屋が空いているのか公開もしないし、おそらく把握もしていません。借りようと思つた本がないことがしばしばあります。特に教授等が借りてしまうと、そこから帰つてこなくなり。全体として私学に比べて学生が勉強できる環境が整っていません。職員の態度もやる気がありません。早く民間化されればよいと思います。(法,H13学部入学,男)
- ◆施設について清掃が定期的に行われていません。建物は新しいのに、中身は相当汚いです。毎日清掃するようにしてほしい。特にトイレ。学生サービスについて就職のお世話をした方がよいと思います。学生が集まれるスペースが少ないと思います。屋外にはベンチなどを多数設置し、屋内でもソファやテーブル等を設置して、サロンのような空間をつくるようにしてほしいです。(法,H13修士入学,男)
- ◆自由放任的な姿勢は好ましいが、経済的な側面、特に就職支援等についてはより力を入れてほしいと思う。(法,H12学部入学,男)
- ◆入学したときよりも、クーラーが設置されたり、校舎が建て替えられたり、新しいパソコンに変わったり、駐輪場が整備されつつあつたり、改善努力が認められる。しかし、法学部のカリキュラムについては、同じ時間帯に司法試験や公務員試験の科目が重なつて片方しか受けられなかつたり、週2コマあるうち、1コマだけがほかの教科と重なつていたり、学生の就職対策と関連して、まだまだ改善すべき点が多い。今は5限はゼミしかないが、授業はもっと増やして対応すべきだと思う。(法,H11学部入学,男)
- ◆あえて挙げるなら、事務の受付の方にも少し笑顔がほしいです。時々怖い雰囲気すら醸し出しています。(法,H10学部入学,男)
- ◆時計台北側の中庭が失われたことは学内環境を大きく損なつた。これは研究活動を行う上で大きな損失であると考えられる。記念館は必要なのか疑問を感じる。(法,H14修士入学,男)
- ◆セクハラ対策、カウンセリング、進路指導など一定の業績を上げているものについては好感が持てるし、今後も一層の充実を求める次第である。ただ、それらについてもそうだが、全般的にシステムが分かりづらく、透明性のない部分が多すぎる。誰にとつてもフェアで明確なものにする必要がある。学生に対して現在も管理的な姿勢をとる部分が少なくない。学生側の意見・立場を普遍的に知っておく必要があると思う。課外活動や学生会館など学校側の一方的な計画では、学生側は反発し、不満を覚え、大学への信用を失うことになるだろう。大学側が情報を公開し、お互いに熟考を重ねた上での整備をするべきだろう。サービスを提供する学生の要求を満たすものが少ない。ATMを学内に設置するべきだ。ほかの大学でATMのない大学を私は知らない。大学の周りに銀行、郵便局はあるものの、その利便性は低く、常に混雑している。各生協、食堂にATMの設置を要求する。そして、図書館、教務窓口の延長も同様である。学生の生活も多様化する現代では、それに対応できるサービスを提供すべきだ。図書館については、更にその必要性が高く、閉館時刻の早い現在は、学問の自由性を制限していることになるように思う。予算、担当人員等、難しい部分もあるだろうが、何より優先して改善すべきである。(経,H13学部入学,男)
- ◆至れり尽くせりである必要はないが、自分の範囲外の業務に関してもう少し誠意のある対応を見せてほしい。(経,H12学部入学,男)
- ◆一昔前に(?)総人で学校に来ない学生宅に家庭訪問するとかいう話があつたと思いますが、学生を子供扱いすることと学生支援とは同じではないと思います。京大にしかできない学生支援を期待しています。(経,H12学部入学,男)
- ◆何をしているのかが、よく分かりません。もう少し大きく宣伝(案内)してもらえたら、利用しやすくなると思います。(経,H12学部入学,女)
- ◆学生で本学のサービスがよいと思つている者はいないと思われる。ただ、それはそれで構わない、と思う。なぜなら学内のサービスがよいばかりに学生がそれを利用し、学内の方ばかり向いているというのは学生の目と自立心を損ねるからだ。ただ、学生側が困っているならば、学校側は救いの手を差し伸べるべきだ、という意味でカウンセリングくらいは充実している方がよいと思われる。相談できる相手がおらず悩んでいる人も多いのではないかと。(経,H13学部入学,男)
- ◆可もなく不可もなくという感じ。(経,H11学部入学,男)
- ◆我慢ならないほどの不満はない。このアンケートで初めて知つた活動もあるので、もっと皆が分かるようにアナウンスしてほしい。また、分かりやすい説明もほしい。(経,H13学部入学,男)
- ◆図書館の開館時間をもっと延ばしてほしい。宇治の中央図書館は19時ごろまで、附属は欧米並に24時間化してほしい。(理,H13学部入学,男)
- ◆京大のような大人数の学生がいる所では、学生個人個人の要求に応えるのは非常に難しいかもしれないが、それらに嫌な顔せずに対応してほしい。かなり抽象的な話になるが、京大は自由な学風があるとされているなら、学生が大学からサービス・支

援を受ける自由もあるのではないかと考える。大学側から一方的にサービスを与えるのではなく、学生の意見に応えるべくこのようにアンケートを取っていることは非常によいと思う。このアンケートを基に更なる改善が図られることを期待する。またこのようなアンケートをこれで終わりというのではなく、学生が直接、学生支援をなどについて相談できる窓口があればと思う。(理,H14修士入学,男)

- ◆特にインフラ面での学生支援が不足しているのが現状だと思うが、何とか努力してほしい。その際、単に学生が必要とするものをそろえるのではなく、京大が積極的にそろえていきたいものを学生に納得してもらいながら整備する型をとって、独自性も出してほしい。あと、学生サービスという意味も含めて、教官の増員と建物の整備は早急に行ってほしい。(理,H14修士入学,男)
- ◆経済面での支援が不十分である。特に院生は研究に忙しいため、アルバイト等で学費を賄うのが困難なことが多い。授業料免除や奨学金など、学部生とは収入が異なることを考慮して、前向きな処置をお願いします。(理,H13修士入学,男)
- ◆根本的に職員が学生を見下して、学生と見ると極めて横柄な態度で接してくるあたりの意識改革がちゃんとなされなければ、色々の支援・サービスをいくら拡充したところで無意味に思われる。(理,H13修士入学,男)
- ◆十分ではない部分もあるが、必要最低限の機能は果たしていると思う。(理,H12学部入学,男)
- ◆教務窓口の受付時間についてですが、学生にとって一番利用しやすく、一番利用したいと思う昼休み(12時～13時)に開いていないのは非常に不便で、非合理的だと思います。例えば、教務窓口の昼休みを11時30分～12時30分にするなどの対応はできないのでしょうか。(理,H11学部入学,男)
- ◆基本的に他学と比較して極端に良くも悪くもないと思う。苦しい経済情勢のなか、多くを望む気もない。しかし、証明書発行や履修案内がアルバイト紹介と同列に「学生支援」と扱われているのには驚いた。給与支払いや人事は会社にとって業務であって社員サービスではないだろう。事務方が事務的に進める窓口業務を「学生に対するサービス」とするのは違和感がある。また、個人的ではあるが、指導教官が連日会議に引張り回されて困っている。教員の本分は教育と研究なのだから、あまり時間を取らせないでほしい。(理,H14修士入学,男)
- ◆全体的に良くも悪くもないと思う。何か特徴がほしいと感じる。(理,H14修士入学,男)
- ◆学生と大学の唯一の接点である教務窓口での、職員の態度の悪さに閉口してしまうことが多々ある。職員の日々の心掛け次第で、「学生支援」というものは飛躍的に向上されると思われる。(理,H13修士入学,男)
- ◆ほとんどのサービスは昼休みに利用できないが、特に講義の多い学部生にとっては「用があるなら講義をサボって来い」と言われているようで問題だ。20～30分でもいいから昼休みの時間をずらすなど、それなりの工夫ができるはずだ。・生協の「ひとことポスト」みたいな苦情や要望を受け付ける手段があればいいと思う(大半は茶化しの投書になるかもしれないが)。・証明書の発行機は夜間も使えるようにしてほしい(せめて20時が21時くらいまで)。(理,H13修士入学,男)
- ◆あまり支援・サービスを受けてないので、総合的判断は難しいところですが、今まで受けてきたサービスを見るとまあまあでしょう。ですが、生協等が行っているように支援を行うのみならず、その支援を魅力あるように見せてほしいと思います。今の状態ではちょっと・・・という感じがしています。利用者が増えることで更に洗練されていくのでは。(理,H13学部入学,男)
- ◆特に不満はない。(理,H12学部入学,男)
- ◆証明書発行が機械でできるようになったのは便利でよいと思います。土曜の利用はできないでしょうか?・アルバイト紹介について、以前(3年以上前ですが)じゃんけんで決めていましたが、家庭教師については、面談(家族との)や何らかの基準や、アピール用紙を記入するなど、ほかの方法で抽選した方がよいと思います(依頼する側として)。・構内でよく道を聞かれるので(「○○研究科は・・・?」など)、案内を随所に施すとよりよくなると思います。・ゼミやサークルの活動のために教室をもう少し開放していただけたら嬉しい。(理,H14修士入学,女)
- ◆個人的に学生部の方々には、様々な支援をいただけており、心から感謝しております。それとは別に、北部キャンパスについてですが、農学部、理学部ともに、駐車場、駐輪場の整備の方をお願いします。また、道が悪く大きな荷物(例えば、液体窒素)の移動には、不自由しています。改善の方よろしくお願いします。(理,H14修士入学,男)
- ◆今後も役立つサービスの提供をよろしくお願いします。(理,H13修士入学,男)
- ◆おおむねよいが、公共施設(体育館、プール)の整備がよくない。予算がなく大変と思うが、そういうところにも目を向けてほしい。Webにアルバイト情報が出ていると厚生課まで行かなくてすむので検討してほしい。(理,H13修士入学,男)
- ◆特に気になることはないが、もっとよくするという意味で、6)に挙げられているようなことは考えてもいいと思う。生協に昼休みに行くと、人が多すぎて全然くつろげないので、もっとくつろげる空間がほしい。(理,H14修士入学,男)
- ◆あまり関わりがないのでよく分からない。(医,H11学部入学,男)
- ◆特に不満はない。(医,H10学部入学,男)
- ◆もっと魅力ある企画を行ってください。(医,H10学部入学,男)
- ◆教務の開いている時間が授業のある時間帯だけというのはおかしい。授業をサボらないと行けないではないか。教務はもう少しその点を考慮すべきである。(医,H14学部入学,男)
- ◆全体的に学生に対するサービスはよいとは思えない。特に教務掛はお昼休みに完全に機能を停止しているし、5限終了時には業務が終わっており、真面目に授業に出れば利用できる時間はほとんどないなど、時間に関しての不満が一番強い。また、一応サービス内容の告知は行っているものの、掲示板に授業関連のものより小さなビラを貼ってあるなど、お世辞にも十分な告知が行われているとは思えない。高校までのようにHPがあるわけではないので、全学生に情報が行き渡るようにするのは難しいのは事実だが、もう少し大規模な告知を行っていただきたい。(医,H14学部入学,男)
- ◆進路などのガイダンスをしっかりした方がよい。インターネットを使った情報サービスを充実させる。掲示板のプリントが見にくいのでその整理をするべきだし、インターネットで見れたらよい(特に重要)。(医,H11学部入学,男)
- ◆学生支援・サービスは別にそれといった不満はない。それ以上に本業である講義や実習についての改善を優先すべき。(医,男)
- ◆京大の自由な校風は本当によいと思っています。ただその反面、放任主義的な面があるというか、学生の面倒を見るという点では、冷たすぎるように思えます。もっと学生にとって分かりやすく、利用しやすい大学であってほしいと思います。(医,H14学部入学,女)
- ◆実際に感じてこのようなサービスを実感することが少ないので、何とも言いようがないのですが、削除できる部分は削除したらいいと思います。教官をもっと身近に感じたいと思います。かなり身近だと思うのですが、やはり忙しいので。その意味で、気軽に教官とコンタクト取れたらと思うときはあります。(医,H11学部入学,男)
- ◆別に大学が何かやってくれることを期待していないのでこのままでよい。(医,H10学部入学,男)
- ◆学食の充実を。少し位高くてもいいので、衛生面と健康面に力を入れてほしい。あとおいしさ。(医,H10学部入学,男)
- ◆多くの医学生が口にしてはいることだが、○○学部教務掛の対応が非常に機械的で愛想がない(人にもよるが)。サービス精神という考えはないのだろうか。(医,H9学部入学,男)
- ◆学生支援やサービスについて総合的に見れば、特に不満はありません。今の研究科(医学研究科修士課程)の講義カリキュラムの改善の方が重要な問題だと思います。例えば、医学部・研究科での学生による講義、教育評価(全学で行うのももちろんよいと思いますが)を行い、それを講義やカリキュラムに反映させる制度が、公式に行われるとよいと思います。6)に含めるべきだったかもしれませんが、長くなるのでこちらにしました。(医,H14修士入学,男)
- ◆どこに行けばどのようなサービスがあるのかが不明瞭と思うので、もっとオープンに、学生がいつでも情報を取り出せる状態をつくってほしいと思います。(医,H14修士入学,女)
- ◆6)に挙げたような学習支援の方により力を入れていただければと思います。(医,H12学部入学,男)
- ◆各種サービスが行われているのかもしれないが、そのことが学生にはほとんど伝わっていないのが実状のように思われる。(薬,H13学部入学,女)
- ◆基本的に学生の自由の雰囲気が強くて出ている学校なので、仕方がないかも知れないが、どう考えても、学校側が積極的に支援

- している感じは受けない。特に就職活動に関しては何もしてない気がするので、法人化を迎えるにあたって改善策を検討すべきだと思う。(薬,H12学部入学,男)
- ◆中央図書館の休館日が多すぎ。また夏期など休暇中の閉館時間はどう考えても短すぎると思う。休暇中といっても院生は毎日学校に通い研究を行っているので、17:00に閉められると非常に不便。何とか延長していただけないでしょうか。(薬,H14修士入学,女)
 - ◆私は薬学部に所属しているが、何をしても本部キャンパスまで行かないといけないのが、非常に大変である。アルバイト紹介や健康相談など利用してみたいものはいくつかあるが、本部まで行くと面倒になる。南部キャンパスの近くに学生部の別室みたいなものを設けてもらえたら…と思う。(薬,H12学部入学,女)
 - ◆学生課の場所が辺鄙な所にあるので、学生課の場所をもっと人が通る場所(例えば総合人間構内など)に設置していただくことを望む。また、アルバイト募集などの掲示板の内容をインターネットの大学のホームページの学内掲示板に載せてほしい。学生支援やサービスの内容があまり浸透していないように思うので、もう少し、その内容をPRするべきだと思う。そのためには掲示するだけでは不十分であり、呼びかけることも必要であると思われる。こういったことを呼びかけるのにガイダンスを用いるのなら、ガイダンスは有用であると思われる。(薬,H12学部入学,男)
 - ◆必要な設備・サービスはほぼ整っていると思う。ただこのようなサービスは利用してもらわなければ金の無駄なので、もっと利便性の向上や存在のアピールをするべきだと思う。(薬,H12学部入学,男)
 - ◆私達はあくまでも自らの意思で学びに来ているのだから、大学があれこれ手を回す必要はないと思う。そういう意味で、京都大学の自由な学風が守られていたらいい。学生支援サービスについては、ちょっとしたこと(例えば、どここのトイレが汚いとか、～は不便とか)を言える場所がWEB上でも、目安箱のような形であればいいと思う。(薬,H11学部入学,女)
 - ◆電子掲示板のトラブル多すぎです。・窓口閉まりすぎです。(薬,H14学部入学,女)
 - ◆学部の教室、廊下、トイレ等いつもきれいなので、いいと思う。教務掛の対応もいいと思う。(薬,H12学部入学,男)
 - ◆いいと思います。私は今の支援で十分です。特に困った記憶もないので、このままでいいと思います。(薬,H11学部入学,女)
- ◆そもそも、年の頭のオリエンテーションがいつ行われるかが分かるのは、その何日か前になってはじめて分かるという状況が理解できない。4月に入るまで前期の授業が何日から始まるか分からないという状況です。そんなものは、もっと早くから決まっているはず。学生にそんな情報も回せないのですか？学生にメールを送るなり、掲示板に載せるなり、もっと早く新年度の予定を発表してほしいです。それと、学校からの情報が掲示板でしか見られないというもおかしいです。せっかく大学のホームページがあるなら、そこに載せるとか、メールを回すとか、ほかにも情報を知る手段を得たいと思っている学生はたくさんいるはず。どうもお役所仕事のやり方に思えてなりません。独立行政法人だから知りませんが、そういうところから変えて下さい。(工,男)
- ◆あまり学生が利用しない「学生支援・学生サービス」についてのアンケートを求められてもコメントできません。(工,H13学部入学,男)
 - ◆1.学食が狭い。もうちょっとキャパを考えて広くすべき。2.車・バイクが危ない。轢かれそうになった。(工,H12学部入学,女)
 - ◆履修登録の期間があまりにも短すぎる。・昼休みに事務室が閉いていないというのは、納得できない。学生はその時間帯暇なのだから、事務員の方は昼休みの時間を11時～12時(13時～14時)くらいにずらしてほしい。・履修登録の不備になぜあんなに厳しいのか。・試験時間割は配付してほしい。(工,H12学部入学,男)
 - ◆桂キャンパスの整備が進んでいない。もっと学生の生活環境を考えてほしい。(工,H11学部入学,男)
 - ◆これからのことなのですが、桂キャンパス移転について、下宿、生協のまったくない状況での移転開始は、移転後の生活に対する不安を感じています。衣・食・住のうち2つに対して不安がある状態で、学生が移転したいとは思わないと思います。せめて生協は同時に設置されるぐらいの配慮がほしいと思います。また、桂キャンパスへのシャトルバスも運行していただけたらと思っていますが、最初は利用者が多いことと思いますので、利用者全員が乗れるようにお願いします。(工,H14修士入学,女)
 - ◆特に桂キャンパスへの移転に関して、公共の交通機関や学内の駐車場の整備などが、どう考えても確実に不十分なので、実際に桂に移転して夜遅くまで、研究する学生の身になって真剣に考えてほしい。(工,H14修士入学,男)
 - ◆昼休みに教務が開いていない理由が分からん、あほか！授業がないときに窓口閉めてどないすんねん。俺はヒマヤからええけど、真面目な学生が不便な思いするってどーゆーこっちゃ！母親が私立大学で教務をしているから時々話を聞いてみたら、雲泥の差やで。あんまし、学生をお客扱いにするのもどうかと思うが、「学生支援・学生サービス」というのがおこがましい。5年間過ごしたけど、便利やなと思ったことないんですけど。(工,H14修士入学,男)
 - ◆今までに、学生支援・学生サービスについて感じたことは特になく、これといって問題はないように思うが、欲を言うと、もっと学生サービスについて、よいと感じるぐらいに充実したらいいと思う。抽象的で申し訳ないですが、バイクの駐輪場については本当に何とかしてほしい。私は比較的大きいバイクで通学しているのですが、駐輪場が満杯のことが多い。原則では、原付はそこに置かないことになっているはずなのに、半数程度は原付である。(工,H13修士入学,男)
 - ◆学内掲示板、特に休講情報を学内のPCからだけでなく、一般のPCで(要は家でも)見れるようにしてほしい。(工,H14学部入学,男)
 - ◆窓口対応が不親切。もう少しなんとかならないものか。特に全学。親切に対応してほしい。ぶっきらぼうな印象を受ける。・トイレがきれいになったのはうれしかった。A号館がなくなったのは悲しい。・テニスコートを住宅地の前につくるのはどうかと思います。朝早くからうるさいです。・映画上映とかを希望。・E号館の裏門を休日も開けてほしい。・一年に一度くらい避難訓練をしてみたい。(工,H13学部入学,男)
 - ◆インターネットでも掲示板を出してほしい。夏休みなどのとき便利だから。(工,H13学部入学,男)
 - ◆自転車の整備、ビラの清掃など「学生支援・学生サービス」の名目の下に提供されているものが、学生の立場としては、学生に対するサービスであるという実感が薄いと思います。今回、僕自身もこの調査で学生サービスというものを意識することができました。要は、サービスを受ける側がサービスの内容などを理解していないのです。学生自身ももっとこのことを認識すればサービス内容を新規、改善することなしに、新たな学生サービスの側面が見えると思います。(工,H12学部入学,男)
 - ◆キャンパス内に自転車が増え、自動車もよく通るので、かなり危険なことが多い。この点が特に気になるので、是非とも改善してほしい。(工,H12学部入学,男)
 - ◆学内の掲示板の内容や、休講情報などをインターネットで流してほしい。受講している学生だけに休講情報などをメールで送るなどしてほしい。情報を紙に書いて貼るなど前時代的。掲示板の前に人だかりができていてる光景を見たらうんざりする。掲示物の盗難もあるようだし。よろしくお願ひです。というも私は学部の校舎にしか行かないのであまり関わりはないですが。(工,H12学部入学,男)
 - ◆それほど、学生支援等を利用したことがないので、その内実についてはよく知らない部分もあるが、構内の移動手段の整備(自転車、車、バイク)と新校舎建設の際の校舎移転に関する情報提供は、もっと積極的に行うべきである。校舎については、学生の間でも様々な噂が飛びかっている状態で、いたずらに不安をあおっている。全体的に学生との対話が足りないと思うので、このようなアンケートを今後も活用していけばいいと思う。(工,H12学部入学,男)
 - ◆キャンパス自体は広いが、狭く感じる。(工,H12学部入学,男)
 - ◆これまで学生生活を送ってきて、特別に困ったという経験はないので、悪くはありません。ただ、土地の関係上仕方ないのでしょいうけど、キャンパスがごみごみしているのをなんとかしていただきたいです。毎日通う場所なわけですから。(工,H12学部入学,男)
 - ◆他大学と比較できないので、良いのか悪いのか一概に言えないが、学生にアンケートを取って改善していく方向はよいと思う。更にサービスを充実させてもらいたいと思います。(工,H11学部入学,男)
 - ◆どかい建物を建てる前に、駐輪場をなんとかしてもらいたい。(工,H11学部入学,男)
 - ◆土・日・祝に学外まで食べ物を買に行くのは面倒なので、ジュースの横にパンの自動販売機等を設置してほしいです。(工,H11学部入学,男)

- ◆授業に出ているときは教務が12時～13時まで昼休みなのが痛かったです。(工,H11学部入学,男)
- ◆桂キャンパスに食堂がほしいです。(工,H11学部入学,男)
- ◆全体的に大きな問題はないと思います。(工,H11学部入学,男)
- ◆休講情報などの掲示をウェブに載せて、学外からでも見えるようにしてほしい。更に生徒への連絡事項をメールで通知してもらえると有り難い。事務室が12時～13時の間昼休みで閉まるのはとても不便に思う。30分後ろにずらすだけでもいいので開けてほしい。去年の話だが、総人の事務の人で対応の悪い人がいた。窓口で対応する以上は、接客業であるので、そのことを意識してほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆・工事が多すぎる。・工学部10号館の東の門の入口は自転車だと通りにくい。・掲示を web でも行ってほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆もう少し積極的に意見を反映していった方がいいと思います。でも今のままで満足な部分が多いです。(工,H11学部入学,男)
- ◆実際には、現状は結構満足しているのだが、来年の桂移転、その桂キャンパスの設備があまり整っていない様子を聞くと、桂キャンパスに行かなくてよい院を選べばよかったなどと考えてしまう。今、昼夜学食で300円×2程度ですみ、交通費は0円であるが、桂キャンパスでも、昼夜それぞれ600円程度はかかり、交通費はバスだけでも、200円×2(往復)程度かかるであろう。ざっと計算して、300×2-(600×2+200×2)=-1000と今より1000円/日オーバーしてしまう。月に3万円である。これではどう考えてもやっていけない。出張費のように、一日に1000円支給されたりすると助かるのだが。いろいろ自分勝手にすみませんでした。(工,H10学部入学,男)
- ◆もっと安くおいしい京大ならではの食べ物がほしい。学生は車で入構できないように制限してほしい。(工,H10学部入学,男)
- ◆現在、主に宇治キャンパスで研究を行っているのですが、生協の営業時間が非常に短い。そのため、食事やちょっとした小物の購入の際に困惑してしまいます。(工,H14修士入学,男)
- ◆不便を感じたことはありませんが、もっとサービスが充実していればもちろん嬉しいですが、ATMの設置などは1年生くらいから切望しています。意見をどこに言えばよいか分からない。どのようなサービスがあるか知る人が少ない。現状を考えることができれば、かなり違うのではないのでしょうか。よろしくお願いします。(工,H14修士入学,男)
- ◆特に不満はないが、キャンパス内の道幅を広げたり、駐車スペースを拡大・確保するなどの構内の大幅な区画整理を進めてほしい。中央キャンパスの北側の門を開放してほしい。大学構内の様々な場所にゴミ箱を設置してほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆掲示に関して、掲示内容(奨学金関係、留学関係、授業関係、緊急連絡など)によって紙の色を変えるなどしてもっと見やすくしてほしい。(工,H14修士入学,男)
- ◆普通であると思うが、ほかの大学と比べるとだいぶ劣ると思う。(工,H14修士入学,男)
- ◆今回のアンケートで初めて「学生支援・学生サービス」という存在を知りました。もちろん、知らず知らずのうちにこれらのサービスの一部を利用させていたのですが、そのほかのサービス等については、まったく知らないものもありました。せっかく、サービスをして下さるのなら、それがどういったサービスなのか、ほかに何があるのかなどを明確にした方が利用者としては利用しやすいですし、サービスを行っている方々もやりがいがあると思います。(工,H13修士入学,男)
- ◆学生支援・学生サービスをあまり利用したことがない。もしくは気付かずに利用しているかも。(工,H13修士入学,男)
- ◆・事務室の対応がまさにお役所仕事であることが多い。・教育、学生共に教育、授業に無関心であることが多い。交流の場を設けてほしい。そのためには教官の雑務を減らす努力が必要であると思われる。(工,H13修士入学,男)
- ◆特に勉学や就職に関する点については、やはり最重要事項として適切に扱われていると思います。一方で環境や設備という点ではまだまだ改善の余地が多く残されており、アンケートでの要望を検討していただければと思います。特に駐車場のマナーの悪さと駐車場の整備は急務ではないでしょうか。(工,H13修士入学,男)
- ◆大多数の生徒が利用するような、サービスに関しては、向上するように心掛けてほしい。特に学内掲示板は現状では人が集りすぎて確認するのに一苦労なので、インターネットからの閲覧も学内からの接続のみに制限せず、モードセキュア(SSL)を使用するか、何かの手段を講じて、家のパソコンからもチェックできるように整備してほしい。(工,H13学部入学,男)
- ◆総合的に考えた場合は、ほぼ適切だと考えるのですが、自転車やバイクが本学内に多すぎて混雑する状況は解消していかねればならないと思います。それも本学が過密な状況にあるからであり、その視点から考えれば桂キャンパスへの工学部移転は賛成です。しかし、移転する当事者(私は工学部なので)としては、いつ移転するのかははっきりしていないなど情報が乏しいことは大いに不満です。ご一考をお願いします。(工,H12学部入学,男)
- ◆過去に財布を無くしたことで、2度ほど学生証の再交付を受けたんですけど、その際、手数料等がかからなかったのが非常にうれしかったのを覚えています。なんとさえいえばいいのかわかりませんが、この調子で頑張ってください。(工,H12学部入学,男)
- ◆全体的にはサービスがよく行き届いていると思われる。今後は、サービスの向上に努めてほしい。(工,H11学部入学,男)
- ◆事務員にサービスを行っているという意識が欠如していると思われる。金銭の納入に銀行振込が使えないとはどういうことなのか？(工,H11学部入学,男)
- ◆特に不満はありません。更によくするように、頑張ってください。(工,H11学部入学,男)
- ◆行っているサービスは十分だと思いますが、それを生かすための環境が不十分だと思います。個人的に多くを利用させていただいたことがないので、細かくは指摘できませんが、だからこそもっと多くの人が簡単に利用できる環境をつくっていただけたらと思います。あと大学全体という大きな母体だからこそできる、他大学、他学部といった交流の場をつくっていただけたらいいのではないのでしょうか。(工,H11学部入学,男)
- ◆基本的に大変満足しています。パソコンがない人にとって夜遅くもパソコンが使えるようになればいいと思う。宇治バスも利用させてもらっているが、宇治から吉田へのバスが4時が最後ということで、もっと遅くしてほしい。今、一番不満なものに授業料免除制度があります。基準が厳しくなっており、以前の基準にまで学生に学問を集中させる意味で戻してほしい。それ以外は満足です。(工,H11学部入学,男)
- ◆改善しながら、学生のためになるようなサービスができていると思う。ただし、工学研究科の自分としては、来年から移る桂キャンパスでも、こういったサービスがしっかりされているか、という点に不安が残る。(工,H14修士入学,男)
- ◆特に何不自由なく過ごしてこれたので、これといった意見はありませんが、就職指導について、もう少し改善する必要があるのではないかと思います。(工,H13修士入学,男)
- ◆何でも情報の更新はまめにすべきだと思う。各学部で行っているサービスに関しては、二重のサービスにならないような情報交換が必要だと思う。(工,H13修士入学,男)
- ◆私の主とした活動が、中央キャンパスで行われているため、あまり不自由を感じたことはありません。今までの5年間半は十分に充実した学生生活を送ることができました。(工,H13修士入学,男)
- ◆自分としては、有意義な学生生活を送ってもらいたい。また事故もなく過ごしていることから、「学生支援・学生サービス」という目には見えにくいサービスをいつの間にか受けているように感じます。私が言うのもなんですが、まだまだ「学生支援・学生サービス」に関しては改良の余地があると思います。例えば、これからの時代には必要なコンピュータや英会話など、自分で勉強すれば、と言われてしまえば、それで終わってしまうのですが、そのような分野を少しでも補助してくれる施設などができたらなあと思いました。(工,H13修士入学,男)
- ◆特に不足、不便なくおおむねよいと思う。ただし、交通問題に象徴されるように、混雑緩和が住みよい大学環境を実現するには一番大切だと思う。おそらく、工学研究科が移転することで、キャンパスにもゆとりが出るのではないかな。その上で高い集積度を活かしたキャンパスづくりを考えていただきたい。最後に工学研究科の学生として桂行きのバスの充実をお願いします。(工,H13修士入学,男)
- ◆アルバイト紹介の輪はいいと思う。保健所なども使える機会があれば利用してみたい。(工,H13学部入学,男)
- ◆いいキャンパスですけど、またまた植物が少ないです。もっとスペースがほしいです。(工,H12学部入学,男)
- ◆様々な学生支援・学生サービスを行っていて、非常にいいと思います。学生側からすれば快適な学生生活を送るために必要なことはすべてやっていただいているように思います。私は奨学金制度を利用したりして、様々なサービスを受けています。これからも更なる改善をしていただけたら幸いです。(工,H14修士入学,男)

- ◆ 昼休みをなくすべき。それが一番不満である。学生が最も利用したい時間帯に利用できないのは、本当に腹が立つ。昼ご飯を交代制で取るという考えが浮かばないのが不思議で仕方ない。仕事というのはお金をもらう以上、プロであり、サービスする側へ常に配慮すべきだが、根本からなっていないと言わざるを得ない。その点をまず、そして必ず改善しない限り、評価は上がらない。また、役所のごとく、カバーしていない仕事にはまったく知識がなく不親切。サービス精神ゼロだ！一度、生協でオリジナルグッズを作ったが、約束の日をまったく守らず、怒らないと仕事をしない。正直、あなた方のやる気のなさははがっかりしている。もちろん、素晴らしい人もいますが、やはりひどい人が目立つ。民営化に移行していくなら、公務員の腐った意識を捨て、プライドとプロ精神を持って仕事をしていただきたい。(農,H12学部入学,男)
- ◆ 他大学がどうなっているか分からないので評価は難しい。しかし、サービスを行っていてもそれが周囲に認知されていなければしょうがないので、この評価にしました。(農,H12学部入学,男)
- ◆ 学生が教官の授業を評価できるシステムを導入すべきであると思う。(農,H11学部入学,女)
- ◆ 窓口の対応がいつもあまりにも柔軟さに欠けるとともに親切さが無い(ところもある、特に総合人間部)。学生のための支援であるならば、窓口業務という言わば学生との接点とも言えるべき仕事において、もっと個人個人に合わせた対応をしていくべきではないか。(農,H13修士入学,女)
- ◆ 分属、研究室等、進路についての情報量をもっと増やして、身近なものとしてもらいたいと思います。(農,H12学部入学,男)
- ◆ 特に意見はありません。よくもないけど悪くもないです。(農,H11学部入学,男)
- ◆ 健康診断、課外教養行事などいつもお世話になっております。ありがとうございます。京都大学らしく、適度な感じでときには不便でもあり、気楽でよいと思います。十分このサービスを利用するには、相当な情報収集能力が必要だとは思いますが。特に就職活動について、私大の学生は管理されていて報告などしないといけないようですが、逆に京都大学の学生はマイペースにやっているように思いました。有り難いような、もっと大学のサポートが必要だとも思うような…。今年(去年)は例年より盛んだったと聞きましたが、まだまだだと思えます。(農,H11学部入学,女)
- ◆ 学生に快適な学生生活を送れるよう、今後も努力していきしてほしい。個人的に保健診療所の診察には助かっている。もう少し、内科以外の診療時間を長く、頻繁にしてもらえるとより嬉しいと思う。また、奨学金や入学金、授業料免除は申し出する人が多いと思うので、審査を適正にして、経済的に援助をお願いしたい。就職が難しいときなので、そちらの支援も盛んにしてもらいたい。(農,H14修士入学,女)
- ◆ ・就職活動を行うに当たって、差し当たり何をすればよいのか、どうすれば情報が得られるかなど、やや分かりにくく、施設利用がもっとしやすいようにしてほしい。・夜、構内が暗すぎるので、もっと電灯などの照明を増やしてほしい。・事務の人の中に不親切極まりない方がいらっしゃる。・ATM、コンビニ、カフェ等、生活しやすい大学になると嬉しいと思うが、まずは図書館や、事務室、パソコン関係などの充実を求めます。・特に今、不自由だったな、と思うことを強いて挙げる形になりましたが、別に現状のままで満足しているわけではないので評価は3です。(農,H14修士入学,女)
- ◆ 特に不自由していることはありません。(農,H14修士入学,男)
- ◆ 既述した項目については、「学生支援・学生サービス」の改善を求めたい。(農,H13修士入学,男)
- ◆ 修士課程から編入したので、こんなにも「学生支援・学生サービス」が行われていることをまったく知りませんでした。ずっと同じ所にいる方にとっては知ることが「当たり前」となっていないのでしょうか(ただ単に私が知らないだけかもしれませんが)。(農,H13修士入学,女)
- ◆ 基本的に求めなければ何も得られないという状態にあり、もっと情報をまとめ、公開、管理するところを一つに統一し、分かりやすくしてほしいし、もっと様々な情報について広報運動をし、学生に「こういうサービス、いいことがあるよ」みたいなことを教えてほしい。そうでないといけないのどこに行けばいいのかわからないし、結局機会を逃がしてしまうことになってしまう。また、駐輪場整備を早急に進めてほしい。また図書館で早習しようとしても人が多くてできないことが多いので、どの教室が空いていて使ってもいいのかということも知らせてほしい(ある意味早習室の設置を求める)。図書館も365日24時間開いているようにしてほしいし、それが欧米では常識だし、それだけ勉強できる環境にしてほしい。今は「休みすぎ」「月末休館日なんて不必要」ただの「無駄」怠惰だと思う。(農,H14学部入学,男)
- ◆ 学習面の支援はおおむねよいと思う。今後の課題としては、同和・人権問題を大きく取り上げてもらいたい。自由な学風とは言え、これだけは自由におけない問題だと思う。(農,H13学部入学,男)
- ◆ 何も不自由なく学生生活を送れたので、サービス面については問題ないと思います。ただ、より一層の努力を今後も続けてほしいです。(農,H11学部入学,男)
- ◆ 現状のままで特に問題はないが、見て見ぬ振りをしているように見えるところがいくつかあると感じられる。システムの改善というよりは、新たなシステムを導入することが望ましい。(農,H14修士入学,男)
- ◆ 支援、サービスにこれで十分というのではないと思う。常に、よりよくする心構えで頑張っていたらいいと思う。(農,H13修士入学,男)
- ◆ 現在でも十分利用させていただいていますが、電子ジャーナルの蔵書数、掲載年度数等を増やしてほしいと思います。色々な企業で研修できる制度があればいいと思います。現在は学部や研究室によって偏りがあると思います。(農,H13修士入学,男)
- ◆ 今現在、大学が勉強する環境として設備等の面において充実しているものだと思いますので、このままでも問題はないと思います。(農,H13修士入学,男)
- ◆ ・事務を昼休みにも開けてほしいです(書類の受け取りだけでもいいので)。・職員の方々はいいつも快く対応して下さい感謝しています。(人環,H13修士入学,男)
- ◆ 留年、自殺者が他大学に比べて若干多いと聞いたことがあります。「学生支援・学生サービス」の充実により、これらの人数は確実に減少すると確信しております。よろしくお願い致します。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ 自由な校風が売りの本学においては、学生支援・学生サービスは現状のままで、学生の主体的な行動を期待するのによいかと思うが、主体的に行動するツールとしての設備や動機付けとなる機会の提供がまだまだ不十分であるとも思う。自己点検・評価、これからの活躍を期待します。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ 全般的に学校が行っている支援・サービスというのは、ただ行っているだけで積極的に利用してもらおうと思っていないのではと感じていました。利用すれば非常に便利なのに、それをなかなか学生に伝えられていないということもあると思います。大学の仕事というのは、学生支援・サービスだけではないというのは重々承知いたしております。ほかの仕事で忙しいのも分かります。ですが、もう少し広報に力を入れてもらえませんかでしょうか。例えばサークルにも告知する(サークルの代表を集めて説明会を開くのもいいと思います)など、少し力を入れるだけで効果はかなりあると思います。学生からの勝手なお願いです。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ やはり何よりもまず駐車場、駐輪場の整備をしてほしいと思います。(エネ科,H13修士入学,男)
- ◆ ファストフードやコンビニ、郵便局は近くにある。キャンパスには必要ないと思う。都市銀行その他需要が多いと思われる所のATMは中央キャンパス等に設置してほしい。100円ショップを設置するか、または100円ショップ並の値段で商品を仕入れて生協で売ってほしい。(エネ科,H13修士入学,男)
- ◆ 事務室の受付時間を12時から13時の間もしてほしい。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ 授業のシラバスですが、学部・大学院のすべての授業について開講状況を知らせて下さい。また、授業について詳細な内容についても記載して下さい。(エネ科,H14修士入学,男)
- ◆ 自分は、学生であり、当たり前のように「学生支援・サービス」を利用していましたが、このように学生がより生活しやすい環境をつくるために考えて下さったことなだ改めて感じました。今のままで十分だと思います。といっはアンケートの意味がないですね。これからも頑張ってください。(エネ科,H13修士入学,男)
- ◆ 学生への意識調査をはじめ、伝達事項もメールによって常に配信されており、特に不満は感じていません。細かいことを言えば、

他学部の図書をコピーする際に、学部によっては事務的な手続きが相当面倒になるため、事務の人達に配慮して、学生側が校費によるコピーを自粛せざるを得ないことがある。金銭的には、一人当たりはそれほどでもないと思うので、学部間での事務上の手続きを簡便にしたいです。また、当A・A研におきましては、新校舎を設立されることとありますが、部屋割りや備品の配置などについては、学生の研究上においても非常に重要な事項であるため、学生側にも意見を訴えられる機会を是非与えていただきたいと思っております。(ア・ア,H14博士入学,男)

- ◆「学生支援・学生サービス」といっても利用したことがないもの、あるいはどうやって利用するのか分からないものが多い。どんなサービスがあるのか、より多くの学生に知ってもらうことがまず必要だと思う。(情報,H13修士入学,男)
 - ◆実用的なIT講習会などがあってほしい。(情報,H12学部入学,男)
 - ◆積極的に利用してこなかったの、そのほとんどの詳細を知らなかった。正直、今後もあまり利用する予定はないが、きっと必要としている人もいるはずなので、品質を落とさずにサービスを提供してほしい。(情報,H14修士入学,男)
 - ◆おそらく、多くのサービスが行われているのだろうが、知らないものが多数あるだろう。手続きを学部同士で統一させたり、サービスを広報の一貫として宣伝することも必要だと思う。現在最も充実させてほしいのは、やはり構内の安全で、自転車、自動車の乱雑さには目を疑う。もちろん、対策のために撤去を予告するという手段が取られていることは注目しており、うまく効果が出てほしいものだ。そのほかには、授業外の教養活動、特に地元との連携などが考慮されたものが充実していると嬉しい。土地柄、学生の幅広い関心にこれ以上応えられる場はないと思うので、有効活用することができればと思わずにはいられません。(情報,H13修士入学,女)
 - ◆B大の出身で、B大の学生課では家庭教師のアルバイトの紹介以外にも、資格試験の試験官等の仕事の紹介もあり、多少の書籍代が必要なときには、気軽に働くこともできた。また実験の被験者(心理学等)の募集もされていて、そのような仕組みが京大にもあれば、働く側も被験者が必要な研究室にも役立つ、一石二鳥であるとも考えられます。(情報,H13修士入学,男)
 - ◆総じて頑張っているとは思いますが、事務が12時から13時まで休むというのは、どう考えてもおかしいと思います。時間をずらすべきだと思います。(情報,H14修士入学,男)
 - ◆出町柳〜黄檗間の京阪定期券の補助をしてほしい。(情報,H14修士入学,男)
 - ◆入学金、授業料免除の制度は、他校ではあまりないものであり、非常に助かっています。(情報,H14修士入学,男)
 - ◆教官と学生がより密接に関わっていけるような環境づくりをすることは有意義だと考える。最低限のサービスを行うのではなく、より積極的な活動を失敗を恐れず行っていくことが重要だと考える。(情報,H12修士入学,男)
- ◆私は大学院から京都大学へ通うようになったので、学生支援、学生サービスをほとんど知らなかった。大学院生への就職情報が少ないように感じる。特に大学院生になると、自分の研究室からあまり外へ出歩かないので、外からの情報(大学側からの情報)が入ってこない。個人的に掲示板を見に行けばよいのだが、研究室の周りの掲示板は研究関係の情報の方が多く、学生サービス情報に触れる機会が少ない。大学院から入ってきた私は、今現在、就職希望にも関わらず、就職相談窓口がどこにあるのかも分からないし、就職情報がどこで手に入るのかも分からない。京大という組織が大きいからこそ、様々な情報、サービスが得られると思うので、組織の中で情報伝達が止まることなく、学生一人一人にサービスが行き届いてほしい。もちろん、学生個人も自分から情報を求めに行く姿勢も大切だと思うし、学生が情報を得やすい環境が整っていればよいのではないかと。(生命,H14修士入学,女)
- ◆キャンパス面積の問題もあると思うが、もっと学生達が集まれる場、教官と学生が話をできる場、例えば広場や噴水などのあるスペースが提供できればよりよいキャンパス環境が形成されるのでは？そういった交わりのなかからやっぱり京大だ、と言われるような創造的なアイデアが生まれる気がする。(生命,H13修士入学,男)
 - ◆私の学生生活環境において、京大の学生支援・学生サービスは十分な状態にあると感じています。あまりに至れり尽くせりなものであろうと思うので、現状維持がよいのではないのでしょうか。(生命,H14修士入学,男)
 - ◆最近構内もすごくきれいになってきたと思います。今後は警備を徹底して、安全なキャンパスを目指していただきたいです。(生命,H14修士入学,男)
- ◆当たり前ものを当たり前で受けてきたので、これといった不満もなく、満足もなく、ただ、よいものもあるのに、十分に学生に知りわたっているとは思えない。(H14修士入学,男)
- ばらまきのサービスは困るが、意欲のある学生にインセンティブを与えるような施策を実施し、真に自由の学風を発展させたい。(評議員)
 - キャンパスが過密で学生の「悪い場」が著しく欠如している。また吉田キャンパスに関する限り「乱開発」気味で、大学としての雰囲気や著しく劣悪にしている(特に最近の建物のデザインの不統一は「ひどい」一言に尽きる)。これらは目に見えないものにはあるが、教育・研究にふさわしい場をつくるという意味で「学生サービス」にあたるであろう。(評議員)
 - かつての大学はどれも学生サービスは低かったが、大学間競争で他大学の整備が進んでいる。現在でもかなりの遅れが目立ち始めており、早急に対応が必要と考える。(評議員)
 - 総じて放任型。これもよい点があるが、現在のように学生数が多くなると、それなりのサービスの充実が必要と考えられる。(評議員)
 - 建物(物理的環境)がなく、サービスが行き届いていない。また、学生の自主性を育てる意識が弱く、学生対応がおよび腰にならなっている。学生をもっと大人として扱わないと社会人になったときに問題である。(評議員)
 - 一流大学という世間の評価をいいことに学生に対するサービスを怠ってきた。しかし、こういう状況に甘えていることはもはやできないと思う。施設面の整備等を含めて、学生に対するサービスを急ぎ拡充する必要があると思う。このままでは10年先が心配である。(評議員)
 - アンケートの設問自体、問題点が十分整理されていない印象を受ける。大学における「学生支援・学生サービス」とは何かということから議論すべきだろう。(評議員)
 - お金のいることが多いので、なかなかですが、特に敷地が必要です。交通整理、学生のモラルの向上のキャンペーンなども必要だと思います。(評議員)
 - 学生が学ぼうという意欲が生まれてくるような環境にしていく努力がもっと必要であろう。現在はあまりにも放任すぎると思う。大学は学びの園である。(評議員)
 - 学生側のアンケートもやっておられるので、その要望に対して、職員がどう考えるかというアンケートの部分があってもよかったです。多分職員の意識は低いと思いますので、宇治キャンパスとの関係だけでなく、桂キャンパス、熊取キャンパスとの関係についても、学生支援面で考えるべきだと思います。(評議員)
 - ほかの国立大学と比較すれば、見劣りしないし、また特に優れているわけでもない。ごく普通のサービスはしていると言ってよいだろう。ただ、私立大学のサービスと比べればまだまだ劣っている面も少なくない。例えば私立大学の一部では、少人数で数日間をかけて学外でオリエンテーションをするなど、きめ細かい新入生への配慮をしているが、本学では学生に任せている部分が多い。課外活動の施設も極めて貧弱(学生数に対して)と言わねばならない。特に女子学生に対する施設は陳腐としか言いようがなく、この充実が早急に必要である。(評議員)
 - 最も基本的な「学ぶ姿勢」を強制する進級制度を取り入れる。これなくして学生に対するサービスは意味をなさない。(評議員)
 - 学生サービスとは異なるかもしれないが、先に述べたバイクの乗り入れでもみられるように、規制に対する遵守意識が乏しい。また、自由の学風の履き違えが甚だしい。(評議員)
 - 研究を重視するあまり、従来はともすれば切り捨てられてきたように思われる。目的意識を持った取組みが必要。(評議員)
 - 支援・サービスという観点だとやる気が起こらない教官は多いだろう。人材育成のためのボランティアということが、院生ならお金

をもらって一種の教育 tutor として働くならということで、学生に親身に接していくような態度を確立することが大切。支援やサービスということなら、もっとやってあげなくてはならない人々が世にはたくさんいる。「人材育成」に的を絞る。的を変えていかなくてはならない。(評議員)

- 決して実状を知っているとは思わないが、快適な受講こそがサービス(というより本務)ではないでしょうか? 1.空調 2.講義用設備 3.講義内容4.教室の雰囲気(古い机や古い黒板etc.を新設)(教授)
- 支援対象のそれぞれについて、理想像とはいわないが、期待の持てる目の前が明るくなるような青写真を提示してほしい。それと同時に予算の見積もりと確保可能性の状況、自己努力分などの説明も加えてほしい。夜でも活気が漂うキャンパス、今日一日もう少しそこに居たくするようなキャンパス、物質的、雰囲気はリッチ感のある場所に住みたいと思う。(教授)
- サービスの業務に関して、最も注意すべきことは、サービス過剰になる側面と基本的サービスとの区分を明確にし、決してサービス過剰にならないこと、基本的なサービスがきちんとできていること、である。京都大学として何を基本的サービスと考えるかを明確に分析し、その分野に関するサービスを他大学と比べて決して見劣りしない充実したものにすべきである。(教授)
- 全般に学生が甘すぎると感じる。学生にはもっと苦勞させた方がよい。(教授)
- 現在の学生の気質とニーズに対応しているものではない。「自由な学風」というが、現在では単なる無責任、無関心な大学の姿を反映しているように思われる(一般的には)。もちろん、優れた人々による支援とサービスが存在することも認めた上で。(教授)
- 施設や担当教職員が不十分である。(教授)
- あらゆる分野で大学当局がどのように考えているのかがよく分からないという問題があります。学生支援やサービスが一体どのような考えに基づいて行われているかが分からないので、情報提供が中途半端になっています。ホームページの活用など、もっと学生個人を視野に入れた方法を取り入れるべきでしょう。(教授)
- 市場メカニズム、競争原理の導入とセーフティネットとして保証すべき領域を明瞭に分離すべきである。(教授)
- 厚生施設がまったく不十分である(アンケートの中にもこの視点がない)。・桂キャンパスをつくったことは学生支援・学生サービスからみても最悪である。・学生(留学生)の宿舎は最低レベルである。(教授)
- 学生への態度が極めて悪いので、有名な事務職員もいるようだ(ごく一部だと思うが)。多分、私立大学ではこのような職員は窓口業務から外されると思うが、京大ではそのようなことはないようだ。教員の講義に対する、学生による授業評価はよいことだと思うが、同時に事務職員の対応に対する、学生による評価・アンケート調査を行うべきである。少なくとも学生が苦情を言える制度を作るべき。(教授)
- 課外活動、特に体育会クラブ活動に対するオリエンテーション、施設整備が不十分である。(教授)
- 図書館の利用時間を24時間制となるような体制づくりが必要である。近年の電子図書館システムによって従来ほどのニーズはなくなりつつあるという意見もあるが、学生に学びの場としての図書館の提供は、現在でもその意義は大きい。担当者やセキュリティの課題については、RA、TA制度を採用して、対応することができよう。(教授)
- 十分な学生支援・サービスには当然、人・モノ・カネが必要であるが、差し当たり各部局にも、そのための職員が必要である。(教授)
- ①構内は建物が増えすぎていて、駐車・駐輪がとてつもない狭さになっている。車や輪の建物をつくるべき。②学生の寮は、今の学生を追い出し、教官家族も入れる、留学生も入れる部屋をつくって、学生を再入居させる。③奨学金制度をより充実させる。④オフィスアワーをつくる。教官と学生の接触を高める。(教授)
- 宇治地区と本学吉田地区の学生サービスの差を少なくするよう努めてほしい。キャンパスによる差が存在すると学生サービスの劣るキャンパスへの進学への妨げとなる。またこれに関連して、本部地区以外のキャンパスの生活、教育、研究に関して、学生に対する広報活動を充実してほしい。本部地区、特に総合人間学部のトイレや各種施設の更新と清掃を進めてほしい。(教授)
- 過保護になってはならないが、音楽練習施設、設備等、学生の自主的な活動を刺激するような支援を更に充実させる。ボランティア活動等、国内外の社会的、政治的問題にもっと関心を持たせ、学生の社会的行動に対する意欲を刺激するような講演会、討論集会、国際性を養う行事等を増やす。また、内外の時の人(例えばノーベル賞の田中さんなど)を招いて講演会、討論集会等を開いて学生に学ぶ姿勢、生きる姿勢を社会貢献する姿勢を考えさせる。学生自身にアンケートを取って、そのなかから積極的な要望をすくい上げる。(教授)
- 自由の学風が、よい意味で消失し、利己が優先される風潮にある。支援はどうしても個人に対する介入になるが、これを Give & Take と考え柔軟に取り組む必要がある。学生が利己的に支援やサービスを受ける権利があると思えば、結局冷たい支援、サービスにならざるを得ないだろう。支援・サービスの充実とともにそれを受ける側の責任、義務、並びに感謝の気持ちも育てる必要がある。(教授)
- 教育・研究支援の重要性に対する認識が不十分で、予算も十分でないためと思うが、専門のカウンセラーや技官・技術支援職員の充実がまず必要である。現有の教官や事務官にこれだけ幅広い支援、サービスを負わせる(期待する)のは、厳しいと思う。(教授)
- 国立大学の学生支援・学生サービスの現状はあまりに貧困であると思います。このままでは独法化を契機に学生は私立大へ流れるのではないのでしょうか。学生支援・サービスについて、内容とサポートする体制について、全面的な見直しをすべきだと思います。(教授)
- 基本的に本学は、研究が主、教育が従の位置付けをしてきており、この体制を変更しなければ学生のことを十分に考えることはできない。他大学と比較検討してみる必要がある。留学生に対するアンケート回答が国際交流の自己点検作業でなされているが、これを見ても、学生支援が不十分なのは明らかである。学生へのアンケートなどにより希望を開き、合理的な形で対処すべき。(教授)
- 課外活動、特に総人においてのそれは多大な問題を引き起こしている。大学は、学生会館の建設に努力し、課外活動での教室使用を禁止するべきである。・キャンパスの交通問題は深刻である。車、バイク、自転車の置場をキャンパス出入口に設け、ほかの場所はすべて徒歩専用とすべきである。これではじめてまともな教育・研究環境と言える。(教授)
- 学生自身の対応力が低下しており、全般にわたり、大学・教官の協力が、ますます必要になると思われる。(教授)
- 構内の静寂と危険防止、ゴミゴミの解消のため、教職員を含めて、自動車、バイクの構内乗入を厳しく規制すべきである。こんなゴミゴミした汚いキャンパスは、日本中探してもめったにお目にかかれない。自由と無秩序はまったく別である。(教授)
- 特にセキュリティ対策について、学生が構内の駐輪場所を、バイク等の保管場所として使用しているケースが見られる。先日、深夜に外国人らしい男が、そのような場所から大型バイクを3台トラックに積んで持ち去る場面を目撃した。事務方に相談したが、あまり関心がないようであった。対策が必要であると思う。(教授)
- 学生諸君の評価が得られるとよいが。(教授)
- 私学と比べると施設、そのほかのハード面は弱く、学生支援も平均的である。(教授)
- 学生の権利を保護し、サービスを向上することは大切な大学の任務の1つであるが、同時に学生達に社会人としての規律をやらせることも教育の大きな目的の一つである。この点、現在の京大は三流国の三流大学並と言わざるを得ない。ゴミを放り出し、手洗いの使用マナーもなっていない。米国の大学の寮などで見るときちんとしたマナーが残念ながらもまったくと言っていいほど見られない。自由と放任とは別物であるという認識が教官の間にも希薄なのではないか?(参考までに小生は本学卒業生だが、大学院卒後14年を米国で、10年を企業と日本の他大学で過ごし京大に戻って2年)(教授)
- 学生支援・サービスをこれまでまったく行ってこなかった訳ではありませんが、特に積極的であったとも思われません。他大学のセミナーハウス等を見ますと、このような施設が京大にもあればと思います。また、学生が進路等の相談に行きたいと思ったとき、行くべき所は個人的な努力で探さなければなりません。色々なことが一度にできるとは思われませんが、目標を決めてサービスを充実させていくことは大切であると思います。(教授)
- 4)の⑬⑭⑮の改善を切に要望する。日本の大学のなかで(世界なかでも)最悪の状態であると思う。(教授)
- 事務官の皆様は先進国の大学、研究機関を十分に見学してもらって、何が遅れているかを十分に知ってもらうこと。消極的だ

- けれどプレーキになっている。京大70周年fundは大いに事務官の研修に使うべき。(教授)
- このように真正面から「学生支援」について一つ一つ質問されると、あれもやってやるべきだ、これも強化する必要がある、・・・という答になってしまふ。しかし、実際にはキャンパスの絶対面積の制約とか、予算の制限だとか、かなりどうしようもない部分もあり、現状でもそう悪くないのではないかという気がする。また、これが最も重要な点だが、大学の使命は教育と、それ以上に研究にある。「学生支援」という問題のみを考えると学生に多くのことをしてやるにこしたことはない、という結論になるが、そのことが教官の負担を増やし、研究を圧迫するようになると本末転倒のような気がする。(教授)
 - 上記は設問1の平均を求めた値です。アイデマイズして計算せずとも、実感として「3」ではないでしょうか。そのように感じます。設問1の個々の質問にある状況を正確に把握していない面もあるように思い中庸の評価が浮かぶのかもしれない。学生の意見も大いに反映した上で、改善に着手する必要がありますが、過保護になるのは反対です。(教授)
 - キャンパス全体を見て感じることは、学生が憩う施設が貧弱である。外で話すためのベンチの数が少ない。学生が誇ることできる緑豊かなキャンパスを整備することが大切である。(教授)
 - これらの支援、サービスに関して、京都大学は特に熱心とは思われぬ。大きな大学なので、隔々までキメ細かくというわけにいかないことは分かるが、各部署の教官サイドで、解消できることは、(オフィスアワーの設定など)やっていきたいと思っている。(教授)
 - 本学の「支援・サービス」に対する御努力は十分に理解している。しかし、「あか抜けた」支援・サービスはなっていないと思います。時代に対応した現代学生向けの情報伝達の手法を考えてほしいと思います。以前のものの修正ではなく、まったく新しい支援・サービスの仕方も考えられるのではないかと思うのですが？また、本学は課外活動について、どのように考えているのかも不明確です。夕方の6時まで講義がありますから、文化系体育系活動はそれ以後ということになり、それ相当に支援が必要で、本学が課外活動を重視しないということであれば、それなりの方策もまた可能で、教育・研究に専念というのによいと思います。よく学外者に「京大さんはアメフトは強いがアメフトは強いが、京大がアメフト部を具体的にどのように支援してきたのかは不明です。あれはアメフトのOB会が支援してあそこまでになったのではないかと、思っています。独法化の後、OB会を充実させ、資金協力が課外活動に必須と思います。京大が活気に満ちた大学であるためにも。(教授)
 - 学生支援の最重要点は、奨学金による経済的支援であろう。特に大学院学生への奨学金は給与にすべきである。技術立国を目指す国が、博士コースを出た学生に数百万円の借金を負わせるのはまったく不合理で看過できない。学振特別研究員となれば、20万円/月以上の給与があり、一方で、その数は少なく、育英会は返済を義務付けている。これは研究室内に深刻な差別を持ち込んでいる。先進国並みにある程度の補助的仕事をさせる見返りに給与とすべきである。(教授)
 - 研究室配属されるまでの学生(3年生まで)の控室etc.が少ない。カリキュラムの縦割化のためと思われるが、吉田キャンパスと北部キャンパスを行き交う自転車が目立つようになった。すなわち吉田での講義の後に北部での講義があるから、またはその逆であるからであろう。難しいと思うが、カリキュラムの編成にも「学生支援・学生サービス」の配慮が求められる。裏門21時間閉門は学生のみならず教職員も犯罪者になっている。この調査票に3度も書いてしつこいが、早急に検討を望む。(教授)
 - ①課外活動を教育の重要要素と位置付けて施設整備を進めることが望ましい。②キャンパス間を授業と授業の間に自転車でスピードで動いている学生は、実に危険な存在だが、真面目な学生なのでは？これはシステムの問題であり、解決もそれほど困難ではないと思われる。(教授)
 - もう少し文化的な香りの高いキャンパスにできないでしょうか？もっともこれは学生というより、構成員全員に対するサービスということになるのでは。(教授)
 - 総合評価は難しいが、大学はよくやっていると思う。とにかくキャンパスの狭いことに関連しては呆れるが、できるだけ支援、サービスは行われていると見る。ただし、キャンパスの狭さに伴う不便さは最悪の学生サービス不足とも考えている。(教授)
 - 必要としている学生を把握することが必要。教員による学生の全般的な把握が必要と思われる。(教授)
 - キャンパスポリス・就職等の進路指導のための専門の教官を設ける(インターンシップも)・学生寮がもっと何とかならないか？(外国人留学生も含めて)(教授)
 - 標準レベル。留学生に対しては、レベルが低すぎる。Guest-houseの拡充が必要。(教授)
 - すべてにわたって具体的なアドバイスと支援が大切。施設整備などは、できることからすぐに実施することが重要。学生の自立性を養うためにクラブ活動などの課外活動に力を入れる必要がある。是非、課外活動を大学教育の環の中に取り込んでほしい。(教授)
 - 特に優れている訳ではない。今後は一つずつ問題を改善していくべきである。工学部の桂キャンパスの学生支援(例えば食堂)は、現時点でほとんど整備されていないようである。早急な対策が不可欠と考える。(教授)
 - 学生が安心して勉強できる場所をできるだけ増やす。駐輪・駐車も安心してできるよう、場所を拡大することが望ましい。(教授)
 - 単なる学生サービスや経済的援助は学生を甘やかし、娯楽費を増やすのみであるという意見をよく耳にします。支援もするが、規則も厳正化するような形でなければ学生の真の成長は期待できないと思います。(教授)
 - 今年度より開始されたキャンパス公開、入試説明会は、大学全体の対応と各学部の対応がチグハグな面が見られる。学部の積極的な対応(ただ義務的に担当教官が説明して終わりではなく)を期待したい。在学生、院生等との交流などを念頭において。(教授)
 - 1、2年生時の教官と学生の接触が少ないため、この期間の学生がどのような生活をしているかについての情報が少ない。このため現在の状況把握が一般的に困難である。学生と教官の交流の場や方法についての検討が望まれる。(教授)
 - 金と人不足を何とかする必要がある。(教授)
 - 自由な学風をつくるためには、落ちついて議論などができる場が必要。(教授)
 - 1～2年生レベルでの学習支援に力を入れる。安全に快適に歩けるように構内整備を行う。学生のたまり場や自主的勉強場所(自主ゼミ等)の施設を増やす。(教授)
 - あまり学部学生と接触する立場にないが、彼等の口から折につけ聞く範囲においては、あまり不満はないようである。(教授)
 - 校内各所に弁当屋の花ざかり。これは食堂が狭すぎるのが一因であろう。とにかく構内の過密を少しでも緩和しないと、大学へ一歩踏み込めば、人とぶつからぬことばかりを考えないといけぬ。何かを与えるサービスよりも、くつろげる空間、芝生、木立、散歩道を用意するのが大事。理学部植物園も年々過密になってきている。(教授)
 - 他大学と比べて、京大はまだ恵まれている方だと思う。学生を甘やかす必要はない。勉強のしやすい環境整備をしてやる。あとは学生が自分の頭で考えるべきだ。(教授)
 - 現状に問題があるとは思いません。おおむねうまくいっていると思います。設問事項4にコンビニエンスストア、ファーストフードショップ、ATMの設置などが挙げられていますが、このようなものは置かない方がよいと思います。また生協の食堂や店舗なども現状で十分であり、むやみに大きくすべきでないと思います(書籍に関してキャンパス外では身近に入手できないので必要だと思いますが)。京大の場合、キャンパス周辺の食堂、店舗等が充実している、我々の日常はこれに支えられていることを認識することが大事だと思います。今後、外国からの留学生が更に増加すると思いますが、留学生と日本人学生の交流が活発に、かつ円滑に行えるような方策を考えることは、有意義だと思います。(教授)
 - 自由な学風を総合的に保つために、学生の自主的な活動を支援してきたことを高く評価し、今後とも、その基本方針を守るべきだと考える。建物の老朽化などによる学生の生命を守る観点からの学内整備を急ぐべきである。課外活動施設や学生寮の安全性を調査し、その結果を公表して認識を深めつつ、安全策を具体的にすることが必要である。(教授)
 - (設問1)はおそらく、課題となるような項目を抽出されているので、点数が低いですが、種々考えるとほぼサービスができています。今後、情報関連での充実(遠隔講義など)を図っていく必要があるでしょう。(教授)
 - 学生(教官も交えて)が自由に集まり、ディスカッションできる場所が狭い。また数も少ない。室内のみでなく、屋外に設けてもよい。(教授)
 - ①大学は教育への教育をミッションとしており、教員、事務職員ともに学生にサービスする立場であることを徹底する必要がある。ただし、教育の目的が「未完成な学生を育成することにあるため、むやみに学生に迎合することなく、教育効果のある施策のみを採用すべきである。」「未完成な学生」相手という考えで、例えば成績表などの学生のプライバシーを損なったり、不当に長

いレスポンスタイムになることのないよう再確認が必要である。②30年前の学生時代と比べると、*良くなった点-健康診断の実施、個別の履修指導、*悪くなった点-車・自転車の増加によるキャンパス環境の劣悪化、奨学金カット、下宿代の高額化による経済環境、→大学でできる範囲の努力は行っているが、社会環境の変化には対応できていない。学生時代の能楽鑑賞会には一流の狂言師が出演していた。地域の京大生を見る目にどのような変化があるのかも興味深い点である。(教授)

- 予算に限りがあるなかで、よくやられている方だと思う。(教授)
- 1. 不登校学生や院生が1~2割出てくるが、こうした学生・院生への対応施設が必要である。2. 駐輪場の不足。農学部の建物と生協「ほくと」との間などは、通行不能に近い状態となる。大幅な駐輪場の確保と指導が必要であろう。3. 駐車場の設置。本部及び北部構内では走る所に駐車されており、通行さえできない状態となっている。有料の立体駐車場を設置して、安全な通行を確保すべきであろう。4. 農学部の農場等の利活用の向上。必ずしも校内にある必要のない農場等を移転し、この場所の有効活用を検討すべきである。(教授)
- *セキュリティ対策の整備(学部を越えて)。*学生の社会参加への自覚と促進を推進するボランティア活動支援。*学生相談(カウンセリングセンター)の充実・強化。人員の増員(最低+2)。*OB・OGの活用機会・窓口設置等の体制的支援(日常的な交流施設の設置)。(教授)
- 全体として大学の学生支援体制は適切であると思うが、学生の学習・生活意識の変化が激しいので、それに対応できるようなきめ細かいサービスの充実を目指すべきであると考え。(教授)
- 学生支援・学生サービスとは離れるかもしれないが、ガイダンス以前の問題として、どのような講義、教育を求めるかを具体的に学生側から提案できるような環境づくりが必要ではないか?(助教授)
- 宇治キャンパスにいと学生支援サービスほとんど関係ないので評価ができない。(助教授)
- 遠隔地にいるせいか、何も知りません。セクハラや心の問題は遠隔地でもあります。私個人としても知る努力が必要ですが、(学生・職員・教官に)周知させることもお願いします。(助教授)
- *学生寮、アパートの確保に不満。*留学生への対応が不十分。*短期(1年~半年)の学生の宿泊施設の充実が必要。(助教授)
- *監視カメラの構内・建物内への設置や、各建物の施錠の管理の電子化、徹底化で防火・防犯を図ってほしい。*留学生も一般学生も混ざって居住できる、現代的な設備の学生寮を整備してほしい。欧米の大学の水準を目指すべきである。*西部講堂のあたりを抜本的に再開発し、防音スタジオ、サークル室など完備の高層ビルの学生会館を建てて学生サークルに常時開放する。その代わり、本部構内、総人構内を問わず、サークル活動などを一切禁止して、研究教育の環境の向上を図る。時計台を妙ちくりんに改修する愚にもつかないことに金を無駄に使うより、はるかに大事な問題である。(助教授)
- 医学部入学後早期(1~2年目)に我々臨床教官と接する機会を設けてほしい。(助教授)
- 第3キャンパスもいいが、もう少し宇治地区で研究や実習をしている学生(及び教官)に対して、大学当局は考慮・配慮すべきである。独法化かCOBが知らぬが、極めて官僚的行政に沿った形で京都大学が将来構想を練っていて「教育」or「学生」を軽視するならば話は別だが。(助教授)
- 多くの項目では「普通」~「ほぼ適切」の範囲と思うが、大学全体としてみたときに、「キャンパス整備」「安全面」での問題が大きく、勉学に適した環境とは言えない。(助教授)
- 1. この「調査」のようなトップダウンの調査より学生にまず尋ねるボトムアップが先である。2. 「車社会」へのハードな対策をしてから、専門の取り締まり人員を配置して、美しいキャンパスを。特に西部キャンパス。これは「学生支援・サービス」以前の事柄である。3. セメスター制で前期試験が祇園祭宵山から始まるといったバカな日程をやめるべき。何のために京都に居るのか。これも「支援・サービス」以前の事柄である。4. 奨学金は院生にとって死活である。優秀な学生は、多数のなかにいる。多数の院生に無償返還奨学金を。5. 学生は教員との個人的接触を求めている。(助教授)
- 東京大学に次ぐ多数の学生を受け入れている大学としては、学生寮も充実しておらず、アルバイトを紹介することも消極的である。(助教授)
- 今後、学生のカウンセリング等が急激に重要となると予想されるので、それに対応できる「専門職員」を早急に、大量に雇うべきである(各学部数名の(非)常勤専門職員を配置)。(助教授)
- これからは情報支援に重点を置いてほしい。京都大学の学生・職員・OBに対しての情報支援を開発していただきたい。情報支援の中身は、1) 独立行政法人化に際し、京都大学がインターネットの provider になる。2) 京大 provider は研究室、学生の network の管理とともに利用料金を徴収し、独立した運営を行う。3) 学術書籍、雑誌の電子化を図り、学生・職員・OBに利用できるようにする。4) 上記の情報利用に関しては、一般にも料金を取って提供する。5) これらの情報支援を行うスタッフは学生に一定の講習を行い、アルバイトとしてやってもらう。それは学生に対する経済支援の一環にもなる。(助教授)
- 学生の憩いの場、コミュニケーションの場をもっと増やしてやっていただきたい。(助教授)
- 私どもが、学生生活を送った昭和40年代に比べて、様々な改善の努力は見られます。しかし、学生の勉学の場としてのキャンパスは、全般に極めて狭く、建物ばかりが密集し、決して快適な環境とは言えない状況になってしまっています。また、世間の不景気を反映して学生、特に勉学を究めた大学院博士課程の就職が困難になっており、後続の若い学生の意欲も削が結果になっています。一方で大学院定員が増え、他方で就職の機会が狭まったこのような学生達への具体的な対策こそ、直ちに考慮すべき事柄であると考えます。(助教授)
- どこまで学生サービスを行うか難しい問題だと思う。行き過ぎれば干渉、過保護になってしまう。現状ぐらいがちょうどいいのではないのでしょうか?(助教授)
- 大学という場所の目的(本分)にそぐわないようなサービスは過剰であり、必要ないと考える。しかし、勉学(研究、教育)を支援するためのものであれば、更に…(以下不明)(助教授)
- 高い授業料を払ってもらっている割にサービス内容は低い。講義室内の椅子などは、もっと良質なものに変えるべきである。文数予算の拡充に今後とも鋭意努力する必要がある。(助教授)
- 京大の四年間は、学生たちが受験勉強に青春の日々を費やしてきた生活から、「大学」という高等教育機関で多様な「知」に触れ、多様な人間関係を体験し、自らの生活や生き方を深く思索しながら自分なりの知性を構築していくべき時期だと思います。今の学生にはこの「切り換え」がとて難しいように思われます。一回生に入った時期にこのような意味でのサポートをしっかりとあげることが重要だと思います。あとは各々の「サービス」がどうあれば学生支援として有効なのか、吟味していく必要があるのではないのでしょうか。(助教授)
- 隔地研究施設の学生への支援・サービスを充実していただきたい。HP上での証明書発行等のサービス。(助教授)
- 私学と比べると「サービス」という感じは始まったばかり、という印象を受ける。何をするか、以前に「サービスをする」ということを積極的に意味があると考えるコンセンサスづくりも必要か、と思う。(助教授)
- *図書館の開館時間を延長し、休日も開館すべきである。学生をアルバイトとして図書館で雇い、時間延長できないか。米国の一流大学では、深夜までオープンしている。*留学生の短期(数ヶ月用)の宿舎が古いなどよく感じる。学生寮の現状をよく知らないが、留学生を助けるようなことはできないか。(助教授)
- できる範囲での対応は一通りなされていると思いますが、私大等と比較すると大きな差があると思います。まずは、web page の更なる整備と夜間の治安維持ではないでしょうか。ほかには財源・マンパワーとも足りないと思います。(助教授)
- 今後これ以上のサービスの質・量を提供するためには、「研究時間を減らす」か「専門の教員ポストをつくる」必要がある。(助教授)
- サービスという名の下に過保護、過干渉となっているものが多い。学生自身による積極的な自主運営システムを導入すべきである。(助教授)
- スペースが不足しているのは否めないが、現実には西部キャンパス、総人の一画等、有効に活用されていないスペースがある。これらを有効利用して学生サービス支援を考える。博士課程学生への経済的支援は、きわめて重要。(助教授)
- 先日こんな事実があった。『授業料滞納につき除籍処分になった学生がいた。その指導教官は事後にそのことを知らされた。

- 指導教官はそうなる以前から、当該学生に大学に来ないなら休学届けを出すように指導するなど注意を払っていた。』1. マスプロ教育ではなく、やはり教育の原点、一人一人の学生に向けた仕組みづくりに関心を持ってほしい。2. 欧米に比べ、また日本のほかの国立大に比べ京大はなぜに雑然としているのか。学生へのサービス以前の問題が山積している。3. 京大だけではないが、改組、独法、入試改革、あまりにも諸制度をいじりすぎる。もう少しじっくりと構えた方がよい。(助教授)
- 全体として学生支援・学生サービスという意識が希薄である。大学が学生へ提供するサービスは、何をどこまで含むのかについて明確にする必要がある。(助教授)
 - 学生の立場に立ってみると、不便なことがあっても、なかなか柔軟に対応していないように思える点がいくつかある。日本を代表する京都大学でありながら、欧米諸国の同レベルの大学と比べて外観的にも、経済的支援においても、大きく遅れをとっている感もある。国に働きかけなければ改善の余地がないケースもあると思うが、是非改善を目指していただけたらと思う。(助教授)
 - まずは、「学生支援・学生サービス」(特に後者)の呼称を改める必要。本来大学としてすべき業務が、多数含まれている。①建物、施設新築の場合には、利用する学生・職員数を勘案して(駐車)駐輪場などの付帯設備の設置を義務付ける。②学生関係の将来計画を策定するワーキンググループをつくり、検討する必要がある。(助教授)
 - 総合的に判断すると、まずまずだと思うが、人権問題に対して適切かつ早急に対応する体制が整っていない。弁護士、心理療法士(カウンセラー)、医師を含む確固たる組織が必要。学部単位の人権問題対策委員会では適切な処置がなされず、泣き寝入りのケースがほとんどであると聞く。多忙な教授からなる委員会が短時間で適正な判断を下せるはずがない。(助教授)
 - ただし、実際、現在まであるいは現在どころ、どのような支援事業がなされているか、現状がよく分からない。したがって、とりあえずの評価をこれまでつけたが、これが現状に適しているものか分からない。京大HPなどで、もっと具体的にどのようなサービスが、どの程度されているかをもっとアピールすべきと思う。(助教授)
 - 学生の要望を聞く→適切・迅速に対応する。・大学生は「大人」である→幼稚な「戯れ言」は理由を明確にし、対処する。(助教授)
 - 学生が喜ぶことは何かを考えるより、本当に困っている学生は何を必要としているかを理解し、対処すべきと思う。(経済面、精神面、健康、進路)いわゆるサービスとしてのキャンパスライフの快適化だけでなく、平均的學生は喜ぶだろうか。京大もタダの大学に倣うというだけのことのように思う。(助教授)
 - 図書館やロッカーなど、ハード面では不十分な面があると思う。学生からの相談については、教官はよく対応していると思うが、学生側からのアクセスが稀である。不満や困ったことがあっても、気軽に先生と相談できず、じっと我慢しているだけで、ある日突然切れたり、突然院をやめて就職したり、というような行動に出る。これは先生の対応というよりは、「引きこもり」に代表されるような、幼児期からの社会的な生活に対する対応、養育の不十分さにも起因するものも大きいと感じる。また、特に京大生は競争に勝つ、という目標のために選択されてきた人が多く、協調性や互いを支えようとする能力に劣る学生が多いような気がする。何とか社会性を養うような機会がつかれないだろうか。(助教授)
 - 私は、今のキャンパスの面積、職員数etc.の制限があるなかでは、よくやっている(少なくともほかの巨大な国立大学と同程度)と思う。1~3回生が教官と接するチャンスがほとんどないことは、改善策を考えていただきたい。しかし、今の学生は教官と接することを好まないように思う。それに教官サイドが甘えて接するチャンスのない状況を肯定してはいけないのではないかと。(助教授)
 - どの支援もサービスも、その対象が不明であるため、「必要・不要」が回答できない。留学、アルバイト、宿舎・下宿等は、民間でも多く提供されており、一見不要とも思える。しかし、留学生、もしくは一回生入学時にはある程度、大学側からの情報提供も必要であり、必要性もある。サービス対象と範囲も重要であり、周辺環境を考えながら、柔軟に対応することも必要だろう。(助教授)
 - 特に問題ないと思う。・キャンパスが広いので、あるいは他地区のキャンパスもあるので、今後サービス窓口(案内だけでもよい)と思うの増設が必要と思う。本部だけでなく、各学部事務室、各研究所事務室で情報が取れるようにした方がよいと思う。・学内美化運動みたいなものはいかがでしょうか。(助教授)
 - 孤独になってしまった学生が、気楽に相談できるような環境があればよいと思う。全体としては、よいサービスを提供していると思う。(助教授)
 - 京大は「自由」あるいは自主性に任せるところが重要であると考えているが、それにも限度があり、現状の学内の駐輪状況などを考えると、ある程度の制限を設けることが必要であると考えている。(助教授)
 - ネットを通じて自習教材の配信(教材を提供した教官に対する報酬も!)。(講師)
 - 本学は研究中心大学であり、教官は研究者として、世界レベルの権威であることも多い。学生に要求するレベルも非常に高いことも多く、大学院重点化のなかで、それに付いて来れない院生も増えている。本学の研究レベルは非常に高いが、そのことが、学生の生活の質を高め、豊かな学びを保証しているだろうか? 早く多く業績を上げようという教官のストレスが学生に害を及ぼしてはいないだろうか。京大生には受験競争で不安に駆られて強制的に勉強してきた者も多い。京大に入ってまた煽られられるのではなく、京大に入って表情が穏やかになった、生き生きしてきた、のびのびしてきたと言われるような京大でありたい。ハイレベルの研究中心大学であるからこそ、普通以上の、そしてそういう大学ならではの学生生活への支援、ストレスへの対処・対策などが必要であるはず。(講師)
 - ①構内警備②経済支援③キャンパス整備、もっと充実した方がよい。アメリカに比べて劣っていると思われる。(講師)
 - 最小限の事項(安全性)を確保した上で、学生の自主的取り組みを保証、見守る姿勢でよいと思います。(講師)
 - A号館建て替えの後も教室の課外活動への使用を止めないでほしい、との意見がありました。(助手)
 - 平均的な学生支援は達成していると思われる。しかし、現状では吉田キャンパスに比べ、ほかのキャンパスの学生はサービスを受けにくいと感じる。宇治、桂などで少なくとも一通りの手続き(奨学金等)ができるようにすべきである。キャンパス間の連絡バスも、朝の授業に出席できる時間帯での運行が望ましい。(助手)
 - 学部学生と接することがないので「学生支援・学生サービス」というのを大学院に限定して話をしますと、彼らがこれらのサービスを受けているという話を聞いたことがありません。大学院生と学部生との違いもありますが、あまり期待もされていないのではと思っています。むしろ今回大学評価の一つとして、このアンケートが回ったことに驚きを感じました。つまりサービスがよいことを是として自己評価しようとしているのかと察していますが、手取り足取りすることがよいとは思わないからです。今でも自主性が失われているのに、更にそれを加速する方向での改編はマイナスと考えています(最初に尋ねている各項目は大半はサービスではなく必須の業務とします。ちなみに...)。(助手)
 - 学生と教官が授業以外で交流を促進することは、教育の質、内容の向上のためには有易であろう。本アンケート等で記されている学生支援自体を学生はどの程度知っているのか? 宣伝も必要なのではないか? 少なくとも教官である自分にはこのアンケートに答え得るに足る情報を持っていない。(助手)
 - 他大学と比較して、学生の能力に頼りすぎる。このアンケートにしても考えた内容とは思えない。もう少しまじめに考えるべきである。現状では「給料@どろぼう」である。(助手)
 - 学生の意見をもっと取り入れるべきだと思います。学生が直接苦情や意見を訴える場所はあるのでしょうか。インターネット等を利用して広く意見が集まるよう整備すべきです。(助手)
 - 評価2とは言うものの、京大では、物理的(キャンパスの面積など)及び歴史的経緯により、改善不可能と考えます。ハコは悪く、ヒトは駄目でも、学生は優秀ですから、このままでいいのではないのでしょうか。(助手)
 - 学生へのインターネット供与。ホームページ、各教室のホームページの充実。学生だけでなく、京大医学部における computer networkは非常にお粗末である。(助手)
 - 本部以外のキャンパスにおいても、本部と近いサービスが受けられるように努力していただきたい。(助手)
 - これまでは、あまり「学生支援・学生サービス」というものが、目立っていませんでしたが、今後もっと充実して、表立ったものにな

- ることを期待しています。(助手)
- 施設の利用は一部のクラブの特権となっている。不満の声が大きいことから、早急に見直しが必要である。また、格差をなくすために利用権の期限を短くすべき。(助手)
 - くつろげるスペースがあちこちにある一方で、実験スペースがないのは本末転倒という気も。特に専門に進んだ学生にとっては居室を削って実験を行ったりしている今の状況は、劣悪な環境と言わざるを得ない。広い場所で実験を行うことは、安全面や実験精度の面でも非常に重要であり、学生支援の重要な項目であると考えます。(助手)
 - 課外活動的なものよりも、学習の支援に注力すべきだと思います。(助手)
 - 工事が多いこともあるが、吉田キャンパスは雑然としている。駐輪場の整備などは「学生支援・サービス」というより、もともと根本的な問題だ。(助手)
 - 総合的に学生サービスがどうなっているか把握していないので、以下特定の内容となる。情報メディアセンターにおける学生サービスについては、現在あまりやる気があるとは思えないTAに任されており、ほとんど役に立っていないように思える。逆にTAを担当した学生に仕事内容を聞いてみると、メディアセンター内に設置されているPCの電源遮断が主な仕事であったということである。このような状態であるなら、TAは不要である。電源遮断は簡単に自動化可能である。もし、同一予算で何らかの英のあるサポートをするつもりがあるなら、例えばTA数を半減させ(電源のON/OFFは自動化する)、一人当たりの給与を2倍に増やし、かつそれなりの量とやる気のある学生を公募し、十分な研修を行った上で、担当させるという方法が考えられる。その場合、メディアセンター内のPCの使い方だけでなく、一般的にコンピュータやネットワークの使用から、購入などに関する相談に応ずるようにするとよい。すぐに古くさくなるPCの貸出し制度などをつくるより、はるかに効果があるのではないだろうか。(助手)
 - 5講時まで講義があるのに、講義が始まる前(～8:45)、講義が終わった後(18:00～)に教務窓口が開いていない。せめて昼休みには窓口を開けるべき。12:00～13:00まで窓口が休みを取るのは論外。私立では土曜に窓口を開けているところもある。本部構内へのバイクの入構を制限する労力を車の入構制限へ向けるべき。業者の車以外は駐車スペース分以上の入構を認めるべきではない。(助手)
 - 「学生の生活の場」という観点からのキャンパス整備ができていない。様々なサービスが用意はされているが、十分に支援できているとは思えない。統一した案内窓口のようなものを設け、より効率的に学生に情報を発信してほしい。すべて学内で行うのではなく、民間を上手く利用した仕組みがよいのではないかと(可能であればの話だが)。(助手)
 - 桂キャンパス、宇治キャンパス、本部間のスクールバスの便数の増加が望まれる。(助手)
 - 「自由を享受し、すべて自分で責任を持つ」という京大の「昔ながら」のスタイルがよいと思う。そういう意味で、手を出しすぎない「了」くらの評価が、サービスとしてはベストではないかと思っています。ただ、物理的な空間を学生に提供するのは、大学側の責任だと思いますが。(助手)
 - 進路・就職に関する支援などは、各部署・専攻などによって大きく違う面も大きいので、このような「大学」としての形の評価を求めるのは、難しいのではないだろうか。(助手)
 - 奨学金の紹介、導入、あるいは入学金、授業料免除の範囲拡大など、学生生活の根幹に関わる部分については、積極的な対応を望むが、就職説明会などで、学生に媚びるがごとくの過度な対応は避けるべき。学生には、学問を行うという目的を持って入学してきたのであり、一個の責任ある大人としての自覚を促し、自主的に問題に対応し、解決させることが必要と思われる。大学としてはそうした体制づくり(自覚の覚醒を促す体制・システム)の構築に努力すべきで、安易に学生の要求を受入れ、それで事足りれどすべきではない。(助手)
 - 自由か放任かは、本人の意識の問題であり、個人的にはこれまで通り「自由な学風」をこれまで通りの京大方式で行えばよいと思う。世間の意見に左右されず京大流を貫けばよい。(助手)
 - 学内での食事(特に昼食)が現状では困難。(助手)
 - ちょっと趣旨から離れるかも知れないが、大学の地図の設置が少ないように思う。初めて来校する者にとっては迷うことが多いようだ。インフォメーションセンターなどを設置し、地図を配布するなどしてはどうか。もし既に存在するのであれば、分かりやすくしてほしい。(助手)
 - 学生に対するサービスが充実してくるのはいいですが、あまり度がすぎると、学生を甘やかすすぎることにはならないだろうか。(助手)
 - 大学院生の授業料は、無料にするように。大学院生にパソコン1台支給するように、働きかけてほしい。(助手)
 - 総合的に見て、普通程度と感じる。しかしながら、大学院生に対する支援をより充実させるべきであると思う。特に収入(生活費)の面において。特に博士課程に進学したいと思っても、経済的な理由で進学を断念する場合も多いのではないだろうか。(助手)
 - あくまで京大が自由にこだわるのであれば、多様な進路を学生が取ることを「外部の人材」を活用して実現する方法を考えなくてはならない。学内で多企業が採用活動を行う機会を提供すると同時に、企業側には、大学での勉学に対して理解を求めるなどの方法が必要であろう。大学と就職の間の不連続が今まで大きかったように思うが、機会を学生が目の当たりにすることによって、学生の意識も変わる。学内での活動では企業からお金を取ってもよいだろう。教員の事務的負担を軽減するための方策も必要であろう。大学の究極的な「学生支援」は教育・研究であるのだから。(助手)
 - 構内の交通問題についてはあまり改善の兆しが見られない。また休日、夜間には度々盗難事件が起こっているようである。これらは学生・教官の安全・財産を脅かすものであるため、少なくとも車輛の入構について、制約や管理が必要になってきていると思われる。(助手)
 - 本学が提供しているサービスは、一部を除いてかなり充実していると思うが、学生(特に一回生)にはかなり敷居が高いようなことを聞いている。コンシェルジュのような総合案内窓口があってもよいのではないかと。(助手)
 - 学生におもねる必要などないと思いますが、教育内容や研究への一部参加などの道は、もっと拡充すべきだと思います。現状では各教室、講座の教授の力量やコネの利く分野(この場合の「コネ」はネガティブな意味ではなく、専門に関連する業種、という意味ですが)に偏りが大きすぎる嫌いがあると思います。結果的に学生が選択できる業種が狭くなり、教官の負担も大きくなっていくと思います。(助手)
 - 私は研究所の助手を務めていますので、研究室の学生指導以外に、あまり学生支援・サービスについて考えたことがありません。しかし、今後の大学運営を考える上でとても重要な課題となるでしょうし、今回のアンケートは、私自身にとってそれを喚起するいい機会となりました。すなわち、具体的なサービス内容もさることながら、教職員全員にその重要性(必要性)を啓発する必要を感じました。(助手)
 - 吉田地区に在籍する学生に対する支援は、他大学と比較してもよい方だと思いますが、遠隔地学生は不利な点(経済的、時間的)が多いので、真剣に考えていただきたいです。せめて授業をSCSなどで(一部でも)行い、吉田地区と遠隔地との移動のための時間、それにかかる費用の軽減をいただくようお願いいたします。せっかくやる気のある学生がいても時間や経済面で苦しんでいるのは、かわいそうです。(助手)
 - 全般的に不可はない。京都大学としてよい雰囲気づくり、社会(世間)から「素晴らしい大学」と認められるように、学生も教職員も意識改革が必要であろう。(助手)
 - 受ける学生にすれば、無料のサービスが拡充されることは好ましい。ともすれば、官による民への圧迫にもなりかねないサービスは再検討すべき。アルバイト、下宿紹介などを公務員が行う必要性は少ない。逆に、就職部門においては、私大のような専門的なスタッフによるカウンセリングを全員受けられるような体制に拡充してほしい。京大が生み出した人材が世に利するために、社会への適切な参加が必要であり、ほとんどの学生が現況として、身に付けた知識を社会貢献し得るが疑問である。ほとんどの学生が大学院進学を希望しながら、社会との接点には意識が希薄である現状を打破してほしい。(助手)
 - 学生の勉学に対する支援の充実を望みたい。具体的には、図書館の開館時間を延長する、図書館の机の数を増やす、学生が自由に使えるセミナールームを提供する、などが考えられる。そのほか、学部生向けにセミナーを開催することが考えられる。この際、院生をティーチングアシスタントとして雇い、セミナーの指導役(チューター)とすれば、院生の勉学にもなり、経済支援にもなる。(助手)

- 安全について例えば北部構内の今出川から御蔭に出る南北の道路は、公道であり、一般人も数多く通行している。その人達は、もし自分が何らかの事故に巻き込まれたとき、警察がすぐには来てくれないことを知っているだろうか。大学はその事故に責任が取れるのか(初動捜査の遅れなどに対して)。学生達、職員達の安全を守れないような大学自治(自治には安全も入るのだが)は、いけない。(助手)
 - キャンパス内の警備をより強化していただきたい。特に吉田キャンパス内の夜間は危険である。・クラブ活動が自由放任。特にピラ配り、張りがひどい。こうしたクラブに対する活動や部屋利用に何らかの制限を課してほしい。(助手)
 - 見た目は悪い、よく組織化されているとは言いが、実質的にはよいサービスを提供していると思われる。ただし、そこに前提としてあるのは、学生が受身でいては十分に提供されているだけのものを利用できない(あるいはできなくても仕方がない)という点であると思われる。私個人は受身な人に対するサービスの充実を優先度第一にする必要はないと思う。しかし、どこに行けばサービスの全体像を掴めるか?個々の具体的な内容を調べることができるか?といった情報を周知させることは必要だと思う。積極的な人(あるいは積極的になった人)が十分に情報を掴めるようにしておくことは大事であると思う。(助手)
 - 学生からの投書箱のようなものを設置することはどうだろうか。サービスとしては、普通より優れていると感じている。(助手)
 - 院生に対する支援の強化希望。分野によっては、博士後の進路がほとんどない。学生を受け入れるのであれば、彼らの進路も(受入側の大学が)開拓すべきであろう。(助手)
 - これまでのサービスについては適切であったと思う。(助手)
 - 学生は子供であり、大人として成長する部分もあるというレベルだと思います。できる人にはそれなりの自由を与えて区別していけばよいと思います。(助手)
 - 京都大学の自由の学風、気風を今後も存続させていくためには、大学側があまり学生に対して、何もかも手をかける必要はない。その意味で今まで行ってきた学生支援、サービスは他大学に比べると少ないかも知れないが、本学にとっては、少なすぎるとは思わない。現状であっても、教官とコンタクトを取ってくる学生もいるので、そのような学生に対してはサポートを多すぎると、画一的なサポートはふさわしくないように思う。(助手)
 - 学部学生はよく知らないが、宇治キャンパスでの院生ではよくサービスができていくと思う。これは、各研究室に属していて絶えず助手、助教と相談できるからと思う。また嫌なことを言にくい部分もあり、セクハラ相談だけでなく、よろず相談もできる人を設けるべきである。その人が適当な指示を与えるようにする。内辺の相談等のサービスが一番難しく、この方面の取組みをしていただきたい。(助手)
 - 構内に行き交う車やバイクは速度制限を無視して走っていることが多く、非常に危険であると思う。そもそも(特別な場合を除き)大学生生活に車などが必要なものかどうか考えてしまう次第である。入構制限も少なくとも授業のある時間については強化し、制限速度を守るよう呼びかけの必要がある。安全なキャンパスでこそ安心して勉強研究に打ち込めると思う。(助手)
1. 学生の交通事故防止及び円滑な移動ができるよう、京大正門前交差点の陸橋化を図る。2. 構内の美観を維持管理するため、4半期毎の全職員・学生による清掃日を設け実施する。なお、毎週1回、清掃車を全構内に巡回させ、美化を維持する。3. 清風荘を京都府または京都市に移管し、その代替施設として、本学学生及び私学を含めた留学生のための地域住民と交流できる場所(異文化体験)に交流宿舎(外国人教師も入居)を設置する。あわせて留学生の学生生活、日常生活に対するアドバイスができる専任スタッフを措置する。4. 学生支援・サービスの最たるものは効果的な教育の実施であり、全学の教員はシラバスを提出し、定期的に研究会を開き講義内容を検証し、講義期間の中途及び終了時に学生による授業評価を実施し、事後の教育改革に活用することである。(事務(技術)職員)
 - 今の学生はサービス情報の多くをパソコン等を通じて得ているが、本学のホームページを見るとその内容更新が非常に遅く、情報もあまり充実していない。このような状況をどう考えているのですか?忙しいといって後回しにしていますか?もっと早く大いに活用すべきだと思います。大学の主役(お客様)は学生です。教官はもちろん、事務の学生関係は当然、庶務、経理関係者もこのことを念頭に置き、職務を遂行すべきです。事務のなかにはこのことを忘れて管理するのが仕事、自分らの都合よくことが運ぶようするのが、できる事務官と思っている人がいるようです。我々はサービスを国民に提供する公務員です!(事務(技術)職員)
 - 学生の自主性を尊重する校風を維持するためにも、学生支援、学生サービスを強化することが、必要ではないか。(事務(技術)職員)
 - 現在の学生部の体制では、改革は難しいのでは。学部の方の支援まで行き届いていない。教務関係職員の意識を変えるように考えてほしい。研究等をもっと増やすことも必要ではないか。(事務(技術)職員)
 - 自学・自習の理念に身を隠し「学生支援・学生サービス」を怠ってきたのが過去の京大ではなかったのか。学生数の増加、学生の質の変化など、社会の変化に伴い、大学も変化することを求められている。時代の要請に合致した「学生支援・学生サービス」を積極的に展開していく必要がある。学生が学び語り合える環境整備と支援体制の構築が必要。(事務(技術)職員)
 - 他大学にお伺いするたびに京都大学がすべての方面から見ても遅れているように思います(国立大学間でも)。現在のことばかり目を向けず、先の先を見て計画を移してほしいと思います。財政面、施設面ではなくても、対応する個人の気持ちの持ち方、接し方で違ってくると思います。例えば学生に対する接し方で忙しいからという理由で通り一遍等な説明で終えるだけでなく、その人の気持ちになって接し、対応してやる(今は仕事をこなすのみですが、余裕を持てるように)。掲示を貼るにも見やすいように整理整頓を常から心掛ける。お金をかけなくても各人の気持ち一つで改善できることが多いのでは(おはよう、こんにはから始まります)。まずお互いに周りを見て、できることから心掛けたいものです。専門的なサービスには3年サイクルの異動ではなく、少なくとも入学した学生が卒業後1年たったくらいまでの間、1つの仕事としてやりたいものです(少なくとも5年)。(事務(技術)職員)
 - 本学では、自主自律の方針に基づき、学生の指導を行ってきたが、反面それが隠れ蓑的で、研究活動等と比べ、学生指導・学生支援の面では対応の遅れが著しいと思う。21世紀の京都大学を一層向上させるためには、より教育の提供はもちろんのこと、学生支援・学生サービスにつき、全学を挙げ、より明確な方針を早急に作成し、実施していく必要があると思う。(事務(技術)職員)
 - 学生支援・サービスの充実を図るためには、人的リソースの拡充が必要。(事務(技術)職員)
 - 学生の憩いの場として、庭園の整備や学生会館の設置。(事務(技術)職員)
 - 学生相談窓口の充実等が大切と思われる。(事務(技術)職員)
 - ユニバーサル化した状況での本学の学生支援・学生サービスのお粗末さは∞。それでも評価点3を付けたのは、昔からの恵まれた環境のお陰(?)。(事務(技術)職員)
 - 普通であるとの評価は、ほかの国立大学と比較してのこと。大学は学生あってのもの。目に見えるだけでも、学生のための施設が少なく貧弱である。学生納付金に見合う程度の投資が必要ではないだろうか。一部学生に配慮しすぎの感もある。彼らをキャンパスから排除する勇気も必要。その結果、多くの学生が投資の恩恵を受けることができる。(事務(技術)職員)
 - 学生が不満に思っているところの改善が必要かと思う。(事務(技術)職員)
 - 1. 学内掲示の電子掲示自動化。休講のお知らせ、学生への呼び出し、全学生への連絡等はPCまたは携帯iモードからのアクセスが可能となるように。2. 支援サービスインフラの整備。学寮・部室・サークル室・健康プラザ(プール、ジム、体育館)。3. 学生センターの設置。一ヶ所ですべてのサービスが提示されている場所の設置が望ましい。(事務(技術)職員)
 - 今後は研究環境と同様に学生の勉学環境、生活環境が充実されねばならない。そのためには、研究のための図書や資料の整備が、研究者個人の領域ではなく、大学の大学院学生の学習のために役立てられるものを主眼とする必要がある。図書館の資料は公的(Public)な大学の財産であり、公的な場所において、近代的なスキルを持った図書館職員により、すべての利用者に平等に、公平に提供されなければならない。このように全学的施設などを整備、充実しなければ、学生支援・学生サービスを向上させることはできないと思える。(事務(技術)職員)
 - 教務関係に携わってきた者としては、まあまあサービスであったと思う。具体的に対応して難しいと思うのは、学生サービスと甘やかしの区別であって、何でもやってあげることがサービスという風潮が昨今あると思うが、大学の社会的使命から見て、よく

- ないと思うものもある。(事務(技術)職員)
- 各学部、研究科の学舎に適当数のパネルタッチ式のパソコンに学生支援ソフトをネットワークに乗せ随時に見られるサービスを提供できたら、なおよい。(事務(技術)職員)
 - これまでは、入学してきた学年に対するサービスという概念がほとんど働かなかったのではないだろうか。学内には「病院」という、もともと国民・利用者に近い組織があり、サービスとどのように行うかについても長年の経験と実績が蓄積されている。病院におけるサービスの在り方と学生を対象にしたサービスでは、自ずから内容は異なるが、その精神は変わらないはずである。様々な局面で、どのように対応すべきかは実際に経験しないと分かりにくい面もある。こうした「サービス」概念は、国立・公立・私立を問わず必要なものであり、事務組織における実務研修に必ず取り入れるとともに、研修の1プログラムに終わらせるのではなく、日常の業務遂行にも取り入れることが必要である。積極的に「接遇」「サービス」という視点を確保した研修及びOJTも必要であろう。京都大学において、このような意識調査が実施されること自体、初めてではないかと思うが、学生に対するサービスは事務組織だけで実施できるものではなく、教官との密接な連絡・調整が不可欠なのはいうまでもない。この実施調査の結果を踏まえて、独立行政法人化が避けられない情勢の下で、ある意味では全学の「意識改革」が求められている。しかし、限られた人員・組織のなかでどこまで対応するのか(できるのか)を多くの意見を基に、取捨選択することもまた求められていると考える。具体化に当たっては、「全学の知恵」を集集し、効果的なものを策定しなければならない。(事務(技術)職員)
 - 学生のニーズをアンケート調査したり、現状における問題点を客観的に見つめ、さらけ出して学生がよりよいキャンパスライフを送れるよう、学生の立場に立った「学生支援・学生サービス」が必要である。大学の中心は学生であるので、よりよい教育・研究ができるハード・ソフトの両面からの支援が大変重要である。今後独法化後は他大学に負けないぐらいの学生サービスの向上を図る必要がある。そのための予算措置も講じなければならない。そうでなければ、やがて学生は他大学に流れていくと思われる。(事務(技術)職員)
 - 学生個々人の満足を得ることは、大変な困難が伴うことと思います。要望の多いもので、個人では満たすことができないサービスの実施を検討していただきたい。(事務(技術)職員)
 - 個人の自立を促すためにも、過剰な支援・サービスは行う必要はないと思う。(事務(技術)職員)
 - 事務官等の減少により、サービス面での時間的余裕がない。学生支援・学生サービスはほとんどは人が必要となる。定員減のなかでどのように向上させるかは難しい。本質的な向上は無理と思われる。(事務(技術)職員)

資 料

京都大学大学評価委員会規程

第一条 京都大学（以下「本学」という。）に京都大学大学評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第二条 委員会は、本学の教育研究水準の向上を図り、かつ、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況に関する点検・評価について必要な事項を行う。

第三条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 総長
- 二 副学長及び総長補佐のうちから総長が指名する者
- 三 各学部長
- 四 大学院人間・環境学研究科長、大学院エネルギー科学研究科長、大学院アジア・アフリカ地域研究科長、大学院情報学研究科長、大学院生命科学研究所長及び大学院地球環境学学長
- 五 各研究所長
- 六 各センター長
- 七 医学部附属病院長、大学院農学研究科附属農場長及び大学院農学研究科附属演習林長
- 八 附属図書館長
- 九 事務局長
- 十 その他総長が必要と認める者 若干名

2 前項第十号の委員は、総長が委嘱する。

第四条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は総長をもって充て、副委員長は前条第一項第二号から第八号まで及び第十号の委員のうちから委員長が指名する。

3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

第五条 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開会することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決する。

3 前二項に規定するもののほか、委員会の議事の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

第六条 委員会に、自己点検・評価等専門委員会及び第三者評価専門委員会（以下「専門委員会」という。）を置く。

2 自己点検・評価等専門委員会は、大学設置基準（昭和三十一年文部省令第二十八号）第二条及び大学院設置基準（昭和四十九年文部省令第二十八号）第一条の二に定める自己評価等について、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 全学的な自己点検・評価及び学外者による検証の企画・立案に関すること。
- 二 全学的な自己点検・評価及び学外者による検証の実施並びに報告書の作成に関すること。
- 三 その他全学的な自己点検・評価及び学外者による検証に関し必要なこと。

3 第三者評価専門委員会は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 大学評価・学位授与機構が行う全学テーマ別評価に関すること。
- 二 大学評価・学位授与機構が行う分野別教育評価及び分野別研究評価の本学内の調整に関すること。
- 三 その他大学評価・学位授与機構が行う評価に関し必要なこと。
- 四 大学評価・学位授与機構以外の学外の機関が行う本学に対する評価に関すること。

4 専門委員会は、第三条第一項の委員のうちから委員会の委員長が指名する者及び本学の教職員のうちから総長が委嘱する者で組織する。

5 専門委員会に委員長を置き、第三条第一項の委員のうちから総長が指名する。

6 専門委員会に必要な応じて作業部会を置くことができる。

7 前項の作業部会には、必要な応じて専門委員会の委員以外の者を、その委員として加えることができる。

8 前各項に規定するもののほか、専門委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

第七条 学部、大学院研究科、研究所（大学院地球環境学舎及び大学院地球環境学堂を含む。）、センター、医学部附属病院及び附属図書館（以下「部局」という。）に、当該部局における教育研究活動等の状況について点検・評価を行うことを目的とする委員会（以下「部局委員会」という。）を置く。

2 部局委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、当該部局が定める。

第八条 委員会は、本学の自己点検・評価を毎年度実施するものとする。

2 委員会は、前項の点検・評価の結果について、学外者による検証を定期的実施するものとする。

第九条 委員会は、前条により実施した結果を取りまとめ、総長に報告するとともに、報告書を定期的に公表するものとする。

第十条 委員会及び専門委員会の庶務は、総務部企画課において処理する。

第十一条 この規程に定めるもののほか、本学の点検・評価に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

1 この規程は、平成十三年二月二十七日から施行する。

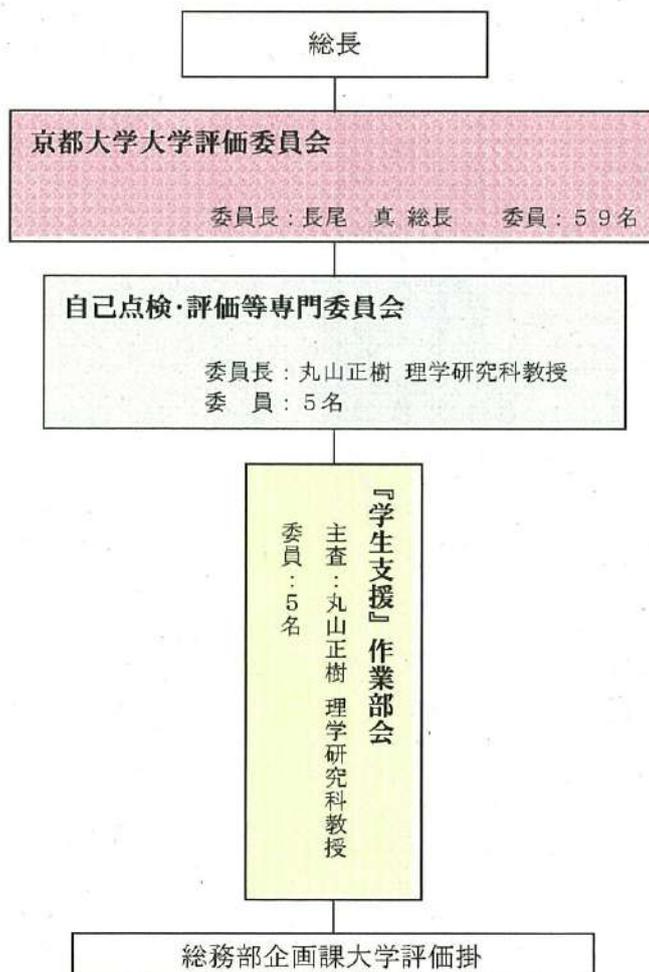
2 京都大学自己点検・評価実施規程（平成五年達示第十号）は、廃止する。

〔中間の改正規程の附則は省略した。〕

附 則（平成十四年達示第十八号）

この規程は、平成十四年四月一日から施行する。

平成 14 年度自己点検・評価実施体制



京都大学大学評価委員会等委員名簿

(平成15年1月1日現在)

京都大学大学評価委員会	
所属・官職	氏名
総長	◎長尾 真夫
副学長	尾池 和夫
副学長	金田 章裕
総長補佐	森本 滋
総長補佐	塩田 浩平
総長補佐	○西本 清一
総合人間学部長	宮本 盛太郎
総合人間学部・教授	林 哲介
文学研究科長・文学部長	紀平 英作
教育学研究科長・教育学部長	梶 紀夫
法学研究科長・法学部長	木村 雅昭
経済学研究科長・経済学部長	下谷 重弘
理学研究科長・理学部長	加藤 政樹
理学研究科・教授	丸山 正樹
医学研究科長・医学部長	本庶 佑
医学部附属病院長	田中 紘一
薬学研究科長・薬学部長	橋田 充
工学研究科長・工学部長	辻 文三
工学研究科・教授	北村 隆行
農学研究科長・農学部長	松野 隆一
大学院農学研究科附属農場長	谷坂 隆俊
大学院農学研究科附属演習林長	大島 誠一
人間・環境学研究科長	江島 義道
エネルギー科学研究科長	笠原 三紀夫
アジア・アフリカ地域研究研究科長	加藤 剛
情報学研究科長	茨木 俊秀
生命科学研究科長	柳田 充弘
地球環境学堂長	内藤 正明
化学研究所長	高野 幹夫
人文科学研究科長	阪上 孝
再生医科学研究科長	山岡 義生
エネルギー理工学研究所長	吉川 潔
木質科学研究科長	則元 京
防災研究所長	入倉 孝次郎
基礎物理学研究所長	益川 敏英
ウイルス研究所長	下遠野 邦忠
経済研究所長	佐和 隆光
数理解析研究所長	柏原 正樹
原子炉実験所長	井上 信
霊長類研究所長	小嶋 祥三
東南アジア研究センター所長	田中 耕司
学術情報メディアセンター長	松山 隆司
放射線生物研究センター長	丹羽 太貫
宙空電波科学研究センター長	松本 紘
生態学研究センター長	山村 則男
放射性同位元素総合センター長	五十棲 泰人
環境保全センター長	橋本 伊織
遺伝子実験施設長	清水 章
留学生センター長	鈴木 健二郎
高等教育教授システム開発センター長	荒木 光彦
総合博物館長	瀬戸 烈司
国際融合創造センター長	松重 和美
保健管理センター所長	川村 孝
体育指導センター所長	尾池 和夫
低温物質科学研究センター長	水崎 隆雄
埋蔵文化財研究センター長	鎌田 元一
アフリカ地域研究資料センター長	市川 光雄
カウンセリングセンター長	岡田 康伸
大学文書館長	佐々木 丞平
大学情報収集・分析センター長	西本 清一
福井謙一記念研究センター長	森島 績
附属図書館長	佐々木 丞平
事務局長	本間 政雄

自己点検・評価等専門委員会	
所属・官職	氏名
理学研究科・教授	◎丸山 正樹
文学研究科・教授	木田 章義
経済学研究科・教授	日置 弘一郎
理学研究科・教授	西田 吾郎
情報学研究科・教授	磯 祐介
基礎物理学研究所長	益川 敏英

『学生支援』作業部会	
所属・官職	氏名
理学研究科・教授	◎丸山 正樹
教育学研究科・教授	子安 増生
法学研究科・教授	岡村 周一
経済学研究科・教授	日置 弘一郎
高等教育教授システム開発センター長	荒木 光彦
地球環境学堂・教授	小林 正美

◎は委員長又は主査、○は副委員長を表す。

編集後記

学ぶ場としての本学の環境が理想とかけ離れたものであることは、これまでも様々な場面で指摘されてきたところである。学生会館を建設し、学生の集う場所を用意し、緑豊かで静かな環境を整える、これらはあるべき姿として語られ、時にはあたかもそれがなければ本学の環境改善が一步も進まないかのような言われ方もした。しかし、今回の自己点検・評価の結果、現有の施設、人的資源でなし得ること、なすべきことが多くあり、現在のキャンパスに学生会館を建設することが、環境を悪化させることになりかねないことが明らかになったといえよう。例えば、不十分な状態にある本学の情報開示・伝達システムを改善するために、この分野に人的資源を少し厚くし、現有資産を有効に機能させること、また教務掛などの学生の日常に密接なかかわりのある窓口を昼休みに開けること、この2点の改善だけでも、学習支援についての学生の不満の大部分は解消する。また、図書館、図書室の開館時間を延長すること、授業時間外に講義室を学生の自主学習に使えるように建物管理の工夫することも早急に実施すべきことである。

本学の学生支援にかかわる施設が不十分であることは論をまたない。実際、作業部会における検討で議論が集中したのは、学生寮、西部講堂を含む課外活動施設、キャンパス・セキュリティの問題であった。これらは大学の自治、学内の組織の自治権、大学の施設・組織管理の問題に深くかかわる事項であり、解決の道筋さえみえず、本学の積年の棘となってきた。この棘を抜かない限り、学生寮の改築、課外活動施設の改善はもとより、学生会館の建設もままならない。本書第VI章の冒頭にあるように、「これまで国立大学は、教育研究に専念することが本務で、大学の管理運営については、国のルールに従っている限り、「問題無し」の免罪符が与えられてきた。(中略)そのため、今日の社会通念、経済状況のなかで到底容認されないような管理・運営上の問題が顕在化していても、外部の評価にさらされるか社会的な批判を浴びない限りは、解決の難しい問題であればあるほど「放置されたまま」の状態が続いてしまう」こととなる。大学の自治・自律能力が問われているのである。これは大学執行部、あるいは各部局の教授会だけの問題ではなく、大学の構成員、組織全体が問われている問題なのである。本学がこれまで「先送り」してきた問題を放置しないで、具体的な解決策を見出さなければならない。そのためには、特定の価値観を絶対的なものとするのではなく、教育・研究機関として人類社会に貢献する大学の在り方を模索していくことから始めなければならないであろう。

(丸山正樹)